

# 大東急記念文庫蔵古活字版悉皆調査目録稿

高木浩明

\*キーワード

古活字版・悉皆調査・漢籍・国書・仏書

大東急記念文庫は、昭和二三年三月五日、当時東京急行電鉄株式会社取締役会長であった五島慶太氏が、かねてから京都大学に委託管理されてあった久原文庫を一括購入し、更に昭和二四年二月に井上通泰文庫を追加購入したものを根幹として発足した。<sup>1)</sup>二〇一九年には創立七〇周年を迎え、これを記念して、四月六日から一〇月二〇日までの期間に四部にかけて特別展示が開催された。

ここにいう久原文庫とは、明治から昭和の時代に実業家、政治家として名をはせた久原房之助氏の蔵書である。蔵書の収集については、五島慶太氏の興味深い談話が残っているので引いておこう。

久原文庫は、最初、和田維四郎（号雲村）という人が、これを集めるときには、農商務省の鉱山局長だったが、彼は極めて道楽な男で、始終新橋の待合から役所に通ったというふうでした。こういう本を買ったのは、みな待合で買ったものだと聞いています。そして、「この

本は岩崎に持って行け、この本は久原に持って行け。」と区分しておいたのです。久原は小坂銅山と日立鉱山を持っており、岩崎は至るところに石炭や銅の山を持っていて、金はいくらでもあるし、和田は自分が買う本はタダみたいなものだから、久原と岩崎とにみな高く買わせたのであります。のみならず、その待合の払いは、みな久原と岩崎とにさせたと聞いています。そうして維四郎君が死ぬ時、その手元に残っておいた本については「岩崎の金で買った本は岩崎へ、久原の金で買った本は久原へ返せよ」と遺言したのです。こうして久原へ返ってきた本と、以前の本とを合せたのが久原文庫なのです。岩崎へ返ったものが、今の東洋文庫や静嘉堂文庫になっているのです。

こうして収集された久原文庫の蔵書は、一時、久原氏の親類の藤田政輔氏の所有になっていた（そのため帙には古梓堂文庫のラベルが貼られている）が、五島氏の談話によれば、その後、藤田政輔氏の実兄の鮎川

義介氏から話を持ちかけられて購入したという。このあたりの事情は、反町茂雄編『紙魚の昔がたり 昭和編』の反町氏と八木書店の八木敏夫氏との回顧談<sup>③</sup>の中にも、古書肆側の証言として貴重な談話が残されているので、少し長くなるが引用しておきたい。

(八木) ……久原文庫のことです。現在の大東急文庫<sup>マ</sup>の基礎になっている大蒐集ですが、当時すでに久原家の都合で、所有権は親戚の藤田家に移っていて、現物は京都大学に寄託してありました。この頃、二十二年かと思いますが、藤田さんの方でお金が入り用で、売りたいという話がありました。その時分の金で、確か五〇〇万でした。五〇〇万という金は、とても大きな金で、どこでも出来なかった。

(反町) あのことば、私も到底忘れられない。藤田さんは、五島慶太さんに買わなかったって勧めたんです。久原と藤田は、古い親戚。久原は、ご承知のように大実業家で、後には政治家になって、政友会の総裁になりました。藤田は財閥の藤田の家です。藤田家と五島家も姻戚でした。

(八木) 藤田さんの娘さんが、五島慶太の息子昇さんの奥さんなんです。(反町) そういう関係で親しい。ところがさすがの五島慶太も、あの当時は五〇〇万の金が出来なかった。たまたま五島さんのところへ出入りしていた浅倉屋の主人、数年前亡くなったあの久兵衛さんに相談した。自分のところでは、せいぜいで二五〇万円くらいしか出来ない。君の方で、残りの二五〇万円を、どこかで工面してくれないか、共同で買おうという話。時世とはいいいながら、ずいぶんおかしな話ですが、本当の話

です。その頃、私は浅倉屋さんと非常に懇意でした。古典会の市がすんだ帰り、夏の暑い盛りでしたが、二人で天ぶらを食べながら、ビールを飲んでいたら、途中で浅倉屋さんが、実は大変に大きな口があるんだけれども、お金が出来ないだろうかって、相談を持ちかけた。私はその折に、大して金もなかったんですが、まあ若干あったし、本も買いたいもんだから、一体何ですかと問いただしたら、秘密だけれども、久原文庫を売る話があつて、五島さんが半分買う、あと半分は二五〇万円出せば、こつちで買えるんだという話。二五〇万円は、とても出来ない。現在手元にあるお金は、六〇万円か七〇万円くらい。久原文庫の内容は、大体は知っていた。その半分为二五〇万円で買えるなら、よい買い物だと思いました。それじゃ有力な業者に話をして、共同で買おうと思いつきました。その頃、大口の出ものが多かったものだから、有力な人々に呼びかけて、共同仕入れのグループをつくっていました。一誠堂さん、村口氏、古屋氏、それから井上書店の先代、以上の四人と私と、合計五人で。(中略)で、急に皆さんに呼びかけて、金を出し合う相談をしたが、すぐに二五〇万円はともまとまらない。仕入れの多い時代でしたから、それに備えて、誰れも手元金の全部を出すわけに行かないんです。

(八木) そこへ私が飛び込んだんです。そういうふうに、反町さんの方でやっておられたのとは別に、松坂屋の私の所へ(稿者注、八木はこの頃、松坂屋の古書部を経営していた)、直接に藤田家の人が話を持ち込んで来られた。久原文庫といったら有名ですから、ぜひ買いたい。いくらなんですと聞いたら五百万円だつていう。当時の五百万円って大金。容

易なことでない。そこで反町さんの所へ相談に行ったら、反町さんから、五島―浅倉屋ルートのお話を聞きました。そこで私もグループに一枚加わって、その代り、足りないお金の工面は私が松坂屋に頼んでみましようという事で、飯田営業部長に頼んだ。そうしたら、その品を全部松坂屋で売るなら、金を出すように努力しようと、条件をつけられました。そこで反町さんに相談したら、お金さえ出してくればそれでもいいだろう、ということ、こちらの腹はきまった。とにかく、京都へ行って現物を見ることにしました。その時は、汽車の切符がなかなか手に入らないです。ようやく二等切符を五、六枚用意しました。出発に先立って、私のところに藤田家から持ち込まれていた久原文庫の総目録の原本、一部分が火災で焼けこげていましたが、それを反町さんの所へ持って行った……。

(反町) これはいゝ物が来た。一先ずこれで全体の、ザツとした評価をして見ようと、皆が集って目録で評価したわけです。それまでは話ばかりでしたが、今度は明細な目録がありますから。先代の井上さんを中心に、みんなで協力して、一つ一つを評価して見ました。ずいぶん難しい本が多いし、それに大変な量かつ質でした。ごく大体で八百万円くらいになった、五百万円なら買っても大丈夫、と判明しました。そこで京都市の手配をつけたんです。こうしてやつとメドがついたと思ったら、急に浅倉屋さんの方から、反町君、すみませんけども、五島さんから、自分の方でなんとか金の都合がつくから、前の話は取り消しだつて行って来たんです、という話。これには私も驚いた。ずいぶん手前勝手

の話。こっちはさんさん骨を折ったし、飯田さんもずいぶん無理を下させた。松坂屋にしても、当時の五百万という大金を、右から左に貸してくれるわけではなく、その額の手形を貸してくれる。その手形を、われわれの手で割引いて、金を用意するという形なんです。やつとお金を工面したのに、突然に一方的にパタッと、話が変わった、やめる、ではあんまりひどい。それではこちらでも覚悟をきめて、五島さんと対抗しても、ぜひ手に入れようと、私と八木さんが、直接藤田さんを訪問しました。藤田さんは、その時、石油だか船舶だか国家的な公社の総裁でね。その本部が、日比谷公園の先きの、その頃としては第一級の立派なビルの一つ。その最上階に総裁室がある。そこへ乗り込みました。じつはこの話になっておるんですが、私たちはぜひお分け頂きたい。五百五十万の現金で買いますから、ぜひ売って下さい、と直接交渉しました。藤田さんは六十前後の、背の高い、少し太り気味の堂々たる紳士でした。ものやわらかな応対ぶり、話はよくわかった、けれども、五島は親戚で、少しくらいの金額の差で、五島がせっかく骨を折って金の工面をしたのを、断るわけには行かない。あんたたち、気の毒だけれども、我慢してほしいと、ものやわらかに言われました。こうなると一種のくらい負けで、それでもどうぞ、とは押せない。とうとう話は立ち消え、こちらは泣き寝入りになりました。

久原文庫の蔵書は、紆余曲折を経て五島慶太氏の所蔵に帰したが、仮に反町茂雄氏ら古書肆の手に渡っていたら、体系的に集められた本は散

佚してしまったであろう。散佚することなく、現在も大東急記念文庫に一括して保存されている今の形は、蔵書の運命としては理想的なものである。

さて本稿は、このうちの古活字版について悉皆調査を行い、その成果を報告するものであるが、久原文庫の古活字版には、「江風山／月荘」、「稲田／福堂／圖書」といった蔵書印が押され、稲田福堂の旧蔵書が多く含まれている点が注目される。稲田は、もと奎章閣山城屋政吉と称した日本橋の大きな書肆であった。かつてその蔵書を記録した『稲田福堂蔵書目録』八冊は、二代目安田善次郎の安田文庫にあったが、関東大震災で惜しくも焼亡したという<sup>4</sup>。稲田は後に政治家となり、平民書籍商として、東京府会議員、東京市会議員、東京書林組合副頭取、東京書籍出版商組合副頭取などを歴任（衆議院議員候補者列伝）。汚職事件により失脚した<sup>5</sup>。

調査項目は、漢籍・国書・仏書の三つに分け、漢籍と仏書については、内閣文庫の漢籍分類目録の分類と、漢籍データベースの分類を参考に配列し、国書については、国文学研究資料館の日本古典籍総合目録データベースを参考にして、五十音順に配列したが、まだ試行錯誤の段階であることをお断りしておく。「請求番号」「体裁」「表紙」「題簽」「内題」「尾題」「本文」「匡郭」「版心」「丁数」「刊記」「印記」「備考」の一三項目で、「備考」には、川瀬一馬氏の『増補古活字版之研究』の見解を示した。なお、書目の頭に※が付いているものは、『増補古活字版之研究』未載の古活字版である。表記（印記はのぞく）は原則新字体に統一した。

#### 【注】

- (1) 『財団法人大東急記念文庫十五年史』（大東急記念文庫、一九六四年）。
- (2) 注(1)前掲書、一二頁。
- (3) 反町茂雄編『紙魚の昔がたり 昭和編』（八木書店、一九八七年）、五三八～五四二頁。
- (4) 反町茂雄『一古書肆の思い出1』（平凡社ライブラリー、一九九八年）、三四一頁。
- (5) 国文学研究資料館「蔵書印データベース」（青田寿美作成）。

#### 【漢籍】

##### ◎経部 一 易類 (一) 周易

1 ※周易 九卷附略例一卷 (魏) 王弼、(晋) 韓康伯注・(魏) 王弼

撰略例・(唐) 邢璣注略例

〔請求番号〕 35 / 2 / 535

〔体裁〕 大本五冊。

〔表紙〕 新補薄茶色表紙。二八・四×一八・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の薄茶色書題簽(一七・九×三・一糎)、「周易 (一五)」。

〔内題〕「周易上經乾伝(一) 噬嗑伝」第一(一三) / (十二格低) 王弼註、

篇一六二図に静嘉堂文庫蔵本の図版を収めるが、異植字版。

「周易下経咸伝（豊伝）第四（六）／（十二格低）王弼註」、  
周易繫辞上（下）第七（八）／（十一格低）韓康伯註、「周易  
説卦卷第九／（十一格低）韓康伯註」、「周易略例序／（八格低）  
唐四門助教邢璣」、「周易略例卷第十／略例上（九格空）邢璣註」。

〔尾題〕「周易卷第一（二・四・五・七・八・九・十）」、「周易上経卷第  
三」、「周易下経卷第六」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二〇・五×一四・一糶）、有界。

〔版心〕黒口下向き黒魚尾二つ、中縫、「周易卷一（十）」と丁附を刻  
す。

〔丁数〕第一冊、四五丁（巻第一・二七丁、巻第二・一八丁）、第二冊、  
四三丁（巻第三・一九丁、巻第四・二四丁）、第三冊、四六丁（巻  
第五・二六丁、二四丁新補写、巻第六・二〇丁）、第四冊、三二  
丁（巻第七・一七丁、巻第八・一五丁、八丁新補写）、第五冊、  
三七丁（巻第九・一三丁、九丁新補写、巻第十略例・二四丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「木正／辞／章」（木村正辞、朱方印陰刻）。

〔備考〕巻第一（六丁表まで）、巻第七（二丁表まで）、巻第九（二丁表）  
に返点、振仮名、送仮名が墨筆で施されるほか、各冊とも後表  
紙の見返しに識語、「五卷之内／槐林□」が施されている。川瀬、  
二一七・三七二・八一四頁、（三）慶長中刊無刊記本。（二）慶  
長十年刊本（涸轍子祖博跋・正運刊）と同種活字。川瀬、図録

## 2 周易 九卷附略例一卷（魏）王弼、（晋）韓康伯注・（魏）王弼撰 略例・（唐）邢璣注略例

〔請求番号〕35/2/536

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二七・六×二〇・二糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二〇・六×三・一糶）、「周易古註  
一（五）」。

〔内題〕「周易上経乾伝（噬嗑伝）第一（三）／（十二格低）王弼註」、  
「周易下経咸伝（豊伝）第四（六）／（十二格低）王弼註」、  
周易繫辞上（下）第七（八）／（十一格低）韓康伯註、「周易  
説卦卷第九／（十一格低）韓康伯註」、「周易略例序／（八格低）  
唐四門助教邢璣」、「周易略例卷第十／略例上（九格空）邢璣註」。  
〔尾題〕「周易卷第一（二・四・五・七・八・九・十）」、「周易上経卷第  
三」、「周易下経卷第六」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二〇・五×一四・一糶）、有界。

〔版心〕黒口下向き黒魚尾二つ、中縫、「周易卷一（十）」と丁附を刻  
す。

〔丁数〕第一冊、四五丁（巻第一・二七丁、巻第二・一八丁）、第二冊、  
四三丁（巻第三・一九丁、巻第四・二四丁）、第三冊、四六丁（巻

第五・二六丁、卷第六・二〇丁）、第四冊、三二丁（卷第七・一七丁、卷第八・一五丁）、第五冊、三七丁（卷第九・一三丁、卷第十略例・二四丁）。各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「藤波家蔵書」（朱長方印）、「酒竹文庫」（大野酒竹、朱長方印）。

〔備考〕無書入。川瀬、（三）慶長中刊無刊記本。「35/2/535」

本と同版。

### 3 周易 六卷（魏）王弼注

〔請求番号〕35/2/537

〔体裁〕特大本三冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙（原表紙裏打修補）。三

〇・三×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二一・七×三・一糎）、「周易古注上（中・下）」。

〔内題〕「周易上経乾伝（〜噬嗑伝）第一（〜三） 王弼注」、「周易下経

咸伝（〜豊伝）第四（〜六） 王弼注。

〔尾題〕「周易卷第一（卷之二・卷第三・四・五・六）終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・三×一五・五糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「周易卷一（〜六・周易） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五四丁（卷第一・三二丁、卷第二・二二丁）、第二冊、

五二丁（卷第三・二四丁、卷第四・二八丁）、第三冊、五四丁（卷第五・三〇丁、卷第六・二三丁、跋・一丁）。上中のみ前遊紙一丁。

〔刊記〕「慶長十年星集乙巳孟夏初五日／鹿苑西笑叟承允」（跋刊）。

〔印記〕「退口蔵」（朱長方印）、「讀杜／艸堂」（寺田望南、朱方印）。

〔備考〕無書入。卷第一、一九丁裏（二行目）の上欄と、三二丁表（三行目）の上欄に校合注（活字）、「転正／作將」「乗正／作承」。

川瀬、二一六・三七二・六九五頁、伏見版。

### 4 周易 六卷（魏）王弼注

〔請求番号〕35/2/538

〔体裁〕特大本三冊。

〔表紙〕原装（押八双有）薄茶色空押小菊文様表紙。二九・七×二〇・

二糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺梓原刷題簽（一七・四×三・五糎）、「周易 一之二（〜五之六）」。

〔内題〕「周易上経乾伝（〜噬嗑伝）第一（〜三） 王弼注」、「周易下経

咸伝（〜豊伝）第四（〜六） 王弼注」。

〔尾題〕「周易卷第一（卷之二・卷第三・四・五・六）終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・四×一五・五糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「周易卷一（〜六） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五四丁（卷第一・三二丁、卷第二・二二丁）、第二冊、五二丁（卷第三・二四丁、卷第四・二八丁）、第三冊、五三丁（卷第五・三〇丁、卷第六・二三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。川瀬、伏見版。卷第一、一九丁裏（二行目）の上欄と、

三二丁表（三行目）の上欄に校合注（活字）と跋を欠く以外は「35/2/537」と同版。

## 5 周易伝義 二四卷（宋）程頤・朱熹撰

〔請求番号〕35/3/539

〔体裁〕大本一二冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二八・〇×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・七×三・一糎）、「周易伝義 一（〜十二）」。

〔内題〕「周易程子伝序」（宋元符二年己卯正月庚申河南程頤正叔序）、「周易卷之一（〜二十四）（八格空）程朱伝義」。

〔尾題〕「周易卷之一（〜二十四）終」。

〔本文〕每半葉一行×二一字。本文を記した後、改行、一字下げで「伝」「本義」の順に記す。

〔匡郭〕四周双辺（二〇・七×一五・七糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾（四角に花紋、魚尾に花紋の二種あり）、中縫、

「周易序（周易卷序・周易篇義・周易図説・周易五賛・周易筮儀・周易卦象・周易総目・周易卷一（〜二十四）丁附」。

〔丁数〕第一冊、六八丁（周易程子伝序・一丁、易序・二丁、上下篇義・

三丁、図説（図）一〇丁、周易五賛・四丁、筮儀・四丁、卦象・

三丁、周易経伝総目・三丁、卷之一・一九丁、卷之二・一九丁）、

第二冊、四三丁（卷之三・二〇丁、卷之四・二三丁）、第三冊、

三九丁（卷之五・一九丁、卷之六・二〇丁）、第四冊、四〇丁（卷

之七・二〇丁、卷之八・二〇丁）、第五冊、四二丁（卷之九・二

一丁、卷之十・二二丁）、第六冊、四二丁（卷之十一・二〇丁、

卷之十二・二二丁）、第七冊、四九丁（卷之十三・二六丁、卷之

十四・二三丁）、第八冊、四五丁（卷之十五・二四丁、卷之十六・

二二丁）、第九冊、四五丁（卷之十七・二三丁、卷之十八・二二

丁）、第一〇冊、五一丁（卷之十九・二九丁、卷之二十・二三丁）、

第一一冊、五五丁（卷之二十一・二四丁、卷之二十二・三二丁）、

第一二冊、二八丁（卷之二十三・一五丁、卷之二十四・一三丁）。

〔刊記〕（低二格）寛永二年南呂下旬／（九格低）二條観音町中嶋久兵衛開之。

〔印記〕「藤波家蔵書」（朱長方印）、「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上二印、稲田福堂）。

〔備考〕本書は易経の新注で、程氏の易伝と朱氏の周易本義とを合纂したもの。無書入。川瀬、三七二・八一五頁、伝本他に、天理図書館蔵本と慶応義塾図書館蔵本（存卷三／八・九／十二・二十

一〇二十四の四冊)を著録。図一五三に大東急本の刊記を収む。

卷第十二・一五丁、卷第十三・六丁)。

〔刊記〕無。

◎経部 二 書類 (一) 尚書

6 尚書 十三卷 (漢) 孔安国伝

〔請求番号〕35/3/540

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二七・九×二〇・〇糎。新補の紺色絹覆表紙附。五針袋綴。

〔題簽〕覆表紙の左肩に薄茶色の書題簽(二〇・六×三・一糎)、「尚書上(下)」。

〔内題〕「尚書序」「尚書目錄」「尚書卷第一(一〇十三)」。

〔尾題〕「尚書卷第一(一〇十三)」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。本文には、横幅広の朝鮮活字本の趣を有する大型活字を使用。

〔匡郭〕四周双辺(二二・九×一六・九糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「尚書序(尚書目錄・尚書一(一〇十三))丁附」。

〔丁数〕第一冊、九四丁(序・三丁、目錄・二丁、卷第一・一二丁、卷第二・一五丁、卷第三・一五丁、卷第四・一六丁、卷第五・一

九丁、卷第六・一二丁)、第二冊、一一〇丁(卷第七・二〇丁、四丁と五丁の間に六丁目に相当する補写を二丁挟む、卷第八・

二〇丁、卷第九・一五丁、卷第十・一九丁、卷第十一・一五丁、

〔印記〕「岡氏蔵書」(朱楷田印)、「稻田福堂圖書」(朱方印)、「江山月莊」(朱方印、以上二印、稻田福堂)、「岡口之印」(朱方印、陰刻)。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施される他、朱墨による書き入りが多数施されている。川瀬、三七二・八一五頁、無刊記本が四種あるが、「其刊行年時は未詳」。(四)第四種、八行十七字へ双辺/有界本。

7 尚書 十三卷 (漢) 孔安国伝

〔請求番号〕35/3/541

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・一×一九・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕第一冊に一部書題簽残存、「尚書 ショウシヨ 乾」。

〔内題〕「尚書序」「尚書目錄」「尚書卷第一(一〇十三)」。

〔尾題〕「尚書卷第一(一〇十三)」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。注小字双行。本文には、横幅広の朝鮮活字本の趣を有する大型活字を使用。

〔匡郭〕四周双辺(二二・〇×一六・四糎)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「尚書序(尚書目錄・尚書一(一〇十三))丁附」。

〔丁数〕第一冊、四三丁（序・三丁、目録・二丁、卷第一・一二丁、卷第二・一三丁、卷第三・一四丁）、第二冊、四二丁（卷第四・一四丁、卷第五・一七丁、卷第六・一一丁）、第三冊、四九丁（卷第七・一八丁、卷第八・一八丁、卷第九・一三丁）、第四冊、四九丁（卷第十・一七丁、卷第十一・一三丁、卷第十二・一三丁、卷第十三・六丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「留蠹書屋／儲藏經本」（吉田篁墩、朱長方印）、「森／氏」（森根園（立之）、朱方印）。第一冊前表紙見返しに識語、「活板尚書四篇毎冊首有／留蠹書屋儲藏經本印／記為吉田篁墩旧藏最／可秘重也／譬齋主人源立之」。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施される他、朱墨による書き入れあり。卷第七、八の卷末に識語、「本云／嘉応三年三月十三日校摺本了 在判直誼近業」、「永正十一年四月二日以唐本書写之即加朱墨訖／少納言清原朝臣（花押）」。  
川瀬、（一）第一種、九行十七字（双边／有界）本。一六四図に大東急本の図版を収む。「活板尚書 四冊」と箱書のある桐箱入。

◎經部 三 詩類 （一）毛詩

8 毛詩 二十卷 （漢）毛亨伝 （漢）鄭玄箋

〔請求番号〕35／4／542

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補薄縹色布目地表紙。二七・二〇一九・四纏。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「毛詩 天（地・人）」と大書。

〔内題〕「毛詩卷第一（一〇二十）」。

〔尾題〕「毛詩卷第一（一〇二十）」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边（二一・九×一六・四纏）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「毛詩一（一〇二十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一二六丁（卷第一・二四丁、卷第二・二二丁、卷第三・二二丁、卷第四・二四丁、卷第五・一六丁、卷第六・一九丁）、第二冊、一二六丁（卷第七・一三丁、卷第八・一二丁、卷第九・一六丁、卷第十・一四丁、卷第十一・一二丁、卷第十二・二六丁、卷第十三・一七丁、卷第十四・一六丁）、第三冊、一四二丁（卷第十五・一八丁、卷第十六・二三丁、卷第十七・二三丁、卷第十八・三五丁、卷第十九・二三丁、卷第二十・二〇丁）。

〔刊記〕無

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印）、二印、稲田福堂、卷末に「荒印／憲勝」（朱長方印、陰刻）。他、卷首丁に判読不明印、二印。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施される。

川瀬、三七四・八一五頁、（二）慶長中刊（叡山版なる可し）（イ）。

9 毛詩 二十卷 (漢) 毛亨伝 (漢) 鄭玄箋

〔請求番号〕35/4/543

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕第一〜七冊、茶色原表紙裏打修補。二八・一×二〇・七糎。新

補の紫色覆表紙附。第八・九冊、薄茶色空押雷文繫ぎ蓮華唐草

文様表紙、第一〇冊、後補茶色表紙。四針袋綴。

〔題簽〕茶表紙には左肩に後補の書題簽(一一・一×二・六糎)、「毛詩

三/四(五/六・九/十・十一/十二)。覆表紙には左肩に書題

簽(一九・八×三・一糎)、「鄭註毛詩一(〜十)」。第八冊には

左肩に、「詩八」と打付書。

〔内題〕「毛詩卷第一(〜二十)」。

〔尾題〕「毛詩卷第一(〜二十)」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(二一・九×一六・四糎)、有界。

〔版心〕卷第一〜十四・十九・二十、黒口双花口魚尾、中縫、「毛詩一(〜

十四・十九・二十) 丁附」。卷第十五〜十八、黒口双黒魚尾、

中縫、「毛詩十五(〜十八) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁(卷第一・二四丁、卷第二・二二丁)、第二冊、

四五丁(卷第三・二二丁、卷第四・二四丁)、第三冊、三五丁(卷

第五・一六丁、卷第六・一九丁)、第四冊、二五丁(卷第七・一

三丁、卷第八・一二丁)、第五冊、三〇丁(卷第九・一六丁、卷

第十・一四丁)、第六冊、三八丁(卷第十一・一二丁、卷第十二・

二六丁)、第七冊、三三丁(卷第十三・一七丁、卷第十四・一六

丁)、第八冊、四一丁(卷第十五・一八丁、卷第十六・二三丁)、

第九冊、五九丁(卷第十七・二三丁、卷第十八・三六丁)、第一

〇冊、四三丁(卷第十九・二三丁、卷第二十・二〇丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「蘇峰學人/徳富氏愛/蔵圖書記」(朱方印)、「天下之公/寶須

愛護」(朱長方印)、「蘇/峯」(朱方印)、「蘇峰/清賞」(朱方印)、

「徳富/所有」(朱方印、以上、徳富蘇峰)、「古田/氏」(墨方

小印)。卷第十五〜十八、「大智口禪寺」(墨長方印、大)、「口山

金口山」(墨長方印、大)。

〔備考〕川瀬、卷第一〜十四・十九・二十、(二)慶長中刊(叡山版なる

可し)(イ)。朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮

名が施される他、上欄と下欄に若干の墨書き入れあり。卷第十

五〜十八、(二)慶長中刊。朱引、朱句読点、墨筆による返点、

振仮名、送仮名が施される。第一冊の後表紙見返しに識語、「古

田氏/温故堂蔵(花押・印)」。

10 詩經

〔請求番号〕35/4/544

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補水色表紙。二八・九×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。外題なし。

〔内題〕「詩伝序」「詩経」。

〔尾題〕補写丁に「詩経卷下終」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。横幅広の朝鮮活字本の趣を有する大型活字を使用。行書体の活字も混じる。

〔匡郭〕四周双辺（二一・六×一五・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「詩序（詩目録・詩経） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八二丁（詩伝序、淳熙四年丁酉冬十月戊子新安朱熹書・

三丁、詩目録・九丁、国風一〇・七〇丁、二三丁・六三丁補写）、

第二冊、一一一丁（小雅二、丁附七十一）、卷尾二丁、弘化二年の補写）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「阿部／珍藏」（朱方印）、「口仏／居士」（朱丸印）、「小千谷／佐藤」（墨長方印）。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されているが、大半は白墨で塗抹。

◎経部 四 礼類 (三) 礼記

11 礼記 二十卷 (漢) 鄭玄注

〔請求番号〕35/5/545

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕後補薄縹色（第七冊のみ紺色）空押雷文繫ぎ桐唐草文様表紙。

二七・五×一九・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。外題なし。

〔内題〕「礼記卷第三（十八）」。

〔尾題〕「礼記卷第三（十八）」。

〔本文〕每半葉八行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二二・六×一六・六糎、卷第三卷首）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「礼記卷之三（十八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六五丁（全丁補写、卷第一・三六丁、卷第二・二九丁）、

第二冊、五二丁（卷第三・二七丁、卷第四・二五丁）、第三冊、

六七丁（卷第五・三六丁、卷第六・三一丁）、第四冊、六六丁（卷

第七・二九丁、卷第八・三七丁）、第五冊、五一丁（卷第九・二

五丁、卷第十・二六丁）、第六冊、六二丁（卷第十一・三三丁、

卷第十二・二九丁。二五丁欠）、第七冊、五五丁（卷第十三・二

〇丁、卷第十四・三五丁）、第八冊、四九丁（卷第十五・二九丁、

卷第十六・二〇丁）、第九冊、四三丁（卷第十七・二三丁、卷第

十八・二〇丁）、第一〇冊、四三丁（全丁補写、卷第十九・一九

丁、卷第二十・二四丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上二印、稲田福堂）。

〔備考〕朱句読点が施されている他、若干の朱墨による書入有。川瀬、

三七五・八一六頁、（二）八行十八字（双辺／有界）本（イ）第

一種。

12 礼記 二十卷 (漢) 鄭玄注

〔請求番号〕35/5/546

〔体裁〕特大本一〇冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)丹表紙。三〇・六×二二・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「礼記 一(一十)」と打付書。

〔内題〕「礼記卷第一(一二十)」。

〔尾題〕「礼記卷第一(一二十)」。

〔本文〕每半葉八行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(二二・六×一七・一糎)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「礼記卷之一(一二十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六五丁(卷第一・三六丁、卷第二・二九丁)、第二冊、

五二丁(卷第三・二七丁、卷第四・二五丁)、第三冊、六七丁(卷

第五・三六丁、卷第六・三一丁)、第四冊、六六丁(卷第七・二

九丁、卷第八・三七丁)、第五冊、五二丁(卷第九・二五丁、卷

第十・二六丁)、第六冊、六三丁(卷第十一・三三丁、卷第十二・

三〇丁)、第七冊、五五丁(卷第十三・二〇丁、卷第十四・三五

丁)、第八冊、四九丁(卷第十五・二九丁、卷第十六・二〇丁)、

第九冊、四三丁(卷第十七・二三丁、卷第十八・二〇丁)、第一

〇冊、四三丁(卷第十九・一九丁、卷第二十・二四丁)。各冊前

後に遊紙各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「木正/辞/章」(木村正辞、朱方印陰刻)。

〔備考〕川瀬、(ロ)第二種。川瀬は前記の本(35/5/545)と

もに第一種本に分類するが、誤認。卷末に写本の本奥書を移写。

「本云/以供恩院写之慶長五年三月十日以清家秘本校合朱墨点

畢 本云頼業/養和二年三月十六日亭午授能州別駕良業了 大

外史判/養和二年三月十六日重読合了 判/嘉禄元年九月廿八

日申尅於東山大谷蓬屋自書写了 散位良元/嘉禄二年十二月五

日晡時授家秘説於外史二千石了直講清原判/文永二年十二月三

日以師説奉授匠作少尹了 散位清原隆宣判/建治元年十二月九

日授申秘説於新冠竹鶴殿了直学士判/昨日加首服了生年十二也

頼季云々(卷一)、「校合本云/養和二年四月三日以家説授良別

駕了 御判 頼業/建治元年十二月十五日授冠者殿了(頼季

云々今月八日雖加首服無官/之間有冠者之号/主水正良枝判/

(卷二)、「本云/寿永二年六月六日以秘説授良業才子了 御判

/建治二年閏三月廿六日以秘説授申五臈外史 直講良枝」(卷

六)、「本云/御奥書曰/嘉吉三年九月十五日授宗賢説/今日石

清水放生会也 清原御判/永正十六年十月廿八日以唐本書写之

加朱墨最為証本者也 少納言清原御判如此(花押)/本云/寿

永元年七月九日以秘説授良才子了 御判/建治二年四月七日授

申五臈外史了 直講良枝/弘安十年三月廿七日以家説授申洞院

相公羽林了(卷九)、「本云/寿永元七月廿四日見合或証本粗涉

獵正義了 御判/能州別駕清原良業奉受説了/建治二四月十二

日授申五臈外史了 主水正良枝」(卷十一)、「本云/寿永元年仲

秋五日以家説授良別駕了 御判／建治二年四月十五日授申五臈外史了 直学士判（卷十二）、本云 寿永元年八月十六日授家説於／良別駕了 御判／建治二年四月十九日以家秘説授申五臈外史了 直講良枝／徳治二年丁未二月廿三日書写朱墨了功了／以右御奥書本加点了 少納言清原朝臣御判（卷十三）、「寿永元年九月朔日授於良別駕了 大外史御判／建治二年四月廿二日授申秘説於外史 直学士御判」（卷十四）、「寿永元年九月十六日授能州別駕了 御判／建治二年四月廿六日授申五臈外記殿了／主水正直講良枝」（卷十五）、「本云／久寿二年正月十一午尅以或本并正義見合畢此篇非唯尽一部之奥旨／又是足諸経之要道耳沉士貧儒御判文治大殿／寿永元年九月廿五日授秘説於能別駕畢 大外史御判／建治二年四月廿七日授申五臈外史畢」（卷十六）、「本云／寿永元年十月廿二日以秘説授良別駕了 御判／建治二年四月晦日以秘説授申五臈外史了 主水正直良枝」（卷十八）

◎経部 五 春秋類 (一) 左氏伝

13 春秋経伝集解 存卷一、二十八 (晋) 杜預撰

〔請求番号〕 35/6/547

〔体裁〕 大本一四冊。

〔表紙〕 後補薄茶色布目地表紙。二六・三×一九・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「左伝隠一柏二（定上定下十四）」と打付書。

〔内題〕 「春秋序」「春秋経伝集解隠公第一（定下第二十八）」。

〔尾題〕 「春秋経伝集解隠公第一（定下第二十八）」、「春秋左氏経伝第二」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。注小字双行。本文には、横幅広の朝鮮活字本の趣を有する大型活字を使用。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二一・六×一六・七糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「左伝序（一、二十八） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七六丁（序・六丁、隠公第一・三六丁、桓公第二・三四丁）、第二冊、五三丁（莊公第三・四二丁、閔公第四・一二丁）、第三冊、七六丁（僖上第五・四一丁、僖中第六・三五丁）、第四冊、六三丁（僖下第七・三二丁、文上第八・三二丁）、第五冊、五六丁（文下第九・三〇丁、宣上第十・二六丁）、第六冊、七三丁（宣下第十一・三一丁、成上第十二・四二丁）、第七冊、八三丁（成下第十三・四六丁、襄元第十四・三七丁）、第八冊、七〇丁（襄二第十五・三七丁、襄三第十六・三三丁）、第九冊、七〇丁（襄四第十七・三〇丁、襄五第十八・四〇丁）、第一〇冊、七〇丁（襄六第十九・三四丁、昭元第二十・三六丁）、第一一冊、七二丁（昭二第二十一・四二丁、昭三第二十二・三〇丁）、第一二冊、七四丁（昭四第二十三・三八丁、昭五第二十四・三六丁）、第一三冊、六五丁（昭六第二十五・三三丁、昭七第二十六・三二丁）、第一四冊、五六丁（定上第二十七・二七丁、定下第二十八・二九丁）。他、第一冊をのぞき、前遊紙一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕無。第二冊の前表紙見返しに「市村姓」、第四冊の前表紙見返し

に「市村氏／風袋町」、後表紙見返しに「市村氏」、第五冊の前

遊紙に「市村氏」、第八冊の前表紙見返しに「市村氏」、第二

冊の後表紙見返しに「圓龜藩／市村氏」と墨書。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名、その他書

き入れが施されている。前表紙見返しに貼られた付箋に「墨朱

点以菅家沢本謄写之」と墨書す。川瀬、三七五・八一六頁、(一)

慶長十七年以前刊。

◎経部 六 孝経類

14 孝経大義 一卷 (宋) 朱熹刊誤・(元) 董鼎註

〔請求番号〕35/7/548

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補縹色表紙。二六・〇×一八・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の書題簽(一八・二×四・二糎)、「新註孝経大義 全」。

〔内題〕「孝経大義序」「孝経大義(四格空)〈朱文公刊誤／鄱陽董鼎註〉」。

〔尾題〕「孝経大義終」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺(二一・九×一六・一糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「孝経新註 丁附」。

〔丁数〕五五丁(序・三丁半、目録・一丁半、孝経大義・四九丁、跋・

一丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕前表紙見返しと序に朱墨による書き入れが施された貼り紙、目

録以下は朱引の他、墨筆による返点と送仮名が施される程度。

川瀬、三七六・八一七頁、寛永中刊。

◎経部 八 四書類 (一) 大学

15 大学章句 一卷 (宋) 朱熹章句

〔請求番号〕22/39/55

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二八・〇×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩剥落。

〔内題〕「(低一格) 大学章句序」「大学(大(一格空) 旧音泰／今(一格

空) 読如字」(七格空) 朱熹章句」。

〔尾題〕「大学章句畢」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(序、二一・五×一五・三糎)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「大学序(大学章句) 丁附」。

〔丁数〕二三丁(淳熙巳酉二月朱熹序・四丁、大学章句・一九丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「清原／秀賢」(朱方印)、「天師明經儒」(朱長方印)、「船橋蔵書」

(朱長方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、ヲコト点、墨筆による返点、振仮名、送仮名の他、上欄下欄、行間に朱墨による書き入れが夥しく施されている。川瀬、三七八・八一八頁、〔正運刊本（イ）第一種本。図録篇六二九図に大東急本の図版を収む〕。

## 16 大学章句 一卷 (宋) 朱熹章句

〔請求番号〕22/39/56

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色空押花文唐草文様表紙（見返し改装）。二八・三〇・二

〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（破損大）、「大学章句」。

〔内題〕「大学章句序」「大学〈大旧音泰／今読如字〉（七格空）朱熹章句」。

〔尾題〕「大学章句畢」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・〇×一五・一糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「大学序（大学章句） 丁附」。

〔丁数〕二三丁（淳熙巳酉二月朱熹序・四丁、大学章句・一九丁）。他、

前遊紙（もと見返し紙か）一丁。

〔刊記〕正雲刊。

〔印記〕「清原／在賢」（朱方印、陰刻）。

〔備考〕朱引、朱句読点、ヲコト点（序四丁、巻首二丁のみ）、振仮名、

送仮名、墨筆による返点、振仮名、送仮名の他、上欄下欄に朱

墨による書き入れ（序四丁、巻首二丁までの書き入れは黄で塗抹）が施されている。巻末に識語、「以家秘点授息男大博士康賢朝臣読了」（七格低）侍読従二位前博士清原（花押）。川瀬、三七八・八一八頁、（二）正雲刊本。（一）のイ第一種本と、口第二種本とは別。新たに知られた一本（八一八頁）。

## ◎経部 八 四書類 (二) 中庸

### 17 中庸章句 一卷 (宋) 朱熹章句

〔請求番号〕22/39/52

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二七・七×一八・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色の書題簽（一八・二×三・三糎）、「中庸章句 全」。

句 全」。

〔内題〕「中庸章句序」「中庸〈中者不偏不倚無過／不及之名庸平常也〉

（三格空）朱熹章句」。

〔尾題〕「中庸章句畢」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二〇・八×一五・二糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「中庸序（中庸章句） 丁附」。

〔丁数〕四六丁（淳熙巳酉春三月戊申新安朱熹序・五丁、中庸・四〇丁、

補音釈・一丁）。

〔刊記〕（低八格）関東上総住今関正運刊。

〔印記〕判読不明の朱方印（陰刻）、一印。

〔備考〕朱引の他、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施されている。

川瀬、久原文庫蔵本（現、大東急記念文庫蔵本）を、（一）今関正運刊本（口）第二種（三七八頁）と、（ハ）第三種（八一八頁）に著録するが、所蔵があるのは後者のみ。川瀬は八一八頁で、「又第二種の久原文庫蔵本は異植字版で、第三種とすべきものである」と訂す。図録篇六三〇図に大東急本の刊記部分の図版を収む。

### 18 中庸抄 二卷（宋）朱熹集註

〔請求番号〕35/7/550

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕栗皮表紙。上下合冊なので改装されたものだが、押八双を有する点からすると、上下いずれかの原表紙を用いたものかもしれない。二八・七×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「中庸章句序」「中庸（九格空）朱熹集註」。

〔尾題〕「中庸序終」「中庸私抄上終」「中庸章句畢」。

〔本文〕本文、每半葉八行×一六字、大型活字。注文、一六行、一行字数不等。注小字双行。漢字片仮名交じり。ソ式。

〔匡郭〕四周单边（二三・三×一六・四糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「中庸抄上（下） 丁附」。

〔丁数〕九一丁（序・一四丁、上・三〇丁、下・四七丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「口/寧/口」（墨方印）。

〔備考〕無書入。川瀬、三六六・八〇七頁、（一）元和中刊十六行本。大  
学抄（二）と同種。図録篇一五一図に大東急本の図版を収む。

### ◎経部 八 四書類（四）孟子

#### 19 孟子 一四卷（漢）趙岐注

〔請求番号〕22/39/53

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繫ぎ小牡丹唐草文様表紙（押八双はあるが後補か）。二六・二×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二〇・四×四・〇糎）、「口口口註 弑（五）」。

〔内題〕「趙氏孟子題辭」「孟子卷第一（〜十四）」。

〔尾題〕「孟子卷第一（〜十四）」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。朝鮮活字を模した横に幅広の大型活字を使用。

〔匡郭〕四周双边（二一・八×一六・一糎）、有界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「孟子題辭（卷一〜十四） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁（題辭・五丁、卷第一・一九丁、卷第二・二二丁）、第二冊、六二丁（卷第三・二二丁、卷第四・一九丁、卷

五・二二丁。二〇丁補写)、第三冊、五八丁(卷第六・一九丁。二・一二・一八丁補写、卷第七・二〇丁。四・一四丁補写、卷第八・一九丁。二三丁補写)、第四冊、五八丁(卷第九・一九丁。三丁補写、卷第十・一九丁、卷第十一・二〇丁。一六・一七丁補写)、第五冊、六五丁(卷第十二・二〇丁、卷第十三・二二丁、卷第十四・二三丁)。各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、ヲコト点、墨筆による返点、振仮名、送仮名その他、上欄下欄には異本との校合等の書き入れが施されている。また、白墨で書き入れを塗抹した箇所も多数見受けられる。補写の筆跡は書き入れの筆と同筆。川瀬は、「下村生蔵刊之」の刊記のある『中庸』と同種の活字を用いていることから、『孟子』もまた下村生蔵による刊と考える。川瀬、三七七頁、(二)慶長中刊(下村生蔵刊本)。

◎経部 四書類 (三) 論語

20 論語 十卷 (魏) 何晏等集解

〔請求番号〕22/39/51

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕薄縹色空押卍繫ぎ表紙(押八双はあるが後補か)。二六・五×一

八・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「論語古註 一(二)」と打付書。

〔内題〕「論語序」「論語学而第一(堯曰第二十)凡十六(三)章(三格空) 何晏集解」。

〔尾題〕「論語卷第一(経一千四百七十字/註一千五百二十五字)(論語卷第十(経一千二百二十三字/註一千一百七十五字))」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(二一・二×一五・三糎)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「論語序(一)十」丁附。

〔丁数〕第一冊、五八丁(序・二丁、学而第一(郷党第十・五六丁)、第二冊、六三丁(先進第十一(堯曰第二十))。

〔刊記〕「(低十四格)友伝刊/(低一格)慶長十四年(巳酉)九月日(一格空)洛納宗甚三校」。

〔印記〕「伊澤/信實」(朱長方印)、「木正/辞/章」(木村正辞、朱方印陰刻)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬、二七二・三五九・三七六・七〇五・八一七頁、(一)慶長十四年刊本(ロ)「洛納宗甚三校」本。

◎経部 一〇 小学類 (二) 字書

21 千字文 附蒙求・胡曾詠史詩 (梁) 周興嗣撰

〔請求番号〕22/39/54

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補丹空押雷文禪雨竜文様表紙。二七・三〇・三三・三六・三九・四二。四針袋綴。

〔題簽〕無。外題なし。

〔内題〕「千字文」／（低四格）梁員外散騎侍郎周興嗣次韻「蒙求」「胡曾

詠史詩」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉七行。千字文、蒙求、四段組、胡曾詠史詩、一七字。

〔匡郭〕四周双辺（二一・七×一六・〇糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「千字文（蒙求・胡曾詩） 丁附」。

〔丁数〕四九丁（千字文・五丁、蒙求・一一丁、胡曾詠史詩・三三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕卷首丁右下に判読不明の朱方印、一印。

〔備考〕無書入。川瀬、三九〇頁、（四）慶長元和中刊（無註）千字文・

蒙求・胡曾詩合刻。函録篇八五〇函に大東急本の函版を収む。

伝本、他になし。

## 22 纂図附音増広古注千字文 三卷 （梁）周興嗣撰

〔請求番号〕35/8/552

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補白色空押出繫ぎ表紙。二七・九×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・七×二・七糎）、「註千字文

完」。

〔内題〕「註千字文序（六格空）梁大夫内司馬李暹」「（花口下向き魚尾）

纂図附音増広古注千字文上（中・下）／（低四格）勅員外散騎

侍郎周興嗣（三格空）次韻」。

〔尾題〕「纂図附音集註千字文之上終」「纂図附音集註千字文中終」「（花

口下向き魚尾）千字文下之終」。

〔本文〕每半葉九行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单辺（二二・四×一四・六糎）、有界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「注千字文序（上・中・下）」。

〔丁数〕四六丁（序・二丁、上・一五丁、中・一六丁、下・一三丁）。

〔刊記〕「（低四格）元和三（二格空）丁（二格空）巳（二格空）曆二月

辰日」。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。全丁裏打修補。川瀬、三六一・三九〇頁、（二）元和三

年刊本。

## 23 纂図附音増広古注千字文 三卷 （梁）周興嗣撰

〔請求番号〕35/8/553

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色空押雷文繫ぎ小牡丹唐草文様表紙（前記『孟子』と

同じ表紙）。二七・六×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の单辺棗書題簽（一八・二×三・一糎）、「古註千字

文 全」。

〔内題〕「纂図附音増広古注千字文上(中・下)／(低一格)勅員外散騎侍郎周興嗣(二格空)次韻」。

〔尾題〕「纂図附音集註千字文之上(下)終」「纂図附音集註千字文中終」。

〔本文〕每半葉一四行×二〇字。内題と本文は大型活字を用い、注文と

尾題は小型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺(二二・三×一六・五糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「注千字文上(中・下) 丁附」。

〔丁数〕六三丁(上・二二丁、中・二四丁、下・一八丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕判読不明(鹿荒印?)の朱長方印、一印。

〔備考〕上、一才↘4才(二↘七丁、破損修補)、6ウ↘7ウに朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名、下、一二ウ↘一八才に墨筆で振仮名が施されている程度。川瀬、三九〇・八三二頁、(三)元和寛永中刊本。大東急本は(口)異植字版。図録篇八四一図に図版を収む。

## 24 龍龕手鑑 八卷 (遼) 釈行均撰

〔請求番号〕35/8/554

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二七・五×一九・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。外題なし。

〔内題〕「龍龕手鑑序／(低六格)燕台憫忠寺沙門智光撰」「龍龕手鑑目

録」「龍龕手鑑卷第一(〜八)」。

〔尾題〕「龍龕手鑑目錄終」「龍龕手鑑卷第一(〜八)」。

〔本文〕序、每半葉一〇行×一六字。以下、一〇行、本文語彙四段組。

注小字双行。

〔匡郭〕四周单辺(二三・四×一七・五糎)、有界。

〔版心〕大黒魚尾、中縫、「龍龕卷序(目錄・卷一〜八) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七八丁(統和十五年丁酉七月一日癸亥序・二丁、目錄・

七丁、卷第一・六九丁)、第二冊、七五丁(卷第二)、第三冊、

九一丁(卷第三、六八丁欠)、第四冊、九二丁(卷第四)、第五

冊、一〇三丁(卷第五)、第六冊、二三丁(卷第六)、第七冊、

七六丁(卷第七)、第八冊、九八丁(卷第八)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「子孫永保／共八卷／雲煙家／藏書記」(安西雲煙、青色長方印)。

〔備考〕朱墨による書き入れがごくわずかに施されているが、無書入に等しい。川瀬、三七九・八二四頁、「元和中刊と認む。朝鮮本翻印」。

## ◎経部 一〇 小学類 (三) 韻書

### 25 古今韻会举要 三〇卷 (元) 黄公紹撰・(元) 熊忠举要

〔請求番号〕35/9/555

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕新補紫色表紙。二八・三×二〇・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・九×二・七糎）、古今韻會一（一〇五）。

〔内題〕「一格低」刻古今韻會叙「古今韻會拳要凡例」（九格低）昭武黄公紹直翁編輯／（九格低）昭武熊忠（二格空）子中拳要「古今韻會拳要卷之一（一〇三）」。

〔尾題〕「古今韻會拳要卷之一（一〇三）」「二卷終」「韻會卷之十六」「韻會卷十七」「廿三終」。

〔本文〕叙、每半葉八行×一二字。凡例、每半葉一四行×二三字。本文、每半葉八行×二三字。

〔匡郭〕四周双辺（卷之一、二一・四×一四・九糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「韻會序（例・一〇三）」丁附。

〔丁数〕第一冊、八九丁（嘉靖十五年張鯤序・四丁、凡例・四丁、卷之一・三一丁、卷之二・五〇丁）、第二冊、七八丁（卷之三・三八丁、卷之四・四〇丁）、第三冊、七二丁（卷之五・三六丁、卷之六・三六丁）、第四冊、七九丁（卷之七・三三丁、卷之八・四六丁）、第五冊、六四丁（卷之九・四〇丁、卷之十・二四丁）、第六冊、六七丁（卷之十一・三四丁、卷之十二・三三丁）、第七冊、五二丁（卷之十三・二七丁、卷之十四・二五丁）、第八冊、五三丁（卷之十五・二六丁、卷之十六・二七丁）、第九冊、五三丁（卷之十七・三一丁、卷之十八・二三丁）、第一〇冊、四八丁（卷之十九・二三丁、卷之二十・二五丁）、第一一冊、四九丁（卷之二十一・二二丁、卷之二十二・二八丁）、第一二冊、五四丁（卷之

二十三・二六丁、卷之二十四・二八丁）、第一三冊、六一丁（卷之二十五・三三丁、卷之二十六・二八丁）、第一四冊、六五丁（卷之二十七・二九丁、卷之二十八・三六丁）、第一五冊、四三丁（卷之二十九・二二丁、卷之三十・二二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕一部の卷に朱傍点がわずかに施されるが、無書入に等しい。第一五冊の後表紙見返しに識語、「古今韻會全部者江雲先師之遺書也、小子祖忠寄附之／雲頂山大明禪寺常住者也、／宝永二乙酉歲夷則八日／現住大明嗣法小師活翁惠快誌」。川瀬、三六〇・三七九・八二四頁、（一）有界本（口）第二種本。図録篇一九三図に大東急本の図版を収む。本書は、有界第二種本から第一種本が派生し、有界本兩種の後に無界本を生じた（住吉明彦『中世日本漢学の基礎研究韻類編』（汲古書院、二〇一二年））。

### ◎史部 正史類

26 史記 一三〇卷（漢）司馬遷撰・（劉宋）裴駟集解

〔請求番号〕35/10/556

〔体裁〕大本五〇冊。

〔表紙〕①後補薄茶色表紙。二八・四×二〇・九糎。四針袋綴。②後補薄茶色表紙。二九・九×二二・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二一・一×三・〇糎）、題簽は①②共通、

「史記 一（～五十）」

〔内題〕「史記索隱序／（低三格）〈朝散大夫国子博士弘文／館学土河内司馬貞撰〉」、「史記索隱後序」、「史記正義序／（諸王侍讀宣議郎守右清／道率府長史張守節上）」、「補史記序（六格空）小司馬氏」  
「史記集解序」、「史記目錄」、「史記正義論例諡法解」、「三皇本紀（五格空）補史記〈小司馬氏／撰并注〉」  
七十（一格空）史記一百三十。

〔尾題〕「史記索隱序」、「史記索隱後序終」、「史記正義序終」、「史記補史序」、「史記集解序」、「史記目錄終」、「史記正義論例諡法解」、「三皇本紀（七格空）補史記」  
「太史公自序第七十（三格空）史記一百三十」。

〔本文〕①每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。②每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕①四周双边（二一・六×一六・九種）、無界。②四周双边（二二・八×一七・一種）、有界。

〔版心〕①黒口双花口魚尾、中縫、「史記序一（史記録一・史記例二）丁附」。②黒口双花口魚尾、中縫、「史記紀一（～十二・表一）～十・書一／八・家一／三十・伝一／七十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、五八丁（史記索隱序・二丁、史記索隱後序・二丁半、史記正義序・一丁半、補史記序・三丁、史記集解序・六丁、史記目錄・二二丁、史記正義論例諡法解・二二丁）、第二冊、五五丁（三皇本紀・六丁、五帝本紀第一・四九丁）、第三冊、六〇丁

（夏本紀第二・四〇丁、殷本紀第三・二〇丁）、第四冊、五六丁（周本紀第四）、第五冊、四三丁（秦本紀第五）、第六冊、六七丁（秦始皇本紀第六、五二丁補写）、第七冊、五二丁（項羽本紀第七）、第八冊、五七丁（高祖本紀第八）、第九冊、五二丁（呂太后本紀第九・二二丁、孝文本紀第十・三〇丁）、第一〇冊、四八丁（孝景本紀第十一・一〇丁・孝武本紀第十二・三八丁）、第一一冊、八六丁（三代世表第一・一〇丁、十二諸侯年表第二・四七丁半、六国年表第三・二八丁半）、第二二冊、五八丁（秦楚之際月表第四・二〇丁、漢興以來諸侯年表第五・三八丁）、第一三冊、七三丁（高祖功臣侯者年表第六）、第一四冊、九二丁（惠景間侯者年表第七・一八丁、建元以來侯者年表第八・三〇丁、建元以來王子年表第九・二四丁、漢興以來將相名臣年表第十・二〇丁）、第一五冊、七八丁（礼書第一・一八丁。卷首丁のみ双边無界、八行×一七字、第二種本。樂書第二・六〇丁）、第一六冊、四四丁（律書第三・一六丁半、曆書第四・二七丁半）、第一七冊、六四丁（天官書第五）、第一八冊、五六丁（封禪書第六）、第一九冊、四〇丁（河渠書第七・一二丁、平準書第八・二九丁）、第二〇冊、六七丁（具太伯世家第一・二九丁半、齊太公世家第二・三七丁半）、第二一冊、七二丁（魯周公世家第三・三二丁、燕召公世家第四・一四丁、管蔡世家第五・一二丁半、陳杞世家第六・一三丁半）、第二三冊、四二丁（衛康叔世家第七・一七丁半、宋微子世家第八・二四丁半）、第二三冊、五六丁（晋世家第

九)、第二四冊、五三丁(楚世家第十)、第二五冊、四四丁(越王勾踐世家第十一・二二丁、鄭世家第十二・二三丁)、第二六冊、六〇丁(趙世家第十三)、第二七冊、七五丁(魏世家第十四・三一丁、韓世家第十五・一五丁、田敬仲完世家第十六・二九丁)、第二八冊、六二丁(孔子世家第十七・四四丁、陳涉世家第十八・一八丁)、第二九冊、五七丁(外戚世家第十九・二二丁、楚元王世家第二十・四丁半、荊燕世家第二十一・六丁半、齊悼惠王世家第二十二・一五丁半、蕭相國世家第二十三・八丁半)、第三〇冊、六五丁(曹相國世家第二十四・一二丁、留侯世家第二十五・二〇丁、陳丞相世家第二十六・一六丁、絳侯周勃世家第二十七・一七丁)、第三一冊、四七丁(梁孝王世家第二十八・一五丁、五宗世家第二十九・一二丁半、三王世家第三十・一九丁半)、第三二冊、九九丁(老子伯夷列傳第一・一六丁、管晏列傳第二・七丁、申不害韓非列傳第三・一一丁半、司馬穰苴列傳第四・四丁半、孫子吳起列傳第五・一一丁、伍子胥列傳第六・一五丁、仲尼弟子列傳第七・三四丁。仲尼弟子列傳第七のみ双辺無界、八行×一七字、第二種本)、第三三冊、四〇丁(全丁補写。商君列傳第八・一一丁、蘇秦列傳第九・二九丁。卷末に識語、「右商君蘇秦二伝以宋慶元槧本/鈔補焉対校畢/明治丁亥晚冬。緑川口漁彰識 (印)(印)」、第三四冊、七一丁(張儀列傳第十・三一丁半、樗里子甘茂列傳第十一・一六丁半、穰侯列傳第十二・九丁、白起王翦列傳第十三・一四丁)、第三五冊、六七丁(孟子

荀卿列傳第十四・九丁半、孟嘗君列傳第十五・一六丁半、平原君虞卿列傳第十六・一五丁、信陵君列傳第十七・一一丁半、春申君列傳第十八・一四丁半)、第三六冊、六八丁(范雎蔡澤列傳第十九・三二丁半、樂毅列傳第二十・一二丁、廉頗藺相如列傳第二十一・一七丁、田單列傳第二十二・六丁半)、第三七冊、五五丁(魯仲連鄒陽列傳第二十三・二三丁、屈原賈生列傳第二十四・二二丁半、呂不韋列傳第二十五・一〇丁半)、第三八冊、六九丁(刺客列傳第二十六・二八丁半、李斯列傳第二十七・三二丁半。二八丁補写、蒙恬列傳第二十八・八丁)、第三九冊、六七丁(張耳陳余列傳第二十九・二〇丁、魏豹彭越列傳第三十・七丁半、黥布列傳第三十一・一三丁、淮陰侯列傳第三十二・二六丁半)、第四〇冊、六二丁(韓信盧綰列傳第三十三・一二丁半。六丁補写、田儻列傳第三十四・八丁、樊鄴滕灌列傳第三十五・二四丁半、張丞相列傳第三十六・一七丁)、第四一冊、六一丁(酈生陸賈列傳第三十七・一八丁半、傅靳蒯成列傳第三十八・六丁半、劉敬叔孫通列傳第三十九・一四丁半、季布欒布列傳第四十・八丁、袁盎鼂錯列傳第四十一・二三丁半)、第四二冊、七七丁(張釈之馮唐列傳第四十二・一一丁半、万石君張叔列傳第四十三・一二丁半、田叔列傳第四十四・一〇丁半、扁鵲倉公列傳第四十五・四二丁半)、第四三冊、六四丁(呉王濞列傳第四十六・二〇丁、魏其武安侯列傳第四十七・二〇丁、韓長孺列傳第四十八・一〇丁、李將軍列傳第四十九・一四丁)、第四四冊、七六丁(匈

奴列伝第五十・四六丁半、衛將軍驃騎列伝第五十一・二九丁半）、第四五冊、五六丁（平津侯主父列伝第五十二・二二丁、南越列伝第五十三・一三丁、東越列伝第五十四・七丁、朝鮮列伝第五十五・六丁、西南夷列伝第五十六・八丁）、第四六冊、六九丁（司馬相如列伝第五十七）、第四七冊、六五丁（淮南衡山列伝第五十八・三一丁、循吏列伝第五十九・五丁、汲鄭列伝第六十・一二丁、儒林列伝第六十一・一七丁）、第四八冊、六八丁（酷吏列伝第六十二・二八丁、大宛列伝第六十三・三〇丁、游侠列伝第六十四・一〇丁）、第四九冊、七五丁（佞幸列伝第六十五・五丁半、滑稽列伝第六十六・二二丁半、日者列伝第六十七・九丁半、龜策列伝第六十八・三七丁半）、第五〇冊、七五丁（貨殖列伝第六十九・三〇丁、太史公自序伝第七十・四五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕①「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱長方印、以上二印、稲田福堂）、「葉外」（緑川彰、朱方印）。②「稲田／福堂／函書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱長方印、以上二印、稲田福堂）、「葉外」（緑川彰、朱方印）、「森／氏」（森枳園（森立之、朱方印））。

〔備考〕第三冊「夏本紀第二」の卷末上欄には、森枳園（森立之）の識語、「立之案古抄卷本／蓋宝治二年大史／大丞安倍時貞所／書写訓点再校／者而其後經八年／而至建長八年七月安倍為貞受管家之説又加筆也／其本云以下至仁治三年六行以菅家／一本之跋文

抄写于此也所云承久第／二歳在建長八年前卅七年／嘉祿則三十年仁治三年則十四／年前也弘安十一年則在建長／八年後三十余年正安四年則在／四十余年之後即是安倍之後／人二子有雄重章之受家訓／之跋文也文和三年惟宗守俊／誦合畢云者蓋此卷出于安倍／家而歸于惟宗家藏可知也其／去建長已百年則字体墨痕／歷々可攷耳明治丁丑十二月／廿六日十菊翁森立書於玉池／之恐泥廬中」が記され、さらにその下には校合本の奥書、「八文和三年応鐘廿七日 誦合畢／大監物惟宗守俊／宝治二年五月三日書写了／同五日移点了／太史大丞あへ時貞／一校了／又校式証本了」（四〇丁表）／<sup>五</sup>建長八年七月卅日受菅家之説了／匠作少書あへ為貞／<sup>本云</sup>桑門良暁給此書三字三点改直了／以索隱史記加裏書了 菅家淳高／誦了 菅在時／一承久第二歳無射初六日受嚴訓了菅原龜丸／<sup>二</sup>嘉祿年中以菅説誦了 在御判／<sup>三</sup>仁治三年四月十三日受嚴訓了 菅原在匡／<sup>六</sup>弘安十一年蕤賓八日受家訓了／陰陽大属あへ有雄／<sup>七</sup>正安二年無射廿五日受庭訓了／主殿権助安倍重章」（四〇丁裏）が朱筆（年号の右上の漢数字は墨書）で移写されている。①第二種本。朱書入若干。②第一種本。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている他、「評林」との校合を朱墨で記す。

27 史記 一三〇卷 (漢) 司馬遷撰・(劉宋) 裴駟集解

〔請求番号〕22/40/57

〔体裁〕 大本五〇冊。

〔表紙〕 薄茶色表紙（見返し改装。押八双はあるが後補か）。二八・九×二〇・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「史記」（第四三冊のみ「史記伝五章」と打付書）。

〔内題〕 「史記索隱序／（低三格）〈朝散大夫国子博士弘文／館学土河内司馬貞撰〉」、「史記索隱後序」、「史記正義序／（低三格）〈諸王侍読宣議郎守右清／道率府長史張守節上〉」、「補史記序（六格空）小司馬氏」、「史記集解序」、「史記正義論例諡法解」、「史記目錄」、「三皇本紀（五格空）補史記〈小司馬氏／撰并注〉」～「太史公自序伝第七十（一格空）史記一百三十」。

〔尾題〕 「史記索隱後序終」、「史記正義序終」、「史記補史序」、「史記集解序」、「史記正義論例諡法解」、「三皇本紀（八格空）補史記」～「太史公自序第七十（三格空）史記一百三十」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（三皇本紀、二一・五×一六・七糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「史記序一（史記例二・史記録一・紀一）（十二・表一）十・書一）八・家一）三十・伝一）七十）丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五八丁（史記索隱序・二丁、史記索隱後序・二丁半、史記正義序・一丁半、補史記序、三丁、史記集解序・六丁、史記正義論例諡法解・二二丁、史記目錄・二二丁）、第二冊、五五丁（三皇本紀・六丁、五帝本紀第一・四九丁）、第三冊、六〇丁

（夏本紀第二・四〇丁、殷本紀第三・二〇丁）、第四冊、五六丁（周本紀第四）、第五冊、四三丁（秦本紀第五）、第六冊、六七丁（秦始皇本紀第六）、第七冊、五二丁（項羽本紀第七）、第八冊、五七丁（高祖本紀第八）、第九冊、五二丁（呂太后本紀第九）二二丁、孝文本紀第十・三〇丁）、第一〇冊、四八丁（孝景本紀第十一・一〇丁・孝武本紀第十二・三八丁）、第一一冊、八六丁（三代世表第一・一〇丁、双辺有界九行。十二諸侯年表第二・四七丁半、六国年表第三・二八丁半）、第一二冊、五八丁（秦楚之際月表第四・二〇丁、漢興以來諸侯年表第五・三八丁）、第一三冊、七三丁（高祖功臣侯者年表第六）、第一四冊、九二丁（惠景間侯者年表第七・一八丁、建元以來侯者年表第八・三〇丁、建元以來王子年表第九・二四丁、漢興以來將相名臣年表第十・二〇丁）、第一五冊、七八丁（礼書第一・一八丁、樂書第二・六〇丁）、第一六冊、四四丁（律書第三・一六丁半、曆書第四・二七丁半）、第一七冊、六四丁（天官書第五）、第一八冊、五六丁（封禪書第六）、第一九冊、四〇丁（河渠書第七・一一丁、平準書第八・二九丁）、第二〇冊、六七丁（呉太伯世家第一・二九丁半、齊太公世家第二・三七丁半）、第二一冊、七二丁（魯周公世家第三・三二丁、燕召公世家第四・一四丁、管蔡世家第五・一二丁半、陳杞世家第六・一三丁半）、第二二冊、四二丁（衛康叔世家第七・一七丁半、宋微子世家第八・二四丁半）、第二三冊、五六丁（晋世家第九）、第二四冊、五三丁（楚世家第十）、第二

五冊、四四丁（越王勾踐世家第十一・二二丁、鄭世家第十二・二三丁）、第二六冊、六〇丁（趙世家第十三）、第二七冊、七五丁（魏世家第十四・三二丁、韓世家第十五・一五丁、田敬仲完世家第十六・二九丁）、第二八冊、六二丁（孔子世家第十七・四四丁、陳涉世家第十八・一八丁）、第二九冊、五七丁（外戚世家第十九・二二丁、楚元王世家第二十・四丁半、荊燕世家第二十一・六丁半、齊悼惠王世家第二十二・一五丁半、蕭相國世家第二十三・八丁半）、第三〇冊、六五丁（曹相國世家第二十四・一二丁、留侯世家第二十五・二〇丁、陳丞相世家第二十六・一六丁、絳侯周勃世家第二十七・一七丁）、第三二冊、四七丁（梁孝王世家第二十八・一五丁、五宗世家第二十九・一二丁半、三王世家第三十・一九丁半）、第三三冊、六五丁（老子伯夷列傳第一・一六丁、管晏列傳第二・七丁、申不害韓非列傳第三・一一丁半、司馬穰苴列傳第四・四丁半、孫子吳起列傳第五・一一丁、伍子胥列傳第六・一五丁）、第三三冊、九〇丁（仲尼弟子列傳第七・三四丁、商君列傳第八・一五丁、蘇秦列傳第九・四二丁）、第三四冊、七一丁（張儀列傳第十・三一丁半、樗里子甘茂列傳第十一・一六丁半、穰侯列傳第十二・九丁、白起王翳列傳第十三・一四丁）、第三五冊、六七丁（孟子荀卿列傳第十四・九丁半、孟嘗君列傳第十五・一六丁半、平原君虞卿列傳第十六・一五丁、信陵君列傳第十七・一一丁半、春申君列傳第十八・一四丁半）、第三六冊、六八丁（范雎蔡列傳第十九・三二丁半、樂毅列傳第

二十・一二丁、廉頗藺相如列傳第二十一・一七丁、田單列傳第二十二・六丁半）、第三七冊、五五丁（魯仲連鄒陽列傳第二十三・二三丁、屈原賈生列傳第二十四・二二丁半、呂不韋列傳第二十五・一〇丁半）、第三八冊、六九丁（刺客列傳第二十六・二八丁半、李斯列傳第二十七・三二丁半、蒙恬列傳第二十八・八丁）、第三九冊、六七丁（張耳陳余列傳第二十九・二〇丁、魏豹彭越列傳第三十・七丁半、黥布列傳第三十一・一三丁、淮陰侯列傳第三十二・二六丁半）、第四〇冊、六二丁（韓信盧綰列傳第三十三・一二丁半、田儼列傳第三十四・八丁、樊鄴滕灌列傳第三十五・二四丁半、張丞相列傳第三十六・一七丁）、第四一冊、六〇丁（酈生陸賈列傳第三十七・一七丁半。一一丁欠、伍斬蒯成列傳第三十八・六丁半、劉敬叔孫通列傳第三十九・一四丁半、季布欒布列傳第四十・八丁、袁盎鼂錯列傳第四十一・一三丁半）、第四二冊、七七丁（張敖之馮唐列傳第四十二・一一丁半、万石君張叔列傳第四十三・一二丁半、田叔列傳第四十四・一〇丁半、扁鵲倉公列傳第四十五・四二丁半）、第四三冊、六五丁（吳王濞列傳第四十六・二二丁、魏其武安侯列傳第四十七・二〇丁、韓長孺列傳第四十八・一〇丁、李將軍列傳第四十九・一四丁）、第四四冊、七六丁（匈奴列傳第五十・四六丁半、衛將軍驃騎列傳第五十一・二九丁半）、第四五冊、五六丁（平津侯主父列傳第五十二・三二丁、南越列傳第五十三・二三丁、東越列傳第五十四・七丁、朝鮮列傳第五十五・六丁、西南夷列傳第五十六・八丁）、

第四六冊、六九丁（司馬相如列伝第五十七）、第四七冊、六五丁

（淮南衡山列伝第五十八・三一丁、循吏列伝第五十九・五丁、

汲鄭列伝第六十・一二丁、儒林列伝第六十一・一七丁）、第四八

冊、六八丁（酷吏列伝第六十二・二八丁、大宛列伝第六十三・

三〇丁、游侠列伝第六十四・一〇丁）、第四九冊、七五丁（佞幸

列伝第六十五・五丁半、滑稽列伝第六十六・二二丁半、日者列

伝第六十七・九丁半、龜策列伝第六十八・三七丁半）、第五〇冊、

七五丁（貨殖列伝第六十九・三〇丁、太史公自序伝第七十・四

五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕列伝一〜十八まで朱句読点が施されているのみ。第二種本。第

一一冊、「三代世表第一」のみ双辺有界九行。第三種本。

## 28 前漢書 一〇〇卷（漢）班固撰・（唐）顏師古注

〔請求番号〕5 / 14 / 51 / 557

〔体裁〕大本五〇冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二七・七×二〇・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。外題なし。

〔内題〕「前漢書目錄」、「高帝紀第一上（師古曰紀理也統理衆／事而繫之於

年月者也）／（低三格）班固（三格空）漢書一／（低一格）正

議大夫行秘書少監琅邪縣開國子顏師古注」〜「叙伝第七十下／

（低三格）班固（二格空）漢書一百／（低二格）正義大夫行秘  
書少監琅邪縣開國子顏師古注」。

〔尾題〕「前漢書目錄」「高帝紀第一上」〜「叙伝第七十下」。

〔本文〕每半葉一〇行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（高帝紀第一上、二一・八×一六・四糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「前漢目錄（前漢紀一上）〜十二・前漢年表

一〜八・前漢志一上〜十・前漢伝一〜七十下・前漢末・跋）丁

附」。

〔丁数〕第一冊、一七丁（目錄）、第二冊、六六丁（高帝紀第一上・三八

丁。八〜三七丁補写、高帝紀第二下・二八丁。一〜二五丁補写）、

第三冊、五〇丁（惠帝紀第二・六丁、高后紀第三・八丁、文帝

紀第四・二四丁、景帝紀第五・一二丁）、第四冊、八三丁（武帝

紀第六・四一丁、昭帝紀第七・一二丁、宣帝紀第八・三〇丁）、

第五冊、五八丁（元帝紀第九・一七丁、成帝紀第十・二〇丁、

哀帝紀第十一・一〇丁、平帝紀第十二・一一丁）、第六冊、四四

丁（異姓諸侯王表第一・一九丁、諸侯王表第二・二五丁）、第七

冊、六〇丁（王子侯表第三上・三一丁。二六丁補写、王子侯表

第三下・二九丁）、第八冊、七六丁（高惠高后文功臣表第四）、

第九冊、五〇丁（景武昭宣元成功臣表第五・二四丁、外戚恩沢

侯表第六・二六丁）、第一〇冊、七九丁（百官公卿表七上・二一

丁。一二・一三・一八丁補写、百官公卿表七下・五八丁。二〇

丁欠）、第一二冊、六九丁（古今人表第八）、第一二冊、一三五

丁（律曆志第一上・三二丁、律曆志第一下・三六丁、礼樂志第二・三八丁。三〇・三一丁補写、刑法志第三・二九丁）、第一三冊、五五丁（食貨志第四上・二四丁。一・二丁補写、食貨志第四下・三一丁）、第一四冊、六八丁（郊祀志第五上・四〇丁、郊祀第五下・二八丁）、第一五冊、七二丁（天文志第六・四二丁、五行志第七上・三〇丁）、第一六冊、七三丁（五行志第七中之上・四二丁、五行志第七中之下・三二丁）、第一七冊、六九丁（五行志第七下之上・三三丁、五行志第七下之下・三六丁）、第一八冊、五〇丁（地理志第八上）、第一九冊、四七丁（地理志第八下、四七丁補写）、第二〇冊、二二丁（溝洫志第九、一五、四四丁補写）、第二一冊、六二丁（陳勝項籍傳第一・三六丁、張耳陳余傳第二・一三丁、魏豹田儼韓王信傳第三・一三丁）、第二二冊、四八丁（韓彭英盧吳傳第四・三〇丁。二・一〇丁補写、荊燕吳傳第五・一八丁）、第二三冊、五五丁（楚元王傳第六・四六丁。四〇丁補写、季布欒布田叔傳第七・九丁）、第二四冊、六五丁（高五王傳第八・一四丁、蕭何曹參傳第九・一五丁、張陳王周傳第十・三六丁。三一〜三六丁補写）、第二五冊、五一丁（樊鄴滕灌傅靳周傳第十一・二〇丁、張周趙任申屠傳第十二・九丁、酈陸朱劉叔孫傳第十三・二二丁）、第二六冊、六八丁（淮南衡山濟北王傳第十四・二〇丁。一〜六丁の裏丁左上破損、修補、補写。蒯伍江息夫傳第十五・二七丁。二七丁補写。万石衛直周張傳第十六・一〇丁、文三王傳第十七・一一丁）、第二七冊、六七丁（賈誼傳第十八・

三六丁、爰盎龜錯傳第十九・三二丁）、第二八冊、七九丁（張馮汲鄭傳・一六丁、賈鄒枚路傳第二十一・三八丁、竇田灌韓伝第二十二・二五丁）、第二九冊、五一丁（景十三王傳第二十三・二三丁、李広蘇建傳第二十四・二八丁）、第三〇冊、四七丁（衛青霍去病傳卷第二十五・二〇丁、董仲舒傳第二十六・二七丁）、第三一冊、四九丁（司馬相如傳卷第二十七上・二四丁。二十丁以下の丁附、「三十」「三十一」「三十二」「三十三」「三十四」と誤刻。司馬相如傳卷第二十七下・二五丁。七丁補写）、第三二冊、五六丁（公孫弘卜式兒寬傳第二十八・一八丁。四・一〇・一八丁補写。張湯傳第二十九・一七丁、杜周傳卷第三十・二二丁）、第三三冊、七〇丁（張騫李広利傳第三十一・一六丁、司馬遷傳第三十二・二八丁。一二丁補写。武五子傳第三十三・二六丁）、第三四冊、七九丁（嚴朱吾丘主父徐嚴終王賈傳第三十四上・二七丁。一〜四丁補写。嚴朱吾丘主父徐嚴終王賈傳第三十四下・二四丁、東方朔傳第三十五・二八丁。二〇・二二〜二八丁補写）、第三五冊、七五丁（公孫劉田王楊蔡陳鄭傳第三十六・二四丁、楊胡朱梅傳第三十七・一九丁、霍光金日磾傳第三十八・三二丁）、第三六冊、六九丁（趙充国辛慶忌傳第三十九・二五丁、傅常鄭甘陳段傳第四十・二八丁、雋疏于薛平彭伝第四十一・一六丁）、第三七冊、八一丁（王貢兩龔鮑傳第四十二・三七丁、韋賢伝第四十三・二七丁、魏相丙吉傳第四十四・一七丁）、第三八冊、七五丁（睦両夏侯京翼李伝第四十五・三八丁、趙尹韓張両王伝第

四十六・三七丁)、第三九冊、七二丁(蓋諸葛劉鄭孫母將何伝第四十七・二三丁、蕭望之伝第四十八・二〇丁、馮奉世伝第四十九・一四丁。九丁補写。宣元六王伝第五十・一五丁)、第四〇冊、六八丁(匡張孔馬伝第五十一・三二丁、王商史丹傅喜伝第五十二・一三丁。一三丁補写、薛宣朱博伝第五十三・二三丁)、第四一冊、八五丁(翟方進伝第五十四・二七丁、谷永杜鄴伝第五十五・三〇丁、何武王嘉師丹伝第五十六・二八丁)、第四二冊、五四丁(全丁補写。揚雄伝上第五十七・三二丁、揚雄伝下第五十七・二二丁)、第四三冊、七五丁(全丁補写。儒林伝第五十八・三一丁、循吏伝第五十九・一八丁、酷吏伝第六十・二六丁)、第四四冊、五三丁(貨殖伝第六十一・一四丁、游侠伝第六十二・二〇丁。一五丁補写。佞幸伝第六十三・一九丁)、第四五冊、八二丁(匈奴伝第六十四上・四五丁。三九丁補写、匈奴伝第六十四下・三七丁。三五丁補写)、第四六冊、八〇丁(西南夷兩粵朝鮮伝第六十五・二七丁、西域伝第六十六上・二四丁、西域伝第六十六下・二九丁。七丁補写)、第四七冊、六八丁(外戚伝第六十七上・三三丁、外戚伝第六十七下・三五丁)、第四八冊、七四丁(元后伝第六十八・二二丁、王莽伝第六十九上・五二丁)、第四九冊、八四丁(全丁補写。王莽伝第六十九中・四二丁、王莽伝第六十九下・四二丁)、第五〇冊、五三丁(叙伝第七十上・二九丁、叙伝第七十下・一九丁。一四丁補写。末・三丁、宣德三年跋・二丁)。

〔刊記〕「(低二格) 寛永第五(戊辰) 曆菊月廿一 / (低五格) 於洛陽 本能寺前刊行焉。」

〔印記〕「稲田 / 福堂 / 圖書」(朱方印)、「文章軒」(朱長方小印、陰刻)、「水島 / 氏」(朱方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、本文に切貼訂正が施されている他、上欄と下欄に誤植の訂正と異本との校合が若干施されている。川瀬、図録篇八二三図に大東急本の図版収む。

29 後漢書 一二〇卷 (劉宋) 范曄撰・(唐) 李賢注・(晋) 司馬彪撰

志

〔請求番号〕35 / 17 / 558

〔体裁〕大本三三冊。

〔表紙〕後補丹空押菱に草花文様表紙。二六・〇×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補無題の題簽(二〇・一×四・五糎)を貼付。

〔内題〕「後漢書注補志序」「後漢書目錄」「光武帝紀第一上 范曄 後漢書 一上 / (低九格) 唐章懷太子賢註」 / 「烏桓鮮卑列伝第八十 / (低八格) 范曄 後漢書九十」。

〔尾題〕「光武帝紀第一上」 / 「烏桓鮮卑列伝第八十 / (低十二格) 鰲叟 校正 / (低三格) 前進士儒学録充経師張桌校正」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(一上、二一・九×一六・一糎)、有界。

〔版心〕黑口双黑魚尾，中縫，「後漢志序（後漢序·後漢目錄·後漢記一上）十下·後漢志一（三十·後漢傳一（八十））丁附」。

〔丁数〕第一冊、一〇三丁（後漢書注補志序·二丁、序·三丁、目錄·二八丁、光武帝紀第一上·三六丁、光武帝紀第一下·三四丁）、第二冊、整版補配（明帝紀第二（和帝紀第四）·第三冊、八五丁（安帝紀第五·三一丁、順沖質帝紀第六·二九丁、桓帝紀第七·二五丁）、第四冊、一〇六丁（靈帝紀第八·二三丁、獻帝紀第八·一九丁、皇后紀第十上·三七丁、皇后紀第十下·二七丁）、第五冊、九七丁（志第一·二二丁、志第二·二八丁、志第三·三七丁、志第四·一一丁）、第六冊、九〇丁（志第五·一六丁、志第六·一五丁、志第七·一七丁、志第八·一二丁、志第九·一六丁、志第十·一四丁）、第七冊、九六丁（志第十一·二二丁、志第十二·一一丁、志第十三·二四丁、志第十四·一三丁、志第十五·一四丁、志第十六·一二丁）、第八冊、一一五丁（志第十七·一三丁、志第十八·一八丁、志第十九·一八丁、志第二十·一四丁、第二十一·一二丁、志第二十二·一六丁、志第二十三·二四丁）、第九冊、一〇〇丁（志第二十四·一二丁、志第二十五·一三丁、志第二十六·一三丁、志第二十七·一〇丁、志第二十八·一八丁、志第二十九·一五丁、志第三十·二〇丁）、第一〇冊、九七丁（劉玄劉盆子列傳第一·二三丁、王劉張李彭盧列傳第二·二〇丁、隗囂公孫述列傳第三·三三丁、宗室四王三侯列傳第四·二二丁）、第一一冊、九二丁（李王鄧來列傳第五·二二

丁、鄧寇列傳第六·三七丁、馮岑賈列傳第七·三二丁）、第一二冊、一一一丁（吳蓋陳臧列傳第八·二五丁、耿弇列傳第九·二六丁、姚期王霸祭遵列傳第十·一九丁、任李万邳劉耿列傳第十一·二七丁、朱景王杜馬劉傅堅馬列傳寶融列傳第十二·二四丁）、第一三冊、八六丁（寶融列傳第十三·二九丁、馬援列傳第十四·三七丁、卓魯魏劉列傳第十五·二〇丁）、第一四冊、一〇三丁（伏侯宋蔡馮趙牟章列傳第十六·三二丁、宣張二王杜郭吳承鄭趙列傳第十七·二四丁、桓譚馮衍列傳第十八上·二四丁、馮衍列傳第十八下·二四丁）、第一五冊、九六丁（申屠剛鮑永瑯惲列傳第十九·二六丁、蘇楊郎襄列傳第二十上·一〇丁、郎顛襄楷列傳第二十下·三四丁、郭杜孔張廉王蘇羊賈陸列傳第二十一·二六丁）、第一六冊、八八丁（樊陰列傳第二十二·一六丁、朱馮虞鄭周列傳第二十三·二四丁、梁統列傳第二十四·二五丁、張曹鄭列傳第二十五·二三丁）、第一七冊、九六丁（鄭范陳賈張列傳第二十六·三〇丁、桓榮丁鴻列傳第二十七·二二丁、張法滕馮度楊列傳第二十八·一七丁、劉趙淳于江劉周趙列傳第二十九·二七丁）、第一八冊、八六丁（班彪列傳第三十上·三〇丁、班固列傳第三十下·二九丁、第五鍾離宗寒列傳第三十一·二七丁）、第一九冊、八六丁（光武十王列傳第三十二·三三丁、朱樂何列傳第三十三·三四丁、鄧張徐張胡列傳第三十四·一九丁）、第二〇冊、一〇八丁（袁張韓周列傳第三十五·二五丁、郭陳列傳第三十六·二六丁、班梁列傳第三十七·二八丁、楊李翟應霍爰徐

列伝第三十八・二九丁)、第二二冊、八九丁(王充王符仲長統列伝第三十九・三七丁、孝明八王列伝第四十・一四丁、李陳龐陳橋列伝第四十一・一八丁、崔駰列伝第四十二・二九丁)、第二二冊、八九丁(周黄徐姜申屠列伝第四十三・一五丁、楊震列伝第四十四・三四丁、章帝八王伝第四十五・一六丁、張王種陳列伝第四十六・二四丁)、第二三冊、九八丁(杜鸞劉李劉謝列伝第四十七・二五丁、虞傅蓋臧列伝第四十八・三一丁、張衡列伝第四十九・四二丁、第二四冊、八九丁(馬融列伝第五十上・二二丁、蔡邕列伝第五十下・三三丁、左雄周舉黄瓊列伝第五十一・三五丁)、第二五冊、一〇二丁(荀韓鍾陳列伝第五十二・二二丁、李固杜喬列伝第五十三・二五丁、吳延史盧趙列伝第五十四・二五丁。一〇・一三丁欠、皇甫張段列伝第五十五・三〇丁)、第二六冊、九一丁(陳蕃王允列伝第五十六・二四丁、党錮列伝第五十七・三七丁、郭太符融許劭列伝第五十八・一二丁、竇武何進列伝第五十九・一八丁)、第二七冊、一〇四丁(鄭太孔融荀彧列伝第六十・三六丁、皇甫嵩朱備列伝第六十一・二〇丁、董卓列伝第六十二・三〇丁、劉虞公孫瓚陶謙列伝第六十三・一八丁)、第二八冊、一〇六丁(袁紹列伝第六十四上・三四丁、袁紹劉表列伝第六十四下・二〇丁、劉袁呂列伝第六十五・二四丁、循吏列伝第六十六・二八丁)、第二九冊、一〇〇丁(酷吏列伝第六十七・一八丁、宦者列伝第六十八・三五丁、儒林列伝第六十九上・二三丁、儒林列伝第六十九下・二四丁)、第三〇冊、九二丁(文苑

列伝第七十上・二六丁、文苑列伝第七十下・三〇丁、独行列伝第七十一・三六丁)、第三二冊、九七丁(方術列伝第七十二上・二四丁、方術列伝第七十二下・二五丁、逸民列伝第七十三・二三丁、列女伝第七十四・二五丁)、第三三冊、九八丁(東夷列伝第七十五・一九丁、南蛮西南夷列伝第七十六・三八丁、西羌伝第七十七・四一丁)、第三三冊、八九丁(西域伝第七十八・三一丁、南匈奴列伝第七十九・三八丁、烏桓鮮卑列伝第八十・二〇丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「浅艸文庫」(板坂卜齋、朱長方印)、「稻田/福堂/圖書」(朱方印)、「江風山/月莊」(朱長方印、以上二印、稻田福堂)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、朱墨で異本校合若干。刊行年は寛永元年以後(高木浩明「古活字版調査余録(二)『後漢書』の刊行年時を考える」、『汲古』第五九号、二〇一一年)。

◎史部 五 雜史類

30 貞觀政要 一〇卷 (唐) 吳兢撰・(元) 戈直注

〔請求番号〕22/42/59

〔体裁〕特大本八冊。卷第九・十欠。

〔表紙〕新補薄灰色、ならびに縹色表紙。三一・七×二一・五糎。五針

袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・七×三・三糎）、「貞觀政要  
伏見版 一（〇八）」。

〔内題〕「御製貞觀政要序」、「貞觀政要集論題辭」、「貞觀政要序／（低一  
格）唐衛尉少卿兼脩國史修文館學士吳兢／（低一格）撰」、「集論  
諸儒姓氏」、「貞觀政要（六格空） 戈直集論」、「貞觀政要卷第二  
（〇八）（四格空） 戈直集論」。

〔尾題〕「貞觀政要卷第一（〇八）」。卷第五の尾題のみ伏見版の活字で後  
から捺印。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（序、二一・八×一五・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「貞觀序（目録・一〇八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六四丁（御製貞觀政要序・二丁、貞觀政要集論題辭・

五丁、貞觀政要序・二丁、目録・四丁、集論諸儒姓氏・二丁、

卷第一・四九丁）、第二冊、一〇〇丁（卷第二）、第三冊、六五

丁（卷第三）、第四冊、五八丁（卷第四）、第五冊、六四丁（卷

第五）、第六冊、五六丁（卷第六）、第七冊、四三丁（卷第七）、

第八冊、四二丁（卷第八）。

〔刊記〕本書は卷第九と十を欠くが、本来卷十の卷末には以下の跋刊が  
ある。「唐太宗文皇帝者創業守成一代英武之賢君也千載之下仰  
其德慕其風者今之／内大臣家康是也故令前學校三要老／禪校  
訂貞觀政要去歲開家語於板今歲／刻政要於梓遵聖賢前軌而作國  
家治要／宜也／豊国大明神際辞下土之日受／令嗣秀頼幼君賢佐

遺命爾來寬厚而受／人聰明而治衆不異周勃霍光安劉氏輔／昭帝  
也矧又海内弘此書而協和士民之／心則爲／明神不忘旧盟爲／幼  
君尽至忠者其用大矣哉／慶長五年星輯庚子花朝節／前龍山見鹿  
苑承兌叟謹誌／慈眼久徳刊之」。

〔印記〕「仁正侯長昭／黄雪書屋鑒／藏圖書之印」（市橋長昭、朱長方印）。  
〔備考〕無書入。伏見版。川瀬、六九四頁に、序二葉が異植字版となっ  
ている本の指摘と、卷五末の大題が植字漏れとなっているのを  
伏見版の活字で捺印していることを指摘する。大東急本もこれ  
に該当する。

### ◎史部 五 雜史類

31 貞觀政要 一〇卷（唐）吳兢撰・（元）戈直注

〔請求番号〕35／21／559

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕原裝（押入双有）栗皮表紙。二九・五×二一・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の薄紅色書題簽（二一・五×三・八糎）、「貞觀政要

一 君道政体（〇十終へ行幸 畋獵／灾祥 慎終）」。

〔内題〕「御製貞觀政要序」、「貞觀政要集論題辭」、「貞觀政要序／（低一  
格）唐衛尉少卿兼脩國史修文館學士吳兢／（低一格）撰」、「集  
論諸儒姓氏」、「貞觀政要（六格空） 戈直集論」、「貞觀政要卷第  
一（〇十）才直集論」。

〔尾題〕「貞觀政要卷第一（〇十終）」。

〔本文〕 每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二一・九×一五・二糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「貞観序（目録・一〇十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六五丁（御製貞観政要序・二丁、貞観政要集論題辭・

五丁、貞観政要序・二丁、目録・四丁、集論諸儒姓氏・二丁、

貞観政要・一丁、卷第一・四九丁）、第二冊、一〇〇丁（卷第二、

第三冊、六五丁（卷第三）、第四冊、五八丁（卷第四）、第五冊、

六四丁（卷第五）、第六冊、五六丁（卷第六）、第七冊、四三丁

（卷第七）、第八冊、四二丁（卷第八）、第九冊、四二丁（卷第

九）、第一〇冊、四〇丁（卷第十）。

〔刊記〕 「元和九（癸／亥）初冬吉辰（一格空）へ三條白壁町／忠田吉兵衛開板」。

〔印記〕 「怡顔齋」（松岡恕庵、朱長方印）、「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、

「江風山／月莊」（朱長方印、以上二印、稲田福堂）、「文淵／堂」（朱方印、陰刻）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている

ほか、上欄、匡郭外に朱墨による書き入れが多数施されている。

川瀬、二一四・三六二・八二六頁、「伏見版を元和九年に翻刻し

た坊刻古活字印本があつて、其の伝本は比較的多数現存してゐ

る」（二一四頁）。

◎史部 九 史評類

32 氏族大全 一〇卷（元）闕名撰

〔請求番号〕 35 / 32 / 578

〔体裁〕 大本四冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二七・一×一九・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「氏族排韻 春へ上平／□□」（夏下平・秋上声・冬

去入）廠（朱）」と打付書。

〔内題〕 「新編排韻増広事類氏族大全（七格空） 甲集（陰刻）」（〇癸集）。

〔尾題〕 「甲集（〇壬集）終」「癸集終（陰刻）／（一行空／新編排韻増

広事類氏族大全終」。

〔本文〕 每半葉一三行×二四字。注小字双行。活字は朝鮮金属活字を模した線の細い鋭角な小型活字を用いる。

〔匡郭〕 四周双辺（二一・六×一五・九糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「排韻卷一（〇十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、一九七丁（甲集・七三丁、乙集・六七丁、丙集・五七

丁）、第二冊、一三九丁（丁集・七〇丁、戊集・六九丁。一・七

〇三一・二〇六・三三〇・六九丁、錯簡）、第三冊、一〇七丁（己

集・五六丁、庚集・五一丁。三五丁欠）、第四冊、一四六丁（辛

集・七三丁。七丁欠、壬集・五二丁。三九丁と四〇丁錯簡、癸

集・二二丁）。

〔刊記〕 「（低三格）元和五（巳／未）年九月日」。

〔印記〕 「□家／藏書」（朱方印）、「松本／慧光／什物」（緑、方印）。

〔備考〕卷二の三丁裏まで朱引、朱句読点、若干の朱墨による書き入れ、

卷九の四丁裏の上欄に朱墨による書き入れが施されているのみ。

川瀬、三六一・三八九・八三二頁。

### ◎史部 九 史評類

#### 33 帝鑑図説 二卷 (明) 張居正等撰

〔請求番号〕35/22/561

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・五×一八・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一七・五×三・五糎)、「帝鑑図説 前之

一(後之二/大尾)」。

〔内題〕「帝鑑図説叙」、「帝鑑図説後序」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行×一九字。

〔匡郭〕四周双辺(二一・七×一四・一糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「前序(前・聖・前目錄・中狂・後目錄・

後) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五〇丁(帝鑑図説叙、万曆癸酉仲春吉日礼部尚書兼翰

林院学士/華亭陸樹声譔・三丁、進図疏・二丁、帝鑑図説上呈・

二丁、聖・哲・芳・規(整版)二丁、目錄・五丁、任賢図治(唐

堯帝)ノ止輦受言(漢文帝)・四四丁、挿絵・一八丁)、第二冊、

七四丁(納諫賜金(漢文帝)ノ弘文開館(唐太宗)・五四丁、挿

絵・二〇丁)、第三冊、八一丁(上書粘壁(唐太宗)ノ遣使賑恤

(唐憲宗)・五九丁、挿絵・二二丁)、第四冊、七八丁(延英志

卷(唐憲宗)ノ燭送詞臣(宋哲宗)・五七丁、挿絵・二二丁)、

第五冊、七七丁(狂・愚・覆・轍)(整版)二丁、目錄・三丁、

遊敗失位(夏太康)ノ笑祖儉德(宋武帝駿)・五二丁、挿絵・二

〇丁)、第六冊、六五丁(金蓮布地(斎主宝卷)ノ任用六賊(宋

徽宗)・四六丁、挿絵・一六丁、帝鑑図説後序、万曆元年孟夏之

吉吏部左侍郎兼翰林院侍読学士掌詹事府事予章王希烈譔・三丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「子孫永保/共六卷第/二十八番/雲煙家/藏書記」(青、長方印)。

〔備考〕無書入。無跋本。

### ◎史部 八 伝記類 (三) 総録

#### 34 唐才子伝 一〇卷 (元) 辛文房

〔請求番号〕35/22/560

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・一×一八・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「唐才子伝 木活版 康国藏書」と打付書。

〔内題〕「唐才子伝目錄」、「唐才子伝卷第一(ノ十)ノ(低十二格)西域

辛 文房 撰」。

〔尾題〕「唐才子伝目錄」、「唐才子伝卷第一(ノ十)」、「卷第三終」。

〔本文〕每半葉一二行×二二字。稍小型の真名活字を用いる。

〔匡郭〕四周单边（目録、二二・一×一五・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「才子卷目（巻一（〜十） 丁附）。

〔丁数〕第一冊、七三丁（目録・四丁、巻第一・一四丁、巻第二・一三

丁、巻第三・一四丁、巻第四・一三丁、巻第五・一五丁）、第二

冊、七二丁（巻第六・一四丁、巻第七・一四丁、巻第八・一四

丁、巻第九・一五丁、巻第十・一五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「康国蔵本」（墨長方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱傍点の他、上欄、下欄に若干の墨筆による

書き入れが施されている。川瀬、三八三・八二六頁、寛永中刊、

五山版繚印。図録篇、八二六図に大東急本の図版を収む。

### ◎史部 八 伝記類 (三) 総録

#### 35 歴代君臣画像 二卷 (明) 高宗哲撰

〔請求番号〕35/22/565

〔体裁〕特大本一冊。存下巻。

〔表紙〕原装（押八双有）丹表紙。三三・五×二四・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「君臣画像 下」と打付書。右下に「良資」と墨書

（外題と同筆）。

〔内題〕「君臣画像下」（版心）。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。表丁に挿絵、裏丁に伝。

〔匡郭〕四周双边（倉韻の伝、二五・七×一九・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「君臣画像下 丁附」。

〔丁数〕六八丁（倉韻、許魯齋）。他、前遊紙一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）他。

〔備考〕挿絵に一部彩色（後代の筆）が施されている。

### ◎子部 三 法家類

#### 36 祥刑要覽 (明) 吳訥

〔請求番号〕35/24/569

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・二×一八・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「寛永元<sup>甲</sup>子<sup>子</sup>年活字板／祥刑要覽」と打付書。

〔内題〕「祥刑要覽序」、「祥刑要覽卷上／（低八格）都台致政海虞吳訥」。

〔尾題〕「祥刑要覽卷終」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边（二二・〇×一六・二糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「祥刑序（祥刑） 丁附」。

〔丁数〕三九丁（自序、正統壬戌秋八月朔嘉議大夫都察院左副都御史致

仕海虞訥謹序・一丁、後序〔業陰比事〕の後序）、景泰辛未夏

海虞大耄翁識・二丁、本文・三六丁）。他、前遊紙一丁。

町田中長左衛門刊之。

〔印記〕①己行千里道末／③武藏石濱／④増戸文庫／②讀萬卷書（朱方印）、菅谷／藏書（朱方印）、江風山／月莊（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。下巻はもとより欠く（先行の古活字版、元和中刊本も同様）。川瀬、三六二・三八七・八三〇頁、（二）寛永元年刊。図録篇二二二図に大東急本の図版を収む。

◎子部 一 儒家類

37 晦菴先生語録類要 一八卷 (宋)葉土龍 輯

〔請求番号〕35/23/566

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補黄土色表紙。二六・九×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二八・四×三・〇糎）、「悔庵語録類要 上

（中・下）」。

〔内題〕「新編晦菴先生語録類要目録／（低八格）後学括蒼葉 土龍編次」、

「晦菴先生語録類要卷第一（一十八）／（低四格）勉齋黄先生門人括蒼葉土龍編次」。

〔尾題〕「晦菴先生語録類要目録」、「晦菴先生語録類要卷第一（一十七・一十八終）」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字（序、姓氏・後序）。每半葉一三

行×一九字。稍小型の活字（目録・卷第一一十八）。

〔匡郭〕四周双辺（序、二一・四×一五・五糎、卷第一、二一・三×一五・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「語録序一（序二・姓氏・後序） 丁附」、

黒口双花口魚尾、中縫、「語録卷目（卷一十八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一一三丁（序・一丁、朱子語録格言序・二丁、語録問弟子姓氏・二丁、目録・二丁、卷第一・五丁、卷第二・三七丁、卷第三・二〇丁、卷第四・一五丁、卷第五・一三丁、卷第六・一六丁）、第二冊、一〇三丁（卷第七・一二丁、卷第八・二五丁、卷第九・一七丁、卷第十・一六丁、卷第十一・一二丁、卷第十二・二二丁）、第三冊、一二三丁（卷第十三・一一丁。一丁表の一行目と二行目、衍文。卷第十四・二三丁、卷第十五・一九丁、卷第十六・三四丁、卷第十七・一五丁、卷第十八・二〇丁、後序・二丁）。他、各冊とも前遊紙一丁（後補）。

〔刊記〕無。

〔印記〕第一冊の巻首丁のみ、朱長方印、一印。

〔備考〕ごくわずかに朱引、朱句読点等が施されるが、無書入に等しい。

巻末、刊記ある丁欠。次項、6210本と同版。

38 晦菴先生語録類要 一八卷 (宋)葉土龍 輯

〔請求番号〕35/23/6210

〔体裁〕大本七冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）茶色渋引き表紙。二八・六×二〇・二糶。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺棹原刷題簽（破損）、「朱子語録」。

〔内題〕「新編晦菴先生語録類要目録」（低八格）後学括蒼葉 土龍編次、

「晦菴先生語録類要卷第一（一〇十八）」（低四格）勉齋黃先生 門人括蒼葉士龍編次。

〔尾題〕「晦菴先生語録類要目録」、「晦菴先生語録類要卷第一（一〇十七・一十八終）」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字（序、姓氏・後序）。每半葉一三行×一九字。稍小型の活字（目録・卷第一〜十八）。

〔匡郭〕四周双辺（序、二一・五×一五・四糶、卷第一、二一・三×一五・六糶）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「語録序一（序二・姓氏・後序） 丁附」、

黒口双花口魚尾、中縫、「語録卷目（卷一〜十八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四九丁（序・一丁、朱子語録格言序・二丁、語録答問

弟子姓氏・二丁、目録・二丁、卷第一・五丁、卷第二・三七丁）、

第二冊、三五丁（卷第三・二〇丁、卷第四・一五丁）、第三冊、

四一丁（卷第五・一三丁、卷第六・一六丁、卷第七・二二丁）、

第四冊、四二丁（卷第八・二五丁、卷第九・一七丁）、第五冊、

八二丁（この冊のみ合冊。卷第十・一六丁、卷第十一・二二丁、

卷第十二・二二丁、卷第十三・一一丁。一一丁表の一行目と二

行目、衍文。卷第十四・二三丁）、第六冊、五三丁（卷第十五・

一九丁、卷第十六・三四丁）、第七冊、三八丁（卷第十七・一五丁、卷第十八・二〇丁、後序一、大徳壬寅二月朔後学武夷詹天祥君履書・二丁、後序二、成化庚寅秋九月吉旦／直隸徽州府婺源縣知縣覃懷韓儼謹識／儒士汪道全書（三格空）古歛黃文敬刊・一丁）。

〔刊記〕「正保三歳極月日」（低三格）二條鶴屋町田原仁左衛門刊行」。

〔印記〕「□□氏／圖書」（朱長方印、朱抹消）、「時習／館印」（朱方印）。

〔備考〕卷一〜卷二の一丁表、卷八の六丁表にのみ朱引と朱句読点が施されている。切貼訂正若干。川瀬・三六四・三八五・八二八頁。

### ◎子部 一 儒家類

#### 39 孔子家語 一〇卷（元）王広謀撰

〔請求番号〕35/22/563

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕後補薄茶色布目地表紙。二七・五×一九・五糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の单辺棹青色書題簽（一九・五×二・八糶）、「孔子

家語 一二（一〇終）」。

〔内題〕「孔子家語序」（低六格）王（三格空）肅（三格空）註、「孔子

家語卷第一（一〜十）」。

〔尾題〕「孔子家語卷第一（一〜十）」。

〔本文〕每半葉九行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・一×一五・七糶）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「家語（家語卷一）十」丁附。

〔丁数〕第一冊、五一丁（序・四丁、巻第一・二六丁、巻第二・二二丁）、第二冊、三九丁（巻第三・二〇丁、巻第四・一九丁）、第三冊、四二丁（巻第五・二五丁、巻第六・一七丁）、第四冊、三八丁（巻第七・二〇丁、巻第八・一八丁）、第五冊、五五丁（巻第九・二八丁、巻第十・二七丁）。他、第一〜四冊、前遊紙一丁、第五冊、前後に遊紙、各二丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「明霞／軒／藏書」（宇野明霞、朱方印）、「大瀬氏／函書記」（朱長方印、陰刻）。

〔備考〕第一冊の遊紙裏丁に、「此書入五冊共／宇野明霞先生自筆」と墨書のある付箋を貼付。異本との校合あり。監校（朱）、毛氏正本 虞山毛晋（墨）、呉氏本 武林呉嘉謨集校（青）、銭氏本 武林銭受益校（赤）、高麗本 猷堂王広謀景猷句解（水色）、「王肅注明 東具金蟠葛才鼎同校本／○右本篇次字句全與倭刻同」（付箋）。川瀬・三八四頁、元和寛永中刊。「伏見版と異りて素王事紀を附する事なく其の底本は別途に出づるものなり」。内閣文庫蔵本には元和八年の識語があることから、それ以前の刊行であることは確実。

◎子部 一 儒家類

40 小学集説 存巻第一（明）程愈撰（明）李鑑 李承祖同編

〔請求番号〕22/42/58

〔体裁〕特大本一冊。

〔表紙〕原装（押入双有）栗皮表紙。三一・〇×二一・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「小学集説一」と打付書。

〔内題〕「（低一格）小学集説序」、「小学集説卷之一／（低七格）後学淳安程（二格空）愈（二格空）編／（低九格）濟寧李（二格空）鑑／（低十三格）李承祖同編」。

〔尾題〕「小学集説卷之一」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。

〔匡郭〕四周双辺（序、二三・三×一六・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「小学序（凡例・篇目・総論・書題・題辞・小学集説一）丁附」。

〔丁数〕三〇丁（序、文公小学之書学者立身之本也）成化二十二年丙午春正月既望後学淳安／程愈序・一丁、小学集説凡例・一丁、小学篇目・一丁、小学集説総論・五丁、小学書題・二丁、小学題辞・五丁、小学集説卷之一・一五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江雲涓樹」（林羅山、朱陰陽刻長方印）、「林氏／藏書」（林述齋朱方印）、「尚古／齋／所藏」（佐藤硯湖、朱方印）、「平生／精刀」（朱方印、陰刻）、「大學／藏書」（朱方印）、「東京小學」（朱長

方印)、「昌平坂／学問所」(墨長方印)。

〔備考〕卷末尾題下に朱識語、「戊午閏三月道春氏朱句焉」(戊午Ⅱ元和四年)。他、羅山による朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名、上欄と下欄には朱墨による書き入れが施されている。巻第二～六は、国立国会図書館に所蔵されている(WA七―八)。川瀬・三六一・三八四・八二七頁。「活字の様式麗しく、よく朝鮮銅活の面影を伝ふ。林羅山の元和四年朱識語ある一本(中略)に拠りて、刊行年時を限定せらるゝも、其の版心上慶長中の印行と推定せらる」(三八四頁)。図録篇二〇六図に大東急本の図版を収む。

◎子部 一 儒家類

41 北溪先生性理字義 二卷 (宋) 陳淳撰

〔請求番号〕35/22/564

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二八・二×二〇・二糶。四針袋綴。

〔題簽〕表紙は本来、本書に掛けられていたものではなく、別の本の表紙を流用したもの。左肩に題簽はあるが、破損甚大で外題は判読不可。

〔内題〕「北溪先生性理字義序」、「北溪先生性理字義目録」、「北溪先生性理字義卷之上(下)」。

〔尾題〕「北溪先生性理字義目録終」、「北溪先生性理字義卷之上」、「北溪先

生性理字義卷下」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。

〔匡郭〕四周双边(序、二三・七×一六・五糶)、有界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「性理字義 丁附(序・目録・乙〓四十三・四十四〓八十九)」。

〔丁数〕九一丁(序・一丁、目録・一丁、卷之上・四三丁、卷之下・四六丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「播州斑鳩／保性院藏」(朱方印)、「稻田／福堂／圖書」。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施されている。慶應義塾大学三田メディアセンター所蔵本には元和四年六月の石川丈山による識語が記されている。

◎子部 二 兵家類

42 七書直解 二三卷 (明) 劉寅撰

〔請求番号〕35/23/567

〔体裁〕大本七冊。

〔表紙〕新補薄紅色表紙。二八・三×二〇・三糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に双边枠を刷り、「七書直解(六韜上〓太宗問対)」と打付書。

〔内題〕「孫武子卷之上」、「孫武子直解卷之中(下)」、「呉子直解卷上(低十一格) 前辛亥科進士太原劉寅解」、「呉子直解卷之下」。

「尉繚子直解卷第一／（低十一格）前辛亥科進士太原劉寅解」、  
「尉繚子直解卷第二（〜五）」、「六韜直解卷第一／（低十格）前  
辛亥科進士太原劉寅解」、「六韜直解卷第二（〜五・卷之六）」、  
「三略直解卷之上／（低十一格）前辛亥科進士太原劉寅解」、「三  
略直解卷中（下）」、「唐太宗李衛公問對直解卷上／（低十一格）  
前辛亥科進士太原劉寅解」、「唐太宗李衛公問對直解卷中（下）／  
（低十格）前辛亥科進士太原劉寅解」。

〔尾題〕「孫子卷之上終」、「孫武子直解卷之中」、「孫子直解卷之終」、「呉  
子上」、「呉子直解卷之下終」、「尉繚子直解卷第一」、「尉繚子  
直解卷第二終」、「尉繚子直解卷第三」、「尉繚子直解卷第四終」、  
「尉繚子直解卷五終」、「六韜直解卷第一（〜三）」、「四終」、「六  
韜直解卷之五」、「武經七書六韜直解卷第六終」、「三略直解卷上」、  
「三略直解卷中」、「黄石公三略直解終」、「唐太宗李衛公問對直  
解卷上（中）」、「唐太宗李衛公問對直解卷下終」。

〔本文〕 每半葉一二行×二三字。小型活字。

〔匡郭〕 四周双辺（孫武子卷之上、二二・三×一五・八糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「孫子上（孫直中（下）・呉直上（下）・  
六直一（〜六）・三直上（中・下）・尉直一（〜五）・太直上（中・  
下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七九丁（孫武子卷之上・一二丁、孫武子直解卷之中・  
三五丁、孫武子直解卷之下・三三丁）、第二冊、三八丁（呉子直  
解卷上・二五丁、呉子直解卷之下・一三丁）、第三冊、六九丁（尉

繚子直解卷第一・一七丁、尉繚子直解卷第二・一九丁、尉繚子  
直解卷第三・一三丁、尉繚子直解卷第四・七丁、尉繚子直解卷  
第五・一三丁）、第四冊、六八丁（六韜直解卷第一・二六丁、六  
韜直解卷第二・一三丁、六韜直解卷第三・二九丁）、第五冊、五  
〇丁（六韜直解卷第四・二〇丁、六韜直解卷第五・一二丁、六  
韜直解卷之六・一八丁）、第六冊、三五丁（三略直解卷之上・二  
〇丁、三略直解卷中・六丁、三略直解卷下・九丁）、第七冊、八  
一丁（唐太宗李衛公問對直解卷上・三一丁、唐太宗李衛公問對  
直解卷中・二六丁、唐太宗李衛公問對直解卷下・二四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「靈雲院」（朱長方印）。

〔備考〕 無書入。川瀬・八二九頁、「三略直解」の項に、「この種の刊本  
は「七書直解」として印行されてゐて、久原文庫（現、大東急  
記念文庫、稿者注）に「六書」〈孫子・呉子・六韜・三略・尉繚  
子・太宗問〉（「司馬法集解」缺。七冊）東洋文庫に「司馬法集  
解」（司馬法のみ集解とす。）があり（稿者注、三AK3）、併せ  
て揃ひ本となるが、和田雲村氏の手で、両方に分かれたものであ  
らう。（中略）恐らく七書直解は寛永中刊本が最初の版本であら  
う。林羅山が元和六年に八冊（内閣文庫蔵）を手書してゐるの  
は未だ版本がない故と思ふ」。

◎子部 二 兵家類

43 尉繚子 五卷

〔請求番号〕34/16/658

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）栗皮表紙。二七・七×二〇・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一六・三×三・七糎）、「尉繚子 自一至五」。

〔内題〕「尉繚子卷第一（一五）」。

〔尾題〕「尉繚子卷第一（一五）終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。

〔匡郭〕四周双辺（卷一・二丁表、二一・四×一五・九糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「尉繚上（中・下・四・五） 丁附」。

〔丁数〕三九丁（卷第一・九丁、卷第二・一〇丁、卷第三・七丁、卷第四・五丁、卷第五・八丁）

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。伏見版、七書のうち。川瀬・二一七・六九六頁、（二）慶長十一年刊伏見版・異植字版（第二種本）。「七書には、同種活字を以て殆ど同時に再度の印行が行はれた」（二一八頁）。

◎子部 九 譜録類 （三）草木・蟲魚

44 新增鷹鵠方一卷（朝鮮）李爛編

〔請求番号〕35/24/571

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・九×一九・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩、題簽剥落。「新增鷹鵠方」と打付書。

〔内題〕「新增鷹鵠方」。

〔尾題〕無

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・八×一六・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「鷹鵠方 丁附」。

〔丁数〕二五丁（鷹賦（九格空）魏彦深、相鷹歌、鷹鵠摠論（六格空）

星山 李爛編、調養雜説（七格空）星山 李爛編、養鷹鑑戒（七格空）星山 李爛編、聞見常談）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬、三八七・八三〇頁。寛永中刊。

◎子部 一〇 雑家類

45 新刊鶴林玉露 甲・乙・丙集、各六卷（宋）羅大経編

〔請求番号〕35/24/570

〔体裁〕 大本六冊。

〔表紙〕 原裝（押八双有）栗皮表紙。二七・四×一九・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（二〇・〇×四・〇糎）、「鶴林玉露 甲集

集上二二三（乙集下四五六・丙集下四五六）」。第二・四・五冊、

題簽剥落。第四冊（乙集四〇六）は、左肩に「新刊鶴林玉露」

と打付書。

〔内題〕 「新刊鶴林玉露目錄／（低三格） 廬 陵 羅（二格空） 大經（二

格空） 景綸」、「新刊鶴林玉露卷之一（〇六）／（低三格） 廬 陵

羅（二格空） 大經（二格空） 景綸」。

〔尾題〕 「新刊鶴林玉露目錄畢」（乙集の目錄尾題なし）、「新刊鶴林玉露

卷之一（〇五・卷六）」。

〔本文〕 每半葉九行×一九字。丙集、卷之三・一一丁、無界、一〇行×

一九字。

〔匡郭〕 四周双辺（甲集目錄、二〇・七×一四・九糎、甲集卷之一、二

〇・三×一五・〇糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「鶴林目錄（卷一〇六） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五六丁（甲集、目錄・六丁、卷之一・一五丁、卷之二・

一七丁、卷之三・一八丁）、第二冊、五五丁（卷之四・一七丁、

卷之五（補写）・一九丁、卷之六・一九丁）、第三冊、六五丁（乙

集、目錄・六丁、卷之一・一九丁、卷之二・一九丁、卷之三・

二二丁）、第四冊、五五丁（卷之四・二〇丁、卷之五・一九丁、

卷之六・一六丁）、第五冊、六二丁（丙集、序、宋淳祐壬子廬陵

羅大經景綸・一丁、目錄・五丁、卷之一・一九丁、卷之二・一

八丁、卷之三・一九丁。一三丁補写）、第六冊、四九丁（卷之四・

一五丁。五丁補写、卷之五・一五丁、卷之六・一九丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「洒竹文庫」（大野洒竹、朱椿円印）。

〔備考〕 第一、三、四冊の卷末に識語、「羅山先生之口誦而隨筆以加訓点

俊長記之余恩借以写之小原喜庵玄悦」。朱引、朱句読点、墨筆で

返点、振仮名、送仮名が施される他、上欄等に若干墨筆で書き

入れが施されている。第二冊（甲集）、卷之五の補写の筆跡は、

林羅山の筆跡に近似する。川瀬、三六二・三八八・八三一頁、

慶長元和中刊。

#### ◎子部 一二 類書類

46 新編古今事文類聚 二二二卷（宋）祝穆撰

〔請求番号〕 35/27/575

〔体裁〕 大本六〇冊。

〔表紙〕 後補薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙。二六・四×一九・

九糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の薄茶色書題簽（一八・〇×三・五糎）、「事文類聚

三（〇六十）」（第二冊、上部破損）。第一冊剥落、左肩に「事文

類聚」と朱打付書。以下の冊でも題簽が剥落している冊多し。

〔内題〕 「新編古今事文類聚総目」、「新編古今事文類聚目錄一／（低八格）

建安祝 穆和父編、「新編古今事文類聚卷之一」(低八格)

建安祝 穆和父編」(「新編古今事文類聚卷之二百二十一

／(低六格) 南江富 大用 時可編)。

〔尾題〕「新編古今事文類聚總目終」、「新編古今事文類聚卷之一」(卷之二百二十一)。

〔本文〕每半葉二行×一九字。序は每半葉九行×一五字。

〔匡郭〕四周双辺(序、二〇・六×一六・二、有界)。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「事文序(事文序終・事文總目・事文目錄一・事文一)」 丁附。

〔丁数〕第一冊、二八丁(序、淳祐丙午臘月望日晚進祝穆伯和父謹識・

三丁、總目・二五丁)、第二冊、七五丁(目錄・五丁、卷之一・

二二丁、卷之二・三〇丁、卷之三・一九丁)、第三冊、六八丁(目

録・八丁、卷之四・二九丁、卷之五・三一丁)、第四冊、九五丁

(目錄・一〇丁、卷之六・二二丁、卷之七・二二丁、卷之八・

二二丁、卷之九・二二丁)、第五冊、七七丁(目錄・九丁、卷之

十・二三丁、卷之十一・一八丁、卷之十二・二七丁)、第六冊、

八〇丁(目錄・七丁、卷之十三・二九丁、卷之十四・二七丁、

卷之十五・一七丁)、第七冊、七二丁(目錄・七丁、卷之十六・

一九丁、卷之十七・二八丁、卷之十八・一八丁)、第八冊、九二

丁(目錄・一〇丁、卷之十九・一九丁、卷之二十・二二丁、卷

之二十一・二四丁、卷之二十二・一八丁)、第九冊、六四丁(目

録・七丁、卷之二十三・二五丁、卷之二十四・三三丁)、第一〇

冊、一二六丁(目錄・一四丁、卷之二十五・一二丁、卷之二十

六・一九丁、卷之二十七・二四丁、卷之二十八・二五丁、卷之

二十九・三三丁)、第一一冊、一〇七丁(目錄・一一丁、卷之三

十・二四丁、卷之三十一・二二丁、卷之三十二・二四丁、卷之

三十三・二七丁)、第一二冊、七九丁(目錄・八丁、卷之三十四・

三二丁、卷之三十五・三九丁)、第一三冊、七四丁(目錄・七丁、

卷之三十六・三二丁、卷之三十七・二七丁、卷之三十八・一八

丁)、第一四冊、一一八丁(目錄・一〇丁、卷之三十九・二七丁、

卷之四十・一九丁、卷之四十一・一九丁(一六・一七丁錯簡)、

卷之四十二・二六丁、卷之四十三・一七丁)、第一五冊、一一四

丁(目錄・一一丁、卷之四十四・二三丁、卷之四十五・一八丁、

卷之四十六・二二丁、卷之四十七・一六丁、卷之四十八・二六

丁)、第一六冊、九五丁(目錄・八丁、卷之四十九・二九丁、卷

之五十・一七丁、卷之五十一・二二丁、卷之五十二・一九丁)、

第一七冊、一〇九丁(目錄・一〇丁、卷之五十三・六丁、卷之

五十四・九丁、卷之五十五・一七丁、卷之五十六・一三丁、卷

之五十七・九丁、卷之五十八・一九丁、卷之五十九・八丁、卷

之六十・一八丁)、第一八冊、一二二丁(目錄・一三丁、卷之六

十一・二二丁、卷之六十二・二三丁、卷之六十三・二二丁、卷

之六十四・二二丁、卷之六十五・二三丁) 第一九冊、九七丁(目

録・一一丁、卷之六十六・二三丁、卷之六十七・二三丁、卷之

六十八・二二丁、卷之六十九・二〇丁)、第二〇冊、九八丁(目

録・九丁、卷之七十・二〇丁、卷之七十一・二二丁、卷之七十二・一九丁、卷之七十三・二九丁）、第二二冊、一〇二丁（目録・一一丁、卷之七十四・二五丁、卷之七十五・二七丁、卷之七十六・二二丁、卷之七十七・一八丁）、第二三冊、一二〇丁（目録・一六丁、卷之七十八・二四丁、卷之七十九・二八丁。二五丁重複、卷之八十・二六丁、卷之八十一・二六丁）、第二三冊、八九丁（目録・一二丁、卷之八十二・三三丁、卷之八十三・二七丁、卷之八十四・一九丁）、第二四冊、七二丁（目録・一〇丁、卷之八十五・二六丁、卷之八十六・一八丁、卷之八十七・一七丁）、第二五冊、一九九丁（目録・一五丁、卷之八十八・一九九丁、卷之八十九・一八丁、卷之九十・二三三丁、卷之九十一・二二丁、卷之九十二・二三三丁）、第二六冊、七〇丁（目録・七丁、卷之九十三・一四丁、卷之九十四・二二丁、卷之九十五・二八丁）、第二七冊、一三九丁（目録・一五丁、卷之九十六・三〇丁、卷之九十七・二六丁、卷之九十八・二〇丁、卷之九十九・二二丁、卷之一百・一六丁、卷之一百一・一一丁）、第二八冊、一三六丁（目録・一六丁、卷之一百二・二四丁、卷之一百三・二五丁、卷之一百四・二三三丁、卷之一百五・二五丁、卷之一百六・二三三丁）、第二九冊、八九丁（目録・一二丁、卷之一百七・一九九丁、卷之一百八・一九九丁、卷之一百九・二〇丁、卷之一百十・二〇丁）、第三〇冊、七六丁（目録・一丁、卷之一百十一・三六丁、卷之一百十二・三九丁。以下欠、後表紙も欠）、第三一冊、八二

丁（目録・八丁、卷之一百十三・一九九丁、卷之一百十四・二三三丁、卷之一百十五・三三三丁）、第三二冊、一〇四丁（目録・一〇丁、卷之一百十六・四三丁、卷之一百十七・二五丁、卷之一百十八・二六丁）、第三三冊、八九丁（目録・九丁、卷之一百十九・三〇丁、卷之一百二十・二九丁、卷之一百二十一・二二丁）、第三四冊、一三〇丁（目録・一四丁、卷之一百二十二・三五丁、卷之一百二十三・三三三丁、卷之一百二十四・二六丁、卷之一百二十五・三三三丁）、第三五冊、八五丁（目録・一一丁、卷之一百二十六・二五丁、卷之一百二十七・一八丁、卷之一百二十八・三一丁）、第三六冊、一三六丁（目録・一五丁、卷之一百二十九・一四丁、卷之一百三十・一七丁、卷之一百三十一・一七丁、卷之一百三十二・二七丁、卷之一百三十三・二六丁、卷之一百三十四・二〇丁）、第三七冊、一〇九丁（目録・一二丁、卷之一百三十五・二三三丁、卷之一百三十六・二二丁、卷之一百三十七・三一丁、卷之一百三十八・二二丁）、第三八冊、八七丁（目録・九丁、卷之一百三十九・一九九丁、卷之一百四十・一九九丁、卷之一百四十一・二三三丁、卷之一百四十二・一七丁。後表紙欠）、第三九冊、九六丁（目録・九丁、卷之一百四十三・三六丁、卷之一百四十四・二九丁、卷之一百四十五・二三三丁）、第四〇冊、八八丁（目録・八丁、卷之一百四十六・二二丁、卷之一百四十七・一六丁、卷之一百四十八・二六丁、卷之一百四十九・一七丁）、第四一冊、一一六丁（目録・一二丁、卷之一百五十・三三三丁、

卷之一百五十一・二八丁、卷之一百五十二・二九丁、卷之一百五十三・一五丁）、第四二冊、七三丁（目録・八丁、卷之一百五十四・二二丁、卷之一百五十五・二二丁、卷之一百五十六・二二丁）、第四三冊、七九丁（目録・八丁、卷之一百五十七・一七丁、卷之一百五十八・三五丁、卷之一百五十九・一九丁）、第四四冊、四九丁（目録・五丁、卷之一百六十・二四丁、卷之一百六十一・二〇丁）、第四五冊、一一一丁（目録・一二丁、卷之一百六十二・一九丁、卷之一百六十三・二九丁、卷之一百六十四・二七丁、卷之一百六十五・二四丁）、第四六冊、一二五丁（目録・一三丁、卷之一百六十六・二二丁、卷之一百六十七・二八丁、卷之一百六十八・二三丁、卷之一百六十九・一八丁、卷之一百七十・二三丁）、第四七冊、八八丁（目録・九丁、卷之一百七十一・一四丁、卷之一百七十二・一九丁、卷之一百七十三・三一丁、卷之一百七十四・一五丁）、第四八冊、一二〇丁（目録・一丁、卷之一百七十五・一六丁、卷之一百七十六・二二丁、卷之一百七十七・三八丁、卷之一百七十八・二七丁、卷之一百七十九・七丁）、第四九冊、一一八丁（目録・一三丁、卷之一百八十・二三丁、卷之一百八十一・四九丁、卷之一百八十二・三四丁）、第五〇冊、一二二丁（目録・一二丁、卷之一百八十三・二八丁、九・一〇丁錯簡、九丁重複、卷之一百八十四・二三丁、卷之一百八十五・一六丁、卷之一百八十六・一〇丁、卷之一百八十七・三三丁）、第五一冊、八八丁（目録・九丁、卷之一百八

十八・七九丁）、第五二冊、八八丁（目録・九丁、卷之一百八十九・二二丁、卷之一百九十・五八丁）、第五三冊、一〇二丁（目録・九丁、卷之一百九十一・四二丁、卷之一百九十二・一三丁、卷之一百九十三・二三丁、卷之一百九十四・九丁、卷之一百九十五・七丁）、第五四冊、一一六丁（目録・一三丁、卷之一百九十六・三五丁、卷之一百九十七・二三丁、卷之一百九十八・八丁、卷之一百九十九・三七丁）、第五五冊、九九丁（目録・一〇丁、卷之二百・一九丁、卷之二百一・四〇丁、卷之二百二・一四丁、卷之二百三・一一丁、卷之二百四・五丁）、第五六冊、一〇〇丁（目録・一三丁、卷之二百五・二四丁、卷之二百六・七丁、卷之二百七・一七丁、卷之二百八・一七丁、卷之二百九・六丁、卷之二百十・七丁、卷之二百十一・一九丁）、第五七冊、一三一丁（目録・一四丁、卷之二百十二・二七丁、卷之二百十三・三六丁、卷之二百十四・三二丁、卷之二百十五・二三丁）、第五八冊、九八丁（目録・一一丁、卷之二百十六・六三丁、卷之二百十七・二四丁）、第五九冊、九四丁（目録・一〇丁、卷之二百十八・四二丁、卷之二百十九・四二丁）、第六〇冊、一二八丁（目録・一二丁、卷之二百二十・六八丁、卷之二百二十一・四八丁）。

〔刊記〕無。  
〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名等が施されているが、無

書入の冊も多し。刷りの薄い部分を朱筆で書き足す。第一冊、巻末に朱識語、「元禄十四仲（虫損）点□（花押）」。一部に活字の差し替え、誤植の訂正のある箇所あり。「この書は誤植訂正以前の本か」（長澤規矩也）『大東急記念文庫 貴重書解題 第一巻 総説・漢籍』。川瀬、三八九・八三二頁、元和中刊本。「本書の活字は元和勅版の活字を襲用してゐる部分があると認められるので、内閣文庫蔵本には元和七年の識語も見え、かたがた元和年間の印行と考へられる」（八三二頁）。内閣文庫には二点の所蔵があり、そのうちの一点（請求番号、365・33）には巻末に、元和七年十月から寛永元年六月六日までの墨識語が施されている。これにより刊行年時も元和七年十月以前と特定できる。

◎子部 一〇 雑家類 (五) 雑纂

47 群書治要 原闕卷四・十三・二十 (唐) 魏徵等奉勅撰

〔請求番号〕 35/25/574

〔体裁〕 大本二三冊。卷第三欠。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二七・〇×二〇・〇。糰。四針袋綴（背に絹布をあてがい綴じる）。

〔題簽〕 無。左肩に「群書治要 駿河版 一」と打付書。

〔内題〕 「群書治要序／（低三格）秘書監鉅鹿男臣魏徵等奉勅撰」、「群

書治要目錄」、「群書治要卷第一（〜五十）」。

〔尾題〕 「群書治要卷第一（〜五十終）」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。銅活字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二〇・九×一五・五糰）、有界。

〔版心〕 双花口大黒魚尾、中縫、「群書治要序（目錄・一〜五十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六九丁（序・三丁、目錄・四丁、卷第一・二四丁、卷第二・三八丁）、第二冊、七〇丁（卷第五・三五丁、卷第六・三五丁、四〜六丁錯簡）、第三冊、七二丁（卷第七・三八丁、卷第八・三四丁）、第四冊、六八丁（卷第九・三二丁、卷第十・三六丁）、第五冊、六八丁（卷第十一・三四丁、卷第十二・三四丁）、第六冊、六二丁（卷第十四・三一丁、卷第十五漢書三・三二丁）、第七冊、七二丁（卷第十六・三四丁、卷第十七・三七丁）、第八冊、五九丁（卷第十八・二九丁、卷第十九・三〇丁）、第九冊、六九丁（卷第二十一・三三丁、卷第二十二・三六丁）、第一〇冊、七一丁（卷第二十三・三五丁、卷第二十四・三六丁）、第一一冊、七六丁（卷第二十五・三八丁、卷第二十六・三八丁）、第一二冊、五七丁（卷第二十七・二八丁、卷第二十八・二九丁）、第一三冊、七〇丁（卷第二十九・三四丁、卷第三十・三六丁）、第一四冊、六三丁（卷第三十一・三〇丁、卷第三十二・三三丁）、第一五冊、七〇丁（卷第三十三・三三丁、卷第三十四・三七丁）、第一六冊、六六丁（卷第三十五・三四丁、卷第三十六・三二丁）、第一七冊、七〇丁（卷第三十七・三七丁、卷第三十八・三三丁）、第一八冊、七三丁（卷第三十九・三五丁、卷第四十・三八丁）、第一九冊、

六四丁(卷第四十一・三一丁、卷第四十二・三三丁)、第二〇冊、五六丁(卷第四十三・二五丁、卷第四十四・三一丁)、第二一冊、六九丁(卷第四十五・三三丁、卷第四十六・三六丁)、第二二冊、六九丁(卷第四十七・三六丁、卷第四十八・三三丁)、第二三冊、五二丁(卷第四十九・三五丁、卷第五十・三七丁)。各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「子／孫／永／保／共二十三卷／雲煙家／藏書記」(安西雲煙、

青長方印、見返し)、「賜蘆文庫」(新見正路、朱長方印)、「江風山／月莊」(朱方印)、「福堂」(以上二印、稲田福堂、朱長方印)

〔備考〕駿河本。無書入。厚手の楮紙を料紙に用いて、ずしりと重い。卷第十六の六丁表・八行目の割注「菜」、卷第十七の二丁表・三行目の「靡く」など、部分的に活字の一部を擦り消し、墨筆で訂正を施した箇所あり。

◎子部 一〇 雑家類 (五) 雑纂

48 新彫皇朝類苑 七八卷 (宋) 江少虞撰

〔請求番号〕22/42/60

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕香色表紙(押八双有、原表紙か)。二八・五×二一・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「皇宋事宝類苑序／(低一格)左朝請大夫権亮遣吉州軍州事江少

虞撰」、「皇宋事宝類苑後序」、「皇朝類苑総目」、「麻沙新雕皇朝類苑卷第目錄一」～「新雕皇朝類苑卷第目錄十四」、「新雕皇朝類苑卷第一(～七十八)」。

〔尾題〕「新雕皇朝類苑卷第目錄一(～卷第目錄十四終)」、「新雕皇朝類苑卷第一(～七十八終)」。

〔本文〕序、每半葉八行×一二字(行書体)。本文、每半葉一三行×二〇字。

〔匡郭〕序、四周双辺(二二・六×一六・七糎)、有界。本文、四周双辺(二二・二×一六・六糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾(序・目錄・跋、黒口双花口魚尾)、中縫、「皇朝類苑序(皇朝卷目錄・皇朝卷一(～七十八)・皇朝類苑跋) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四九丁(序、紹興十五年五月十七日謹序・三丁、後序・二丁、総目・二丁、目錄・四二丁)、第二冊、六六丁(卷第一・一二丁、卷第二・一三丁、卷第三・九丁、卷第四・一一丁、卷第五・一〇丁、卷第六・一一丁)、第三冊、六四丁(卷第七・一〇丁、卷第八・一三丁、卷第九・一二丁、卷第十・一一丁、卷第十一・一二丁、卷第十二・八丁)、第四冊、五八丁(卷第十三・一二丁、卷第十四・一三丁、卷第十五・一三丁、卷第十六・一〇丁、卷第十七・二〇丁)、第五冊、五七丁(卷第十八・一一丁、卷第十九・一一丁、卷第二十・一一丁、卷第二十一・一一丁、

卷第二十二・一三丁）、第六冊、六〇丁（卷第二十三・一二丁、卷第二十四・一二丁、卷第二十五・一二丁、卷第二十六・一二丁、卷第二十七・一二丁）、第七冊、六三丁（卷第二十八・一二丁、卷第二十九・一二丁、卷第三十・一〇丁、卷第三十一・一〇丁、卷第三十二・一〇丁、卷第三十三・一〇丁）、第八冊、六二丁（卷第三十四・一二丁、卷第三十五・一四丁、卷第三十六・一二丁、卷第三十七・一二丁、卷第三十八・一二丁）、第九冊、六二丁（卷第三十九・一二丁、卷第四十・一五丁、卷第四十一・一二丁、卷第四十二・一二丁、卷第四十三・一二丁）、第一〇冊、六六丁（卷第四十四・一三丁、卷第四十五・一二丁、卷第四十六・一二丁、卷第四十七・八丁、卷第四十八・一二丁、卷第四十九・一〇丁）、第一一冊、六五丁（卷第五十・九丁、卷第五十一・九丁、卷第五十二・一二丁、卷第五十三・一二丁、卷第五十四・一二丁、卷第五十五・一三丁）、第一二冊、六一丁（卷第五十六・一三丁、卷第五十七・一〇丁、卷第五十八・一二丁、卷第五十九・一三丁、卷第六十・一三丁）、第一三冊、六六丁（卷第六十一・一三丁、卷第六十二・一二丁、卷第六十三・一〇丁、卷第六十四・一二丁、卷第六十五・一二丁、卷第六十六・一〇丁）、卷第一四冊、六七丁（卷第六十七・一二丁、卷第六十八・一三丁、卷第六十九・一三丁、卷第七十・一〇丁、卷第七十一・一〇丁、卷第七十二・一〇丁）、第一五冊、六三丁（卷第七十三・一〇丁、卷第七十四・一〇丁、卷第七十五・一〇丁、卷第七十六・一〇丁、卷第七十七・一〇丁、卷第七十八・八丁、跋・四丁）。

六・一〇丁、卷第七十七・一二丁、卷第七十八・八丁、跋・四丁）。

〔刊記〕跋刊、「元和七年重光作噩六月晦日／前南禪臣僧瑞保謹書」。

〔印記〕「口水／路府」（朱方印）。

〔備考〕元和勅版。卷一の巻首丁にのみ朱引、朱句読点が施されるが、無書入に等しい。

◎子部 七 術数類 (四) 占卜

49 邵康節先生心易卦数 一卷 (宋) 邵雍撰

〔請求番号〕35/24/573

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原裝(押入双有)栗皮表紙。二九・六×二一・一糶。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「梅花心易 全」と打付書。

〔内題〕「邵康節先生心易梅花数序」、「家伝邵康節先生心易卦数序」。

〔尾題〕「(低一格) 邵康節先生心易卦数終」。

〔本文〕每半葉二行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺(二二・六×一六・一糶)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「梅花序(梅花) 丁附」。

〔丁数〕四一丁(序、大明景泰甲戌仲冬日南至屏山後人京兆劉刻書・一

丁、序・二丁、本文・三八丁)。

〔刊記〕「(低五格) 寛永二曆 八月吉祥日」。

〔印記〕「常樂院」(朱長方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱返点、朱振仮名、朱送仮名、イ本（新本）

注記、上欄に「新本二八」と校合書入が朱筆で施されている。

川瀬、三六三・三八八頁。図録篇・二一七図に大東急本の図版を収む。

◎子部 三 法家類

50 棠陰比事 三卷 (宋) 桂万榮 編

〔請求番号〕35/24/572

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・四×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「棠陰比事 全」と打付書。

〔内題〕「棠陰比事目錄／(低九格) 四明桂 万榮編集／(低九格) 居延

田沢 校正」、「棠陰比事卷上(中・下)」。

〔尾題〕「棠陰比事目錄終」、「棠陰比事卷上(中・下終)」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。横幅広、朝鮮活字風の大型活字。上欄

に標目を植字。

〔匡郭〕四周双辺(目錄、二三・四×一七・三糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「棠陰目錄(棠陰比事序・上・中・下)

丁附。

〔丁数〕九七丁(目錄・四丁、序、大元年孟冬吉日承事郎澧州路総管府

推官居延田沢謹序・二丁、序、閏月望日四明桂万榮序・二丁、

卷上・二八丁、卷中・二七丁、卷下・三四丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名の他、朱墨による書き入れが多数あり。後表紙見返しに識語、「篠田蔵」。川瀬・三八七・八三〇頁、寛永中刊。「寛永元年刊祥刑要覽等と同種の活字を用ふ」。図録篇の図版で見ると確かに同種の活字のように見えるが、「棠陰比事」の活字の方が横に幅広く、大型、肉太で、同種の活字とは言い難い。

◎子部 類書類

51 標題徐状元補注蒙求 三卷 (後晋) 李瀚 撰 (宋) 徐子光 注

〔請求番号〕22/43/63

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二六・六×一九・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の薄茶色書題簽(一九・一×三・一糎)、「文祿活字

蒙求 上(中・下)」。

〔内題〕「標題徐状元補注蒙求卷上(中・下) 目錄」、「標題徐状元補注蒙

求卷上(中)」、「新刊徐状元補注蒙求卷下」。

〔尾題〕「(低二格) 蒙求下目錄終」、「標題徐状元補注蒙求卷上終」、「新

刊徐状元補注蒙求卷中 終」、「(低一格) 新刊徐状元補注蒙求卷

下」。

〔本文〕每半葉一一行×一五字。四段植版(四字標目四段組)。本文、大

型活字。注、小型活字。

〔匡郭〕四周单边（卷上目録、二一・六×一四・六糶）、無界。

〔版心〕上黒口双黒魚尾（真ん中に黒柱）、中縫、「蒙求上（中・下）」「丁附」。

〔丁数〕第一冊、一〇二丁（卷上目録・三丁、薦蒙求表（天宝五年八月一日饒州刺史李良上表）、蒙求序（光祿大夫行右散騎侍臣徐子光序）・三丁、卷上・九六丁。五〇丁補写、八一・八二丁錯簡）、第二冊、九六丁（卷中目録・三丁、卷中・九三丁）、第三冊、九七丁（卷下目録・三丁、卷下・九四丁）。

〔刊記〕「（低一格）桑城洛陽西洞院通勘解由小路南／（低一格）町住居甫庵道喜新刊一字板繡此／（低一格）書以応童蒙之求也呼嗚未弁羊耶／（低一格）羊耶魚耶魯耶潤愧林慙冀博覽人／運郢斤多幸／惟時文祿第五丙申小春吉辰道喜記」。

〔印記〕「小野節／家藏書」（朱方印）、「宣爾／子孫」（朱方印陰刻、以上二印、人見竹洞、江戸初期の儒者）、「徳」（朱丸印）。「待買堂」（達摩屋五一、朱楮円印）。他、上・中卷、右上方に判読不明の朱長方印一印。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、傍注が施されている。上巻には上欄（二四丁表まで）に朱墨による書き入れが夥しく施されている。第三冊、後表紙の見返しに、達摩屋五一の識語、「此本邦活字版ノ始、未詳。予ガ親昵スル〇ハ、文祿五年へ五年十一月ノ改元慶長ノ活版ノ此蒙求ナリ。是其推輿

ナルカ、是二次デハ慶長二年ノ勅板活字錦繡段アリ。其流、モト朝鮮ヨリ伝ヘシト聞ユ。凡ノ武家ノ人々板行ノコトハ、鎌倉ノ時、正治寛元宝徳ノ際、將軍家ノ仏経ヲ摺写セラレシコト、東鑑ニ見ユ。室町ノ時、江州某、田地ヲ賜リテ、元亨釈書ヲ重刊セラレシコト、日工集ニミユ。弘安元年秋田城之助（ミセケチ、介）ノ泰盛、大田経疏ヲ開板シ、弘安六年、北條越後守顯時、伝心法要ヲノ刻シ、曆応二年、高武藏守師直、楞嚴経跋ヲ開板セシコトノ右其刻本ノ跋語ニ見ユ。然トモ是等ハ皆仏経ヲ私版セシ／ニテ、聖経買伝ノ終身治国ノ書ヲ開板セシニハ非ズ。又、応永ノ頃トミユル左伝、明応八年論語ノ刻本モアレド、其刻者ノ名ノ詳ナラズ。右文故事略抄。ノ嘉永六年癸丑正月江戸書僧待買堂主人文成識」（句読点、稿者）。桐箱（「文祿活板蒙求」と箱書）入。川瀬・一五七・六九〇頁。

◎子部 一一 小説家類 (一) 雑事

52 冷齋夜話 一〇卷 (宋) 釈惠洪撰

〔請求番号〕 35 / 24 / 568

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二四・五×一七・三糶。四針袋綴。

〔題簽〕 剥落。左肩に「冷齋夜話 四 荒」と打付書。

〔内題〕 「冷齋夜話目録」、「冷齋夜話卷之一（一十）」。

〔尾題〕 「冷齋夜話目録終」、「冷齋夜話卷之二（一十）終」（卷之八は「冷

齋夜話卷之八」。

〔本文〕 每半葉九行×一八字。小型活字。

〔匡郭〕 四周单边（一六・三×一二・六糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「夜話目（一〜十） 丁附」。

〔丁数〕 一〇三丁（目録・一〇丁、卷之一・一二丁、卷之二・九丁、卷之三・七丁、卷之四・一〇丁、卷之五・八丁、卷之六・八丁、卷之七・九丁、卷之八・一〇丁、卷之九・八丁、卷之十・一二丁）。

〔刊記〕 卷首の目録に続けて、「是書僧惠洪所編也（中略）以繡諸梓与同志者共之幸鑿」と書し、その末に「癸未春孟新刊」と原刊記を記す。卷末に「（低十格）於下京櫻町開板」。

〔印記〕 「洒竹文庫」（大野洒竹、朱長方印）、「伊勢三井ノ謙之助印」（朱長方印）。他、朱長方印二印。

〔備考〕 朱引、朱傍点、朱句読点、上欄に若干の墨書き入れあり。川瀬・三六四・三八八・八三一頁、寛永中刊本。五山版の翻印。

◎子部 一四 道家類

53 列子鷹齋口義 二卷（宋）林希逸撰

〔請求番号〕 35/32/576

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 縹色表紙（押八双を有するが後補）。二八・一×一八・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（卷上破損、卷下、一七・九×三・六糎）、

「列子 坤」。

〔内題〕 「列子鷹齋口義卷上（下）／（低七格）鷹齋 林（三格空）希逸」。

〔尾題〕 「列子鷹齋口義卷上（下）」。

〔本文〕 每半葉九行×一九字。小型活字。

〔匡郭〕 四周双边（二〇・五×一四・六糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「列子上（下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、一〇五丁（卷上、六〇丁欠）、第二冊、九五丁（卷下、九五丁の丁附「百五」）。各冊とも前後に後補の遊紙各一二丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「致堂／圖書」（横山致堂（政孝）、一七八九〜一八三六、加賀金沢藩家老。朱方印）、「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆による返点、振仮名、送仮名、その他若干の朱墨による書き入れが施されている。川瀬・三九〇・八三三頁、慶長元和中刊。

◎子部 一四 道家類

54 老子経 存卷下

〔請求番号〕 35/32/577

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 新補の薄茶色表紙。二七・五×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二〇・五×三・〇糎）、「河上公老子経 古活字板」。

〔内題〕「老子徳経下（六格空）河上公章句」。

〔尾題〕「老子徳経下」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二二・一×一四・九糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「老子経下 丁附」。

〔丁数〕三五丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上二印、稲田福堂）、「學校」（朱長方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬・三九一・八三三頁、慶長中刊。

### ◎集部 三 総集類 (二) 通代

#### 55 魁本大字諸儒箋解古文真宝後集 一〇巻 (元) 黄堅 撰

〔請求番号〕35／43／594

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補丹色布目地表紙。二九・〇×二一・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「古文真宝 上（下）」と打付書。

〔内題〕「（低二格）古文真宝叙」、「諸儒箋解古文真宝後集目録」、「魁本

大字諸儒箋解古文真宝卷之一（一〇） 後集」。

〔尾題〕「諸儒箋解古文真宝後集目録畢」、「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷之一（一〇） 後集」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二二・八×一六・九糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「古文后序一（古文后目録・古文后一）

十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七二丁（叙、至正丙午孟夏于江後学鄭本土文叙・二丁、目録・三丁、卷之一・二〇丁、卷之二・一四丁、卷之三・一三

丁、卷之四・二〇丁）、第二冊、七五丁（卷之五・一八丁、卷之

六・一二丁、卷之七・一〇丁、卷之八・一〇丁、卷之九・一四丁、卷之十・一二丁）。

〔刊記〕「（低一格）慶長十四（巳／酉）年陽月下旬（室町通近衛町／木屋新七刊行）」。

〔印記〕「弘前医官澀／江氏蔵書記」（渋江抽斎、朱長方印）、「森／氏」（森立之、朱方印）。

〔備考〕朱引、墨筆による返点、振仮名、送仮名が若干施されている。

川瀬・三五九・三九五・四二九・八三八頁。

### ◎準漢籍 四 集部 (四) 尺牘類

#### 56 五老集

〔請求番号〕35／43／589

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕 原裝薄茶色空押雷文襷に小菊文様表紙。二七・五×一九・五糎。  
四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に単辺刷粹原刷題簽（一八・六×三・七糎）、「五老集 下」。  
上巻は、後補の書題簽、「五老集」。

〔内題〕 「（低二格）五老集目録」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周双辺（目録、二一・五×一六・一糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「五老集 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四二丁（目録・一丁、東坡先生蘇公小簡・二二丁、仲  
益尚書孫公小簡・二〇丁）、第二冊、四二丁（柳南先生蘆公小簡・  
二二丁、秋崖先生方公小簡・一六丁、清曠先生趙公小簡・四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 無。

〔備考〕 上巻巻首右下に「明□常楽院蔵」、下巻巻首右下に「常楽院蔵」  
と墨書。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その  
他、朱墨による書き入れが施されている。川瀬、八三九頁。

◎準漢籍 四 集部 (四) 尺牘類 (◎集部 三 総集類)

57 五老集

〔請求番号〕 35 / 43 / 590

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 原裝薄茶色空押雷文襷に小菊文様表紙。二七・五×一九・五糎。  
四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に単辺刷粹原刷題簽（一八・五×三・七糎）、「五老集 上  
（下）」。

〔内題〕 「（低二格）五老集目録」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周双辺（目録、二一・五×一六・一糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「五老集 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四二丁（目録・一丁、東坡先生蘇公小簡・二二丁、仲  
益尚書孫公小簡・二〇丁）、第二冊、四二丁（柳南先生蘆公小簡・  
二二丁、秋崖先生方公小簡・一六丁、清曠先生趙公小簡・四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 無。

〔備考〕 各冊とも前表紙見返しに、「臨滹山大仙常住（臨滹山大仙寺は、  
岐阜県加茂郡八百津町にある臨濟宗妙心寺派の寺院）」と墨書。  
朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その  
他、朱墨による書き入れ（異本との校合）が施されている。

◎集部 二 別集類 (三) 宋

58 山谷詩集 二〇巻 (宋) 黄庭堅撰

〔請求番号〕 35 / 42 / 586

〔体裁〕 大本五冊。

〔表紙〕 新補縹色表紙。二五・八×一八・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に薄茶色の書題簽（一八・五×三・一糎）、「山谷詩集 一（一五）」。

〔内題〕 「山谷詩集卷第二ノ（低十格）予章黃庭堅 魯直」、「山谷詩集卷第二（一二十）」。

〔尾題〕 「山谷詩集卷第一（一十九・二十終）」、「山谷詩集卷之十五（十八）」。

〔本文〕 每半葉九行×一八字。

〔匡郭〕 四周双辺（二二・六×一六・一糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「山谷卷序（一二十） 丁附」

〔丁数〕 第一冊、三六丁（予章後山詩解序、紹興乙亥冬十二月鄱陽許尹

謹序・三丁、卷第一・一〇丁、卷第二・八丁、卷第三・七丁、

卷第四・八丁）、第二冊、三七丁（卷第五・八丁、卷第六・一〇

丁、卷第七・一〇丁、卷第八・九丁）、第三冊、三八丁（卷第九・

一〇丁、卷第十・六丁、卷第十一・一〇丁、卷第十二・一二丁）、

第四冊、三八丁（卷第十三、新補写・一〇丁、卷第十四・九丁、

卷第十五・一〇丁、卷第十六・九丁）、第五冊、三四丁（卷第十

七・七丁、卷第十八・八丁、卷第十九・一二丁、卷第二十・八

丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 無。

〔備考〕 全丁合紙を入れて綴じる。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮

名、送仮名、その他、朱墨による書入が若干施されている。川瀬・三六四・三九四・八三六頁、無注本（二）元和寛永中刊。図録篇・八五五図に大東急本の図版を収む。

◎集部 二 別集類 (三) 宋

59 山谷詩集 二〇卷 (宋) 黃庭堅 撰

〔請求番号〕 35/42/587

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補縹色表紙。二六・六×一九・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「山谷詩集（一之ノ十）（十一之ノ廿終）」と朱打書。

〔内題〕 「山谷詩集卷第二ノ（低九格）予章黃庭堅 魯直」、「山谷詩集卷第二（一二十）」。

〔尾題〕 「山谷詩集卷第一（一十九・二十終）」、「卷十四」。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕 四周单辺（二一・二×一五・八糎）、無界。

〔版心〕 上下に大黒魚尾、中縫、「山谷序（卷一二十） 丁附」

〔丁数〕 第一冊、九〇丁（予章後山詩解序、紹興乙亥冬十二月鄱陽許尹

謹序・三丁、卷第一・一〇丁、卷第二・八丁、卷第三・七丁、

卷第四・八丁、卷第五・八丁、卷第六・一二丁、卷第七・一〇

丁、卷第八・九丁、卷第九・一〇丁、卷第十・六丁）、第二冊、

九四丁（卷第十一・一〇丁、卷第十二・一二丁、卷第十三・一

〇丁、卷第十四・九丁、卷第十五・一〇丁、卷第十六・九丁、

卷第十七・七丁、卷第十八・八丁、卷第十九・一一丁、卷第二

十・八丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

川瀬・三六四・三九四・八三六頁、無注本（五）元和寛永中刊。

図録篇・八五三図に大東急本の図版を収む。

◎集部 二 別集類 (三) 宋

60 山谷詩集 二〇卷 (宋) 黄庭堅 撰

〔請求番号〕22/43/61

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）茶色表紙。二八・九×二〇・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺刷梓原刷題簽（一八・五×三・八糎）、「山谷 年譜

（一一～十九二十）」。

〔内題〕「山谷詩集注目錄年譜附」、「山谷詩集注卷第一」（低九格）予章

黄庭堅 魯直、「山谷詩集卷第二（～二十）」。

〔尾題〕「山谷詩集注目錄終」、「山谷詩集注卷第一（～二十）」、「山谷集

詩注卷第三」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。横に幅広な大型活字を用い

る。

〔匡郭〕四周双辺（卷第一、二一・四×一六・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「山谷目錄（一～二十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六五丁（目錄・六五丁）、第二冊、六五丁（黄陳詩集注

序、紹興乙亥冬十二月鄱陽許尹謹叙・四丁、卷第一・三三丁、

卷第二・二八丁）、第三冊、五〇丁（卷第三・二四丁、卷第四・

二六丁）、第四冊、五二丁（卷第五・二〇丁、卷第六・三三丁）、

第五冊、五二丁（卷第七・二七丁、卷第八・二五丁）、第六冊、

四五丁（卷第九・二七丁、卷第十・一八丁）、第七冊、五三丁（卷

第十一・二七丁、一七欠、卷第十二・二六丁）、第八冊、四八丁

（卷第十三・二三丁、卷第十四・二五丁）、第九冊、四三丁（卷

第十五・二三丁、卷第十六・二〇丁）、第一〇冊、三八丁（卷第

十七・二〇丁、卷第十八・一八丁）、第一一冊、四六丁（卷第十

九・二四丁、卷第二十・二二丁、跋・一丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「長／福」（黒丸印）。他、判読不明糸印一印。

〔備考〕無書入。各冊とも卷末に「長福禪寺」（第一一冊、「棧道長福寺」

と墨書。川瀬・三九四・八三六頁、（三）慶長元和中刊。図録篇・

二四九図に大東急本の図版を収む。

◎集部 二 別集類 (二) 唐・五代

61 五百家註音弁昌黎先生文集 (唐) 韓愈撰 (宋) 魏仲舉編

〔請求番号〕 35/33/579

〔体裁〕 大本一五冊。

〔表紙〕 後補丹表紙。二七・七×二〇・四槓。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽(二〇・八×四・二槓)、「韓退之文集 一

(三三六至四十)」。

〔内題〕 「五百家註音弁昌黎先生文集卷第一(三〇六・八・十二〇四十)」、

「新刊五百家註音弁昌黎先生文集卷第二(七・九・十・十一)」。

〔尾題〕 「新刊五百家註音弁昌黎先生文集卷第一(九・十・十一)」、「五

百家註音弁昌黎先生文集卷第二(十四・十九・二十・三十五・

三十七・四十)」、「昌黎先生文集卷第三」、「韓文第四(二十五・

二十九・三十三)」、「昌黎文集卷第五」、「昌黎文集第六(二十三・

二十四)」、「五百家註昌黎先生文集第七」、「新刊五百家註昌黎先

生聯句集卷第八」、「昌黎先生文集第十二(十五)」、「五百家韓文

第十三」、「五百家註昌黎文集卷第十六(二十一)」、「五百家注昌

黎文集卷第二十二」、「韓文集卷十七」、「五百家註韓文第十八(二

十七・二十八)」、「昌黎先生集第二十六」、「五百家註韓文第二十

七(二十八・三十六・三十八・三十九)」、「五百家註韓文卷第三

十(三十一・三十二・三十四)」。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(二二・一×一七・四槓)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「韓文一(〇四十) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五八丁(卷第一・五八丁)、第二冊、五五丁(卷第二・

五五丁)、第三冊、七二丁(卷第三・三〇丁、卷第四・四二丁。

一四丁欠)、第四冊、五九丁(卷第五・五九丁)、第五冊、五七

丁(卷第六・二六丁、卷第七・三二丁)、第六冊、九〇丁(卷第

八・五七丁、卷第九・三三丁)、第七冊、六六丁(卷第十・三八

丁、卷第十一・二八丁)、第八冊、五六丁(卷第十二・二五丁、

卷第十三・三一丁)、第九冊、六一丁(卷第十四・四五丁、卷第

十五・一六丁)、第一〇冊、五三丁(卷第十六・三〇丁、卷第十

七・二三丁)、第一一冊、一〇二丁(卷第十八・三二丁、卷第十

九・二六丁、五・六丁錯簡、卷第二十・二二丁、卷第二十一・

三二丁)、第一二冊、八七丁(卷第二十二・二二丁、卷第二十三・

二六丁、卷第二十四・一八丁、卷第二十五・二三丁)、第一三冊、

一〇二丁(卷第二十六・二三丁、卷第二十七・一九丁、卷第二

十八・一七丁、卷第二十九・一五丁、卷第三十・二九丁)、第一

四冊、八九丁(卷第三十一・二五丁、卷第三十二・二三丁、卷

第三十三・一八丁、卷第三十四・一六丁、卷第三十五・七丁)、

第一五冊、一〇二丁(卷第三十六・一三丁、卷第三十七・二四

丁、卷第三十八・一四丁、卷第三十九・二六丁、卷第四十・二

四丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「楽/静」(朱方印、陰)、「青山氏/蔵書記」(朱方印)、「洒竹文

庫」(大野洒竹、朱長方印)、他、判読不明の朱方印(□対/□藏)一印。

〔備考〕各冊ともに前表紙見返しに「善里珍美」と墨書。墨筆で返点、振仮名、送仮名が施され、第一冊のように一部藍色の筆で傍点等を施す冊もある。

◎集部 二 別集類 (二) 唐・五代

62 白氏文集 存卷第三〇・六・九・十・十三〇・二十三〇・三十三〇・三十四・

三十七・三十八・四十一〇・七十一

〔請求番号〕35/34/580

〔体裁〕大本二九冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二八・八×一九・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の書題簽(一九・〇×三・一糎)、「白氏文集 一(〇・廿九)」。

〔内題〕「白氏文集卷第三(〇・七十一)」。

〔尾題〕「白氏文集卷第三(〇・七十一)」、「十終」、「巻尾」(巻第十四)、「白集六十六」。

〔本文〕每半葉九行×一六字。

〔匡郭〕四周双辺(巻第三、一二二・九×一六・四糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「白集三(〇・七十一・後序) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四一丁(巻第三・二〇丁)、巻第四・二二丁)、第二冊、

四五丁(巻第五・二二丁)、巻第六・二三丁)、第三冊、四四丁(巻

第九・一八丁、巻第十・二六丁)、第四冊、四九丁(巻第十三・

二五丁、巻第十四・二四丁)、第五冊、五五丁(巻第十五・二七

丁。巻首丁欠、巻第十六・二八丁)、第六冊、五一丁(巻第十七・

二九丁、巻第十八・二二丁)、第七冊、五一丁(巻第十九・二六

丁、巻第二十・二五丁)、第八冊、三六丁(巻第二十三・一七丁、

巻第二十四・一九丁)、第九冊、三五丁(巻第二十五・一七丁、

巻第二十六・一八丁)、第一〇冊、四三丁(巻第二十七・二〇丁、

巻第二十八・二三丁)、第一一冊、四二丁(巻第二十九・一六丁、

巻第三十・二六丁)、第二二冊、四二丁(巻第三十一・一九丁。

巻第三十一・一〇丁表の七行目の二字目一四丁表の八行目白

丁、巻第三十二・二三丁)、第一三冊、五一丁(巻第三十三・二

二丁、巻第三十四・二九丁)、第一四冊、四九丁(巻第三十七・

二五丁、巻第三十八・二四丁)、第一五冊、四八丁(巻第四十一・

二二丁、巻第四十二・二七丁)、第一六冊、三二丁(巻第四十三・

一六丁、巻第四十四・一六丁)、第一七冊、六五丁(巻第四十五・

三二丁、巻第四十六・三三丁)、第一八冊、六三丁(巻第四十七・

二九丁、巻第四十八・三四丁)、第一九冊、五五丁(巻第四十九・

二八丁、巻第五十・二七丁)、第二〇冊、五五丁(巻第五十一・

二六丁、巻第五十二・二九丁)、第二一冊、五四丁(巻第五十三・

二六丁、巻第五十四・二八丁)、第二二冊、五〇丁(巻第五十五・

二四丁、巻首丁右大きく破損、巻第五十六・二六丁)、第二三冊、

四八丁(巻第五十七・二四丁、巻第五十八・二四丁)、第二四冊、

五四丁（卷第五十九・二九丁、卷第六十・二五丁）、第二五冊、  
五七丁（卷第六十一・三五丁、卷第六十二・二二丁）、第二六冊、  
四六丁（卷第六十三・二〇丁、卷第六十四・二六丁）、第二七冊、  
四六丁（卷第六十五・二〇丁、卷第六十六・二六丁）、第二八冊、  
四六丁（卷第六十七・二三丁、卷第六十八・二四丁）、第二九冊、  
七四丁（卷第六十九・三二丁、卷第七十・一八丁、卷第七十一・  
一八丁、龍門重修白樂天影堂記／（低九格）陶穀述（広順  
癸丑歲七月十有二日記）・三丁、後序・三丁）。

〔刊記〕後序の末に「（低二格）戊午（元和四年）秋七月丁亥朔那波道円  
書于／（低二格）洛中遠望台」。

〔印記〕「將山／常住」（墨方印）、「口山／萬壽」（後表紙見返し、識語下）、  
「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕第一、三、九、十冊に墨筆で返点、送仮名、第五、六冊に朱墨  
で傍点、丸が若干施されている。各冊とも（第二十六冊はのぞ  
く）後表紙見返しに識語、「万寿寺（印）」。

◎集部 別集類 宋之屬

63 東坡先生詩 二五卷 蘇軾撰・劉辰翁評

〔請求番号〕35／36／584

〔体裁〕大本二五冊。

〔表紙〕茶色表紙（裏打改装、表皮は原表紙のものか。押八双有）。二七・

九×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「蘇詩 二（二十五）」と打付書。

〔内題〕「増刊校正百家註東坡先生詩序／（低四格）状元王公 十册 龜齡  
譚」、「増刊校正王狀元集註分類東坡先生詩姓氏／（低二格）状  
元王公 十册 龜齡 纂集」、「増刊校正王狀元集註分類東坡先  
生詩卷之一（一）／（低二格）宋礼部尚書端明殿學士  
兼侍讀學士贈太師諡文忠公蘇軾／（低八格）廬陵須溪劉辰翁批  
点」。

〔尾題〕「増刊校正王狀元集註分類東坡先生詩卷之一（一）十一・十三（二  
十四）」、「卷十之」、「東坡先生詩卷之十二（二十五）」。

〔本文〕每半葉九行×一五字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・六×一六・七糎）、有界。

〔版心〕大双花口黑魚尾、中縫、「坡詩序（一）二十五」 丁附。

〔丁数〕第一冊、六七丁（序・五丁、姓氏・四丁、卷之一・五八丁）、第  
二冊、四四丁（卷之二）、第三冊、五五丁（卷之三）、第四冊、  
五九丁（卷之四）、第五冊、五三丁（卷之五）、第六冊、四四丁  
（卷之六）、第七冊、六七丁（卷之七）、第八冊、五九丁（卷之  
八）、第九冊、五二丁（卷之九）、第一〇冊、五二丁（卷之十、  
尾題「卷十之」）、第一一冊、六〇丁（卷之十一）、第一二冊、五  
三丁（卷十二）、第一三冊、五三丁（卷之十三）、第一四冊、四  
二丁（卷之十四）、第一五冊、四四丁（卷之十五）、第一六冊、  
五八丁（卷之十六）、第一七冊、六三丁（卷之十七）、第一八冊、  
七二丁（卷之十八）、第一九冊、九九丁（卷之十九）、第二〇冊、

五六丁（卷之二十）、第二二冊、六二丁（卷之二十一）、第二二冊、六〇丁（卷之二十二）、第二三冊、六二丁（卷之二十三）、第二四冊、七四丁（卷之二十四）、一六丁欠、七四丁）、第二五冊、五七丁（卷之二十五）。

〔刊記〕無。

〔印記〕卷首に墨長方印（切取）に判読不明の朱方印、一印。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、朱墨による書入が多く施されている。川瀬・三九三・八三六頁、慶長中刊。

〔宋刊本（建安虞氏務本書堂刊）に基ける朝鮮刊本の繢印なる可し〕。

◎集部 三 総集類 (二) 通代

64 文選 六〇卷 (梁) 昭明太子蕭統輯 (唐) 李善 呂延濟 劉良

張銑 李周翰 呂向注

〔請求番号〕22/44/64

〔体裁〕大本三一冊。

〔表紙〕新補藍色表紙。三〇・九×二一・二糶。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二〇・三×三・一糶）、「六臣註文選 一（〜卅一終）」。

〔内題〕「増補六臣註文選目録」（低五格）梁昭明太子蕭（二格空）統撰  
／（低五格）唐へ李善 呂延濟 劉良／張銑 李周翰 呂向  
註／（低六格）茶陵前進士陳仁子校補、「文選序」（低五格）

梁昭明太子撰へ銑曰梁姓蕭氏梁典云武帝／子名統字德施諡曰昭明、「文選卷第一（〜六十）／（低九格）梁昭明太子撰／（低十一格）五臣并李善注」。

〔尾題〕「六臣註文選目録終」、「文選卷第一（〜六十）」。

〔本文〕每半葉一〇行×二二字。

〔匡郭〕四周双辺（二四・八×一五・九糶）、有界。

〔版心〕黒口（上中下）上下に双花口魚尾、中縫、「文選目録」「丁附」。

〔丁数〕第一冊、三二丁（目録・三二丁）、第二冊、八六丁（李善上文選注表・三丁、文選序・五丁、卷第一・四一丁、卷第二・三七丁。

卷末に写本本奥書移写）、第三冊、七七丁（卷第三・四三丁、卷第四・三四丁）、第四冊、七九丁（卷第五・三七丁、卷第六・四二丁）、第五冊、六四丁（卷第七・三二丁、卷第八・三二丁）、第六冊、六六丁（卷第九・二八丁、卷第十・三八丁）、第七冊、七六丁（卷第十一・四七丁、卷第十二・二九丁）、第八冊、六一丁（卷第十三・三四丁、卷第十四・二七丁）、第九冊、六七丁（卷第十五・二七丁、卷第十六・四〇丁）、第一〇冊、七一丁（卷第十七・三一丁、卷第十八・四〇丁）、第一一冊、七九丁（卷第十九・三三丁。一九丁補写、卷第二十・四六丁。三〜五丁（四・五・三）錯簡。二丁裏の上欄に朱筆で「第三丁在于下／後」とあり、三丁表の上欄に「前」と同じく朱書。朱書入の時点で既に錯簡があったことがわかる）、第一二冊、六七丁（卷第二十一・三五丁、卷第二十二・三二丁）、第一三冊、八二丁（卷第二十三・

四三丁、卷第二十四・三九丁）、第一四冊、七九丁（卷第二十五・三七丁、卷第二十六・四二丁）、第一五冊、七二丁（卷第二十七・三三丁、卷第二十八・三九丁）、第一六冊、九〇丁（卷第二十九・四三丁、卷第三十・四七丁）、第一七冊、七二丁（卷第三十一・四〇丁、卷第三十二・三三丁）、第一八冊、六二丁（卷第三十三・三〇丁、卷第三十四・三二丁）。八〽二二丁錯簡）、第一九冊、六五丁（卷第三十五・三七丁、卷第三十六・二八丁）、第二〇冊、七三丁（卷第三十七・三八丁、卷第三十八・三五丁）、第二一冊、六九丁（卷第三十九・三二丁、卷第四十・三七丁。丁附「八」とある丁に「此又ノ八丁メ一枚重紙也、除テ可也、文相統セ又ソ」と墨書のある付箋を貼付）、第二二冊、七八丁（卷第四十一・四二丁、卷第四十二・三六丁）、第二三冊、七五丁（卷第四十三・三九丁。一八〽二二丁錯簡、卷第四十四・三六丁）、第二四冊、八二丁（卷第四十五・四二丁。二五丁の丁附「又二十四」、二六丁の丁附「二十五」、以下丁附に一丁のずれ、卷第四十六・四一丁）、第二五冊、八〇丁（卷第四十七・四九丁、卷第四十八・三一丁）、第二六冊、五七丁（卷第四十九・三一丁、卷第五〇・二六丁）、第二七冊、四七丁（卷第五十一・二三丁、卷第五十二・二四丁）、第二八冊、七〇丁（卷第五十三・四〇丁、卷第五十四・三〇丁）、第二九冊、七七丁（卷第五十五・三六丁、卷第五十六・四一丁）、第三〇冊、七一丁（卷第五十七・三五丁、卷第五十八・三六丁）、第三一冊、七七丁（卷第五十九・四二丁、卷第六十・

三六丁）。

〔刊記〕卷第六十尾題の後に、「〔低一格〕右文選板歳久漫殆甚紹興二十八年冬十月／（低二格）直閣趙公來鎮是邦下車之初以儒雅飾吏事首加／（低二格）修正字画為之一新俾學者開卷免魯魚三豕之訛／（低二格）且欲垂斯文於無窮云右迪功郎明州司法參軍兼（低二格）監蘆欽謹書／（一行空）／（低一格）慶長丁未沾洗上旬八糞（三格空）板行畢」。

〔印記〕「毘般城」（朱長方印、陰）、「靈雲院」（朱長方印、墨抹消）。

〔備考〕卷第六十の卷末に識語、「此文選六十卷初自七月十三日朱句墨点資始聊□（虫損）功了者也／于時元禄第九歳舍丙子十月念又五日（三字空白）小比丘守倫行齡十九」。朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄に朱墨で異本注記が施されている。

◎準漢籍 經部 四書類

65 大学抄 一卷 清原宣賢撰

〔請求番号〕35/7/549

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原装（押入双有）縹色表紙。二七・七×二〇・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「大学鈔」と打付書。

〔内題〕「大学章句序（一格空）輯釈二八作大学朱子序（一格空）大全二

八作」。

〔尾題〕「大学終」

〔本文〕每半葉一二行、一行字数不等。漢字片仮名交。大小様々な活字を用いる。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・二糎。

〔版心〕無。ノドに「大学抄 丁附」のみ刻す。

〔丁数〕五〇丁。他、前遊紙（史記・神皇正統記・義楚六帖の本文を抄出）と後遊紙、各二丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が若干施される。他、上欄等に朱墨による書入が施されている。川瀬・三六五・八〇六頁、（四）無辺無界十二行本。図録篇一五〇図に大東急本の図版を収む。伝本、他に京都大学附属図書館谷村文庫蔵本。寛永頃の刊行か。

◎準漢籍 三 子部 (二) 兵家類

66 三略秘抄 三卷

〔請求番号〕35/22/562

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補茶色空押花菱文様表紙。二七・八×一九・五糎。四針袋綴。  
〔題簽〕左肩に後補の双边刷棹書題簽（二七・八×四・二糎）、「三略卷

乾（坤）」。

〔内題〕「（低二格）三略秘抄」。

〔尾題〕「中略終」、「三略鈔下終」。

〔本文〕每半葉一三行×二四字。ソ式。漢字片仮名交。小型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双边（二一・四×一六・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「三略上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七二丁（上）、第二冊、四五丁（中・二二丁、下・二四丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「□松／川堂藏／書之印」（朱方印、陰）、「江風山／月莊」（稻田

福堂、朱方印）。  
〔備考〕墨書入ごくわずか。川瀬・三六六・八〇八頁、寛永中刊。「本書所用の活字は片仮名の文字が肉太で一字一こまに彫刻せられてゐるのが特色である」。

◎準漢籍 四 集部

67 錦繡段

〔請求番号〕22/43/62

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・六×二〇・九糎。四針袋綴（綴はずれ）。  
〔題簽〕左肩題簽剥落。

〔内題〕「新刊錦繡段」。

〔尾題〕「錦繡段終」。

〔本文〕每半葉八行、上下二段組。大型活字を用いる。

〔匡郭〕上下单边、左右双边（二五・〇×一六・二糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「錦繡段」、上向き黒魚尾、中縫に丁附。

〔丁数〕六三丁。二丁目欠、後人による補写。跋・一丁。他、前後に遊

紙各一丁。

〔刊記〕「錦繡段者東阜天隱之新編而未有刊／行茲悉取載籍文字鏤一字於一

梓棊／布諸一版印一紙纔改棊布則渠祿亦／莫不適用比規模頃出

朝鮮伝達／天聰乃依彼様使工口写焉／叡思辱在擬周詩六義教以

化之家蔵／人誦伝之不朽云／（低一格半）慶長第二歳在酉夷則

下瀬／臣僧南禪靈三誌焉」。

〔印記〕無。

〔備考〕後遊紙に識語、「右一冊自／東山院拜領之本也御前にて／給之末

代之重宝可秘蔵者／也／享保十三九 藤隆典／先年内裏炎上之

時官庫二二部／有之御本は各近臣拜領畢奥書ヲ／加不申間今日

為子孫書付者也」。川瀬一七八頁。慶長勅版。

◎準漢籍 四 集部

68 錦繡段

〔請求番号〕35／43／592

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二九・二×一九・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二一・二×三・一糎）、「新刊錦繡段 古

活字板」。

〔内題〕「新刊錦繡段」。

〔尾題〕「錦繡段終」。

〔本文〕每半葉九行×一六字。

〔匡郭〕四周双边（二〇・七×一六・三糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「錦繡段 丁附」。

〔丁数〕五六丁、跋・一丁。他、前遊紙一丁。

〔刊記〕「近有新編新選二集而出自中唐至元季／每編千余首童蒙者往往倦背

誦余暇日／采摭為三百二十八篇又自書以與二三／子令誦之庶幾

知鳥獸草木之名云／庚正丙子林鐘十有七日／建仁 天隱叟默雲

龍沢」。

〔印記〕「遠藤蔵書」（朱長方印）、「遠藤氏／蔵書記」（朱長方印）、「江風

山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕朱墨による書入夥し。全丁合紙を入れて綴じ直す。川瀬・五七

四頁。図録篇、四九七図に大東急本の図版を収む。慶長中刊行

◎準漢籍 四 集部

69 続錦繡段鈔

〔請求番号〕35／43／591

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二九・二×一九・九糎。五針袋綴。

〔表紙〕新補縹色表紙。二八・四×一九・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二〇・八×三・六糎）、「統錦繡段

鈔 一（〓五）」。

〔内題〕「統錦繡段鈔一（〓五）」。

〔尾題〕「統錦繡段鈔五終」。

〔本文〕每半葉一三行×二四字。漢字片仮名交。小型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺（二一・七×一六・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「統錦序（統錦鈔一〓五・統錦五） 丁

附」。

〔丁数〕第一冊、四一丁（大永初元年孟冬中休角虎道人龍崇謹序・一丁、

一・四〇丁）、第二冊、五二丁（二）、第三冊、四六丁（三）、第

四冊、四〇丁（四）、第五冊、三三丁（五・三二丁、幻雲子寿桂

の跋・一丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「弍／絲」（朱丸印）。

〔備考〕第一冊にのみ朱引、朱句読点等が若干施されている程度。裏打

修補。各冊とも巻末に識語、「丹州法常禪寺常住／全部五冊」。

川瀬・五七五・九一五頁。「寛永中の印行と認められる、小型の

活字を用ひた一本である」。

### ◎経部 四書類 論語

70 論語抄 存卷三・四・七・八・九・十・十三・十四

〔請求番号〕35/7/551

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕後補薄茶色布目地表紙。二八・九×二〇・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の薄茶色書題簽（二一・〇×三・〇糎）、「論語抄

（左下に小さく「一（〓四）」と書す）。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一八行×一八字。漢字片仮名交。本文、大型活字（注文

の二行分）、注小字。ソ式仮名抄。

〔匡郭〕四周双辺（二二・八×一六・三糎）、無界。

〔版心〕大双花口黒魚尾、中縫、「論語抄三（〓十四） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四三丁（八份第三・二九丁、里仁第四・一四丁）、第二

冊、五二丁（述而第七・二九丁、泰伯第八・二三丁）、第三冊、

四五丁（子罕第九・二五丁。巻首丁欠、郷党第十・二〇丁）、第

四冊、五九丁（子路第十三・二三丁、憲問第十四・三六丁）。各

冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）、「福堂」（稲田福堂、朱小

丸印）、「一足／蘿月」（朱方印、陰）。

〔備考〕巻三の巻首五丁分と巻四の七丁裏〓一四丁表に朱引、朱句読点

が施されている。川瀬・三六五・七二二・八〇五頁、(二) 双辺十八行本、慶長元和中刊。「本能寺前町刊行にかかる孟子抄と同種の活字印本と認むべきもの。(中略) 論語抄には刊記がないが、これは共時に揃へて出したため、孟子抄の方にのみ刊記を加へたと解されないこともなからうと思ふ」(七二二頁)。

◎準漢籍 四 集部 (三) 総集類

71 三体詩絶句抄 塩瀬宗和編

〔請求番号〕 35/43/593

〔体裁〕 大本六冊。

〔表紙〕 原装(押八双有) 茶色表紙。二七・三〇・一九・四糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「行雲流水抄一(〇六)」と打付書。

〔内題〕 「三体詩絶句鈔卷第一(〇六)」。

〔尾題〕 「(低一格) 序終」、「三体詩絶句鈔之一」、「三体詩絶句鈔二」、「三体詩絶句鈔卷第四(五)」。

体詩絶句鈔卷第四(五)、「三体詩絶句鈔卷第六終」。

〔本文〕 每半葉一二行、一行字数不等。漢字片仮名交。

〔匡郭〕 四周双辺(二一・四×一五・五糶)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「三体詩鈔序(三体詩絶句鈔・三体絶句鈔二(〇六) 丁附)」。

鈔二(〇六) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五五丁(序・二二丁半、卷第一・三三三丁半)、第二冊、

四九丁(卷第二)、第三冊、五二丁(卷第三)、第四冊、五五丁

(卷第四)、第五冊、五四丁(卷第五)、第六冊、五六丁(卷第

六・五五丁、跋(整版)・一丁)。

〔刊記〕 跋末「(低一格) 于時元和第六庚申仲夏吉旦(三行空) / (低二格) 前南禪古潤叟慈稽誌焉」。

〔印記〕 無。

〔備考〕 朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄と下欄には朱墨による書入が若干施されている。川瀬・三六七・

八〇九頁。「なほこの書は南禪古潤叟慈稽の跋文中に江州彦根の養俊勝士が工に命じて刊行した由を述べてある」(八〇九頁)。

◎準漢籍 四 集部 (三) 総集類

72 三体詩素隠抄 雪心素隠

〔請求番号〕 35/42/588

〔体裁〕 大本一三冊。

〔表紙〕 茶色渋引き表紙。押八双はあるが後補か。第九冊の後表紙のみ

栗皮表紙。二八・五×二〇・五糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。第一冊のみ左肩に「三体詩」と朱打付書。

〔内題〕 「増註唐賢絶句三体詩法卷之一(〇四)」、「唐賢七言律詩三体家

法卷二之上(〇卷第二之四)」、「増註唐詩五言律句三体家法卷三

之一(〇卷三之五)」。

〔尾題〕 「増註唐賢絶句三体詩法卷之一(三三)」、「(低四格) 絶句二之終」、

「唐賢七言律詩三体家法卷第二之一(〇卷二之四)」、「増註唐詩

五言律句三体家法卷三之一(三之三・三之四・三之五)終」、「(低

十三格)三之二終」「増註唐賢絶句三体詩法卷之四終」。

〔本文〕每半葉一七行×一八字。本文は二行分の大型活字を用い、注は小型活字を用いる。漢字片仮名交。ソ式仮名抄。

〔匡郭〕四周双辺(起、二二・六×一六・七糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「三体詩起(三体起・三体絶句一)四・三体詩三之一)五・三体詩二上・二之二)二之四) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七五丁(三体詩集起・半丁、三体詩集之題号・半丁、三体詩集之発題・二丁、季昌自序・一〇丁、絶句卷之一・六二丁)、第二冊、四八丁(絶句卷之二)、第三冊、四八丁(絶句卷之三)、第四冊、五四丁(絶句卷之四)、第五冊、四五丁(七言律詩卷二之一)、第六冊、二二丁(七言律詩卷二之二)、第七冊、五六丁(七言律詩卷二之三、二四丁欠)、第八冊、五一丁(七言律詩卷二之四)、第九冊、七八丁(五言律句卷三之一)、第一〇冊、二八丁(五言律句卷三之二)、第一一冊、四四丁(五言律句卷三之三)、第一二冊、四〇丁(五言律句卷三之四)、第一三冊、五四丁(五言律句卷三之五)。

〔刊記〕「于時元和八年壬戌仲夏丙申朔(低八格)草于湘南紫陽山下」。

〔印記〕「広/澤」(朱方印)。

〔備考〕朱訂正を加える箇所がごくわずかにあるが、無書人に等しい。

◎子部 五 医家類 (一) 医經  
73 黄帝内経素問註証發微 九卷 (明)馬蒔撰  
〔請求番号〕54/2/2847  
〔体裁〕大本一〇冊。卷之三欠。  
〔表紙〕新補深緑色表紙。二八・〇×一九・九糎。五針袋綴。  
〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一八・五×三・一糎)、「黄帝内経素問註証 一(一十)」。  
〔内題〕「(低一格)黄帝内経素問註証發微序」、「黄帝内経素問註証發微篇目」、「黄帝内経素問註証發微卷之一/大明太医院正文 会稽庠生玄台子馬蒔仲化註証/(低八格) 兄举人梅梁子馬蘊仲易素校(一)」、「黄帝内経素問註証發微卷之九/大明太医院正文 会稽庠生玄台子馬蒔仲化註証/(低八格) 姪庠生馬(行遠/文斗)孫庠生馬存順世伝」。  
〔尾題〕「黄帝内経素問註証發微篇目終」、「黄帝内経素問註証發微卷之二(五・六)終」、「四卷終」、「黄帝内経素問註証發微七(八・九)卷終」。  
〔本文〕序、每半葉九行×一九字。卷之一以下、每半葉一〇行×二二字。注小字双行、上欄標目。  
〔匡郭〕序、四周双辺(二二・三×一五・五糎)、無界。目錄以下、四周双辺(卷之一、二二・四×一五・七糎)、有界。  
〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「素問序(目錄・卷一)九) 丁附」。  
〔丁数〕第一冊、一二六丁(序、万曆丙戌秋日華亭林下人馮行可書于不

染齋・二丁、序、大明万曆十四年冬十月吉旦／賜進士第嘉議大夫／南京兵部右侍郎前奉／勅總理糧儲提督軍務巡撫応天等府地方都察／（低一格）院右副都御史山陰古林王元敬書・二丁、篇目・三丁、卷之一・一一九丁）、第二冊、七七丁（卷之二）、第三冊、六六丁（卷之四）、第四冊、六六丁（卷之五）、第五冊、五三丁（卷之六）、第六冊、八八丁（卷之七）、第七冊、八七丁（卷之八）、第八冊、六三丁（卷之八、八八丁）、一五〇丁、第九冊、九〇丁（卷之八、一五二丁）、二四〇丁）、第一〇冊、一〇四丁（卷之九、四二丁の丁附）又四十二、以下丁附にずれあり）。

〔刊記〕「慶長十三（戊）申」年十二月日梅寿（破損）。

〔印記〕「美織文成愛書」（待買堂達摩屋五二、朱長方印）、「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上二印、稲田福堂）。

〔備考〕朱引、朱傍点、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名（白墨で塗抹する箇所多し）、上欄と下欄に若干の墨書入が施されている。川瀬・三三一・七五二頁、初版と再版の二種があるが、大東急本は初版（図録篇・七〇二図参照）。

〔表紙〕原装（押八双有）薄茶色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二七・六×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺粹原刷題簽（一八・四×三・二糎）、「察病指南（下部破損）」。

〔内題〕「察病指南序」、「察病指南目録」、「察病指南卷之上（中・下）」。

〔尾題〕「察病指南目録」、「察病指南卷之上（中・下）」。

〔本文〕每半葉一行×一六字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（卷首序、一八・一×一五・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「察病指序（目・上・中・下） 丁附」。

〔丁数〕五五丁（序、淳祐丙午正月中澗澹齋趙崇賀書／淳祐乙巳良月冀邸趙與諗書・一丁、自序、淳祐改元九月立冬後四日永嘉施発政卿序・一丁、目録・二丁、卷之上・一三丁、卷之中・一九丁、卷之下・一九丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「福田氏蔵書」（朱長方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上三印、稲田福堂）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

川瀬・三三一・七五一頁。慶長八年刊新鐫雲林神叢、医方大成論等と同種の（無刊記）印本。

◎子部 五 医家類 (四) 診法

74 察病指南 三卷 (宋) 施発撰

〔請求番号〕54/2/2846

〔体裁〕大本一冊。

◎子部 五 医家類 (五) 運氣

75 素問入式運氣論奥 三卷 劉温舒撰

〔請求番号〕54/3/2848

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原装（押八双有、見返し改装）栗皮表紙。二七・三×二〇・〇  
纏。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の単辺刷梓書題簽（一八・二×三・〇纏）、「素問入  
式運氣論奥 全」。

〔内題〕「素問入式運氣論奥序／（低六格）朝散郎大医学司業劉温舒撰」、  
「素問入式運氣論奥目錄」、「新刊素問入式運氣論奥卷上」、「素  
問入式運氣論奥卷中（下）」。

〔尾題〕「素問入式運氣論奥卷上（中・下終）」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。稍小型の活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺（序、一七・九×一六・三纏）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「運氣論（運氣上・中・下） 丁附」。

〔丁数〕六九丁（序、元符己卯（二年）歳丁丑月望日序・一丁、目錄・  
二丁、卷上・二二丁、卷中・一五丁、卷下・二九丁）。

〔刊記〕「（低三格）慶長十六辛亥初冬吉辰梅寿重刊」。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄と下欄に  
は朱墨による書入が夥しく施されている。川瀬・三三二・七五

二頁。図録篇一二二図に大東急本の図版を収む。真柳誠『素問

入式運氣論奥』解題』『和刻漢籍医書集成』第一輯、東京・エ  
ンタプライズ、一九八八年）参照。

◎子部 五 医家類 (七) 養生

76 泰定養生主論 (元) 王中陽撰

〔請求番号〕54/5/2861

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二七・二×一九・八纏。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の単辺刷梓書題簽（一八・二×三・〇纏）、「泰定養  
生主論 全」。

〔内題〕「泰定養生主論（略／方）／（低八格）逸人洞虚子撰」。  
〔尾題〕「泰定養生主論終」。

〔本文〕每半葉八行×一二字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺（序、一六・〇×一五・九纏）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「泰定養生 丁附」。

〔丁数〕八三丁（逸人洞虚子王中陽自序・四丁、「序一」の丁の裏丁欠、  
本文・七九丁、七九丁欠）。

〔刊記〕「皆寛永第七稔龍集上章敦拜／白蔵夷則吉辰活板焉／（低四格）  
新町通町頭 蘆甚左衛門／（低四格）室町薬師町 宇野善五郎」。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。全丁裏打修補。川瀬・三三五頁。伝本、他に武田科学

振興財団杏雨書屋にあり。

◎子部 五 医家類 (六) 方論

77 傷寒明理方論

〔請求番号〕 54/4/2854

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 原装(押八双有)薄茶色空押雷文繫ぎ蓮華唐草文様表紙。二八・

二×二〇・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「明理」と打付書。

〔内題〕 「傷寒明理方論」。

〔尾題〕 「傷寒明理方論終」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(二〇・六×一五・一糎)、有界。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「傷寒明理方論 丁附」。

〔丁数〕 二八丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「稲田／福堂／圖書」(朱方印)、「江風山／月莊」(朱方印、以上

二印、稲田福堂)。

〔備考〕 朱引、墨筆で返点、送仮名、上欄等に若干の墨書入が施されて

いる。また、巻末には書入と同筆で「慶長十五夏秋之間加訓点

即令講読畢 法印玄朔在判」と墨書。川瀬、三三一頁。

◎子部 五 医家類 (六) 方論

78 格致余論 一卷 (元) 朱彦脩 撰

〔請求番号〕 54/3/2851

〔体裁〕 特大本一冊。

〔表紙〕 薄茶色表紙(押八双はあるが後補か)。三三一・九×二二・三糎。

五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「格致余論」と打付書。

〔内題〕 「格致余論序」、「格致余論目錄／(低八格) 金華(二格空) 朱

彦脩(二格空) 撰」、「格致余論／(低九格) 金華(二格空) 朱

彦脩 撰」。

〔尾題〕 「格致余論序終」、「格致余論目錄終」、「格致終」。

〔本文〕 每半葉一二行×二〇字。小型活字を用いる。

〔匡郭〕 四周双辺(序、一八・二×一六・一糎)、無界。

〔版心〕 下向き黒花口魚尾、上向き黒魚尾、中縫、「格致 丁附(通し丁

附)」。

〔丁数〕 五二丁(序・二丁、目錄・二丁、本文・四八丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 無。

〔備考〕 朱墨による書入が夥しく施されている。川瀬・三三一・三三五・

七五八頁。「活字やや小型で、元和頃の印行であらう」(七五八

頁)。

◎子部 五 医家類 (六) 方論

79 明医雑著 一卷 (明) 王綸著

〔請求番号〕54/4/2855

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕栗皮原表紙裏打改装。二八・〇×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「明医雑著序」、「重刊明医雑著序」、「新刊明医雑著卷之一／(低

八格) 慈谿 節齋 王綸 著」。

〔尾題〕「新刊明医雑著卷之終」。

〔本文〕每半葉一行×一九字。上欄に「異本若著作」(一〇丁表)のよ  
うに校異文字植版。

〔匡郭〕四周双辺(序、二一・五×一五・三糎)、無界。

〔版心〕大黒魚尾、中縫、「明医雑著 丁附」。

〔丁数〕五五丁(序、弘治十五年歲次壬戌夏五月既望賜進 土出身亞中

大夫広東布政司左参政慈 谿王綸汝言書・一丁、序、弘治癸亥

七月朔保昌縣知縣漳浦徐弼 謹書・一丁、卷之一・五一丁、跋・

二丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

川瀬・三三六・七五八頁、慶長元和中刊。

◎子部 五 医家類 (六) 方論

80 明医雑著 一卷 (明) 王綸著

〔請求番号〕54/4/2856

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二八・八×二〇・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一九・七×三・三糎)、「明医雑著

全」。

〔内題〕「明医雑著序」、「重刊明医雑著序」、「節齋医論慈谿王汝言著卷一」。

〔尾題〕「新刊明医雑著一卷」。

〔本文〕每半葉二行×一七字。朝鮮活字風の活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺(一九・三×一六・九糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「雑著 丁附」。

〔丁数〕五三丁(序、弘治十五年歲次壬戌夏五月既望賜進／土出身亞中

大夫広東布政司左参政慈／谿王綸汝言書・一丁、序、弘治癸亥

七月朔保昌縣知縣漳浦徐弼／謹書・一丁、卷一・四九丁、跋、

喜靖辛亥仲夏箕城後人進士趙晟書・二丁)。他、前遊紙一丁(目

録墨書)、一・二丁の間に書入した丁を二丁挟む。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」(朱方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄と下欄等

に朱墨による書入が施されている。全丁裏打修補。川瀬・三三

一頁、「節齋医論」で著録。慶長八年刊新鏤雲林神穀、医方大成

論等と同種の（無刊記）印本。

◎子部 五 医家類 (六) 方論

81 医方考 存卷二〜六 (明) 吳崐著

〔請求番号〕54/5/2860

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙。二八・

五×二〇・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕卷之六の冊にのみ、左肩に双边枠の原刷題簽(一九・二×四・

二糎)残存。「名医方考 蟲門 痔漏 疥瘡/暴死 痘門 婦人

/広嗣、延年」。他、剥落。左肩に、「名医方考 二(〜五)」と

打付書。

〔内題〕「医方考卷之二/ (低十一格) 歙邑 吳崐 著/ (低十一格)

方外友蔣中毅 梓」(「医方考卷之六/ (低十一格) 歙邑 吳崐

著/ (低十一格) 從姪 吳子湛 梓)。

〔尾題〕「(低一格) 医方考卷之二(〜六) 終」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边(卷之二、二二・九×一六・一糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「医方考卷二(〜六) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五六丁(卷之二)、第二冊、六二丁(卷之三)、第三冊、

五八丁(卷之四)、第四冊、七二丁(卷之五)、第五冊、五四丁

(卷之六)。

〔刊記〕「慶長第九甲辰四月十(破損) 日(三格空) 医徳堂刊」。

〔印記〕「伊澤氏/酌源堂/圖書記」(伊沢蘭軒、朱方印)、「森氏開萬/冊府之記」(森枳園(立之)、朱椿円印)、「稲田/福堂/圖書」(朱方印)、「江風山/月莊」(朱方印、以上二印、稲田福堂)。

〔備考〕卷之二の卷首三丁に、朱引、朱句読点が施される他、一部の卷

に墨筆で返点、振仮名、送仮名が若干施されている。川瀬・三

三〇・三三一頁。本書を刊行した「医徳堂守三は、聚分韻略(慶

長十一年刊、整版)・太平記賢愚抄(同十二年刊、上下二冊)。

等の開版をも行つたが、医書の方は、早く慶長八年に新鏤雲林

神穀(四卷二冊、合一冊)・新增医方大成発提(等)(一冊)及

び慶長九年に医方考(六卷六冊)を出版した。なほ新鏤雲林神

穀・医方大成論等と同種の(無刊記)活字印本に、格致余論・

傷寒明理方論・察病指南・節齋医論等がある」。

◎子部 五 医家類

82 新刊湯液本草 三卷 (元) 王好古著

〔請求番号〕54/5/2859

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)栗皮表紙。二七・八×一九・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。第二冊にのみ左肩に、「新所湯液本草」と大きく打付書。

〔内題〕「新刊湯液本草序」、「湯液本草上卷目録/ (低十一格) 海蔵王好

古類集」、「新刊湯液本草上卷/ (低十二格) 海蔵王好古類集」、

「新所湯液本草中巻目録／（低十二格）海蔵王好古類集」、「新所湯液本草中巻／（低十一格）海蔵王好古類集」、「新刊湯液本草下巻」。

〔尾題〕「序終」、「湯液本草上（中）巻目録終」、「湯液本草上巻（巻中・下巻）終」。

〔本文〕每半葉二行×二〇字。稚拙な小型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺（一八・八×一五・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「湯液上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三三丁（序、戊戌夏六月海蔵王好古書・一丁、序、丙午夏六月王好古書・一丁、神農正典曰・半丁、上巻目録・一丁半、上巻・二九丁）、第二冊、五九丁（中巻目録・三丁、中巻・五六丁）、第三冊、五七丁（下巻・五五丁、跋、戊申仲夏晦日王好古書于家之草堂・二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名が施されている他、上欄に朱墨による書入が夥しく施されている。川瀬・三三六頁、伝本、久原文庫蔵本（現、大東急記念文庫蔵本）を著録するのみだが、武田科学振興財団杏雨書屋にも所蔵がある。真柳誠『湯液本草』『此事難知』解題（『和刻漢籍医書集成』第六輯、エントラプライズ、一九八九年）参照。「元和頃刊古活字」東垣十書一〇行二〇字本大東急記念文庫・武田科学振興財団杏雨書屋所

蔵」とあるが、「一〇行二〇字本」は「二行二〇字本」の誤り。刊行年代は寛永頃刊か。

### ◎子部 五 医家類 医書之属

#### 83 玉機微義 五〇巻（明）徐用誠撰（明）劉純補

〔請求番号〕54/3/2850

〔体裁〕大本一二冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）栗皮表紙。二八・六×二〇・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺梓原刷題簽（一七・八×三・七糎）、「玉機微義 卷之五之八」（第三冊）。一・二・八・一〇・一二冊は題簽剥落。他、破損している冊が多い。さらに題簽寄り中央やや上に目録題簽（一〇・六×九・一糎）も貼付。

〔内題〕「重刊玉機微義序」、「玉機微義序」、「玉機微義／（低一格）門類目録」、「玉機微義目録」、「玉機微義卷之一（〜五十）」、「（低一格）書玉機微義後」。

〔尾題〕「玉機微義目録終」、「玉機微義卷之一（〜五十）終」。

〔本文〕每半葉九行×一六字。序と書玉機微義後は大型活字を用い、目録と本文は稍小型の活字を用いている。さらに上欄に「痿証局／方發揮／作痿論」（卷一・七丁表）のように異本との校合を刻する巻もある。

〔匡郭〕四周双辺（巻首序、二一・一×一六・八糎）、無界。

〔版心〕黒口下向き花口魚尾一つに、双黒魚尾、中縫、「重刊玉機微義序

(玉機微義目錄・玉機微義卷一(一)五十五) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八四丁(序、正徳丙寅上元日新安汪舜民序・二丁、序、正統己未正月癸卯光祿大夫少師兵/部尚書兼/華蓋殿大學士廬陵楊士奇序・二丁、序、洪武丙子九月初吉吳興莫士安序・三丁、洪武丙子三月朔旦吳陵劉純序・二丁、門類目錄・一丁、目錄・七四丁)、第二冊、六二丁(卷之一・二七丁、卷之二・五丁、卷之三・六丁、卷之四・二四丁)、第三冊、七九丁(卷之五・二八丁、卷之六・一二丁、卷之七・一六丁、卷之八・二三丁)、第四冊、八六丁(卷之九・三六丁、卷之十・二二丁、卷之十一・一二丁、卷之十二・二二丁、卷之十三・五丁)、第五冊、八四丁(卷之十四・三六丁、卷之十五・四八丁)、第六冊、七五丁(卷之十六・一八丁、卷之十七・一八丁、卷之十八・三九丁)、第七冊、八二丁(卷之十九・二四丁、卷之二十・二〇丁、卷之二十一・一一丁、卷之二十二・一四丁、卷之二十三・一三丁)、第八冊、六七丁(卷之二十四・一八丁、卷之二十五・一一丁、卷之二十六・一五丁、卷之二十七・八丁、卷之二十八・一五丁)、第九冊、七二丁(卷之二十九・二二丁、卷之三十・一〇丁、卷之三十一・九丁、卷之三十二・七丁、卷之三十三・一〇丁、卷之三十四・一四丁)、第一〇冊、七五丁(卷之三十五・七丁、卷之三十六・一〇丁、卷之三十七・九丁、卷之三十八・四丁、卷之三十九・七丁、卷之四十・一〇丁、卷之四十一・一二丁、卷之四十二・七丁、卷之四十三・一〇丁)、第一一冊、七七丁(卷之四十四・

六丁、卷之四十五・一二丁、卷之四十六・八丁、卷之四十七・五丁、卷之四十八・五丁、卷之四十九・四二丁)、第一二冊、六七丁(卷之五十・六五丁、書玉機微義後、正統庚申春二月望日陝西等処承宣/布政使司右布政使會稽王暹書/左布政使郭堅等同校正・二丁)。

〔刊記〕「(低九格)新町通町頭 蘆甚左衛門/(低九格)室町薬師町字野善五郎繡梓/寛永第五戊辰曆八月吉辰」。

〔印記〕「書玉機微義後」の後に判読不明の陽陰刻印、二印。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上下欄には朱墨による書入が施されている。川瀬・三三五頁。図録篇・七一五図に大東急本の図版を収む。

#### ◎子部 五 医家類 (一) 医経

84 難経本義 二卷 (元) 滑寿 著

〔請求番号〕54/1/2841

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕原装(押八双有)栗皮表紙。二七・一×一八・四糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩剥落。「難経 上(下)」と打付書。

〔内題〕「難経本義序」、「難経本義卷上(下)」/(低十格)許昌滑寿 著/(低十格)四明呂復校正。

〔尾題〕「難経本義卷上(下)」。

〔本文〕巻首にある三つの序は、每半葉一〇行×一六字、稍大型の活字

を用い、以下は毎半葉一〇行×二二字、小型活字を用いる。

〔匡郭〕巻首にある三つの序は、四周双辺（一八・一×二四・三糎）、無界。以下は四周双辺（巻上、一八・九×一四・九糎）、有界。

〔版心〕巻首にある三つの序は、黒口双黒魚尾、中縫、「難経本 序一（五）」、以下は黒口双花口魚尾、中縫、「難経序（凡・総・姓・攷・上・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七三丁（序、至正二十六年二月工部郎中掲法序・一丁、序、至正二十五季龍集甲辰十／月／既望翰林学士承／旨榮祿大夫知／制誥兼修 国史張翥序・二丁、至正二十有一年重光赤奮若之歲臘月既望奉直大夫温州路総管管内勤農兼防禦事天台劉仁本叙・二丁、至正辛丑秋九月己酉朔自序・二丁、凡例・一丁、闕誤総類・二丁、彙攷引用諸家姓名／本義引用諸家姓名・二丁、難経彙攷・七丁、難経図・六丁、難経本義巻上・四八丁）、第二冊、五三丁（難経本義巻下・五二丁、跋刊（整版）・一丁）。

〔刊記〕跋刊、「八十一難経之註解古来頗多就中視／滑伯仁之本義其旨趣深奥而天疆其／文詞明白而易曉 本朝未能梓行維／時門下之医生宜帆斎道救聚数帳校／訂之仍囑工而令鏤板可謂救恤之心至／哉矣／慶長丁未春分之節 洛下玄朔敬識」（慶長丁未〓慶長一二、一六〇七年）。

〔印記〕「野中氏圖書」（野中莞、朱長方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他朱墨による書入が若干施されている。各冊ともに前表紙見返しには識

語、「宗信（花押）」（武田科学振興財団杏雨書屋所蔵の『医学正伝』（慶長十年刊）と『新刊古今医鑑』に記される慶長十六年の識語に見える「笠坊宗信」と関係があるか）。第一冊の前表紙裏と、第二冊の前後の表紙裏には慶長十四年刊の古活字版『太平記』の刷り反古が用いられている。川瀬・三三〇・七五〇頁。伝本、他に福井崇蘭館旧蔵本（文化庁蔵、武田科学振興財団杏雨書屋寄託、崇一〇三）。

## 【国書】

### ◎通史

85 吾妻鏡 存巻七〓五十一（巻四十五は原欠）

〔請求番号〕 33 / 上 / 158

〔体裁〕 大本四四冊。

〔表紙〕 茶色空押波間に竜の文様表紙（原表紙）。二七・六×二〇・六糎。

四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に双辺梓原刷題簽（一八・一×三・九糎）、「東鑑 七（五十一）」。

〔内題〕 「新刊吾妻鏡巻第七（〓五十一）」、「新刊吾妻巻第二十五」、「新刊吾妻鏡二十九」。

〔尾題〕 「新刊吾妻鏡巻第七（〓五十一）」。

〔本文〕 毎半葉一二行×二〇字。漢字に片仮名と稚拙な平仮名を交える。

〔匡郭〕四周双辺（二二・九×一七・四糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「東鑑 七（五十二） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四二丁（卷第七）、第二冊、三六丁（卷第八）、第三冊、

六二丁（卷第九）、第四冊、六四丁（卷第十）、第五冊、三四丁

（卷第十一）、第六冊、二五丁（卷第十二）、第七冊、二七丁（卷

第十三）、第八冊、二四丁（卷第十四）、第九冊、三二丁（卷第

十五）、第一〇冊、三五丁（卷第十六）、第一一冊、三三丁（卷

第十七）、第二二冊、四二丁（卷第十八）、第一三冊、三四丁（卷

第十九）、第一四冊、一二丁（卷第二十）、第一五冊、三八丁（卷

第二十一）、第一六冊、二三丁（卷第二十二）、第一七冊、二〇

丁（卷第二十三）、第一八冊、一五丁（卷第二十四）、第一九冊、

三五丁（卷第二十五）、第二〇冊、一三丁（卷第二十六）、第二

一冊、二八丁（卷第二十七）、第二二冊、一九丁（卷第二十八）、

第二三冊、一七丁（卷第二十九）、第二四冊、二六丁（卷第三十）、

第二五冊、三四丁（卷第三十一）、第二六冊、三四丁（卷第三十

二）、第二七冊、二六丁（卷第三十三）、第二八冊、二六丁（卷

第三十四）、第二九冊、三三丁（卷第三十五）、第三〇冊、三三

丁（卷第三十六）、第三二冊、一七丁（卷第三十七）、第三二冊、

三三丁（卷第三十八）、第三三冊、一七丁（卷第三十九）、第三

四冊、三六丁（卷第四十）、第三五冊、三四丁（卷第四十一）、

第三六冊、四八丁（卷第四十二）、第三七冊、二二丁（卷第四十

三）、第三八冊、二二丁（卷第四十四）、第三九冊、三三丁（卷

第四十六、一四丁欠）、第四〇冊、三四丁（卷第四十七）、第四

一冊、三九丁（卷第四十八）、第四二冊、四二丁（卷第四十九）、

第四三冊、四四丁（卷第五十）、第四四冊、四二丁（卷第五十一）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。伏見版慶長十年刊。箱入り、蓋表に「東鑑 活字（印）」、

蓋裏に「天保九季戌冬／十月吉日新造」と墨書（貴重書解題で  
は、「足代弘訓筆か」とする）。小秋元段『吾妻鏡』刊本小考

（『増補太平記と古活字版の時代』新典社、二〇一八年）参照。

### ◎通史

86 吾妻鏡 五二巻（巻四十五は原欠）

〔請求番号〕7 / 12 / 1895

〔体裁〕大本二五冊。

〔表紙〕新補水色表紙。二七・三×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の双辺棹刷題簽（一九・〇×四・五糎）、「東鑑 一

（五十二）」（巻数は墨書）。

〔内題〕「新刊吾妻鏡巻第一（五十二）」。

〔尾題〕「新刊吾妻鏡巻第一（五十二終）」。

〔本文〕每半葉一二行×二二字。漢字に片仮名と平仮名を交える。

〔匡郭〕四周双辺（二二・〇×一六・九糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「東鑑目録（一五十二） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五二丁（目録（二丁表欠）・七丁、巻第一・四四丁）、第二冊、七八丁（巻第二、巻首五丁破損・三七丁、巻第三・四一丁）、第三冊、六八丁（巻第四・四三丁、巻第五・二五丁）、第四冊、六〇丁（巻第六）、第五冊、七七丁（整版補配、巻第七・四一丁、巻第八・三六丁）、第六冊、五六丁（巻第九）、第七冊、五三丁（巻第十）、第八冊、五九丁（整版補配、巻第十一・三四丁、巻第十二・二五丁）、第九冊、五一丁（整版補配、巻第十三・二七丁、巻第十四・二四丁）、第一〇冊、六七丁（整版補配、巻第十五・三二丁、巻第十六・三五丁）、第一一冊、六七丁（巻第十七・二九丁、巻第十八・三八丁）、第一二冊、七七丁（巻第十九・三二丁、巻第二十・一一丁、巻第二十一・三五丁）、第一三冊、五三丁（巻第二十二・二二丁、巻第二十三・一八丁、巻第二十四・一四丁）、第一四冊、五三丁（巻第二十五・三二丁、巻第二十六・二二丁）、第一五冊、五八丁（巻第二十七・二五丁、巻第二十八・一八丁、巻第二十九・一五丁）、第一六冊、五五丁（巻第三十・二四丁、巻第三十一・三二丁）、第一七冊、五四丁（巻第三十二・三〇丁、巻第三十三・二四丁）、第一八冊、五三丁（巻第三十四・二四丁、巻第三十五・二九丁）、第一九冊、五〇丁（整版補配、巻第三十六・三三丁、巻第三十七・一七丁）、第二〇冊、七九丁（巻第三十八・三〇丁、巻第三十九・一六丁、巻第四十・三三丁）、第二一冊、七三丁（巻第四十一・三二丁、巻第四十二・四二丁）、第二二冊、六六丁（巻第四十三・一九丁、

巻第四十四・一九丁、巻第四十六・二八丁）、第二三冊、六三丁（巻第四十七・三〇丁、巻第四十八・三三丁）、第二四冊、七五丁（巻第四十九・三八丁、巻第五十・三七丁）、第二五冊、五九丁（巻第五十一・三六丁、巻第五十二・二三丁。一八・一九丁錯簡）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）、「翠川」（朱丸印）、他に判読不明の朱楕円印一印。整版補配分は「江風山／月莊」のみ。稲田福堂による補配か。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬・二二〇頁、其の三。寛永中の印刷。

◎物語

87 伊勢物語 二巻

〔請求番号〕105/5/2

〔体裁〕大本、二冊。袋綴。

〔表紙〕原装香色雲母刷文様（信夫草）表紙（二七・二×一九・五糎、上巻のみ。下巻は後補の香色表紙）。

〔題簽〕中央部に香色原刷題簽（一七・二×三・三糎、上巻のみ）、「伊勢物語 上」と刻す。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕 每半葉九行×一八字。漢字平仮名交。挿絵（整版）、上卷に二五  
図、下卷に二四図。

〔匡郭〕 無辺無界。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、五二丁（上卷）、第二冊、六四丁（下卷）。他、上卷に  
後遊紙二丁、下卷に前遊紙一丁、後遊紙二丁。

〔刊記〕 「伊勢物語新刊就余需勘校抑京極黄門一本之奥書云此物語之根源  
古人之説々／不同云々如今以天福年所被与孫女本正之／然而猶  
恐有訂校之遺欠也更図画卷中／之趣分以為上下是雖不足動好女  
人情／聊為令悅稚童眼目而已／慶長戊申夏上浣／也足叟（花  
押）。整版、花押は墨書。

〔印記〕 無。

〔備考〕 嵯峨本。慶長十三年初刊本（第一種本）。料紙は楮紙、具引き、  
色替り料紙を交える。安田文庫旧蔵。

### ◎注釈

88 伊勢物語聞書（肖聞抄） 存上・下卷 宗祇講、牡丹花肖柏聞書

〔請求番号〕 33／9／133

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 原裝薄藤色雲母刷文様（信夫草）表紙。二五・八×一九・〇糎。  
四針袋綴。

〔題簽〕 欠。

〔内題〕 「（低三格）伊勢物語聞書」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、約二一・五糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、六七丁（上卷）、第二冊、四八丁（下卷、一昔左のおと、  
〃・四七丁、跋刊・一丁）。他、各冊ともに前遊紙一丁（第一冊  
〃香色、第二冊〃白色）。

〔刊記〕 「此一冊可書進之由蒙 勅定之時子／細看之談宗祇法師所々令添削  
畢／夢菴子／右抄者肖柏老人所伝之作也仍号之／肖聞抄依後土  
御門院仰手自書／進之云々降世皆弄之猶元凱注左／氏也彼翁  
者予祖之余流庶弟也今為」48才／校讎亦有故者乎 新刊之時  
作三策了／慶長己酉季春上浣／也足叟」48ウ」（慶長己酉〃慶  
長十四、一六〇九年）。

〔印記〕 無。

〔備考〕 嵯峨本。色替り料紙に具引が施されているため、ずしりと重い。

伝本共通の訂正あり（胡粉を塗り、墨筆で訂正。二六丁裏・四  
行目「得」、五二丁裏・八行目「鹽」は切貼訂正）。第一冊（上  
卷）の前後の表紙裏には古活字版の刷り反古（前〃慶長十年刊、  
元亨釈書、後〃嵯峨本、慶長十四年刊伊勢物語聞書（肖聞抄）、  
上卷四丁表）が用いられている。川瀬一馬氏は本書を第一種本  
と第二種本に分類し、さらに中院通勝記名捺印本か否かで三種

に分類する。この分類に従えば、第二種本（ロ）。但し、川瀬氏の分類は、一部の丁の部分異植字を以て二種に分類した和田維四郎氏の分類を継承するもので正しくない。本書は一部活字を差し替えた丁が見受けられるものの、「版」自体は一つで、二種に分類する必要はない。

◎注釈

89 伊勢物語闕疑抄 五巻 細川幽齋 著

〔請求番号〕 43 / 1 / 3366

〔体裁〕 大本五冊。

〔表紙〕 原裝（押八双有）縹色空押石畳文様表紙。二八・五×二〇・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に双辺粹原刷題簽（一五・九×三・六糎）、〔闕疑抄 一（五）〕。

〔内題〕 「闕疑抄巻第一（五）」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・一糎。

〔版心〕 無。ノドに「巻数」ノ（丁附）を刻す。

〔丁数〕 第一冊、四〇丁（巻第二）、第二冊、三八丁（巻第二、ノドの丁附「二ノ廿五」の次「二ノ廿七」。二六丁欠か）、第三冊、四一丁（巻第三）、第四冊、三七丁（巻第四）、第五冊、四四丁（巻

第五）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 無。

〔備考〕 第五冊、後表紙見返しに朱識語、「安政五三四月ノ間以愚見抄引合了ノ安政五三以口伝抄引合了（花押）。朱墨（主に朱）書入有。川瀬・五〇八頁、寛永中刊（無刊記）本（ロ）。

◎臨濟

90 一休水鏡・二人比丘尼 一休宗純 著

〔請求番号〕 33 / 10 / 138

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙（押八双有）。二五・七×一八・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。中央に「語歌集 純一休」と墨筆で大書。

〔内題〕 「（低三格）水鏡」、「二人比丘尼」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二〇・七糎。

〔版心〕 無。巻末にのみノドに「二十」と刻す。

〔丁数〕 二〇丁（君のちとせをへん事もあまつをと女の羽衣よゝ・三丁、水鏡、本来生死をはなれたる身なればきたる所もなくさる所もなしゝ・四オゝ六ウ5、二人比丘尼、ある比丘尼山居してあり

く・六ウ6(二〇才)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。前見返しに「粹屋／長五郎」と墨書。

〔備考〕無書入。川瀬・六〇六・九三六頁、(一)第一種本(慶長中刊)。

「平家物語十行本(松井簡治博士蔵、現、静嘉堂文庫蔵)と同種活字印本なり」。図録篇・五七〇図に大東急本の図版を収む。

## ◎医学

### 91 延寿撮要 曲直瀬玄朔 著

〔請求番号〕54/8/13/2878

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原装(押八双有)栗皮表紙。二七・九×二〇・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩剥落。一〇・七×二・五糎。

〔内題〕「延寿撮要総目録」、「延寿撮要」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×一七字。漢字平仮名交。真名活字は行書体。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・六糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕三九丁(総目録・一丁、本文・三八丁)。

〔刊記〕卷末に跋刊、「此書者<sup>候</sup>在関左之日偏州下邑之者不知養生之道／

不幸而致夭横故愛隣之心最深仍檢延寿之数快聚／枢要之語名之

以延寿撮要為便見聞以倭字書之旋／洛之後此一巻忝歴／叡覽何

幸加焉伏希広頒華夷普授士民人人長保仙／寿規祝不淺也謹以記  
歲月云尔／慶長己亥立夏之節 法印玄朔。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。川瀬、「慶長四年玄朔跋文記載の後、間もなく出版せら

れたるものと認む可き平仮名交り大字本」(三三〇頁)。

## ◎物語

### 92 うつほ物語 二巻

〔請求番号〕43/1/3359

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕原装(押八双有)黒色空押雷文横繫ぎ蓮華唐草文様表紙。二八・

三×一七・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕後補書題簽(一六・六×二・八糎)、「うつほ物語 上(下)」。

〔内題〕「(低二格)うつほものかたり上」、「(低二格)うつほ物語下」。

〔尾題〕「(低五格)上巻終」、「(低二格)うつほ物語巻第下終」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。漢字平仮名交。濁点、附訓活字交える。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・七糎。

〔版心〕「うつ上(下)」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、四六丁(上)、第二冊、三四丁(下)。

〔刊記〕無。

〔印記〕判読不明朱方印、一印。

〔備考〕墨筆でイ本校合。川瀬・五一一頁、第二種本。図録篇・三五二

図に大東急本の図版を収む。「活字印本は何れも無刊記本であるが、第一種本は竹取物語第三種本と同種活字印本で、元和寛永中の印行、第二種本も略同時の刊行であらうが活字が稍小さい」。

### ◎歴史物語

#### 93 栄花物語 四〇巻

〔請求番号〕7/14/1907

〔体裁〕大本二〇冊。

〔表紙〕後補繚色（藍色）表紙（押八双はあるが後補）。二七・一×一九・

九纏。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「栄花物語 一二（〓卅九四十）と大きく朱書。右

肩に「一月宴／二花山」（〓卅九布引瀧／四十紫野）と朱書。

〔内題〕「栄花物語（大字）／一月宴／二花山（小字）（〓卅九ぬのひき

瀧／四十むらさき野）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二〇〓二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・〇纏。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、八八丁（目録・一丁、月宴・五〇丁、花山・三七丁）、

第二冊、六六丁（目録・一丁、さま／のよろこひ・二八丁、

見はてぬゆめ（目録、見はてぬ夢）・三七丁）、第三冊、六一丁

（目録・一丁、うら／のわかれ・四五丁、かゝやくふちつほ

（目録、かゝやく藤つほ）・一五丁）、第四冊、一〇四丁（目録・

一丁、とりへ野・二九丁、はつ花・七四丁）、第五冊、四七丁（目

録・一丁、石蔭・二〇丁、日かけのかつら・二六丁）、第六冊、

五二丁（目録・一丁、つほみ花・一九丁、玉村菊・三三丁）、第

七冊、五一丁（目録・一丁、木綿四手・二七丁、朝緑（目録、

あさみとり）・二三丁）、第八冊、六四丁（疑・二三丁、弟子大

日本国〓・三丁、本のしつく・四〇丁）、第九冊、四二丁（目録・

一丁、をんかく（目録、音楽）・二三丁、玉台・一八丁）、第一

〇冊、二九丁（目録・一丁、御着裳・一九丁、御賀・九丁）、第

一一冊、二六丁（目録・一丁、後悔大将・一六丁、とりのまひ

（目録、鳥舞）・九丁）、第二二冊、三二丁（目録・一丁、こま

くらへ・一四丁、わか枝（目録、若枝）・一七丁）、第二三冊、

五六丁（目録・一丁、みねの月（目録、嶺月）・二三丁、楚王の

夢（目録、楚王夢）・三三丁）、第一四冊、六二丁（目録・一丁、

衣珠・四四丁、わかみつ（目録、若水）・一七丁）、第一五冊、

五四丁（目録・一丁、玉のかさり・二八丁、つるのはやし（目

録、霧林）・二五丁）、第一六冊、五二丁（目録・一丁、殿上花

見・二六丁、哥合・二四丁）、第一七冊、三九丁（目録・一丁、

きるはわひしと歎女房・一六丁、晩待星・二三丁）、第一八冊、

五四丁（目録・一丁、蛛のふるまひ・五丁、ねあはせ（目録、

根あはせ）・四八丁）、第一九冊、四三丁（目録・一丁、煙後・

一五丁、松のしつえ・二七丁）、第二〇冊、四四丁（目録・一丁、

布ひきのたき（目録、ぬのひき瀧）・三〇丁、むらさき野・一三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕第一冊～第五冊、朱句読点、人物考証の他、朱墨による書入有。

第二冊の後表紙見返しに識語、「天明元年辛丑十一月四日夜以小本別本校合畢」。第六冊以下、無書入。川瀬・五二九・八九四頁。

「本書は元和寛永中の開版と認められる。稍小型の様子の整つた活字」。

### ◎歴史物語

#### 94 大鏡

〔請求番号〕7/14/1908

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕原装（押八双有）黒色空押雷文襷に雨竜文様表紙。二八・四×

二〇・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双边粹原刷題簽（一八・五×四・〇糎）、「大かゝみ一

（一六）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一三三・一糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、五〇丁（目録、王代記〔自文徳玉後一条〕御家／冬嗣大臣〔五条后のたゝなり〕良房大臣／良相大臣 長良中納言〔二条后のたゝ也〕

／昭宣公〔基経〕時平大臣〔基経大后〕・一丁、序・六丁、本文・四三丁、

第二冊、五五丁（目録、枇杷左大臣〔仲平基経二弟〕 貞信公〔忠平基経三弟〕

／清慎公〔実頼〕 廉義公〔頼忠〕／小一条左大臣〔師尹〕／九條殿〔師輔〕・半丁、

本文・五二丁半、関白次第・一丁、世統名・一丁）、第三冊、五

二丁（目録、〔摂政〕謙徳公〔伊尹〕 忠義公〔兼道〕／恒徳公〔為光〕 仁義公〔公季〕

／大入道殿〔兼家〕／已上九条殿息・一丁、本文・五一丁）、第

四冊、二六丁（目録、〔中関白〕内大臣道隆〔粟田関白〕右大臣道兼／東三

条殿息・一丁、本文・二五丁）、第五冊、四九丁（目録なし。本

文「一太政大臣道長おとゝゝ」・四九丁）、第六冊、三九丁（目

録なし。本文「いと／あさましくめつらかにつきせすふた／

りかたらひしにゝ」・三九丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕「閑雅文庫」（佐竹義路、朱長方印）、「稲田／福堂／圖書」（朱方

印）、「江風山／月荘」（朱方印、以上二印、稲田福堂）、「松木文

庫」（朱長方印）。

〔備考〕第一冊～第四冊に、朱引、朱句読点、朱濁点、その他、朱墨に

よる書入が施されている。川瀬・五二九頁、慶長元和中刊。

◎歴史物語

95 大鏡

〔請求番号〕7 / 15 / 1910

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕後補薄縹色空押卍繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二八・〇×二〇・五  
糹。四針袋綴。

〔題簽〕表紙中央に後補の薄縹色銀箔押銀泥下絵入書題簽（一五・二×

三・九糹）、「大鏡 一（一六）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一三・一糹。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、五〇丁（目録、王代記（自文徳至後一条）御家／冬嗣大臣（五条

后のたゝなり）良房大臣／良相大臣 長良中納言（二条后のたゝ也）／

昭宣公（基経）時平大臣（基経）后 一丁、序・六丁、本文・四三丁）、第

二冊、五五丁（目録、枇杷左大臣（仲平）基経二部 貞信公（忠平）基経三部／清

慎公（実頼） 廉義公（頼忠）／小一条左大臣（師尹）／九條殿（師輔）・半丁、本

文・五二丁半、関白次第・一丁、世統名・一丁）、第三冊、五二

丁（目録、（撰政）謙徳公（伊尹） 撰政 忠義公（兼道）／恒徳公（為光） 仁義公（公

季）／撰政 大入道殿（兼家）／已上九条殿息・一丁、本文・五一丁）、第

四冊、二六丁（目録、（中関白）内大臣道隆／（粟田関白）右大臣道兼／東三

条殿息・一丁、本文・二五丁）、第五冊、四九丁（目録なし。本

文「一太政大臣道長おとゝゝ」・四九丁）、第六冊、三九丁（目

録なし。本文「いと／あさましくめつらかにつきせすふた／

りかたらひしにゝ」・三九丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「歌堂文庫」（朱長方印）

〔備考〕朱句読点、朱濁点、その他、朱筆による書入が施されている。

前記、「7 / 14 / 1908」本と同版。『水鏡』（7 / 15 / 1911）と、『増鏡』（7 / 15 / 1913）とツレ。

◎戦記

96 大坂物語

〔請求番号〕33 / 10 / 141

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕薄茶色（押八双有）表紙。二七・一×二〇・六糹。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の薄茶色書題簽（一八・一×四・二糹）、一大坂軍物

語全。

〔内題〕「（低二格）大坂物語」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・七糹。

〔版心〕無。

〔丁数〕三三丁（巻末に挿絵「大坂城之画図」）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「性真堂／圖書記」（朱長方印）。

〔備考〕巻首七丁分に朱引が施されているのみ。川瀬・六〇九・九四四頁、第三種本。図録篇・五八六図に大東急本の図版を収む。

### ◎戦記

#### 97 応仁記 二巻二冊

〔請求番号〕7 / 13 / 1905

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕栗皮表紙（原表紙を裏打修補したのか）。二七・八×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・四×二・七糎）、「応仁記 上（下）」。

〔内題〕「応仁記目録」、「応仁記巻之上（下）」。

〔尾題〕「（低二格）応仁記巻之上（下）」。

〔本文〕每半葉一二行×二三字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边（二二・三×一七・二糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「応仁記（応仁記上・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、二九丁（目録、序・一丁、巻之上・二八丁）、第二冊、二六丁（巻之下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「貸本所／博勞町／越前屋／吉之助」（墨方印）、「加州金澤／越

前屋吉之助／博勞町」（墨長方印、巻之下のみ）

〔備考〕無書入。川瀬・五八七・九二八頁、（二）寛永中刊本。図録篇・五二九図に大東急本の図版を収む。

### ◎花道

#### 98 「花の伝書」池坊専伝

〔請求番号〕33 / 10 / 137

〔体裁〕横本一冊。

〔表紙〕丹色空押雷文繫ぎに大菊花文様表紙（押八双有。川瀬氏は原表紙と見るが、七丁下部の裁断の具合からすると後補か）。一四・一×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一〇・八×二・二糎）、「花の伝書 全」。

〔内題〕無。

〔本文〕每半葉一行×一文字。漢字平仮名交。本の大きさの割には活

字は稍大型。一五丁に挿絵（整版）。「瓶に花さす事にしへ／よりあるとはきゝ侍れと／それはうつくしき花をのみ／賞して草木の風興をも／わきまへす只さし生たる／斗なり」。

〔匡郭〕无边、無界。字高、一二・二糎。

〔版心〕無。巻末のノドに「二十五」と刻す。

〔丁数〕二四丁。二二丁裏と二三丁表欠。二二丁に該当する丁を破りつつ

た痕跡あり。

〔刊記〕無。卷末に、「右一卷者抄者於家秘本之聊尔令相伝事稀以ノ隆然江州岩藏寺円林坊ノ賢盛依御所望老耄隆無ノ正体候自筆書注則令口ノ伝申也努々不可有他見ノ者也ノ天文十一年 池坊ノ拾月朔日 専慈在判」。

〔印記〕判読不明の朱方印（小、陰刻）。

〔備考〕若干の墨書入がある程度。川瀬・四八五頁、立花の伝書として仙伝抄の他にこの書を著録。元和寛永頃の印行と認む可き横本（小型）一冊。「花の伝書」は、大東急本の題簽による川瀬氏の仮称。図録篇・三三三図に大東急本の図版を収む。

◎能

99 花伝書 八卷

〔請求番号〕106/8/6

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮表紙。二七・七×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕表紙中央やや上に原刷題簽（一六・一×三・五糎）、「花伝書 一（一八）卷」。但し、八巻の題簽は、雲母刷文様のある後補書題簽。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字内外。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・五糎。

〔版心〕無。ノド、一卷は丁附のみ、二巻以下は「巻数」ノ（丁附）を刻す。

〔丁数〕第一冊、二〇丁（それ申樂延年のことわきその源を尋に）、第二冊、一八丁（調子の次第の事）、第三冊、二九丁（抑謡といつは哥道より出るなり）、第四冊、三七丁（凡鼓といつは）、第五冊、三二丁（それ能と云事）。丁附、一一丁「五ノ十二」、一二丁の丁附なし、一三丁「五ノ十四」、一四丁「五の十四」、一五丁「五の十五」、一六～二四丁は正しい丁附、二五丁「五の二十六」、以下の丁附は一丁ずつずれる、第六冊、二六丁（物まねのしな／＼筆につくしかたし）、第七冊、三七丁（よつつはやしのしな／＼大かた此巻にかき／＼するす所の条々）、第八冊、一七丁（まつけいこの条々大形此巻にするす）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「素堂ノ藏書」（朱方印）。

〔備考〕無書入。二巻の前表紙裏に『八十一難経』（整版、双辺無界、一行×二一字）の刷り反古が用いられている。本書は久原房之助旧蔵本にあらず。大東急記念文庫新収本。川瀬・五六二・九〇九頁、第一種本（イ）版。「第一種本は活字の書体極めて麗しく、版式も整ひ、花伝書中の最古刻本と認められる」。

◎能

100 花伝書 八巻

〔請求番号〕53/9/2696

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕原装（押八双有）縹色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二八・

九×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽（一七・〇×三・二糎）、「花伝書 一（〜八）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×一九字。漢字平仮名交。字画が角張った活字を用いる。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、二〇丁（夫申樂延年のことわき其源を尋るに〜）、第二冊、一八丁（調子の次第の事〜）、第三冊、三〇丁（抑諺といつは哥道より出るなり〜）、第四冊、三七丁（凡つゝみといつは〜）、第五冊、三三丁（それ能と云事〜）、第六冊、二六丁（物まねのしな〜筆につくしかたし〜）、第七冊、三五丁（よろつ囃のしな〜大かた此巻にかきしるす〜ところの条々〜）、第八冊、一七丁（まつ稽古の条々大形此巻にしるす〜）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。第二種本（イ）版。元和寛永中刊。

◎記録

101 寛永行幸記 二巻 以心崇伝

〔請求番号〕11/27/2097

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕原装（押八双有）丹空押雷文禪に小菊文様表紙。二九・二×二

〇・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩剥落。

〔内題〕「低二格」寛永行幸記并序」。

〔尾題〕「上（下）巻終」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺（二二・〇×一六・〇糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「行幸序（上・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、九八丁（序、寛永三歳在丙寅菊月如意珠日／前南禪天 下僧録特 賜円照本光国師以心崇伝記之・三丁、上・九五丁）、第二冊、四五丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「出／納」（中原出納、朱方印）。

〔備考〕無書入。上巻に切貼訂正箇所あり。川瀬・六二三・九四五頁、真名活字二巻本。

◎軍記物語

102 義経記 存巻第二・三・五・八

〔請求番号〕7/27/1929

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕栗皮原表紙を用いた改装表紙（第一・三・六冊の後表紙は茶色改装）。二八・二〇一九・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕第五冊（巻七）と第六冊（巻八）のみ残存。双辺粹原刷題簽（一七・三〇三・七糎）、「義経記 七（八）」。

〔内題〕「（低二格）義経記巻第二（三・五・六・七・八）目録」、「義経記巻第二（三・五・六・七・八）」。

〔尾題〕「義経記巻第二（三・五・六・七・八）終」。

〔本文〕每半葉一三行×二三字内外。漢字平仮名交。附濁点、附訓活字を交える。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一三・二糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、三六丁（巻第二、目録・一丁、本文・三五丁）、第二冊、

三二丁（巻第三、目録・一丁、本文・三一丁）、第三冊、四四丁（巻第五、目録・一丁、本文・四三丁、六丁目が破りとられて

いる）、第四冊、五〇丁（巻第六、目録・一丁、本文・四九丁）、第五冊、五四丁（巻第七、目録・一丁、本文・五三丁）、第六冊、

二四丁（巻第八、目録・一丁、本文・二三丁）。

〔刊記〕「（低二格）寛永十年五月吉辰」。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。刊記の「寛永十」「年」「吉辰」は、『大和物語』（寛永十六年二月）、『宝物集』（寛永十六年三月）、『伊曾保物語』（寛永十六年四月）、『女訓抄』（寛永十四年三月、寛永十六年二月）と同一の活字。

◎軍記物語

103 義経記 八巻

〔請求番号〕7/27/1930

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕原装（押八双有）丹空押雷文襷に小菊文様表紙。二八・三〇二〇・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽（一八・五×三・七糎）、「義経記 一（〇八）」。

〔内題〕「義経記巻第一（〇八）目録」、「義経記巻第一（〇八）」。

〔尾題〕「義経記巻第一（〇八）終」。

〔本文〕每半葉一二行×二八字。漢字平仮名交。極小活字を用いる。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・二糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、一八丁（巻第一、目録・一丁、本文・一七丁）、第二冊、

三三丁（巻第二、目録・一丁、本文・三二丁）、第三冊、三〇丁（巻第三、目録・一丁、本文・二九丁）、第四冊、四三丁（巻第

四、目録・一丁、本文・四二丁）、第五冊、四三丁（巻第五、目

録・一丁、本文・四二丁）、第六冊、四九丁（巻第六、目録・一丁、本文・四八丁）、第七冊、五二丁（巻第七、目録・一丁、本文・五二丁）、第八冊、二三丁（巻第八、目録・一丁、本文・二二丁）

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕第一～三冊（本文一六丁裏まで）に朱句読点が施されているのみ。川瀬・五四九頁、第四種本、寛永中刊（十二行）本。「曾我物語（五）等同種活字印本多し」。

### ◎軍記物語

#### 103 義経記 八巻

〔請求番号〕7/28/1931

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕後補薄縹色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二五・八×一九・

二種。四針袋綴。巻五～八の冊、表紙付け誤り。

〔題簽〕無。左肩に「いち（に・さん・し・ご・りく・ひち・はち）

のまき」と打付書。

〔内題〕「〔低二格〕義経記巻第一（～八）目録」、〔義経記巻第一（～八）〕。

〔尾題〕「義経記巻第一（～八）終」。

〔本文〕每半葉一三行×二三字内外。漢字平仮名交。附濁点、附訓活字

を交える。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・二種。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、一九丁（巻第一、目録・一丁、本文・一八丁）、第二冊、

三六丁（巻第二、目録・一丁、本文・三五丁）、第三冊、三二丁

（巻第三、目録・一丁、本文・三二丁）、第四冊、四五丁（巻第

四、目録・一丁、本文・四四丁、一六丁表・8「□御覽して」、

二字分切取）、第五冊、四五丁（巻第五、目録・一丁、本文・四

四丁）、第六冊、五〇丁（巻第六、目録・一丁、本文・四九丁）、

第七冊、五四丁（巻第七、目録・一丁、本文・五三丁）、第八冊、

二四丁（巻第八、目録・一丁、本文・二三丁）。

〔刊記〕「〔低二格〕寛永十年五月吉辰」。

〔印記〕「真木園／圖書記」（金子元臣、朱長方印、第一～五冊）、「坪井

文庫」（第六冊のみ）。第一冊、四冊にはさらに判読不明の朱長

方印あり。

〔備考〕無書入。蔵書印からすると、①巻一～五、②巻六、③巻七、八、

蔵書なしは、伝来の異なる三つの取り合わせ本の可能性がある。

川瀬、図録篇・四四八図に刊記部分の図版を収む。

### ◎仮名草子

#### 104 きのはけふの物語 二巻

〔請求番号〕45/2/5559

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕栗皮表紙（押八双有、原表紙か）。二六・七×一八・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一八・五×三・七糎）、「きのふはけふの物語 上（下）」。

〔内題〕「（低二格）きのふはけふの物語 上」、「（低四格）きのふはけふの物語 下」。

〔尾題〕無。

〔本文〕毎半葉一行×二一字。漢字平仮名交。一つ書き。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・一糎。

〔版心〕「上（下） 丁附」を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、三〇丁（上）、第二冊、三二丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「中井文庫」（朱長方印）。

〔備考〕無書入。川瀬・六〇一・九三二頁、（五）第五種本（十一行本）、元和中刊。卷末は「上京に平林といふ人あり」の段で終わる。

図録篇・五五二図に大東急本の図版を収む。分類を補訂篇・九三二頁で改め、第五種本を第七種本とした。大東急記念文庫善本叢刊近世篇6『漸本集』に収録。

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄縹色（水色）空押青海波文様表紙。二三・七×一八・〇糎。綴葉装。表紙裏の痕跡から、原表紙は緑青色の表紙（光悦謡本と同表紙）が掛けられていたことがうかがわれる。

〔題簽〕無。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕毎半葉八行×一五字。漢字平仮名交。節付植版。ㄱ、墨書。謡本の活字と比べると稍小型。厚手の料紙に具引きのみを施す。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一八・七糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕六四丁（目録・二丁、淡路 上宮太子／隠岐物狂 哥占／嶋廻

卒都婆流／由良物狂 鴨物狂（本文、賀茂物狂）／香椎 石橋

／白鬚 高雄」1才／二人みこ（本文、二人御子） 芳野琴／

須磨源氏 松浦物狂／経山寺 兵揃／舞車 同／花筐（本文、

花かたみ）横山／玉とり ぬれきぬ」1ウ／かはつ（本文、蛙

高野物狂／敷路物狂 雪謡（本文、雪の謡）／定家一字題 さ

ねかた／八景 同／鼓の瀧 博多物狂／初瀬六代 先帝」2才、

本文・六二丁。他、後遊紙二丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕上宮太子、嶋廻、由良物狂、賀茂物狂、須磨源氏、兵揃、舞車、

## ◎謡曲

### 105 久世舞

〔請求番号〕33／9／132

同、横山、玉とり、高野物狂、定家一字題、鼓の瀧、初瀬六代に朱書入。川瀬・四六九頁、嵯峨本、久世舞三十六曲本。伝本、他に東洋文庫蔵本。

◎物語

106 源氏物語 紫式部 五四卷

〔請求番号〕105/6/17、105/7/23

〔体裁〕大本四〇冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙（押八双はあるが後補）。

二八・七×二一・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕中央やや上に後補の書題簽（一七・二×三・三糎）、「桐壺 一

（夢浮橋〈五十四／終〉）。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二一字内外。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、二五丁（桐壺、以下巻名は外題で記す）、第二冊、四六

丁（箒木）、第三冊、一一丁（空蟬）、第四冊、四六丁（夕顔）、

第五冊、四六丁（若むらさき）、第六冊、三二丁（末摘花）、第

七冊、三七丁（紅葉賀・二七丁、花宴・一〇丁）、第八冊、四五

丁（あふひ）、第九冊、四八丁（榊）、第一〇冊、四六丁（花散

里・四丁、須磨・四二丁）、第一一冊、三九丁（明石）、第一二

冊、三二丁（みをつくし）、第一三冊、二七丁（蓬生・二二丁、

関屋・五丁）、第一四冊、三八丁（絵合・一八丁、東風・二〇丁）、

第一五冊、五〇丁（薄雲・三〇丁、朝顔・二〇丁）、第一六冊、

四七丁（乙女）、第一七冊、三九丁（玉かつら）、第一八冊、三

四丁（初音・一四丁、こてふ・二〇丁）、第一九冊、四三丁（蛩・

一八丁、常夏・二二丁、篝火・四丁）、第二〇冊、四四丁（野分・

一七丁、行幸・二七丁）、第二一冊、一四丁（蘭、通常は「藤

袴」・一四丁、真木柱・三六丁）、第二二冊、四二丁（梅か枝・

一八丁、藤裏葉・二三丁）、第二三冊、九七丁（若菜上）、第二

四冊、九八丁（巻末「す経又かのおはします御寺にもまかひる

さなの」。以下欠丁）、第二五冊、三八丁（柏木）、第二六冊、三

二丁（横笛・一八丁、鈴虫・一四丁）、第二七冊、六八丁（夕霧）、

第二八冊、三九丁（御法・一九丁、幻・二〇丁）、第二九冊、二

五丁（匂宮・一三丁・紅梅・一二丁）、第三〇冊、三九丁（竹河）、

第三一冊、三六丁（橋姫）、第三二冊、三五丁（椎本）、第三三

冊、八四丁（あけまき）、第三四冊、一八丁（さわらひ）、第三

五冊、九一丁（やとり木）、第三六冊、六二丁（東屋）、第三七

冊、六七丁（浮船）、第三八冊、五四丁（蜻蛉）、第三九冊、六

三丁（手習）、第四〇冊、一七丁（夢浮橋）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「大埜／蔵書」（墨方印）。

〔備考〕伝嵯峨本。第一冊（桐壺）には湖月抄、河海抄などの古注による書入（朱墨）が夥しく施され、第二冊（箒木）には、朱句読点が施されている他、「お」を、「を」を「お」に朱訂正が施されている。以下の冊は、無書入。

## ◎物語

### 107 源氏物語 紫式部 五四巻

〔請求番号〕43/9/3404

〔体裁〕大本五四冊。

〔表紙〕後補縹色空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙。二六・九×一八・八糎。四針袋綴。第五冊（わかむらさき）は、第二種本の補配。

栗皮表紙（押八双有、川瀬は原表紙と見る）、二七・三×一八・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕表紙中央やや上に後補の書題簽（一七・八×四・五糎）、「桐壺一（〜夢のうき橋 五十四）」。第五冊（わかむらさき）は、左

肩に後補の書題簽（一四・九×三・四糎）、「わかむらさき 五」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一一行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・八糎（桐壺）。

〔版心〕無。ノドに「きつ 丁附」と刻す。

〔丁数〕第一冊、二四丁（桐壺、以下巻名は外題で記す）、第二冊、四六

丁（はゝき木）、第三冊、一一丁（うつせみ）、第四冊、四六丁（夕顔）、第五冊、四五丁（わかむらさき、一三・一四丁錯簡）、第六冊、三〇丁（すゑつむ花）、第七冊、二七丁（もみちの賀）、第八冊、一〇丁（花の宴）、第九冊、四五丁（あふひ）、第一〇冊、四七丁（さかき）、第一一冊、四丁（花ちる里）、第一二冊、四一丁（すま）、第一三冊、三九丁（あかし）、第一四冊、三一丁（濤標）、第一五冊、一三丁（よもぎふ）、第一六冊、五丁（せきや）、第一七冊、一八丁（絵あはせ）、第一八冊、二〇丁（松風）、第一九冊、三〇丁（うす雲）、第二〇冊、二〇丁（あさかほ）、第二一冊、四九丁（をとめ）、第二二冊、四〇丁（玉かつら）、第二三冊、一四丁（はつ音）、第二四冊、二二丁（こてふ）、第二五冊、一九丁（ほたる）、第二六冊、二二丁（とこ夏）、第二七冊、四丁（かゝり火）、第二八冊、一八丁（野分）、第二九冊、二七丁（みゆき）、第三〇冊、一四丁（ふちはかま）、第三一冊、三七丁（真木はしら）、第三二冊、一八丁（うめか枝）、第三三冊、一三丁（藤のうら葉）、第三四冊、一〇〇丁（わかな上）、第三五冊、九九丁（わかな下）、第三六冊、三九丁（かしは木）、第三七冊、一八丁（横笛）、第三八冊、一四丁（すゝむし）、第三九冊、六八丁（夕きり）、第四〇冊、一九丁（みのり）、第四一冊、二二丁（まほろし）、第四二冊、一四丁（匂ふみや）、第四三冊、一三丁（紅梅）、第四四冊、三九丁（竹川）、第四五冊、三七丁（はしひめ）、第四六冊、三六丁（しるかもと）、第

四七冊、八六丁（あけまき）、第四八冊、一八丁（さわらひ）、

第四九冊、九〇丁（やとりき）、第五〇冊、六三丁（あつまや）、

第五一冊、六七丁（うき舟）、第五二冊、五五丁（かけるふ）、

第五三冊、六四丁（手ならひ）、第五四冊、一七丁（夢のうき橋）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱句読点、朱書入（第一・二・七・一〇・一一冊）、墨書入若干

（第八・九冊）、他の冊は無書入。川瀬、（三）寛永中刊本、第

一種本。図版篇・三五四図・右。

### ◎物語

#### 108 源氏物語 紫式部 五四巻

〔請求番号〕43/11/3405

〔体裁〕大本五五冊。

〔表紙〕縹色（藍色）空押麻の葉文様表紙（押八双はあるが後補か）。二

七・五×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕表紙中央やや上に後補の書題簽（一六・一×三・八糎）、「桐局

初一（朱筆）（夢浮橋）（ウ十／大尾（朱筆））。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉行×二一字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・八糎。

〔版心〕無。ノドに「きりつ 丁附」。

〔丁数〕第一冊、二五丁（桐壺、以下巻名は外題で記す）、第二冊と第三

冊は整版補配（はき木、二六丁と二五丁に分冊）、第四冊、一

一丁（空蟬）、第五冊、四六丁（夕顔）、第六冊、四五丁（若紫。

三六丁、前記3404本とは異版。九州大本と同版。）、第七冊、

三〇丁（未摘花）、第八冊、二七丁（紅葉賀）、第九冊、一〇丁

（花宴）、第一〇冊、四五丁（葵）、第二一冊、四七丁（賢木）、

第二二冊、四丁（花散里）、第一三冊、四一丁（須磨）、第一四

冊、三九丁（明石）、第一五冊、三二丁（水尾尽滯標）、第一六

冊、二三丁（蓬生）、第一七冊、五丁（関屋）、第一八冊、一八

丁（絵合）、第一九冊、二〇丁（松風）、第二〇冊、三〇丁（薄

雲）、第二一冊、二〇丁（朝顔権）、第二二冊、四九丁（乙女）、

第二三冊、四〇丁（玉鬘）、第二四冊、一四丁（初音）、第二五

冊、二二丁（胡蝶）、第二六冊、一九丁（蛩）、第二七冊、二二

丁（常夏）、第二八冊、四丁（篝火）、第二九冊、一八丁（野分）、

第三〇冊、二七丁（御幸）、第三一冊、一四丁（藤袴蘭）、第三

二冊、三七丁（楨柱）、第三三冊、一八丁（梅枝）、第三四冊、

二三丁（藤裏葉）、第三五冊、一〇〇丁（若菜上。全丁、九州大

本と同版。）、第三六冊、九九丁（若菜下）、第三七冊、三九丁（柏

樹）、第三八冊、一八丁（横笛）、第三九冊、一四丁（鈴虫）、第

四〇冊、六八丁（夕霧）、第四一冊、一九丁（御法）、第四二冊、

二二丁（幻）、第四三冊、一四丁（匂宮）、第四四冊、一三丁（紅

梅)、第四五冊、三九丁(竹河)、第四六冊、三七丁(橋姫)、第四七冊、三六丁(権本)、第四八冊、八六丁(角総)、第四九冊、一八丁(早蕨)、第五〇冊、九〇丁(寄木寄生)、第五一冊、六三丁(四阿東屋)、第五二冊、六七丁(浮舟)、第五三冊、五五丁(蜻蛉)、第五三冊、六四丁(手習)、第五五冊、一七丁(夢浮橋)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕第六冊(若紫)の三六丁は、前記3404本と異版。

三六才 (3404本) (3405本||九州大学本)

3 あやしうとみ あやしうとみ

5 給はむ 給はん

7 給はむ 給はん

11 今は いまは

11 世になぎ人の 世になぎ人(改丁)の

三六ウ

1 御事 御こと

1 かたらひ聞え かたらひ(改丁)聞え

2 心ほそしとおほ(改丁)いて 心ほそしと(改丁)おほいて

3 思ひな(改丁)いり 思(改丁)な入

4 かへす(改丁)こしらへ 返々こしら(改丁)へ

5 出給ぬ いて給ぬ

5 名残 なこり

(以下も字詰等に異同あり)

第五四冊の前表紙裏に、「寛永拾壹年/万口帳/戌二月廿四日」と墨書のある文書の反古が用いられている。川瀬(三)寛永中刊本、第二種本。図版篇・三五四図・左。

◎物語

109 源氏小鏡 二巻 花山院長親(耕雲)?

〔請求番号〕33/9/134

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補水色雲母刷文様(上、松山、下、梅の立枝。嵯峨本の表紙を模したもの)表紙。二五・四×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「源氏小鏡目録 上下」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行×一七字内外。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、約二三・〇糎。

〔版心〕無。ノドに「上(下)幾」と刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、八六丁(目録・二丁、本文・八五丁)、第二冊、八六丁

(一蘭古のまきふちはかまといふ事)。

〔刊記〕無。上巻巻末に、「慶長十五年十二月日書之」。

〔印記〕無。

〔備考〕上巻にごくわずかに朱墨による書入が見受けられるが、無書入に等しい。料紙は楮紙、素紙刷。嵯峨本。

◎注釈

110 源氏物語抄 二〇巻 里村紹巴(紹巴)著

〔請求番号〕43/16/3407

〔体裁〕大本二〇冊。

〔表紙〕茶色表紙(押八双はあるが後補)。二五・八×一八・九糎。四針

袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(二六・九×三・五糎)、「源氏物語紹巴抄」。

右肩に「第一／桐壺 箒木」(第一冊)のように朱書。

〔内題〕「源氏物語抄巻第一(〜二十)」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×二四字。漢字平仮名交。注小字双行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・〇糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、七七丁(巻第一、目録・一丁、桐壺・三三丁、箒木・

四四丁)、第二冊、四二丁(巻第二、目録・一丁、空蟬・一〇丁、

夕顔・三〇丁)、第三冊、五二丁(巻第三、目録・一丁、若紫・

二八丁、未摘花・二三丁)、第四冊、六二丁(巻第四、目録・一

丁、紅葉賀・一九丁、花宴・一二丁、葵・三〇丁)、第五冊、六

二丁(巻第五、目録・一丁、賢木・三二丁、花散里・四丁、須

磨・二六丁)、第六冊、六二丁(巻第六、目録・一丁、明石・二

三丁、滯漂・二二丁、蓬生・二三丁、関屋・四丁)、第七冊、五

三丁(巻第七、目録・一丁、絵合・一七丁、松風・一七丁、薄

雲・一八丁)、第八冊、四九丁(巻第八、目録・一丁、権・一八

丁、未通女・四〇丁)、第九冊、八六丁(巻第九、目録・一丁、

玉鬘・二七丁、初子・一九丁、胡蝶・一六丁、螢・二三丁)、第

一〇冊、九七丁(巻第十、目録・一丁、常夏・二〇丁(二二丁

表・2まで)、篝火・四丁、野分・一〇丁、みゆき・二〇丁、藤

袴・一三丁、真木柱・二九丁)、第二二冊、三七丁(巻第十一、

目録・一丁、梅か枝・一七丁、藤裏葉・一九丁)、第二三冊、六

六丁(巻第十二、目録・一丁、若菜上・六五丁)、第二四冊、五

八丁(巻第十三、目録・一丁、若菜下・五七丁)、第二四冊、五

〇丁(巻第十四、目録・一丁、柏木・二三丁、横笛・一六丁・

鈴虫・一一丁)、第二五冊、五八丁(巻第十五、目録・一丁、夕

霧・四五丁、御法・二二丁)、第二六冊、六九丁(巻第十六、目

録・一丁、幻・一五丁、匂宮・二二丁、紅梅・一〇丁、竹川・

三二丁)、第二七冊、八七丁(巻第十七、目録・一丁、橋姫・二

〇丁、椎本・二二丁、角総ツノサウ・四五丁)、第二八冊、六〇丁(巻第

十八、目録・一丁、早蕨・一一丁、宿木・四八丁)、第二九冊、

六二丁(巻第十九、目録・一丁、東屋・三〇丁、浮船・三二丁)、

第二〇冊、六四丁(巻第二十、目録・一丁、かけろふ・二八丁、

手習・二七丁、夢浮橋・八丁。

〔刊記〕本奥書、「此二十冊者（五格空）三条西殿／右府入道殿公條公（二格空）称名院殿（二格空）御講／釈 予 聞書也 武州忍成田 総州依御懇／望奉許可畢／可被守御在名而已／（一行空）／于 時天正八年仲夏上旬（二格空） 紹巴判。」

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上 二印、稲田福堂）。

〔備考〕朱引、朱句読点、その他、墨書入有。川瀬・五一四・八八八頁。  
「寛永十七年刊左大将六百番歌合等と同種的小型活字印本で、 寛永後期の開版と認められる」。

◎法制 注釈

111 御成敗式目抄 三卷 舟橋宣賢（清原宣賢）

〔請求番号〕5／9／1791

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二七・九×一九・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一六・五×四・〇糎）、稚拙な筆で「御成 敗式目（抄／全）」。

〔内題〕「御成敗式目抄卷之中」。

〔尾題〕「式目抄卷上終」、「中終」、「御成敗式目抄卷下終」。

〔本文〕每半葉二行×二三字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边（二一・八×一六・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「式目抄上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五三丁（上）、第二冊、四四丁（中）、第三冊、四七丁（下）。

〔刊記〕「寛永元年八月吉辰」。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。川瀬・四七七・四八九・八七一頁、寛永元年刊本。 図 録篇・八九九図に大東急本の図録を収む。

◎法制 注釈

112 御成敗式目抄 三卷 舟橋宣賢（清原宣賢）

〔請求番号〕5／9／3／1792

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）栗皮渋引き表紙。二七・九×一九・八糎。四 針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の单边刷梓書題簽（一八・三×三・〇糎）、「貞永式 目抄 上（中・下）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一三行×二五字内外。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边（二一・九×一七・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「式目抄上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四五丁（上）、第二冊、三七丁（中）、第三冊、四一丁

(下)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。前表紙見返しに識語、「法藏院重口」。川瀬、(四)寛永

中刊(十三行)本(ロ)。

◎隨筆

113 語園 二卷 一条兼良撰

〔請求番号〕42/14/3275

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕縹色空押雷文襷に雨竜文様表紙。二七・九×一八・三糎。四針

袋綴。

〔題簽〕無。やや左に「語園集 全」と朱打付書。

〔内題〕「語園上(下) 目録」、「語園上(下)」。

〔尾題〕「語園上(下) 目録終」(上は目録を「目録」とする)、「語園上

終」、「語園下終(十二格空) 桃華老人撰」。

〔本文〕每半葉一〇行×二三字。漢字片仮名交。小型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺(上目録、一八・二×一三・八糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「語園上(下) 丁附」。

〔丁数〕八四丁(上目録・三丁、上・三六丁、下目録・三丁、下・三九丁)。

〔刊記〕「(低四格)寛永四年丁卯秋七月既望(二格空)刊之」。

〔印記〕無。

〔備考〕上・一丁表、七丁表、下・一丁表、二丁裏に朱引、朱句読点が施されているのみ。川瀬、四九一・五七九・九二〇頁。

◎軍記物語

114 源平盛衰記 四八卷

〔請求番号〕7/20/1924

〔体裁〕大本二四冊。二卷合冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繫蓮華唐草文様表紙。二七・八×二〇・四糎。

四針袋綴。押八双があり、同版の蓬左文庫蔵本(駿河御譲本)

と同じ表紙が掛けられているが、後代の補写である第一冊(繪

目)にも同一の表紙が掛けられていることから、後補の表紙の

可能性もある。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一八・八×二・七糎)、「源平盛衰記 一

(廿ノ四終)」。第二二冊の題簽の下には、「源平盛衰記」と打

付書されているのが見える。

〔内題〕「源平盛衰記波卷第三(一須卷第四十七)」、「源平盛衰記卷第四

十八」。

〔尾題〕無。ただし、卷六と卷十五は「終」。

〔本文〕每半葉一一行、毎行一九字内外。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺(二一・六×一六・六糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「盛衰記(巻幾) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四〇丁（補写、源平盛衰記繪目）、第二冊、七六丁（波卷第三、目録一丁・本文三七丁／糸卷第四、目録一丁・本文三七丁）、第三冊、六五丁（保卷第五、目録一丁・本文三三丁／辺卷第六、目録一丁・本文三〇丁、一二丁欠）、第四冊、五七丁（登卷七、目録一丁・本文二八丁／智卷第八、目録一丁・本文二七丁）、第五冊、六六丁（理卷第九、目録一丁・本文三三丁／奴卷第十、目録一丁・本文三二丁）、第六、七〇丁（留卷第十一、目録一丁・本文三九丁／遠卷第十二、目録一丁・本文二九丁）、第七冊、五六丁（和卷第十三、目録一丁・本文二七丁／佳卷第十四、目録一丁・本文二七丁）、第八冊、六二丁（世卷第十五、目録一丁・本文三一丁／陀卷第十六、目録一丁・本文二九丁）、第九冊、七三丁（礼卷第十七、目録一丁・本文三八丁／曾卷第十八、目録一丁・本文三三丁）、第一〇冊、五八丁（津卷第十九、目録一丁・本文二六丁／祢卷第二十、目録一丁・本文三〇丁）、第一一冊、四七丁（那卷第二十一、目録一丁・本文二二丁／羅卷第二十二、目録一丁・本文二三丁）、第一二冊、五九丁（牟卷第二十三、目録一丁・本文二七丁／宇卷第二十四、目録一丁・本文三〇丁）、第一三冊、六三丁（井卷第二十五、目録一丁・本文二七丁／濃卷第二十六、目録一丁・本文三四丁）、第一四冊、六二丁（於卷第二十七、目録一丁・本文二七丁／俱卷第二十八、目録一丁・本文三三丁）、第一五冊、五六丁（屋卷第二十九、目録一丁・本文二六丁／摩卷第三十、目録一丁・本文二八丁）、第一六冊、六二丁（希

卷第三十一、目録一丁・本文二七丁／賦卷第三十二、目録一丁・本文三三丁）、第一七冊、七七丁（古卷第三十三、目録一丁・本文三六丁／榎卷第三十四、目録一丁・本文三九丁）、第一八冊、七四丁（伝卷第三十五、目録一丁・本文四〇丁／阿卷第三十六、目録一丁・本文三二丁）、第一九冊、六六丁（佐卷第三十七、目録一丁・本文三三丁／幾卷第三十八、目録一丁・本文三二丁）、第二〇冊、六八丁（遊卷第三十九、目録一丁・本文三四丁／目卷第四十、目録一丁・本文三二丁）、第二一冊、五九丁（弥卷第四十一、目録一丁・本文二七丁／資卷第四十二、目録一丁・本文三〇丁）、第二二冊、五九丁（衛卷第四十三、目録一丁・本文二九丁／緋卷第四十四、目録一丁・本文二八丁）、第二三冊、六四丁（裳卷第四十五、目録一丁・本文三一丁／勢卷第四十六、目録一丁・本文三一丁）、第二四冊、六〇丁（須卷第四十七、目録一丁・本文二六丁／卷第四十八、目録一丁・本文三二丁）。本文中に章段名立てず。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印）、二印、稲田福堂、卷末に「春」（墨小印）。

〔備考〕上欄に朱墨で、平家物語との異同、吾妻鏡、公卿補任による記述が若干施されている。慶長中刊。龍門文庫蔵本には、卷末に墨書による識語、「慶長十一（丙／午）曆八月廿七日（以下墨消）」（第一・一五・一六・冊）、「慶長十一（丙／午）稔八月廿七日

(以下墨消Ⅱ下対州秀久?)」(第六・一一・二三冊)、「慶長十  
一(丙/午)八月廿七日(以下墨消)」(第七・一二冊)、「慶長  
十一(丙/午)載八月廿七日(以下墨消)」(第二四冊)があり、  
およその刊行年時を特定することができる。高木浩明「古活字  
版『源平盛衰記』の諸版について」、「源平盛衰記の古活字版に  
ついて」(松尾葦江編『文化現象としての源平盛衰記』、笠間書  
院、二〇一五年)。

◎歌合

115 左大将家六百番歌合 八卷 藤原良経等詠・藤原俊成判

〔請求番号〕41/27/3076

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補薄茶色横刷毛目文様表紙。二七・〇×一八・〇糶。四針袋  
綴。

〔題簽〕無。第一冊のみ、左肩に「左大将家六百番歌合二二」と打付書。

〔内題〕「左大将家六百番歌合卷第一(〓八)目録」、「左大将家六百番歌  
合卷第一(〓八)」。

〔尾題〕「左大将家六百番歌合卷第一(〓八)終」。

〔本文〕每半葉二行×二六字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・七糶(卷第一)。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、七四丁(卷第一)、目録・二丁、本文・四四丁、卷第二、

目録・一丁、本文・二七丁)、第二冊、一一二丁(卷第三、目録・  
一丁、本文・四三丁、卷第四、目録・一丁、本文・二九丁、卷  
第五、目録・二丁、本文・三七丁)、第三冊、一〇二丁(卷第六、  
目録・一丁、本文・二六丁、卷第七、目録・一丁、本文・四一  
丁、卷第八、目録・一丁、本文・三二丁)。  
〔刊記〕「(低二格)寛永十七年九月吉辰」。  
〔印記〕表紙の右下に、「朝田/所藏」(岸本由豆流、朱方印)が捺され、  
「四十六」と墨書のある紙片を貼付。  
〔備考〕無書入。

◎歌合

116 左大将家六百番歌合 八卷 藤原良経等詠・藤原俊成判

〔請求番号〕41/27/3077

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕原装(押八双有)丹空押菱繋ぎ蓮華唐草文様表紙。二八・四×  
二〇・八糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「左大将歌合卷一(〓八)」と打付書。

〔内題〕「左大将家六百番歌合卷第一(〓八)目録」、「左大将家六百番歌  
合卷第一(〓八)」。

〔尾題〕「左大将家六百番歌合卷第一(〓八)終」。「六百番歌合卷七終」。

〔本文〕每半葉一行×二六字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・五糶(卷第一)。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、五一丁（卷第一、目録・二丁、本文・四九丁）、第二冊、

三一丁（卷第二、目録・一丁、本文・三〇丁）、第三冊、四八丁

（卷第三、目録・一丁、本文・四七丁）、第四冊、三三丁（卷第

四、目録・一丁、本文・三三丁）、第五冊、四二丁（卷第五、目

録・一丁、本文・四二丁）、第六冊、三〇丁（卷第六、目録・一

丁、本文・二九丁）、第七冊、四六丁（卷第七、目録・一丁、本

文・四五丁）、第八冊、三六丁（卷第八、目録・一丁、本文・三

五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「清氏記」（朱長方印）、「洒竹文庫」（大野洒竹、朱長方印）

〔備考〕無書入。川瀬・五五五頁、第一種本。

◎歌合

117 左大将家六百番歌合 八卷 藤原良経等詠・藤原俊成判

〔請求番号〕41/27/3078

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕後補縹色空押雷文櫛に雨竜文様表紙。二七・九×二〇・七糎。

四針袋綴。

〔題簽〕左肩題簽剥落。第一冊のみ左肩に「六百番」と打付書。卷四の

剥落題簽（一八・七×三・一糎）、「六百番哥合<sup>四</sup>也」は挟み

込み。

〔内題〕「左大将家六百番歌合卷第一（〜八）目録」、「左大将家六百番歌

合卷第一（〜八）」。

〔尾題〕「左大将家六百番歌合卷第一（〜八）終」。「六百番歌合卷七終」。

〔本文〕每半葉一行×二六字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・五糎（卷第一）。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、五一丁（卷第一、目録・二丁、本文・四九丁）、第二冊、

三一丁（卷第二、目録・一丁、本文・三〇丁）、第三冊、四八丁

（卷第三、目録・一丁、本文・四七丁）、第四冊、三三丁（卷第

四、目録・一丁、本文・三三丁）、第五冊、四二丁（卷第五、目

録・一丁、本文・四二丁）、第六冊、三〇丁（卷第六、目録・一

丁、本文・二九丁）、第七冊、四六丁（卷第七、目録・一丁、本

文・四五丁）、第八冊、三六丁（卷第八、目録・一丁、本文・三

五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「加持井御文庫」（朱長方印）、「圓融藏」（朱長方印、以上二印、

三千院）、「盛胤ノ之印」（梶井宮盛胤）。

〔備考〕無書入。虫損多し。川瀬・五五五頁、第一種本。

◎教訓

118 女訓抄 三卷

〔請求番号〕42/14/3/3276

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 原裝（押八双有）薄縹色空押卍繫ぎ唐草文様表紙。二七・六×一八・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕 上巻のみ新補の書題簽（二七・九×二・九糎）、「女訓抄」。以下の冊は、左や下に「中」「下」とのみ書す。

〔内題〕 「（低三格）女訓抄序」、「（低二格）女訓抄中（下）」。

〔尾題〕 「（低二格）女訓抄上（中・下）終」。

〔本文〕 毎半葉一三行×二二字内外。漢字平仮名交。濁点附活字を交える。章段内における細節の見出しに■の標識を用いる。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一一・〇糎。

〔版心〕 卷（上・中・下）と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 第一冊、四〇丁（上）、第二冊、三二丁（中）、第三冊、四三丁（下）。

〔刊記〕 「（低一格）寛永十六年三月吉辰」。刊記の「寛永十六年」「月」

「吉辰」は、『大和物語』（寛永十六年二月）、『宝物集』（寛永十六年三月）、『伊曾保物語』（寛永十六年四月）と同一の活字を使用する。

〔印記〕 無。

〔備考〕 無書入。川瀬・四八一・八七三頁。寛永十四年と十六年の両度に印行。『増補古活字版之研究』に著録されているのは、寛永十六年「二月」刊。ここに現在、寛永十六年「三月」刊の大東急

記念文庫蔵の久原文庫旧蔵本も著録しているが、誤認。その異

植字版。

### ◎医学

119 十五指南篇 三巻 曲直瀬道三 著

〔請求番号〕 54/8/8/2870

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 新補薄茶色表紙。二三・四×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の薄茶色書題簽（一五・一×三・三糎）、「十五指南篇 上（中・下）」。

〔内題〕 「（低三格）十五指南篇目録」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 毎半葉一二行×一八字。

〔匡郭〕 四周双辺（一八・二×一七・五糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「医工指南上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二五丁（目録・一丁、医学指南篇一・六丁、医法指南篇二・四丁、診切指南篇三・四丁、立方指南篇四・五丁、用藥指南篇五・五丁）、第二冊、三七丁（用藥指南篇六・七丁、弁劑指南篇七・一三丁、弁治指南篇八・六丁、治療指南篇九・五丁、治例指南篇十・六丁）、第三冊、三二丁（治法指南篇十一・一三丁、脾胃指南篇十二・四丁、戒慎指南篇十三・五丁、療養指南篇十四・五丁、摂食指南篇十五・四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕「讀杜／艸堂」（寺田望南、朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印）、  
「福堂」（朱長方印、以上二印、稲田福堂）

〔備考〕全丁裏打修補。朱引、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されて  
いる。川瀬・三三五・七五八頁。伝本他に、国立国会図書館蔵  
（高木文庫旧蔵）本、研医学会図書館蔵本。国文学研究資料館の  
日本古典籍総合目録データベースは、本書を『医学指南篇』と  
して掲げ、「医学十五指南」「十五指南」「医工指南」等の別書名  
を列記している。

◎漢詩

120 四河入海 二五卷 笑雲清三編

〔請求番号〕35/37/585

〔体裁〕大本五〇冊。二卷合冊。

〔表紙〕薄茶色表紙（押八双はあるが後補）。二七・七×二〇・三糎。五  
針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「四河入海一之上（〜廿五之下終）」と打付書。

〔内題〕「四河入海卷第一之一 前建長笑雲清三述／増刊校正百家註東坡先  
生詩序／（低六格）状元王公 十册 龜齡撰」、増刊校正王状元  
集註分類東坡先生詩註氏／（低四格）状元王公 十册 龜齡纂  
集、「王状元集百家註分類東坡先生詩卷之一」、「四河入海卷第  
一之二（〜廿五之四） 前建長笑雲清三述」。

〔尾題〕「四河入海卷第一之一（〜二十五之四（二格空）終）」。

〔本文〕序、每半葉九行×一八字。卷之一、每半葉注小字一七行×一  
八字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边（序、二二・二×一六・五糎、卷之一、二二・九×一  
六・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「東坡序（氏・四河入海一之一（〜廿五之  
四） 丁附）」。

〔丁数〕第一冊、一四二丁（序・四丁、氏・四丁、卷之一・五七丁、卷  
一之二・七七丁）、第二冊、一五八丁（卷一之三・七六丁、卷一  
之四・八二丁）、第三冊、一一六丁（卷二之一・五二丁、卷二之  
二・六四丁）、第四冊、八二丁（卷二之三・三九丁、卷二之四・  
四二丁）、第五冊、一四六丁（卷三之一・六七丁、卷三之二・七  
九丁）、第六冊、一〇二丁（卷三之三・五三丁、卷三之四・四九  
丁）、第七冊、一三二丁（卷四之一・六三丁、卷四之二・六九丁）、  
第八冊、一二三丁（卷四之三・六二丁、卷四之四・六一丁）、第  
九冊、一一三丁（卷五之一・五七丁、卷五之二・五六丁）、第一  
〇冊、一二五丁（卷五之三・七七丁、卷五之四・四八丁）、第一  
一冊、一一六丁（卷六之一・五八丁、卷六之二・五八丁）、第一  
二冊、九二丁（卷六之三・四五丁、卷六之四・四六丁）、第一三  
冊、一四二丁（卷七之一・七〇丁、卷七之二・七一丁）、第一四  
冊、一一八丁（卷七之三・五五丁、卷七之四・六三丁）、第一五  
冊、一三八丁（卷八之一・六四丁、卷八之二・七四丁）、第一六  
冊、一〇三丁（卷八之三・五三丁、卷八之四・五〇丁）、第一七

冊、一〇九丁（卷九之一・四九丁、卷九之二・六〇丁）、第一八冊、一〇二丁（卷九之三・五〇丁、卷九之四・五一丁）、第一九冊、一〇二丁（卷十之一・五一丁、卷十之二・五〇丁）、第二〇冊、九三丁（卷十之三・四八丁、卷十之四・四五丁）、第二一冊、一二〇丁（卷十一之一・六二丁、卷十一之二・五八丁）、第二二冊、一一六丁（卷十一之三・五八丁。二三・二四丁錯簡、卷十一之四・五八丁）、第二三冊、一〇七丁（卷十二之一・五二丁。四〇・五二丁錯簡（四〇・五二・五一・五〇・四九・四八・四七・四六・四五・四四・四三・四二・四一）、卷十二之二・五五丁。二二丁表裏反転誤綴）、第二四冊、九六丁（卷十二之三・四九丁、卷十二之四・四七丁）、第二五冊、一二六丁（卷十三之一・六五丁、卷十三之二・六一丁）、第二六冊、九五丁（卷十三之三・四六丁、卷十三之四・四九丁）、第二七冊、九六丁（卷十四之一・四五丁、卷十四之二・五二丁）、第二八冊、一〇四丁（卷十四之三・五〇丁、卷十四之四・五四丁）、第二九冊、八〇丁（卷十五之一・四四丁、卷十五之二・三六丁）、第三〇冊、九一丁（卷十五之三・四七丁、卷十五之四・四四丁）、第三一冊、一二五丁（卷十六之一・六四丁、卷十六之二・六一丁）、第三二冊、一一二丁（卷十六之三・五三丁、卷十六之四・五九丁）、第三三冊、一一五丁（卷十七之一・六一丁、卷十七之二・五四丁）、第三四冊、一一〇丁（卷十七之三・五六丁、卷十七之四・五四丁）、第三五冊、一三四丁（卷十八之一・六七丁、卷十八之二・六七丁）、第

三六冊、一二〇丁（卷十八之三・六一丁、卷十八之四・五九丁）、第三七冊、二〇四丁（卷十九之一・一〇〇丁、卷十九之二・一〇四丁）、第三八冊、一七二丁（卷十九之三・八七丁、卷十九之四・八五丁）、第三九冊、一〇二丁（卷廿之一・四九丁、卷廿之二・五二丁）、第四〇冊、一一一丁（卷二十之三・五六丁、卷二十之四・五五丁）、第四一冊、一一九丁（卷廿一之一・六〇丁、卷廿一之二・五九丁）、第四二冊、一一七丁（卷廿一之三・六〇丁、卷廿一之四・五七丁）、第四三冊、一〇九丁（卷廿二之一・五四丁、卷廿二之二・五五丁）、第四四冊、一一五丁（卷廿二之三・五八丁、卷廿二之四・五七丁）、第四五冊、一〇九丁（卷廿三之一・五三丁、卷廿三之二・五六丁）、第四六冊、一一六丁（卷廿三之三・五九丁、卷廿三之四・五七丁）、第四七冊、一四九丁（卷廿四之一・七四丁、卷廿四之二・七五丁）、第四八冊、一四七丁（卷廿四之三・七四丁、卷廿四之四・七三丁）、第四九冊、一二六丁（卷廿五之一・六三丁、卷廿五之二・六三丁）、第五〇冊、一四〇丁（卷廿五之三・七六丁、卷廿五之四・六四丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「子孫永保／共五十卷／雲煙家／藏書記」（安西雲煙、青長方印）  
〔備考〕表紙には押八双があるが後補。各冊とも前後に遊紙を有するが、

前遊紙と見返し紙は同一で、その見返しに安西雲煙の藏書印が捺されていることから、安西の許にあった時（江戸後期）に改装された表紙と言える。通常は百冊。本書は二巻ずつの合冊改

装。川瀬・三六七・八〇九頁、慶長元和中刊。

◎事典

121 拾芥抄 三卷 洞院公賢編・実熙補

〔請求番号〕43/46/3527

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮渋引き表紙。二七・五×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「拾芥抄上本（下末）」と朱打付書。

〔内題〕「拾芥抄上本（下）目録」、「拾芥抄中目録（或略／要抄）」、「略要抄上」、「拾芥抄上末（中本・中末・下本・下末）」。

〔尾題〕「拾芥上本（中末・下本・下末）終」、「拾芥抄上末終」、「拾芥中本」。

〔本文〕每半葉一一行×一九字。注小字双行。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单边（二一・六×一六・三糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「拾芥上本（下末）」丁附。

〔丁数〕第一冊、三七丁（上本目録・二丁、上・三五丁）、第二冊、三五丁（上末）、第三冊、四五丁（中目録・二丁、中本・四三丁）、

第四冊、七五丁（中末。丁附五十六と五十九丁の間に平安京図ほか四丁入る、丁附ずれ。宮城指図・五丁、八省指図・一丁、

四行八門図・一丁）、第五冊、六一丁（下目録・二丁、下本・五九丁）、第六冊、五三丁（下末）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「六六山洞／凹凸窠夫」（第一冊巻首と第六冊巻末のみ、陽陰刻）、「詩仙堂」（朱長方印、以上二印、石川丈山）、「北氏家蔵」（陰刻、朱長方印）。

〔備考〕石川丈山手沢本。朱墨（主に墨）により返点、振仮名、送仮名が施される他、墨筆で異本との校合の他、書人が多数施されている。第二冊には『江談抄』による書入があり、巻末に墨識語、「江談抄一読之次楽器部加筆畢己亥秋日 月窩」。川瀬・五七八・九一九頁、（二）慶長中刊（单边）。

◎事典

122 拾芥抄 三卷 洞院公賢編・実熙補

〔請求番号〕43/46/3528

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕後補茶色空押麻の葉文様表紙。二六・八×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・七・二×二・七糎）、「拾芥抄 一」。

〔内題〕「拾芥抄上本（下）目録」、「拾芥抄中目録（或略／要抄）」、「略要抄上」、「拾芥上末（中本・下本・下末）」、「拾芥抄中末」。

〔尾題〕「拾芥上本（中末）終」、「拾芥中本（下本）」。上末・下末は尾題なし。

〔本文〕 每半葉一行×一九字。注小字双行。漢字片仮名交。

〔匡郭〕 四周双辺（上本目録、二一・六×一七・二糶）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「拾芥上本目録（上本・上末・中目録・

中本・中末・下目録・下本・下末） 丁附。

〔丁数〕 第一冊、三七丁（上本目録・二丁、上・三五丁）、第二冊、三五

丁（上末）、第三冊、四五丁（中目録・二丁、中本・四三丁）、

第四冊、七四丁（中末・六二丁、宮城指図・五丁、四行八門図・

半丁、坊保図・半丁、八省指図・一丁、平安京図ほか・四丁、

大日本図・一丁）、第五冊、六二丁（下目録・二丁、下本・五九

丁）、第六冊、五二丁（下末）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 無。

〔備考〕 虫損多し。全丁裏打修補。朱引、朱丸、墨筆で返点、振仮名、

送仮名が施されている。川瀬・五七八・九一九頁、（一）慶長中

刊（双辺）。

〔内題〕 「城西聯句序」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一三行×一一字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一一・〇糶。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「九千句序（上・下・跋） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、九三丁（序、嘉靖己亥（一七八年、一五三九）豊存叔

書・三丁、上・九〇丁）、第二冊、九六丁（下・九〇丁。八九丁

と跋、錯簡、弘治二（一五五六）年惟高妙安（一四八〇）一五

六七）の跋および刊記・六丁）。

〔刊記〕 「元和四歳霜月吉辰」（低五格）二兵衛 開板」。

〔印記〕 「熊／岳」金剛證寺藏書」（朱長方印）、「大／器」（下巻巻末、

朱陰刻印）。他、上巻巻首に判読不明の朱方印一印。

〔備考〕 朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名等が施

されている。伝本は異植字版が二種確認でき、刊記に若干の違

いがある。「元和四歳霜月日／二兵衛 開板」（鶴見大学図書館・

叡山文庫）、「元和四歳霜月吉辰／二兵衛 開板」（大東急記念文

庫）。川瀬・三九六・九一六頁、深沢真二「城西聯句」の諸本

（下）「かがみ」第四十八号、大東急記念文庫、二〇一八年三

月）。

### ◎ 聯句

#### 123 城西聯句 二巻 策彦周良 等編

〔請求番号〕 41 / 37 / 3157

〔体裁〕 横本二冊。

〔表紙〕 新補茶色表紙。一三・二×一九・〇糶。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の書題簽（九・七×二・三糶）、「城西聯句 上（下）」。

◎物語

124 狭衣物語 存卷一之上〜三之下

〔請求番号〕43/4/3380

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補薄縹色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二七・〇×一九・

四糎。四針袋綴。

〔題簽〕中央に後補の薄紅色書題簽（一八・二×三・九糎）、「さころも

第一の上（〜第三の下）」。

〔内題〕「狭衣卷第一之上（〜三之下）」。

〔尾題〕「狭衣卷第一之上（〜三之下）終」、「三上終」。

〔本文〕每半葉一二行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・一糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、四三丁（卷第一之上）、第二冊、三六丁（卷第一之下）、

第三冊、四〇丁（卷第二之上）、第四冊、五〇丁（卷第二之下）、

第五冊、五八丁（卷第三之上）、第六冊、六三丁（卷第三之下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「吉野隆平蔵書」（朱長方印、双辺）、「洒竹文庫」（大野洒竹、朱

長方印）。

〔備考〕墨筆で振仮名が若干施される。川瀬・五一五頁、（二）元和中刊

無刊記本（イ）種。

◎物語

125 狭衣物語 四卷

〔請求番号〕43/4/3381

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕後補薄縹色空押唐草文様表紙。二七・八×二〇・三糎。四針袋

綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一八・〇×三・五糎）、「狭衣卷第一之

上（〜四之下）」。

〔内題〕「狭衣卷第一之上（〜四之下）」。

〔尾題〕「狭衣卷第一之上（〜四之下）終」、「三上終」。

〔本文〕每半葉一二行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・三糎。

〔版心〕無。ノドに巻と丁附を刻す。

〔丁数〕第一冊、四三丁（卷第一之上）、第二冊、三六丁（卷第一之下）、

第三冊、四〇丁（卷第二之上）、第四冊、五〇丁（卷第二之下）、

第五冊、五八丁（卷第三之上）、第六冊、六三丁（卷第三之下）、

第七冊、七八丁（卷第四之上）、第八冊、四九丁（卷第四之下）。

〔刊記〕「（低四格）元和九年五月中旬（六格空）心也開板」。

〔印記〕「決馬／度刀／水」（朱方印、陰刻）、「早川／蔵書」（朱方印）、

「親／契」（墨方印、陰刻）

〔備考〕無書入。（一）元和九年刊本。次項「43/4/3382」本と

同版。

◎物語

126 狭衣物語 四卷

〔請求番号〕 43/4/3382

〔体裁〕 大本八冊。

〔表紙〕 原装(押八双有)薄茶色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二八・

〇×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に原刷題簽(一七・四×三・四糎)、「狭衣卷第一上(〓卷第四下)」。

〔内題〕 「狭衣卷第一之上(〓四之下)」。

〔尾題〕 「狭衣卷第一之上(〓四之下)終」、「三上終」。

〔本文〕 每半葉一二行×二三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕 無。ノドに巻と丁附を刻す。

〔丁数〕 第一冊、四三丁(卷第一之上)、第二冊、三六丁(卷第一之下)、

第三冊、四〇丁(卷第二之上)、第四冊、五〇丁(卷第二之下)、

第五冊、五八丁(卷第三之上)、第六冊、六二丁(卷第三之下、

一三丁欠)、第七冊、七七丁(卷第四之上、四七丁欠)、第八冊、

四九丁(卷第四之下)。各冊とも前遊紙各一丁。

〔刊記〕 「(低四格) 元和九年五月中旬(六格空) 心也開板」。

〔印記〕 「賜蘆文庫」(新見正路、朱長方印、双辺)、「永田文庫」(永田有

翠、朱長方印、小)、「沙羅/榊園」(朱方印)、「水譜/藏書」(朱

方印、陰刻)。

〔備考〕 第六冊の後表紙裏に刷反古「人なしひ/ひのそののあからさ/

をらிரりて火をあふきけち/より給へと宮もうへにのほり/れ  
はにや人の音もせずしめ/」。第七冊の巻首二丁のみ朱書入。

(一) 元和九年刊本。次項「43/4/3381」本と同版。

◎物語

127 住吉物語 二卷

〔請求番号〕 43/2/3372

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補香色雲母刷文様(菱十字・菱唐花文様)表紙。二七・六×

一九・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕 中央に後補、茶色書題簽(一九・一×四・一糎)、「住よし物語

上」、「住吉物語 下」。

〔内題〕 「(低三格) すみよし物語上(下)」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一二行×二三字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二三・二糎。

〔版心〕 「上(下)」と丁附のみを刻す。

〔丁数〕 第一冊、三〇丁(上)、第二冊、一八丁(下、一五丁欠)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「歌堂文庫」(井上文雄、朱長方印、双辺)。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で濁点を施す。川瀬・五一六頁、(二)第

二種本（元和中刊十二行二十三字本）。

◎室町物語

128 四十二の物あらしひ

〔請求番号〕43/5/3387

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕栗皮表紙（原表紙か。但し、表皮はがれ多し）。二五・七×一九・

三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「（低二格）四十二の物あらしひ」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。挿絵（二丁表・八丁表・

一二丁表・一八丁表）。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・四糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕二〇丁。

〔刊記〕無

〔印記〕「岡田氏／□竹書圖（陰刻）／圖書記」（朱長方印）、「淡海國八

幡／岡田八六式蔵」（朱長方印）。

〔備考〕無書入。丹緑本。川瀬・五九二頁、（一）第一種本。寛永中の印

行。図録篇・五三四図に大東急本の図版を収む。

◎室町物語

129 しゃかの本地（しゃかのほんち） 三巻

〔請求番号〕43/5/3383

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕丹空押出繋ぎ牡丹唐草文様表紙（押八双を有するが後補）。二

七・四×一七・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「しゃかの本地 上下」と打付書。

〔内題〕「（低二格）しゃかのほんち上（下）」。

〔尾題〕「（低二格）しゃかのほんち上（下）終」。

〔本文〕每半葉一行×一九字。漢字平仮名交。濁点附、附訓活字を交  
える。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・〇糎。

〔版心〕「上（下）」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、二八丁（上）、第二冊、二八丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕墨筆で若干の書入はあるが、無書入に等しい。川瀬・五九三・

九三一頁。「本書は、活字の摩滅著しく、濁点附の活字を混じ、

間々振假名附真名活字をも加へた古い活字を用ひて寛永中に摺

刷を行つてゐる」。（一）（イ）種。

◎歌集

130 新古今和歌集 二〇巻 源通具・藤原有家・藤原定家・藤原家隆・

藤原雅経（飛鳥井雅経）撰

〔請求番号〕 33 / 12 / 147

〔体裁〕 大本四冊。

〔表紙〕 後補縹色表紙。二五・六×一九・一。四針袋綴。第一冊の前

表紙の見返しには具引きを施し、水辺の景、後表紙の見返しには水辺を行く騎馬武者が描かれている。

〔題簽〕 中央に、具引きが施された後補の書題簽（一九・三×四・六。六。六）

「定家卿自筆の写（二・四冊、うつし）／新古今和歌集 壹巻 / 二三 / 四五（十六巻 / 七十八 / 十九廿）」。

〔内題〕 「新古今和歌集序」、「新古今和歌集卷第一（一二十）」。

〔尾題〕 「（低二格）新古今和歌集卷第一（一二十）終」。第三・四冊は尾題なし。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字内外。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、序、二一・二。糶。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、七八丁（序・五丁、巻第一・一五丁、巻第二・一一丁、

巻第三・一四丁、巻第四・一八丁、巻第五・一五丁）、第二冊、

六六丁（巻第六・二三丁、巻第七・八丁、巻第八・一七丁、巻

第九・六丁、巻第十・一二丁）、第三冊、五五丁（巻第十一・一

二丁、巻第十二・九丁、巻第十三・一二丁、巻第十四・一二丁、

巻第十五・一一丁）、第四冊、六九丁（巻第十六・二二丁、巻第

十七・一三丁、巻第十八・一八丁、巻第十九・九丁、巻第二十・

八丁）。

〔刊記〕 無。巻末に、「（低三格）新古今一部二十巻以定家卿自筆これを

／（低三格）うつす文字書様等一事以ほん尤たる／（低三格）へからすしやう本たるへき者也／（低四格）于時応永十九年十一月七日／（低二格）仁和寺之宮御本申出これをしよしやし／

（低二格）をわむ」。

〔印記〕 「阿波國文庫」（朱長方印）、「不忍文庫」（朱長方印）、「岡田眞／

之藏書」（朱長方印）、「月明莊」（朱長方印、大）。

〔備考〕 無書入。やや厚手の楮紙を用いて摺刷。川瀬・五五一・九〇三

頁、「其の（一）は慶元（慶長元和）中の印行と認む可きもの、

活字書体は筆画稍太く、光悦の垂流を承く」。佐々木孝浩「できの悪い古活字版一慶長元和頃刊『新古今和歌集』の性格をめぐるて一」（『斯道文庫論集』第四十八輯、二二一三年）参照。

◎漢詩文

131 性靈集 一〇巻 空海 著・真濟 編・濟暹 補

〔請求番号〕 41 / 37 / 3158

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙。二八・六×二〇・三

糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「性靈集上(中・下)」。

〔内題〕「遍照發揮性靈集序／(低二格) 西山禪念ノ沙門(二格空) 真濟  
(三格空) 撰集」(補写)、「遍照發揮性靈集卷第一 大遍照金剛  
和尚文」、「遍照發揮性靈集卷第二(〽七)」、「統遍照發揮性靈集  
補闕抄卷第八(〽十)」。

〔尾題〕「遍照發揮性靈集卷第一(〽七)」、「統遍照發揮性靈集補闕抄卷  
第八(〽十)」。

〔本文〕每半葉九行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(二二・四×一五・九糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、性靈集卷一(〽十) 丁附。

〔丁数〕第一冊、五六丁(序(補写)・三丁、卷第一・一二丁、卷第二・  
一五丁、卷第三・八丁、卷第四・一八丁)、第二冊、六一丁(卷  
第五・一〇丁、卷尾丁補写、卷第六・一二丁、八丁補写、卷第  
七・一四丁、卷第八・二六丁)、第三冊、四一丁(卷第九・一七  
丁、卷第十・二四丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「純ノ宗」(墨丸印)。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施される他、朱引、朱句読点、  
朱傍点も若干施されている。川瀬、慶長元和中刊(七七〇頁、  
恐らく慶長中の印行であらう) 双辺有界九行十八字本。但し、  
『性靈集』については川瀬も十分に把握できておらず、刊行年  
代についても再考の余地がある。

◎音韻 辞書

132 聚分韻略 虎関師鍊 著

〔請求番号〕43/39/3501

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補縹色雲文様刷表紙。二四・七×一六・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕項目は二行分の大活字、本文は極小の活字二行で記す。小字は  
一八行×二五字。

〔匡郭〕四周单辺(東第一、一六・〇×一一・九糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「東一(〽嚴十六・爛葛藤) 丁附」。

〔丁数〕第一冊(上平)、一四九丁(東第一・一二丁、冬第二・一五丁、  
江第三・五丁、支第四・三三丁、微第五・一一丁、魚第六・一  
四丁、虞第七・二五丁、齋第八・一三丁、佳第九・八丁、灰第  
十・一七丁、真十一・二六丁、文第十二・一一丁、元第十三・  
二二丁、寒第十四・二二丁、刪第十五・九丁)、第二冊(下平)、  
二七三丁(版心Ⅱ先一・二六丁、卷首丁欠、蕭第二・一九丁、  
肴第三・七丁、豪第四・一五丁、歌第五・一八丁、麻第六・一  
七丁、陽第七・三〇丁、庚第八・二三丁、青第九・一二丁・蒸  
第十・一四丁、尤第十一・一九丁、侵第十二・一二丁、覃第十  
三・九丁、鹽第十四・九丁、咸第十五・四丁、嚴第十六・二丁、

版心〓爛葛藤・三八丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕上欄を中心に朱墨で書入が施されている。第一の巻末に識語、

「寛永十七庚辰年九月十三日／牧純（墨丸印〓四角に丸「井」）。

川瀬・五七七頁。図録篇・五〇五図に大東急本の図版を収む。

但し、部分拡大撮影のため、原本のイメージとは異なった図版  
になっている。右隣の『倭名類聚抄』の活字と同じくらいの大  
きさに写っているが、実際は大きく違う。

### ◎連歌 辞書

#### 133 匠材集 存第三・四 紹巴著

〔請求番号〕41／31／3120

〔体裁〕横本一冊。

〔表紙〕後補薄緑色空押雷文襷に雨童文様表紙。一三・四×二〇・三糎。

四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「匠材集」と打付書。

〔内題〕「匠材集第三（四）」。

〔尾題〕「匠材集卷第三之終」、「匠材集第卷四終」。

〔本文〕每半葉一四行×一一字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・〇糎。

〔版心〕無。ノドに巻数（三・四）と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕一一四丁（第三・六一丁、第四・五二丁半、慶長二年三月上旬、

紹巴跋・半丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。第二種本。

### ◎連歌 辞書

#### 134 匠材集 四卷 紹巴著

〔請求番号〕41／31／3121

〔体裁〕横本四冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）栗皮表紙。一四・〇×二一・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二〇・八×三・〇糎）、「匠材集 へ日／

一〓へ月／二〓へ星／三〓へ辰／四〓」。題簽右に「よたれそつねな  
／らむうゐの」（第二冊）、「おくやまけふこ／えてあ」（第三冊）、

「さきゆめみしゑ／ひもせず」（第四冊）と墨書のある紙票を貼  
付。

〔内題〕「匠材集第一（〓四）」。

〔尾題〕「匠材集第一（〓四）之終」。

〔本文〕每半葉一三行×一一字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・〇糎。

〔版心〕「第一（〓四）」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、九〇丁（序・二丁、第一・八九丁）、第二冊、六六丁（第

二)、第三冊、七九丁(第三、七〇丁の丁附「又六十九」、以下、丁附にずれあり)、第四冊、六九丁(第四・六八丁、慶長二年三月上旬、紹巴の跋・一丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「天満之荘／西善寺藏」(朱長方印、双边)。

〔備考〕書入は第四冊の二〇丁表に一箇所あるのみ。川瀬・五五九・九

〇五頁、元和寛永中の開版と認むべき兩種(四版)の活字印本が存する。第一種本(ハ)種。図録篇・四七一図に大東急本の図版を収む。

### ◎通史

#### 135 先代旧事本紀

〔請求番号〕7/8/1871

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二五・三×一八・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一八・五×三・一糎)、「先代旧事本紀 上(下)」。

〔内題〕「先代旧事本紀卷第十二(低一格)天孫本紀」、「先代旧事本紀 卷第ノ(低一格)天孫本紀下十三」、「先代旧事本紀卷第十五(低一格)神皇本紀下上之下」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉八行×一六字。大型活字。

〔匡郭〕四周双边(二〇・〇×一三・五糎)、無界。

〔版心〕「旧事紀十二(十三・十五)」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、五〇丁(卷第十二・二五丁、卷第十三・二五丁)、第二冊、二九丁(卷第十五)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」(朱方印)。

〔備考〕無書入。川瀬・五八四頁、「寛永中の活字に若干新雕活字を混じて摺刷し、巻末に寛文十年の跋文刊語を附するものと附せざるものがある」。寛永を下る古活字版か。

### ◎法制 考証

#### 136 職原抄 二卷 北畠親房

〔請求番号〕33/11/143

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補薄縹色表紙。二九・一×一九・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「職原抄」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周单边(下卷一丁表、二五・一×一六・三糎)、無界。

〔版心〕黒口黒魚尾(下向き一つ、上向き二つ)、中縫、「職原抄」丁附。

〔丁数〕第一冊、四六丁(木記一丁、職原抄・四五丁)、第二冊、五二丁

(彈正台)、四三丁、卷尾に誤綴)。

〔刊記〕「職原鈔慶長ノ己亥季春刊」(慶長己亥ノ慶長四年、一丁裏、双  
辺木記、匡郭内、一四・八×九・三糎)。

〔印記〕「□□清賞」(朱長方印)、「□□□□圖書記」(朱長方印)、「子□  
ノ藏書」(朱方印)等。

〔備考〕慶長勅版。上巻破損の丁多し。裏打修補。

◎法制 考証

137 職原抄 二卷 北畠親房

〔請求番号〕33/11/144

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補赤茶色表紙。二七・二×一九・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕新補の薄茶色書題簽(一八・二×三・三糎)、「職原鈔 上(下)」。

〔内題〕「職原抄上(下)」。

〔尾題〕「職原抄上(下) 卷終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺(二一・〇×一六・〇糎)、無界。

〔版心〕上下真ん中に黒口、上下に双花口魚尾、中縫に「職原抄上(下)」、

「丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁(上)、第二冊、七六丁(下・四九丁、補遺・六  
丁、後附・二〇丁、跋・一丁)。

〔刊記〕跋、「官位職員科目備令條雖載之上古風儀輒難識量多端也而ノ

今此鈔者外頭除書之体内含ノ令式之義而摸周典之職配唐ノ官之

名又述自中古覃當時諸ノ家昇進旨趣殆如指掌也是以ノ桃華禪閣  
被加格言尤可謂官ノ位職掌之龜鑑者也爰中原職忠ノ欲鍔梓之余

需校讎因聚考數ノ本從其宣而已并可便覽者七ノ八科附其後ノ于  
皆慶長戊申夏四月蚯蚓出日ノ吏部少卿清原秀賢誌」。

〔印記〕「天師明經儒」(朱長方印、跋の始め)、「清原ノ秀賢」(朱方印、

跋の終)、「江風山ノ月莊」(稲田福堂、朱方印)、「稲田ノ福堂ノ  
圖書」(朱方印)。

〔備考〕跋文の後に墨識語、「右職原抄二冊吏部少卿清原秀賢朝臣跋言明

白也其訓点ノ清家代々之秘訣壺井義知氏鶴翁北鷺見正言氏短山  
翁師ノ伝的々之秘本也今不違一字書写之畢誓盟之外猥不可ノ有

他見漏脱者也ノ元文改元之春葦原度会常典(花押)。朱墨によ  
る書入多数。裏打修補。川瀬・二〇五・四七八・六九三頁、慶

長十三年刊秀賢版、異版二種あり。図録篇・四八図、右に該当。

◎法制 考証

138 職原抄 二卷 北畠親房

〔請求番号〕33/11/145

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補縹色空押疋繫ぎ文様表紙。二七・八×二〇・六。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に薄茶色布目地の書題簽(一八・二×三・五糎)、「職原鈔

上(下)」。

〔内題〕「職原抄上(下)」。

〔尾題〕「職原抄上(下) 卷終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺(二一・一×一六・一糎)、無界。

〔版心〕黒口、上下に双花口魚尾、中縫、「職原抄上(下)」、「丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁(上)、第二冊、七五丁(下・四八丁、補遺・六

丁、後附・二〇丁、跋・一丁)。他、各冊とも新補の遊紙、前後に一丁。

〔刊記〕跋のみ。前記参照。

〔印記〕「天師明經儒」(朱長方印、跋の始め)、「清原/秀賢」(朱方印、

跋の終)。

〔備考〕無書入。上巻は「33/11/144」本と同版、下巻は異版。

上巻の見返しに「明治十年六月三日/於大橋操吾店得之/信寅」

と墨書した付箋が貼付されている。桐箱入、箱の表蓋には「職

原鈔 上下」、裏蓋には「船橋秀賢朝臣真蹟/四半本二冊全部板

本奥書字形/外題自筆藏本之朱印アリ/古筆了仲(花押)「青口

(木)/印」(朱方印)。

### ◎伝記

139 信長記 一五巻 小瀬南庵撰

〔請求番号〕7/13/1901

〔体裁〕大本一二冊。

〔表紙〕新補紫色表紙。二六・〇×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一八・七×三・一糎)、「信長記 一(十二止)」。

〔内題〕「(低一格) 信長記起」、「信長記第一(十五) 目録」、「信長記

第二/(低二格) 興亡/(低十二格) 大田和泉守牛一輯録/(低十二格) 小瀬用庵道喜居士重撰」(「信長記第十五/(低十二格) 大田和泉守牛一輯録/(低十二格) 小瀬南庵道喜居士重撰」)。

〔尾題〕「信長記第一(十五) 終」。

〔本文〕每半葉二行×二三字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周单辺(二二・三×一六・九糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「信長記(信長記一目・信長記一(十五) 丁附)」。

〔丁数〕第一冊、三三丁(起・二丁、巻第一、目録・一丁、本文・三〇

丁、三〇丁裏・12「去トモ引組テ上ヲ下ヘトシケル処ヲ此者

討セテ叶ハシト信」まで)、第二冊、三二丁(巻第一、三二丁表・

1「長卿ツ、ト走懸リ美作守ヲ鍵付給ケレハ御中間ニテ有」)、

第三冊、一六丁(巻第二、目録・一丁、本文・一五丁)、第四冊、

二七丁(巻第三、目録・一丁、本文・二六丁)、第五冊、一六丁

(巻第四、目録・一丁、本文・九丁、巻第五、目録・一丁、本

文・五丁)、第六冊、二四丁(巻第六、目録・一丁、本文・二三

丁)、第七冊、二四丁(巻第七、目録・一丁、本文・八丁、巻第

八、目録・一丁、本文・一四丁)、第八冊、一六丁(巻第九、目

録・一丁、本文・六丁、巻第十、目録・一丁、本文・八丁)、第八冊、一四丁(巻第十一、目録・一丁、本文・一三丁)、第九冊、一六丁(巻第十二、目録・一丁、本文・一五丁)、第一〇冊、二二丁(巻第十三、目録・一丁、本文・一三丁、巻第十四、目録・一丁、本文・七丁)、第二一冊、一九丁(巻第十五、目録・一丁、本文・一八丁、一八丁裏・12「一群臣計其器量宜任其職而被與恩祿其任其職不」まで)、第二二冊、二二丁(巻第十五、一九丁表・1「違則何往而停滯ノ愁有ンヤ大厦ハ一本ノ支ニ非ストモ」)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「酒竹文庫」(大野酒竹、朱長方印)。

〔備考〕墨筆で、返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬・六〇八頁、(三)第三種本(元和寛永中刊)。「版式等凡て第二種本と同一、同種活字の異植版なるべし」。図録篇・五七八図に大東急本の図版を収む。柳沢昌紀「甫庵『信長記』古活字版の本文改訂―片仮名第六種本を中心に―」(『軍記と語り物』第四四号、二〇〇八年)参照。

### ◎随筆

140 清少納言(枕草子) 五巻 清少納言著

〔請求番号〕43/7/3396

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕新補の紫色改装表紙。二七・四×一八・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一九・二×二・八糎)、「清少納言一(〓五)」。

〔内題〕無。

〔尾題〕「清少納言卷一(〓五)終」。

〔本文〕每半葉一三行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・〇糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、五二丁(巻一、春はあけほの〓)、第二冊、五三丁(巻二、集は〓)、第三冊、五二丁(巻三、あはれなるもの〓)、第四冊、三七丁(巻四、陀羅尼は〓)、第五冊、二四丁(巻五、下かさねは〓)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「永田文庫」(永田有翠、朱長方印、小)。

〔備考〕朱引、朱句読点、濁点の他、朱墨で「イ」本との校合が多く施されている。川瀬、五二二・八九一頁、第三種本(寛永中刊三行本)(ロ)種。「活字の書体は先行二本に比して稍拙にして小型なり。本書と同種活字印本狭衣十三行本を初め頗る多し。各版種の前後未詳なるも(イ)(ロ)は密接なる関係にある可く、(二)種最も後印と推定せらる」。伝本他に国立国会図書館蔵本等。

◎花道

141 仙伝抄 富阿弥伝

〔請求番号〕42/24/3318

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補黄色表紙。二七・五×一八・二糎。包背装、四綴。

〔題簽〕左肩に新補の書題簽（二一・四×四・二糎）、「仙伝抄 活字板

完」（「江風山／月荘」の印捺す）。

〔内題〕「仙伝抄」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一一行×二〇字。漢字平仮名交。稍小型の活字で、元和

寛永中刊とされる古活字版に見られる二倍角の真名活字（草・

事・御・月）、附訓真名活字（仙・頼政）<sup>せんよりまさ</sup>を交える。挿絵有。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・五糎。

〔版心〕「仙伝」と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕四二丁（目録・二丁、本文・四〇丁）。

〔刊記〕無。卷末に「此仙伝抄者三条殿御秘本頼政公依御所望文安／二

年三月廿五日 富阿弥相伝」、「天文五年正月十七日 池房専慈

／右相伝次第如此」。

〔印記〕「江風山／月荘」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕無書入。川瀬・四八四・四九二・四九三・八七四頁、（三）第三

種本。元和寛永中刊（十一行本）。図録篇・三三〇図に大東急本

の図版を収む。

◎軍記物語

142 太平記 四〇巻

〔請求番号〕7/21/1925

〔体裁〕大本三九冊。巻第一欠、巻第二・巻第二十三・二十四・三十三・

三十四、整版補配。

〔表紙〕後補黄褐色空押巻雲文様表紙。第二一～二九冊、丹空押巻雲文

様表紙、第三〇冊～、茶色横刷毛目文様表紙（二六・四×一八・

八糎。五針袋綴。後表紙は茶色横刷毛目文様表紙（第二一冊～

二九冊、縹色表紙）。

〔題簽〕左肩に後補の水色書題簽（二〇・二×四・七糎）、「本朝太平記

初篇貳（～第四拾四篇）」。

〔内題〕「太平記卷第三（～四十） 目録」、「太平記卷第三（～四十）」。

〔尾題〕「太平記卷第三（～四十）」。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（巻第三本文巻首丁、一一・九×一六・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「太平記卷三（～四十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、（巻第二、整版補配、双辺無界（二一・八×一六・七糎）、

一二行×二二丁、附訓）、第二冊、二三丁（巻第三、目録・一丁、

本文・二二丁）、第三冊、二八丁（巻第四、目録・一丁、本文・

二七丁）、第四冊、一九丁（巻第五、目録・一丁、本文・一八丁）、

第五冊、二三丁（巻第六、目録・一丁、本文・二二丁）、第六冊、

二五丁（巻第七、目録・一丁、本文・二四丁）、第七冊、三一丁

(卷第八、目録・一丁、本文・三〇丁)、第八冊、三三丁(卷第九、目録・一丁、本文・三二丁)、第九冊、三六丁(卷第十、目録・一丁、本文・三五丁)、第一〇冊、二四丁(卷第十一、目録・一丁、本文・二三丁)、第一一冊、三四丁(卷第十二、目録・一丁、本文・三三丁)、第一二冊、二九丁(卷第十三、目録・一丁、本文・二八丁)、第一三冊、四四丁(卷第十四、目録・一丁、本文・四三丁)、第一四冊、三三丁(卷第十五、目録・一丁、本文・三二丁)、第一五冊、四五丁(卷第十六、目録・一丁、本文・四四丁)、第一六冊、五二丁(卷第十七、目録・一丁、本文・五〇丁)、第一七冊、四三丁(卷第十八、目録・一丁、本文・四二丁)、第一八冊、二六丁(卷第十九、目録・一丁、本文・二五丁)、第一九冊、三二丁(卷第二十、目録・一丁、本文・三〇丁)、第二〇冊、二九丁(卷第二十一、目録・一丁、本文・二八丁)、第二一冊、二三丁(卷第二十二、目録・一丁、本文・二二丁)、第二二冊、二三冊、卷第二十三・二十四、整版補版。卷第二とは別版、双边無界(卷第二十三、二〇・五×一六・七糎)、一二行×二二丁、第二四冊、一三丁(卷第二十五、目録・一丁、本文・二二丁)、第二五冊、三八丁(卷第二十六、目録・一丁、本文・三七丁)、第二六冊、二八丁(卷第二十七、目録・一丁、本文・二七丁)、第二七冊、二六丁(卷第二十八、目録・一丁、本文・二五丁)、第二八冊、三三丁(卷第二十九、目録・一丁、本文・三二丁)、第二九冊、二六丁(卷第三十、目録・一丁、本文・二五丁)、

第三〇冊、二八丁(卷第三十一、目録・一丁、本文・二七丁)、第三一冊、三五丁(卷第三十二、目録・一丁、本文・三四丁)、第三二・三三冊、卷第三十三・三十四、整版補配、双边無界(卷第三十三、一九・七×一六・四糎)、一二行×二二丁、第三四冊、三三丁(卷第三十五、目録・一丁、本文・三二丁)、第三五冊、二六丁(卷第三十六、目録・一丁、本文・二五丁)、第三六冊、二六丁(卷第三十七、目録・一丁、本文・二五丁)、第三七冊、三一丁(卷第三十八、目録・一丁、本文・三〇丁)、第三八冊、三六丁(卷第三十九、目録・一丁、本文・三五丁)、第三九冊、一三丁(卷第四十、目録・一丁、本文・一二丁)。

〔刊記〕「(低二格)慶長十年(乙巳)九月上旬日」。

〔印記〕「山與/丹岩」(墨長方印)、「富(陰刻)蕃(陽刻)」(墨長方印)、「虎金/丹福」(墨丸印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱墨による返点、振仮名、送仮名、上欄に朱

墨による書入が施されている。天地化粧裁。要法寺版。「本文は慶長八年刊本を底本とし、慶長七年刊本による補訂が行われている。また、一部に日性撰『太平記鈔』の記述と対応する独自の補訂箇所もあり、本版が要法寺で日性の手により刊行されたことを裏づける」(小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』、新典社、二〇一八年、初版、二〇〇六年)。

〔請求番号〕7/22/1926

〔体裁〕大本二〇冊。

〔表紙〕新補薄赤茶色表紙。二八・〇×二〇・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・三×三・一糎）、「太平記 一

（〜）」。

〔内題〕「太平記巻第一（〜四十）目録」、「太平記巻第一（〜四十）」。

〔尾題〕「太平記巻第一（〜四十）終」。

〔本文〕毎半葉一二行×二三二字。漢字片仮名交。活字は稍小型。字画は細い。

〔匡郭〕四周单边（巻第一、二三・〇×一六・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「太平記目録（〜四十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六四丁（目録・一七丁。一・二・五〜十一・三・四・

十二〜十七、錯簡あり。巻第一、目録欠、本文・一七丁、巻第

二、目録・一丁、本文・二九丁）、第二冊、五二丁（巻第三、目

録・一丁、本文・二三丁、巻第四、目録・一丁、本文・二七丁）、

第三冊、四〇丁（巻第五、目録・一丁、本文・一七丁、巻第六、

目録・一丁、本文・二二丁）、第四冊、五三丁（巻第七、目録・

一丁、本文・二三丁、巻第八、目録・一丁、本文・二八丁）、第

五冊、六五丁（巻第九、目録、本文・〇足利殿御上洛事〜夜既

二明ケレハ前陣進ヲ後陣ヲ待大将大江ノ峠ヲ打」二一丁補写、

後代の筆。三〇丁。目録丁と本文巻首丁の間に巻十の本文巻首

丁誤綴、巻第十、目録・一丁、本文・三三丁）、第六冊、五四丁

（巻第十一、目録欠、本文巻首丁欠。本文・二二丁、巻第十二、

目録・一丁、本文・三三丁）、第七冊、六八丁（巻第十三、目録・

一丁、本文・二六丁、巻第十四、目録・一丁、本文・四〇丁）、

第八冊、七三丁（巻第十五、目録・一丁、本文・三〇丁、巻第

十六、目録・一丁、本文・四一丁）、第九冊、四七丁（巻第十七、

目録・一丁、本文・四七丁）、第一〇冊、六四丁（巻第十八、目

録・一丁、本文・三九丁、巻第十九、目録・一丁、本文・二三

丁）、第二一冊、五六丁（巻第二十、目録・一丁、本文・二八丁、

巻第二十一、目録・一丁、本文・二六丁）、第二二冊、六九丁（巻

第二十二、目録・一丁、本文・二〇丁、巻第二十三、目録・一

丁、本文・一六丁、巻第二十四、目録・一丁、本文・三〇丁、

第一三冊、五九丁（巻第二十五、目録・一丁、本文・二二丁、

巻第二十六、目録・一丁、本文・三六丁。七丁重複）、第一四冊、

五一丁（巻第二十七、目録・一丁、本文・二六丁、巻第二十八、

目録・一丁、本文・二三丁）、第一五冊、五五丁（巻第二十九、

目録・一丁、本文・三〇丁、巻第三十、目録・一丁、本文・二

三丁）、第一六冊、六〇丁（巻第三十一、目録・一丁、本文・二

六丁、巻第三十二、目録・一丁、本文・三三丁）、第一七冊、五

九丁（巻第三十三、目録・一丁、本文・三二丁、巻第三十四、

目録・一丁、本文・二六丁。三・四丁錯簡）、第一八冊、五七丁

(卷第三十五、目録・一丁、本文・三二丁。一三〇一五丁錯簡、

卷第三十六、目録・一丁、本文・二四丁)、第一九冊、五四丁(卷

第三十七、目録・一丁、本文・二四丁、卷第三十八、目録・一

丁、本文・二八丁)、第二〇冊、四六丁(卷第三十九、目録・一

丁、本文・三三丁、卷第四十、目録・一丁、本文・一一丁)。

〔刊記〕「(低一格)慶長十五曆<sup>庚戌</sup>二月上旬日(三格空)春枝開板」。

〔印記〕「荻原/蔵書」(朱方印)、「細弥」(墨長方印、小)。一部の巻に

「山田/所有」(朱方印、陰)、「細物屋」(墨印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で振仮名が施される。第三冊目以下はほ

んど墨筆による振仮名が若干施される程度。全丁裏打修補。

第一冊の前表紙見返しに「水屋山人(印、佐田/武繁、録/叔)」、

後表紙見返しに「佐田弥七郎蔵/武繁(花押)」、第七冊の前表

紙見返しに「廿三冊之内/佐田弥七郎/武(花押)」、第一〇冊

の前表紙見返しに「卓斎(印、佐田/武繁/之印、字/録叔)」、

第一二冊の後表紙見返し「卓斎人」、第一三冊の巻末に「佐田武

繁蔵/安政二乙卯二月中旬調是」と墨書。「慶長十年刊本を底本

に、随所に天正本系(教運本のごとき本)の異文を増補した特

異な本文を持つ本。刊記より春枝なる人物が刊行に携わったこ

とが知られるが、本文整理には要法寺日性の深い関与が想定さ

れ、実際には日性が春枝をして刊行せしめた本と思われる。本

版と同活字を使用する『太平記鈔』『太平記音義』(第一種本)

と共時の刊行と考えられており、劍巻を附するのも本版を以て

最初とする。ただし、現存本には目録・劍巻一冊を附すものと、

目録のみの一冊を附すものがあり、すべてが劍巻を備えるわ

けではない(小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』、新典

社、二〇一八年、初版、二〇〇六年)。慶長十五年刊本は、(イ)

巻一第一丁のみ異版を交えるもの、(ロ)異版を交えないもの、

(ハ)巻一から巻十三の間に異版を交えるものがあるという。

大東急本は、巻五と六に同種の異版を交えている。

## ◎軍記物語

### 144 太平記 四〇巻

〔請求番号〕7/24/1927

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕原装(押八双有)栗皮表紙。二八・九×二〇・二糎。四針袋綴。

第一冊(目録、異版補配)は、新補の薄茶色表紙(後表紙は薄

茶色空押麻の葉文様表紙)、第九冊(巻第十五・十六は異版補配)、

原装(押八双有)薄茶色空押雷文繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二八・

七×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺粹原刷題簽(一八・〇×三・五糎)、「太平記 三之

四(〇冊九之四十)」。

異版補配の第一冊(目録)は、新補の書

題簽「太平記 目録」、第九冊は、左肩に双辺粹原刷題簽(一八・

二×三・五糎)、「太平記 十五之六」。

〔内題〕「太平記巻第一(〇四十) 目録」、「太平記巻第一(〇四十)」。

〔尾題〕「太平記卷第一（〜四十）終」。卷第十四は尾題なし。

〔本文〕毎半葉一二行×二一字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（卷第一、二一・三×一六・八糎、卷第十五、二一・

七×一六・九糎）、無界。第一冊、四周单辺（二三・二×一六・

六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「太平記目録 丁附」、「太平記一（〜四

十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一七丁（目録）、第二冊、五二丁（卷第一、目録・一丁、

本文・一八丁、卷第二、目録・一丁、本文・三一丁）、第三冊、

五二丁（卷第三、目録・一丁、本文・二二丁、卷第四、目録・

一丁、本文・二七丁）、第四冊、四二丁（卷第五、目録・一丁、

本文・一八丁、卷第六、目録・一丁、本文・二二丁）、第五冊、

五六丁（卷第七、目録・一丁、本文・二四丁、卷第八、目録・

一丁、本文・三〇丁）、第六冊、六九丁（卷第九、目録・一丁、

本文・三二丁、卷第十、目録・一丁、本文・三五丁）、第六冊、

五八丁（卷第十一、目録・一丁、本文・二三丁、卷第十二、目

録・一丁、本文・三三丁）、第八冊、七〇丁（卷第十三、目録・

一丁、本文・二七丁、卷第十四、目録・一丁、本文・四一丁）、

第九冊、七七丁（卷第十五、目録・一丁、本文・三二丁、卷第

十六、目録・一丁、本文・四三丁）、第一〇冊、九三丁（卷第十

七、目録・一丁、本文・四九丁、卷第十八、目録・一丁、本文・

四二）、第一一冊、五六丁（卷第十九、目録・一丁、本文・二四

丁、卷第二十、目録・一丁、本文・三〇丁）、第二二冊、五二丁

（卷第二十一、目録・一丁、本文・二八丁、卷第二十二、目録・

一丁、本文・二二丁）、第二三冊、五二丁（卷第二十三、目録・

一丁、本文・一七丁、卷第二十四、目録・一丁、本文・三二丁）、

第一四冊、六一丁（卷第二十五、目録・一丁、本文・二二丁、

卷第二十六、目録・一丁、本文・三七丁）、第一五冊、五四丁（卷

第二十七、目録・一丁、本文・二七丁、卷第二十八、目録・一

丁、本文・二五丁）、第一六冊、五八丁（卷第二十九、目録・一

丁、本文・三二丁、卷第三十、目録・一丁、本文・二四丁）、第

一七冊、六二丁（卷第三十一、目録・一丁、本文・二六丁。二

一丁欠、卷第三十二、目録・一丁、本文・三四丁）、第一八冊、

六二丁（卷第三十三、目録・一丁、本文・三三丁、卷第三十四、

目録・一丁、本文・二七丁）、第一九冊、六〇丁（卷第三十五、

目録・一丁、本文・三三丁、卷第三十六、目録・一丁、本文・

二五丁）、第二〇冊、五七丁（卷第三十七、目録・一丁、本文・

二五丁、卷第三十八、目録・一丁、本文・三〇丁）、第二一冊、

四八丁（卷第三十九、目録・一丁、本文・三五丁、卷第四十、

目録・一丁、本文・一一丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が若干施されている程度。川瀬、

図録篇・九四四図（慶長元和中刊別版）に大東急本の図版を収

む。第一冊（目録）は慶長十五年刊本、第九冊（巻第十五・十六）は無刊記双辺甲種本（慶長十年刊本を底本に、慶長八年刊本を以て若干の校訂を施した本文を持つ本。慶長十二年以前刊の無刊記単辺本の直前に刊行されたものと思われ、慶長十年九月以後慶長十二年以前の刊と特定できる）を補配。第一冊と九冊以外は、無刊記双辺乙種本（無刊記双辺甲種本をもとに翻印した本）（小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』、新典社、二〇一八年、初版、二〇〇六年）。

### ◎軍記物語

#### 145 太平記 四〇巻

〔請求番号〕7/26/1928

〔体裁〕大本四一冊。

〔表紙〕原装（押入双有）縹色表紙。二八・一×一九・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕中央に朱（白・水・黄）色の原刷題簽（金泥下絵入り、一九・

〇×四・〇糎）、「太平記 目録并劍（一〇〇四十）」。

〔内題〕「（低二格）つるぎの巻」、「太平記巻第一（〇〇四十）目録」、「太

平記巻第一（〇〇四十）」。

〔尾題〕「劍卷終」、「太平記巻第一（〇〇四十）終」。

〔本文〕毎半葉一一行×二〇字。漢字平仮名交。附訓、濁点附活字を交える。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一三三・五糎。

〔版心〕無。ノドに巻数と丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、五七丁（目録・一九丁、つるぎの巻・三八丁）、第二冊、三二丁（巻第一、目録・一丁、本文・三〇丁）、第三冊、四九丁（巻第二、目録・一丁、本文・四八丁）、第四冊、三五丁（巻第三、目録・一丁、本文・三四丁）、第五冊、四六丁（巻第四、目録・一丁、本文・四五丁）、第六冊、三〇丁（巻第五、目録・一丁、本文・二九丁）、第七冊、三五丁（巻第六、目録・一丁、本文・三四丁）、第八冊、三八丁（巻第七、目録・一丁、本文・三七丁）、第九冊、四七丁（巻第八、目録・一丁、本文・四六丁）、第一〇冊、五〇丁（巻第九、目録・一丁、本文・四九丁）、第一一冊、五五丁（巻第十、目録・一丁、本文・五四丁）、第一二冊、三六丁（巻第十一、目録・一丁、本文・三五丁）、第一三冊、五七丁（巻第十二、目録・一丁、本文・五六丁）、第一四冊、四五丁（巻第十三、目録・一丁、本文・四四丁）、第一五冊、六五丁（巻第十四、目録・一丁、本文・六四丁）、第一六冊、五〇丁（巻第十五、目録・一丁、本文・四九丁）、第一七冊、六七丁（巻第十六、目録・一丁、本文・六六丁）、第一八冊、七七丁（巻第十七、目録・一丁、本文・七六丁）、第一九冊、六五丁（巻第十八、目録・一丁、本文・六四丁）、第二〇冊、三七丁（巻第十九、目録・一丁、本文・三六丁）、第二一冊、四七丁（巻第二十、目録・一丁、本文・四六丁）、第二二冊、四三丁（巻第二十一、目録・一丁、本文・四二丁）、第二三冊、三四丁（巻第二十二、目録・

一丁、本文・三三丁)、第二四冊、二八丁(卷第二十三、目録・  
 一丁、本文・二七丁)、第二五冊、五二丁(卷第二十四、目録・  
 一丁、本文・五二丁)、第二六冊、三五丁(卷第二十五、目録(内  
 題、「二十四」と誤刻)・一丁、本文・三四丁)、第二七冊、五八  
 丁(卷第二十六、目録・一丁、本文・五七丁)、第二八冊、四二  
 丁(卷第二十七、目録・一丁、本文・四一丁)、第二九冊、四〇  
 丁(卷第二十八、目録・一丁、本文・三九丁)、第三〇冊、四九  
 丁(卷第二十九、目録・一丁、本文・四八丁)、第三一冊、三七  
 丁(卷第三十、目録・一丁、本文・三六丁)、第三二冊、四一丁  
 (卷第三十一、目録・一丁、本文・四〇丁)、第三三冊、五二丁  
 (卷第三十二、目録・一丁、本文・五一丁)、第三四冊、五〇丁  
 (卷第三十三、目録・一丁、本文・四九丁)、第三五冊、四一丁  
 (卷第三十四、目録・一丁、本文・四〇丁)、第三六冊、五〇丁  
 (卷第三十五、目録・一丁、本文・四九丁)、第三七冊、三八丁  
 (卷第三十六、目録・一丁、本文・三七丁)、第三八冊、三九丁  
 (卷第三十七、目録・一丁、本文・三八丁、七丁(本文六丁)・  
 5、「**禪門**」、切貼訂正)、第三九冊、四五丁(卷第三十八、目  
 録・一丁、本文・四四丁)、第四〇冊、五四丁(卷第三十九、目  
 録・一丁、本文・五三丁)、第四一冊、一七丁(卷第四十、目録・  
 一丁、本文・一六丁)。

〔刊記〕「(低二格)慶安三年庚寅五月吉日 荒木利兵衛開。」

〔印記〕「愛岳麓藏書」(大久保忠寄、朱長方印)、「平原書屋藏」(朱椿円

印、小)。

〔備考〕無書入。「寛永元年刊本を底本とする。川瀬一馬氏によれば、本  
 版では寛永元年刊本の附訓活字と慶安二年荒木利兵衛開版の  
 『鴉鷺合戦物語』の片仮名附訓真名活字が襲用されているとい  
 う」(小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』、新典社、二〇  
 一八年、初版、二〇〇六年)。

◎物語

146 竹取物語 二巻

〔請求番号〕21/115/1293

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補薄茶色雷文襷に菊花文様刷表紙。二五・一×一七・〇糎。

四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一七・八×二・七糎)、「竹取物語

上(下)」。

〔内題〕「(低二格)たけとりものかたり上(下)」。

〔尾題〕「上(下)終」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字内外。漢字平仮名交(主に平仮名)。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・九糎。

〔版心〕「上(下)」、丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、二六丁(上)、第二冊、一二丁(下)。

〔刊記〕無。

〔印記〕卷首に「青裳文庫」（狩谷掖斎、朱長方印）、「江原氏／蔵書記」

（朱長方印）、巻末に「木邨／正辞／図書」（木村正辞、朱方印）。

〔備考〕狩谷掖斎手沢本。墨筆で振仮名、朱筆で異本との校合を施す。

川瀬・五〇七・八八五頁、第三種本、慶長元和中刊。「枕草子十  
二行本等同種活字なり」。図録篇・三二九図に大東急本の図版を  
収む。

◎仮名草子

147 竹齋 二巻 磯田道治(富山道治)?

〔請求番号〕44/1/3535

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補薄紅色草花文様刷りだし表紙。二八・〇×一八・六糎。四

針康熙綴。

〔題簽〕左肩に、新補の薄紅色横縞刷書題簽（一九・二×三・九糎）、「竹

齋物語 上（下）」。右肩に、「書籍目録／種類文学／架数／番号

八二二／冊数二／北溟文庫」の蔵書票を貼付。

〔内題〕「（低二格）竹齋下」（竹齋上、巻首丁補写）。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二二字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・九糎（下巻首）。

〔版心〕「上（下）」、丁附を刻するのみ。

〔丁数〕第一冊、二四丁（上、巻首丁欠、補写）、第二冊、二三丁（下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「北溟文庫」（佐藤古夢、朱方印）、「信親」、「藤」（以上、墨丸印、

下巻のみ）。

〔備考〕墨筆で振仮名を施す程度。川瀬・六〇三頁、（二）第二種本（十  
一行小字本）、「刊行は寛永後半には降らぬもの」。

◎漢詩 注釈

148 長恨歌抄 清原宣賢

〔請求番号〕35/36/581

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補紫色表紙。二六・二×一八・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・三×二・八糎）、「長恨歌 全」。

〔内題〕「長恨歌（十五格空） 白楽天」。

〔尾題〕「長恨歌終」。

〔本文〕每半葉二行×二五字内外。漢字片仮名交。

〔匡郭〕上下双辺（二一・七×一六・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「長恨歌 丁附」。

〔丁数〕三一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「東／口」（朱方印）、「酒竹文庫」（大野酒竹、朱長方印）。

〔備考〕朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。巻末

に「沃藤（印）（印）」。

料紙は楮紙薄葉。次項「35/36/5

82」本と同版。川瀬・三六六・八〇八頁、(三)寛永中刊单边上下双辺十二行本。

◎漢詩 注釈

149 長恨歌抄 清原宣賢

〔請求番号〕35/36/582

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二五・五×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の单边刷梓書題簽(一八・三×三・一糎)、「長恨歌抄 全」。

〔内題〕「長恨歌(十五格空) 白楽天」。

〔尾題〕「長恨歌終」。

〔本文〕每半葉一二行×二五字内外。漢字片仮名交。

〔匡郭〕上下双辺(二一・七×一六・四糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「長恨歌 丁附」。

〔丁数〕三二丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名等が施されている。全丁合紙を入れて綴じ直す。前項「35/36/581」本と同版。川瀬・三六六・八〇八頁、(三)寛永中刊单边上下双辺十二行本。

◎漢詩 注釈

150 長恨歌抄 清原宣賢

〔請求番号〕35/36/583

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二六・九×一八・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の单边刷梓書題簽、「長恨歌抄 全」。

〔内題〕「長恨歌(十四格空) 白楽天」。

〔尾題〕「長恨歌抄 終」。

〔本文〕每半葉一行×二二字内外。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺(二一・七×一五・八糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「長恨歌抄 丁附」。

〔丁数〕三七丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「岡本藏書記」(墨長方印)、「閻魔庵/圖書部」(朱長方印)。

〔備考〕朱筆で返点、振仮名、送仮名、上欄と下欄に墨書人が若干施されている。前表紙見返しに「善行寺/香澤」と墨書。川瀬・三六六・八〇八頁、(二)慶長中刊双辺十一行本。

◎和歌

151 勅撰名所和歌抄出 二卷 宗碩編

〔請求番号〕41/17/3024

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕新補薄縹色表紙。二七・八×一九・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕新補薄茶色書題簽（一八・九×三・一糎）、「勅選名所和歌集 一（一四）」。

〔内題〕「勅撰名所和歌抄出上（下）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行、每行一首、右肩に所収勅撰集名、下部に作者名を注記する。類題名のみ大型の真名活字を用いる。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、約二三・一糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、四三丁（目録、一山、三十水・一丁、上本文・四二丁）、

第二冊、四一丁（笠置窟 山城、千載雜下物名／名にしおは、常のゆるきの杜にしもいかてかさきのはやすくぬる。〈登蓮

／法師〉、第三冊、四六丁（目録、三十一海、六十釈教付寺・

一丁、下本文・四五丁）、第四冊、四二丁（神樂小野 山城、

同十六あめにあるかくらののをのにちくさかり）

〔刊記〕無。卷末に、「此勅撰名所和歌為連歌用意宗碩法師抄出／之分而為上下二冊所謂吉野山詠花龍田河／題紅葉之類其数不可勝斗略

而注一兩首於／詠殊景物等者書加之凡連歌付合之事至統／後撰

集可用本歌之由去年重而伺／天氣令治定畢於作例者至新統古今

集可引／用之間今所載此抄也錯乱漏脱事等捨可加／執筆云々予

一覽之次聊録大綱而已／（一行空）／永正丙寅林鐘上澣（三格

空）槐陰散人在判」。

〔印記〕「藤波家藏書」（朱長方印）、「稻田／福堂／圖書」（朱方印）、「江

風山／月莊」（朱方印、以上二印、稻田福堂）。

〔備考〕無書入。全丁合紙を入れて綴じ直す。川瀬・五五五・九〇四頁。

「類字名所和歌集と同種の活字印本で、両書共に活字の摩滅が少しも見えないから、新雕の活字を以て開版したものであらう。

是が寛永後期寛永十七年刊左大将家六百番歌合等の如く其の印刷面に摩滅度の著しく現れる様になるまで多くの軍記物語・歌

書等の印刷に襲用せられたものである」。伝本、他に内閣文庫、

龍門文庫蔵。

## ◎雜記

### 152 ちんてき問答

〔請求番号〕43／5／3385

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二六・五×一八・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の単辺刷梓書題簽（一八・二×三・〇糎）、「塵摘問答 全」。

〔内題〕「（低二格）ちんてき問答」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。漢字平仮名交。稍小型の活字を用いる。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・四糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕三九丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕卷首丁切取。

〔備考〕無書入。川瀬・四九〇・六〇五・九三五頁、(三)第三種本(元和寛永中刊)。図録篇・五五八図に大東急本の図版を収む。寛永以後の刊か。

◎随筆

153 徒然草 二卷 兼好著

〔請求番号〕33/9/135

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕薄縹色空押唐花十字文様表紙(原表紙か)。二七・九×二〇・九  
糹。四針袋綴。

〔題簽〕中央上に原刷題簽(一五・〇×三・四糹)、「つれ／＼くさ上(下)」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×一七字内外。料紙には雲母刷の文様(紫苑模様)が施され、その上に素庵流の流麗な漢字平仮名の大型活字で本文が摺刷されている。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・〇糹。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、九四丁(上巻)、第二冊、七七丁(下巻)、花はさかりに

。各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕章段のはじめに朱筆「」。その他、伝本共通の切貼訂正(上、一七丁裏・6「露臺朝餉」、墨筆による本文の補訂(上巻、五丁裏・5「なりゆきなん」「き」の傍らに「く」、八丁表・4、「綾少路宮」「少」の傍らに「小」、四二丁裏・6「あかさのあつ物」「つじ)、五一丁表・2「前裁に草木のおほき」「草木」の右上に「石」、下巻、五〇丁裏・2「荊へき(草冠を擦り消し)、六四丁表・4「やすらかなる」(下に「か」補入)が施されている。川瀬、四四六・五二四・八五六頁、(二)嵯峨本(イ)第一種本(雲母摺)。「嵯峨本つれ／＼くさ 二冊」と墨書のある桐箱入。

◎随筆

154 徒然草 二卷 兼好著

〔請求番号〕43/7/3399

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕原装(押八双有)縹色空押市松文様表紙。二九・二×二〇・九糹。五針袋綴。

〔題簽〕中央上に薄茶色原刷題簽(一八・二×三・四糹)、「つれ／＼草上(下)」(上巻は「つれ／＼草」の部分破損)。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×一七字内外。漢字平仮名交。整版とも見紛う特徴のある書体の古活字版。濁点、句読点附。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・八糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、九八丁（上巻、二七丁補写、臨模）、第二冊、七七丁（下巻本文、七七丁表まで。七七丁裏、慶長十八年烏丸光広跋刊）。各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕「這兩帖吉田兼好法師燕居之日徒然向／暮染筆写情者也頃泉南亡羊处士／箕踞洛之草庵而談李老之虚無／説莊生之自然且以暇日对二三子戲講／焉加之後将書以命於工鍍於梓而付／夫二三子矣越句読清濁以下俾予糾／之予坐好其志忘其醜卒加校訂而已／復恐有其遺逸也／慶長癸丑仲秋日 黄門光広」。〔花押なし〕

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。川瀬、五二五・八九二頁、（三）烏丸本（慶長十八年刊）。

山田健三・伊東莉沙「烏丸本徒然草の印刷技法」〔『人文科学論集 文化コミュニケーション学』四六、信州大学人文学部、

二〇一二年三月）、鈴木広光『日本語活字印刷史』（名古屋大学

出版会、二〇一五年）参照。

◎随筆

155 徒然草 二巻 兼好著

〔請求番号〕43/8/3400

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕新補赤茶色表紙。二七・一×一八・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二八・二×三・三糎）、「徒然草 一

（一四）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二二字。漢字平仮名交。稍小型の活字を使用。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・五糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、三二丁（つれ／＼なるまゝに／＼後七日の阿闍梨）、第二冊、三四丁（車の五緒は／＼くすしあつしけ）、第三冊、二四丁（花はさかりに／＼城陸奥守泰盛は）、第四冊、二八丁（吉田と申／＼八になりし年）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「富田嫡／家蔵書」（朱長方印）、「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕第一冊の巻頭に、享保十九年の題言、各冊のはじめに目録を書写して補配。各章段のはじめに朱筆で「／＼」、墨筆で傍点、朱墨による書入が施されている。裏打修補。川瀬、五二三・八九二

頁、(六)慶長中刊十二行本(句読点植版)、「本書の零葉、静嘉堂文庫蔵日本書紀古活字本の原表紙裏張より銀子請取之日記等と共に出でたるを以て、元和元年以前の刊行と限定せらる」。但し、活字の趣からすると、「慶長中刊」とするには疑問の余地もある。伝本他に、東洋文庫蔵本(二点)・成篁堂文庫蔵本等。

◎随筆

156 徒然草 二巻 兼好著

〔請求番号〕43/8/3402

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕栗皮表紙(押八双はあるが後補)。二七・五×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一七・八×三・〇糎)、「つれ／＼」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。大型の特徴のある漢字平仮名交の活字を用いる。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・三糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、九二丁(上巻)、第二冊、七〇丁(下巻)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。第二冊の後表紙見返しに、「清泉井家所蔵／あなおもしろき／此草昏かな」と墨書。川瀬、五三三・八九二頁、(四)慶長中刊十行本、「保元平治平家物語等同種活字印本多し。兩版の前後は摩滅度誤植増加等の精査に抛りて(イ)(ロ)の順なる事知らる」。大東急本は(イ)。

◎随筆

157 ※徒然草 存上巻 兼好著

〔請求番号〕43/8/3403

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色空押麻の葉文様表紙(後表紙は茶色の改装表紙)。二八・九×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。無題。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二〇字内外。漢字平仮名交。稍小型の特徴のある活字を使用。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・三糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕七三丁。四七〜四九丁に破損、裏打修補。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。川瀬、五三三・八九二頁、(五)慶長中刊十一行本、「前記十行本と同書風にして型稍小、枕草子十二行本と相似たり」。川瀬氏は(イ)(ロ)の二種に分類し、「(ロ)は同種活字後印本、活字の摩滅著し」とし、久原文庫蔵本(現、大東急記念文庫蔵)を(イ)種に著録する(図録篇・九二九図に大東急本の図版を収む)。但し、大東急本は、(イ)種の東洋文庫蔵本(『岩崎文庫貴重書誌解題Ⅱ』二二三頁の図版)とも、(ロ)種の安田文庫蔵本(『増補古活字版の研究』図録篇三八八図)とも異なる版である。以下に巻首丁(二丁表)の本文を参考までに挙げる。「つれづれなるまゝに日くらしすゝりにむかひて心にうつりゆくよしなしことをそこはか」となく／書(かき)つくればあやしうこそ物くるおし」けれども／や此(この)世に生れては(むまれては)なかはしかる」へきことこそ／おほかめれみかとの御位(くらゐ)は」いともかしこし／竹のそのふのすゑ葉まで人間」の種ならぬそ／やんことなき一の人の御あり様(さ)まはさらなり／たゝ人もとねりなど給はるきは」ゝ(は)ゆゝしと見ゆ(みゆ)／その子むまこまでははふれに」たれと猶なまめ／かしそれよりしもつかたは程」につけつゝとき／にあひしたりかほなるもみ」つからはいみしと」(○)Ⅱイ種の東洋文庫本の本文、Ⅱイ種の東洋文庫本の改行の位置。

◎隨筆 注釈

158 徒然草寿命院抄 二巻 寿命院立安(秦宗巴)編

〔請求番号〕43/8/3401

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補丹色空押草花文様表紙。二七・六×一九・三糎、見返し新装、近時の改装か。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の絹題簽(一八・八×三・八糎)、「徒然草寿命院抄 上(下)」と書す。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉十二行、字数不等。

〔匡郭〕四周单边(下辺のみ双边、二三・一×一六・〇糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「徒抄上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、九六丁(総論・一丁／卜部系図・一丁／上巻、本文・九四丁)、第二冊、五三丁(下巻)。

〔刊記〕巻末に原刊記、「此抄者寿命院立安法印凌医家救療之暇広／見遠聞而漸終篇予披覽最奇之余揮短毫聊／録事状耳／慶長第六辛丑孟冬九日 也足叟素然」。

〔印記〕「游戲三昧院」(大久保紫香、朱長方印)、「紫香蔵」(大久保紫香、朱長方印)、「羽柴字瑪瑰」(瓢箪型朱印)、「稲田／福堂／圖書」(朱方印)、「江風山／月莊」(稲田福堂、朱方印)。

〔備考〕第二冊の巻末に識語、「羽柴氏／豊臣頼貞／求之」。

〔請求番号〕7/5/1853

〔体裁〕大本一三冊。神代卷欠。

〔表紙〕後補茶色表紙。二六・八×一八・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「日本書紀卷第三(三十三)」。

〔尾題〕「日本書紀卷第三(三十三)」(「日本書紀第十九」)。

〔本文〕每半葉八行×一八字。

〔匡郭〕四周双辺(卷第三、一二一・五×一五・六糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「日本紀三 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四五丁(卷第三・二〇丁、卷第四・一二丁、卷第五・

一三丁) 第二冊、四三丁(卷第六・一七丁、卷第七・二六丁)、

第三冊、四二丁(卷第八・六丁、卷第九・二二丁、卷第十・一

四丁)、第四冊、四九丁(卷第十一・二四丁、卷第十二・九丁、

卷第十三・一六丁)、第五冊、五〇丁(卷第十四・三〇丁、卷第

十五・二〇丁)、第六冊、三五丁(卷第十六・六丁、卷第十七・

二〇丁、卷第十八・九丁)、第七冊、四四丁(卷第十九)、第八

冊、五五丁(卷第二十・一四丁、卷第二十一・一二丁、卷第二

十二・二九丁)、第九冊、三三丁(卷第二十三・一三丁、卷第二

十四・二〇丁)、第一〇冊、三八丁(卷第二十五)、第一一冊、

五四丁(卷第二十六・一六丁、卷第二十七・二〇丁、卷第二八・

一八丁)、第二二冊、五一丁(卷第二十九)、第一三冊、三四丁  
(卷第三十)。

〔刊記〕第一五冊、卷第三十の卷末に跋刊、「此写本者当初安貞二年兼頼

校讎諸本ノ正応之中神祇権大副卜部兼方筆之収ノ于石室以来永

仁正四位下行神祇権大ノ副兼山城守卜部仲季嘉元甲永沙弥蓮ノ

恵康永壬午神祇権大副兼員軼書之云ノ云至永正之頃内大臣実隆

公以件本親ノ謄書訂朱墨点今摠内相公本鏤梓広伝ノ于世恐活板

之徒多誤刁刀陶陰矣庶幾ノ莫胎諄於余焉ノ慶長十五庚戌仲夏念

八ノ洛洒野子三白誌」。

〔印記〕「福田ノ福堂ノ圖書」(朱方印)。

〔備考〕朱句読点、墨筆で返点、振仮名(片仮名)が施されている。各

冊とも卷末に書写校合奥書が移写されている。「建武五年五月九

日交点了ノ永正十一端午自午刻始至酉刻書写了ノ天文八壬六十

書写了 在判ノ天文九正廿一以一條殿御本加一校之処無一字相

違ノ禁御本云ノ弘長元年九月一日書写了 移点同了ノ天文九十

廿一申出 禁裏御本加校合了件御本元本云々ノ天和二十二

廿日於窓下研未且加頭註了」(卷第四)、「建武五年五月十日書写

校了ノ永正十一端午日書之ノ天文八壬六十八書写了在判ノ禁御

本云ノ弘長元年九月三日書写了 移点同了ノ天文九十廿二以件

御本加校合了ノ天和二十二月念八頭註加点了」(卷第五)、「建武

五年五月十三日交点了ノ永正十一四月廿六書写了ノ天文八壬六

廿八書写了 在判ノ天文九十卅申出 禁裏御本加校合了 此卷

件御本／蓮致御筆也／天和三二月十日頭註加点了 印判〔卷第六〕、「建武五年五月十四日 交点畢／天文八七廿三書写了 在判／弘長元年九月廿日書写了 同廿五日移点了／天文九十一以件御本校合了／天和三仲春尽頭註加点了 一校了 印判有リ」〔卷第七〕、「貞和四年五月十三日七八兩卷誦進之神祇權大副兼員在判／天文九正十九以他本一校了／弘長元年九月廿七日書写了 同日移点了／天文九十一以件御本校合了 兼右／天和三季春十日頭註加点了 印判」〔卷第八〕、「貞和五年正月十八日誦進畢／神祇大副卜部兼員／天文八年十二月廿四遂書写之功了 在判／弘長元年十月廿六日書写了／弘長元年十一月六日移点了／天文九十一以禁中御本校合了／天和三季春日頭註加点了 御判有リ」〔卷第九〕、「貞和五年九月廿日誦進畢 卜部兼員／天文九正八書写了 在判／同九正十九以一條殿御本令一校之処無一字相違者也／禁云／弘長二年正月一日書写了／同三日移点了／天文九十一月三日以 禁裏御本加校合了／天和三初夏廿日頭註加点了 一校了 印判有リ」〔卷第十〕、「建武五年八月八日於浄土寺移点畢／同十日交之畢／借卜部氏累家本記或人加書写了則亦校合耳／文明六曆癸寅中澣日 老比丘御判／天文九正廿三以家本遂書写之功以一條殿御本／重令校合畢 御／判／天和三五月十日／朱点頭註了」〔卷第十一〕、「本交点畢 建武五年七月十八日／此一卷応禪閣之嚴命染禿筆不審之文字等先如本書之則遂一校訖／皆文明第六孟夏上旬候 藤原朝臣御判／以下部相伝之本加朱点重

校訖 老比丘御判／天文九三二遂書功加朱点重以件御奥書之本一校畢 在御判／天和三閏五月十六日頭註加点了」〔卷第十二〕、「本 建武五年八月十三日交点畢／以下部家本加書写則又校合了 老比丘御判／天文九三十七終書功了即以一條殿御本見合／家本校合之已 兼右在判／天和三年之夏六月单二朱点頭註了」〔卷第十三〕、「文明六年夏四月上旬命或人加書写訖 老比丘御判／同中旬校合直朱墨点了／天文九四八書写了以後成恩寺殿御奥書之御本／加校合了 兼右御判／天秋三年秋八月十三日朱点頭註了 印判」〔卷第十四〕、「本云／建武五年八月十三日交点畢 御判 兼豐御判也／以下部相伝本加書写則又令校合了 老比丘御判／以当家本与件御奥書御本加檢知令書写了 判／天文九四廿三／天和三年冬十月十六日朱点頭註了 存心斎田式 朱印 判」〔卷第十五〕、「文明六年五月以下部氏家本加書写了 老比丘御判／天文九四廿六累本与件御本令見合書写了／天和三年冬十月十九夜朱点頭註了 田式印判」〔卷第十六〕、「本云 文明六年季春廿一日於南都客舍以下部三品兼俱御本校合了 老比丘御判／天文九五二遂書写了以件御奥書 本与累家本見合者也／一條殿御本此卷外題神光院殿兼瀨御筆也 卜部朝臣兼右御判／天和三癸亥冬十一月廿六〔加点了頭註〕了 田中一式／朱印判」〔卷第十七〕、「文明六年五月上旬以下部氏秘本加書写但／文字誤等処々改直所書也／同中旬加点了 桃華老禪御判／天文九五十九申請一条殿之御本見合／家本書写之畢／貞享元年／六月下旬朱

点頭註了田式朱印」(卷第十九)、「本云 曆応二年五月廿二日一  
交畢／文明六年五月借用卜部家本命或人加書写了則又校之／御  
判 天文九年六月二日以件御奥書御本与家本見合之令／書写之  
了兼右判／貞享元年秋八月廿三夜朱点頭註了／皆在加州金沢  
田式朱印」(卷第二十)、「以下部家本粗校合之但彼本有不安者以  
旧本從之文明六年五月下旬 御判／以家本与件御本見合之加書  
写了 兼右御判／天文五年六月七日／貞享元年秋九月下旬朱  
点頭註了 田式朱印」(卷第二十一)、「以下部家本校之 御判／  
天文九十七以兩部之本見合之書写了 兼右御判／貞享元年初冬  
十日朱点頭註了 田式朱印」(卷第二十二)、「以下部本校合不善  
者不從之 御判／天文九六月廿五日以累本見合一条殿之御本ノ  
マ、卜部朝臣兼右」(卷第二十三)、「宝徳三二廿一点校畢／文  
明六五晦重以下氏本校之畢 御判／天文九六廿九以一條殿御本  
与累本加書写了 卜部兼右 御判」(卷第二十四)、「永正十年四  
月廿八日 書了／文明六年閏五月上旬以下部氏家本校合御判／  
天文九年七月十八日以一條殿御本与累家本見 兼右御判」(卷第  
二十五)、「文明六年閏五月上旬校合卜部本訖 御判／天文九年  
九月自二日至四日遂書写之功畢 兼右御判」(卷第二十六)、「本  
云／移点了 兼頼／覆勘了見合了 兼有 校合了 建武二十二  
廿五／曆応四年夏比書写移点了秋九月廿日校合了書本家秘密之  
本也御判兼豊也／永正十年五月十八日書了 逍遙院殿 御判／  
文明六年閏五月上旬以下部本校之 御判／天文九十三以累家本

与一条殿御本見合之書写了 兼右御判」(卷第二十七)、「文明六  
年閏五月上旬以下氏本校合了 御判／天文九十八以家本見合御  
奥書之書写了 兼右御判／貞享四年秋九月十日朱点頭註了 田  
式朱判」(卷第二十九)、「当家之本大永五曆沽洗十有八日先君御  
没落之尅／令紛失訖然三條内府実隆公以累代之秘本令書／写之  
仍享祿第二以件本遂書功了文字朱墨兩／点等謬說非一事是為烏  
焉之誤歟完一條／家門有此書紀令一覽之処後成恩寺太閤／御奥  
書炳焉也至卅卷神光院兼灑以真筆／令加証明賜故以兩本見合之  
終一部之書／功但猶非無不審仍以日本紀決釈并／字訓抄等正改  
之了尤可謂第一之証本矣／天文九曆十一月吉曜日 侍從卜部朝  
臣 御判／此書天地之開闢 神代之元由王臣之系譜披之如向鏡  
覽之／似仰日輒不流布天下爰阿波賀社神主神祇大祐卜部／定澄  
依度々之悉望／授与一部畢深凝信心厚致崇敬／莫令外見矣／天  
文第九曆仲夏中旬 神道長上下部朝臣兼右／享祿間書写之本如  
件奥書遣之了／本云／康永元年八月十九日終一部之書功加朱墨  
之点校了書本／神祇權大副兼員本也／本奥書云／安貞二年九月  
十三日移点了已終一部功者也 兼頼／即日覆勘了凡下帙十卷訖  
謬甚多用意而可見也／校合了彼本此卷注付云」(卷第三十)。川  
瀬・五八〇・九三三頁。「初版本にて神代卷を別版にて補配せる  
か、もしくは欠くもの」(口)。後記「7／6／1860」本と  
同版。

◎通史

160 日本書紀 三〇卷 舍人親王等編

〔請求番号〕7/5/1854

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補赤茶色表紙。二七・六×一八・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・二×三・三糎）、〔日本紀神

代卷 上（下）。

〔内題〕「日本書紀卷第一（二）」。

〔尾題〕「日本書紀卷第一（二）」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二〇・四×一四・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「日本紀 丁附（通し丁附）」。

〔丁数〕第一冊、四五丁（卷第一）、第二冊、四二丁（卷第二）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕書入、第一冊（卷第一）のみ。朱点、墨筆で返点、振仮名、上

欄には江家本、家本との校合、その他朱墨による書入が施されている。四五丁裏、後表紙見返しに本奥書等を移写、「神代上下

巻被 綸命仰息男卜部兼致遂／書写之功畢仍以累家之秘説加朱

墨両点／謹奉献上焉／文明第十三曆臈月上旬日曜日／神祇管領

勾当長上從二位行侍從臣卜部朝臣兼俱上／右奥書御本申出之書

写之訖深藏函底敢勿許外見矣／永正九年五月十日 少納言清原

朝臣（花押）／応永十二年十二月廿六日為參宮進發於路次詭進

之畢 神祇大副卜部兼敦／正二位行神祇權大副兼侍從卜部朝臣

兼名／永正十一年十一月廿八日書写一判／以右奥書本校正一

以）朱付仮名見人へスクニ切点ハ前ノ朱也／ワキニ切点ハ今ノ

校正ノ朱点也／宣賢／永正十五年六月廿三日講始同廿八日講終

了 宣賢／宣賢一 万里小路発起／一へ三福寺／発起）一へ二

條本覺寺／発起大永三）一へ叡山千十坊／発起大永四）一へ能

登国一宮神主宿所／享祿三 七 十六始）／右奥書在之宣賢脚

直筆之本ヲ以校合加朱点深禁外見矣／文化十四年閏十一月 從

四位下神祇權少副卜部隆啓（花押）。川瀬・九二二頁、（二）双

辺無界八行本（八）、慶長中刊本。

◎通史

161 日本書紀 三〇卷 舍人親王等編

〔請求番号〕7/5/1856

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕栗皮表紙（押八双有）。二八・五×一九・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に白墨で「日本紀一（一）三十一」。

〔内題〕「日本書紀卷第一（一）三十一」。

〔尾題〕「日本書紀卷第一（一）三十一」。

〔本文〕每半葉八行×一八字。

〔匡郭〕四周双辺（二二・七×一五・七糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「日本紀一（三十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四二丁（巻第二）、第二冊、三八丁（巻第二）、第三冊、四五丁（巻第三・二〇丁）、巻第四・一二丁、巻第五・一三丁）、第四冊、四三丁（巻第六・一七丁）、巻第七・二六丁）、第五冊、四一丁（巻第八・六丁）、巻第九・二二丁、巻第十・一四丁）、第六冊、四九丁（巻第十一・二四丁）、巻第十二・九丁、巻第十三・一六丁）、第七冊、四九丁（巻第十四・二九丁）。巻首丁欠、一二丁目も破損大。巻第十五・二〇丁）、第八冊、三五丁（巻第十六・六丁）、巻第十七・二〇丁）、巻第十八・九丁）、第九冊、四四丁（巻第十九）、第一〇冊、二六丁（巻第二十・一四丁）、巻第二十一・一二丁）、第二一冊、四二丁（巻第二十二・二九丁）、巻第二十三・一三丁）、第二二冊、五八丁（巻第二十四・二〇丁）、巻第二十五・三八丁）、第二三冊、五四丁（巻第二十六・一六丁）、巻第二十七・二〇丁）、巻第二八・一八丁）、第一四冊、五一丁（巻第二十九・五一丁）、第一五冊、三四丁（巻第三十）。

〔刊記〕第二冊の巻末に慶長勅版の刊語を刻し、第一五冊、巻第三十の巻末に跋刊、「此写本者当初安貞二年兼頼校讎諸本／正応之中神祇権大副卜部兼方筆之収／于石室以来永仁正四位下行神祇権大／副兼山城守卜部仲季嘉元甲永沙弥蓮／惠康永壬午神祇権大副兼員転書之云／云至永正之頃内大臣実隆公以件本親／謄書訂朱墨点今抛内相公本鍍梓広伝／于世恐活板之徒多誤刁刀陶陰庶

幾／莫胎詣於余焉／慶長十五庚戌仲夏念八／洛洒野子三白誌」。

〔印記〕「歌荒／樺田」（朱方印、陰刻）。

〔備考〕各冊、巻頭に「月詠宮譜代祢宜家」と墨書。朱墨による書き入れ夥し。第三冊、巻第五の巻末に、「宝永三丙戌年六月廿日以朱注一見了 従四位下種盛」と墨書。第四冊、巻第六の巻末には、「宝永三丙戌年六月廿五日加朱点一見了 従四位下種盛」と茶色の筆で記し、巻第七の巻末には書写奥書、「本云／建武五年五月十四日交点了／永正十一年四月廿九日書写了御判／元和二年六十一朱墨点了／寛永七年八月三日於西山期遠亭朱墨点了／へ是迄ノ年号角倉／素安之自筆也」／万治貳年七月十九日此本点之写本者角倉与一郎より／所望之角倉素安之口也」が墨筆で移写され、その上欄に種盛の筆（茶色）で識語、「角倉与市郎某ハソノ祖父素庵老／以来当家下咽啞アヒムコノ好ミ／アリテ音問スル也依テ素庵ノ／或方ノ本ヲ借テ点セラレタルヲ／先公万治二年ノ比ヲヒ与市郎／ニ望テ素庵力写ス所ノ点を再／写アルソ此点ハ勅ヲ奉テ菅／江清ノ儒家ノ古点ナルヘキソ疎／略ニ存スヘカラス今吾先公ノ当ノ書ノ点ニ功アルヲ一ハ感シ一ハ恐テ／亦又先功ヲ失ハサルタメニ朱注シテ当家永代ノ重宝ニ備ル者也」が記される。さらに巻末には、「宝永三丙戌年六月廿九晦加朱注一見了（擦り消し）下種盛／万治二ヨリ宝永三マテ四十八年也」と記す。第五冊、巻第八の巻末に書写奥書、「寛永七年八

月三日於西山期遠亭朱点了／本云貞和四年五月十三日七八兩卷  
読進之／神祇權大副兼員／永正十一年四月十九日書之御判／元  
和十年二月七日以他本再校移点等」が移写され、卷第九の卷末  
には、「宝永三丙戌年七月六日以朱注一見了 從四位下秦宿祢種  
盛」、卷第十の卷末には、「宝永三（擦り消し）七月九日以朱注  
一見了（擦り消し）秦宿祢種盛」と記される。第六冊、卷第  
十二の卷末に書写奥書、「建武五年七月十八日朱墨交点了永正十  
一年四月十一日書之／（此ヨリ素安ノ記也）」と種盛の筆で記す  
「元和二年六月廿七日朱墨点了同十年二月廿日以他本移点再校  
了／寛永七年七月於期遠亭朱墨点了／此点精突前後見合可附」  
（「是マテ素安也」と種盛の筆で記す）（「此先公ノ記也」と種盛  
の筆で記す）但此乃書ハ写本ニ有之写本ハ角倉素安ノ書ケル也」  
と記される。卷第十三の卷末には、「（擦り消し）以朱注一見了  
（擦り消し）秦宿祢種盛」と記される。第七冊、卷第十四の卷  
末には、「宝永三丙戌年七月廿八日以朱注一見了 從四位下秦宿  
祢種盛」、卷第十五の卷末には、「宝永三（擦り消し）以朱注一  
見了（擦り消し）秦宿禰種盛」、第八冊、卷第十七の卷末には、  
「宝永三丙戌年八月十二日加朱注一見了／從四位下秦宿祢種  
盛」、卷第十八の卷末には、「（擦り消し）丙戌年八月十五日加朱  
注一見了（擦り消し）種盛」、第九冊の卷第十九の卷末には、「（擦  
り消し）七日以朱注一見了（擦り消し）秦宿祢種盛」、第一〇冊  
の卷第二十の卷末には、「宝永三丙戌年九月五日加朱注一見了

從四位下秦宿祢種盛」、卷第二十一の卷末には、「（擦り消し）丙  
戌年九月十日加朱注一見了（擦り消し）秦宿祢種盛」、第一一冊  
の卷第二十二の卷末には、「宝永三丙戌年九月廿日加朱注一見了  
從四位下秦種盛」、卷第二十三の卷末には、「（擦り消し）日以朱  
注一見了 從四位下秦宿祢種盛」、第一二冊の卷第二十五の卷末  
には、「当卷去年十二月マテ半マテ見テ世変及病身ノ故ニ中絶シ  
タル也今世事少ク世上暖暑ニナリ病苦ニ寒風ノ障ナキ時ヲ以テ  
再興シ／朱点ヲ加へ一見了（擦り消し）秦宿祢種盛」、第一三冊、  
卷第二十六の卷末には、「宝永四丁亥四月廿一日加朱点一見了  
從四位下秦宿祢種盛」、卷第二十八の卷末には、「（擦り消し）天  
智ノ卷ノ末葉ヨリ当紀マテ朱点ヲ以テ一見終ニ／先年当書朱点  
ヲ加へ歴覽ノ処先妣ノ大憂ニカ、リテ末卷ニ及テ延引ス／コノ  
コロ再興シテ当卷ヨリ次ノ卷ヲ見モノ也」、第一五冊の卷第三十  
の卷末には、「当書ノ点ハ吉田家ノ点本ヲ角倉素菴力カリ求テシ  
タルヲ借テ先公ノナサレタソ半卷ニシテ止テ其後寛文ノ比ノ点  
ハ／寛文三年正月廿八日点之松尾月詠祢宣譜代職惣領筋秦ノ  
宿祢／世ニ行フ処ノ板ノ点本□ヲ以テアソハシタソ謹テ先公ノ  
功ヲイタ、キテナヲソクハシクフカキニ至ヘキ者也 松室式部  
少輔重種也／（擦り消し）／加朱点一覽了卜部朝臣種博（朱）  
／予前年丹点ヲ以テ一見スソノ後丹点ヲ以テ注ヲ加ヘ見ノ処ニ  
末卷ニ及テ先妣ノ凶憂ニ懼テ漸之近日亦再興／シテ天智紀ノ末  
ヨリ地統紀ノ終マテ注ヲ加ヘ全編ノ電覽ヲ終也然其未得其父

義願ハ老年余カアノラハ字ノ誤リ訓点ノ乱雜ヲ世ノ板本ト積日

本紀トニ校合シテ其精粹ニ至ラシメンコトヲト云ルノ胡粉ノ

(擦り消し)辛卯六月十六日(擦り消し)秦宿祢種盛」と記す。

川瀬・九二五頁、初版、補配なし。

◎通史

162 日本書紀 三〇卷 舍人親王等編

〔請求番号〕7/6/1860

〔体裁〕大本九冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二七・六×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一八・九×二・七糎)、「日本書紀

一(一〇九)」。

〔内題〕「日本書紀卷第一(一〇三〇)」。

〔尾題〕「日本書紀卷第一(一〇三〇)」(「日本書紀第十九」)。

〔本文〕每半葉八行×一七字(神代卷)、每半葉八行×一八字(卷第三)。

〔匡郭〕四周双辺(卷第一、二〇・三×一四・二糎、卷第三、二二・五

×一五・六糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「日本紀 丁附」(神代卷)、黒口双黒魚

尾、中縫、「日本紀三 丁附」(卷第三)。

〔丁数〕第一冊、四五丁(卷第一)、第二冊、四〇丁(卷第二、新補写)、

第三冊、六一丁(卷第三・一九丁。八丁補写、巻尾丁欠、巻第

四・一二丁。一二丁補写、巻第五・一三丁。三・五・六・一〇

丁補写、巻第六・一七丁)、第四冊、六七丁(巻第七・二六丁、

巻第八・六丁、巻第九・二二丁、巻第十・一四丁)、第五冊、九

六丁(巻第十一・十五、新補写)、第六冊、七八丁(巻第十六・

六丁、巻第十七・二〇丁、巻第十八・九丁、巻第十九・四三丁。

四一丁欠)、第七冊、六八丁(巻第二十・一四丁、巻第二十一・

一二丁、巻第二十二・二九丁、巻第二十三・一三三丁)、第八冊、

一一二丁(巻第二十四・二〇丁、巻第二十五・三八丁、巻第二

十六・一六丁、巻第二十七・二〇丁、巻第二八・一八丁)、第九

冊、八五丁(巻第二十九・五一丁、巻第三十・三四丁)。

〔刊記〕第一五冊、巻第三十の巻末に跋刊、「此写本者当初安貞二年兼頼

校讎諸本ノ正応之中神祇権大副ト部兼方筆之収ノ于石室以来永

仁正四位下行神祇権大ノ副兼山城守ト部仲季嘉元甲永沙弥蓮ノ

恵康永壬午神祇権大副兼員転書之云ノ云至永正之頃内大臣実隆

公以件本親ノ謄書訂朱墨点今捩内相公本鏤梓広伝ノ于世恐活板

之徒多誤刁刀陶陰矣庶幾ノ莫胎諒於余焉ノ慶長十五庚戌仲夏念

八ノ洛洒野子三白誌」。

〔印記〕「木正ノ辞ノ章」(朱方印、陰)、「木邨ノ正辞ノ圖書」(朱方印、

陽、以上二印、木村正辞)。

〔備考〕巻第三にのみ朱墨による書入があり、巻第四・六には墨筆で振

仮名(片仮名)が施されている。他、無書入。川瀬・五八〇・

九二三頁。「初版本にて神代巻を別版にて補配せるか、もしくは

欠くもの」、(ロ)。前記「7/5/1853」と同版。

◎注釈

163 日本書紀抄 三卷

〔請求番号〕7/7/1866

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕新補薄茶色斜刷毛目文様表紙。二八・四×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「日本書紀抄 上(中・下)」と打付書。

〔内題〕「日本書紀抄卷第一(二)」、「(下向き花口魚尾)日本書紀抄卷第一」。

〔尾題〕「日本書紀之抄卷第一終」、「日本書紀之抄二終」。

〔本文〕每半葉一四行×二〇字。漢字片仮名交、ソ式仮名抄。

〔匡郭〕四周单边(二三・六×一六・二糎)、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「日本紀抄上(中・下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四五丁(卷第一)、第二冊、四六丁(卷第二)、第三冊、五一丁(卷第二、丁附「五十二」まで。三七丁・巻尾丁欠)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「口園蔵書」(朱長方印、陰刻、巻第一の巻首丁のみ)。

〔備考〕朱句読点が施されるのみ。川瀬、九二六頁。「元和寛永中の刊行と認む可き。(本能寺前町版とは)別種の活字版」。図録篇・九

九四図に大東急本の図版を収む。

◎有職故実

164 百官略

〔請求番号〕33/10/140

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原装(押八双有)栗皮表紙。二七・一×二〇・三糎。四針袋綴(糸とれ)。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一四・九×三・六糎)、「弘安礼節」。

〔内題〕「(低二格)百官略」、「(二格低)書礼礼事」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双边(二一・一×一六・二糎)、無界。

〔版心〕上下に黒口双花口魚尾、中縫、「百官(礼節)」「丁附」。

〔丁数〕二二丁(百官略・八丁、書礼礼事・二三丁、刊記・一丁)。

〔刊記〕「(二格低)慶長玄黙困敦夾鐘 刊之」。

〔印記〕「天師明經儒」(朱長方陰、朱で抹消)。

〔備考〕無書入。巻末に、「成寿」、「清原秀雄」と墨書。川瀬・二〇六・四七九・六九三頁、慶長十七年刊、清原秀賢刊本。「慶長十三年刊清原秀賢版の」職原抄と同版式の附属的なる出版と目す可

きものであるから、恐らく秀賢の關係した印行であらうと思ふ」

(二〇六頁)。

◎和歌 注釈

165 百人一首抄 宗祇

〔請求番号〕41/16/3021

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕縹色渋引き表紙(押八双はあるが後補)。二七・三×一九・四糎。

五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の緑色麻の葉文様刷の書題簽(一八・一×三・九糎)。

「宗祇百人一首抄 全」。

〔内題〕「(低二格)小倉山庄色紙和哥序」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一一行×二一字。漢字平仮名交。活字の字画は稍細く、

元和の活字と見るより寛永の活字と見るのがふさわしい。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・七糎(序)。

〔版心〕無。

〔丁数〕五三丁。

〔刊記〕無。卷末に「(低二格)明応二年四月廿日(四格空)宗祇在判」。

〔印記〕無。

〔備考〕墨筆で異本注記などがごくわずかに施されるのみ。川瀬・五五

三・八五一・九〇八・九五五頁。「元和寛永中の印行と認む可く

之に兩種の異植字版が存する」。活字の摩滅の程度等から(イ)

種本を先行とみる。大東急本は(イ)種。図録篇・四五七図に

大東急本の図版を収む。

◎軍記物語

166 平家物語 一二巻

〔請求番号〕7/16/1917

〔体裁〕大本一二冊。

〔表紙〕新補紫色表紙。二六・六×一九・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一九・四×三・〇糎)。「平家物語

一(一十二)」。

〔内題〕「(低二格)平家物語卷第一(一十二)目録」。「平家物語卷第一

(一十二・灌頂卷)」、「平家卷第三(四)」。

〔尾題〕「平家物語卷第一(一十二・灌頂卷畢)」。

〔本文〕每半葉二二行×二二字。漢字片仮名交。章段名低二格。

〔匡郭〕四周単辺(巻第一目録、一三・〇×一六・五糎、巻第一、二二・

八×一六・七糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫。「平家卷一(一十二) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁(巻第一、目録・一丁、本文・四五丁。一七丁

補写)、第二冊、五三丁(巻第二、目録・一丁、本文・五二丁)、

第三冊、四八丁(巻第三、目録・一丁、本文・四七丁)、第四冊、

四七丁(巻第四、目録・一丁、本文・四六丁)、第五冊、四二丁

(巻第五、目録・一丁、本文・四一丁)、第六冊、三四丁(巻第

六、目録・一丁、本文・三三丁。丁附、三二丁「二十一」、三二

丁「三十一」、以下にずれあり)、第七冊、四四丁(巻第七、目

録(目録)・一丁、本文・四三丁。卷末に巻第八の目録を誤綴)、

第八冊、三六丁（巻第八、目録は巻第七の巻末に誤綴、本文・三六丁）、第九冊、五七丁（巻第九、目録・一丁、本文・五六丁）、第一〇冊、四六丁（巻第十、目録・一丁、本文・四五丁）、第一一冊、四八丁（巻第十一、目録・一丁、本文・四七丁）、第一二冊、四六丁（巻第十二、目録・一丁、巻第十二・三〇丁半、灌頂巻・一四半丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「金谷藏書」（左右に雨竜、朱長方印）、「富田氏／藏書」（朱長方印）、「洒竹文庫」（大野洒竹、朱長方印）。

〔備考〕朱引（巻第一の巻首二丁と巻第九、十二、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。巻第七の巻末に巻第八の目録が誤綴、巻第八では目録丁を欠いている。これは改装の際、巻第七の巻末に巻第八の目録を綴じ誤ったもの）、「大東急記念文庫貴重書解題・第三巻国書之部」、六二頁。本書は、もと二巻宛合綴されて伝存していたものを、旧久原文庫に納まる際十二巻に分冊し、新たに紺色の表紙を添付したものである（川瀬一馬氏『大東急記念文庫所蔵・古写古出版物語文学書解説』。川瀬、（六）単辺十ニ行片仮名本。『増補古活字版之研究』の図録篇・四〇四図に大東急本の図版を収む。伝本は他に、巻第八のみの零本が明治大文学図書館（〇九二・一―一六―H）に所蔵されている。「前記覚一本に次いで現はれた一本で、流布本系統」とするが誤り。下村時房刊本（下村本）を底本とする本が四種あるが、このうち、

川瀬一馬氏が、「本文は十行平仮名古活字印本と同じ」とし、「元和中には印行せられたもの」という、双辺片仮名古活字十二行本（川瀬、十二行片仮名本）を底本にしている。双辺片仮名古活字十二行本は、下村本を底本に、巻九「越中前司最後」の冒頭近くに部分的に覚一本の本文を以て校訂を施した本文を持ち、巻九「小宰相」の五三丁裏に、下村本の九〇丁表と九〇丁裏の一丁分に相当する長文の誤脱がある他、巻十二（灌頂巻）「大原御幸」の三六丁表に、下村本の六一丁表と六一丁裏の一丁分に相当する長文の誤脱がある。本書、単辺片仮名古活字十二行甲種本（川瀬、単辺十二行片仮名本）は、新たに巻一の「鱸」と「禿童」の冒頭部分に八坂系の本文（中院本の本文に近さを感じるものの、八坂系のどの本文に拠るのか特定できない）を以て校訂が施されているが、巻九「小宰相」と巻十二（灌頂巻）「大原御幸」の誤脱は脱落したままである。この脱落は、単辺片仮名古活字十二行甲種本を底本にした単辺片仮名古活字十二行乙種本（川瀬、未載、東京大学文学部国文学研究室蔵本ほか蔵）で流布本の本文を以て補訂される。

### ◎軍記物語

167 平家物語 一二巻

〔請求番号〕7/17/1921

〔体裁〕大本一二冊。

〔表紙〕原裝薄茶色雲母刷文様（唐草十字印禪文）表紙。二八・二×二  
一・三糎。見返し改装。四針袋綴。

〔題簽〕無。表紙中央に「平家物語 一」と打付書。

〔内題〕「平家物語卷第一（十二）目録」、「平家物語卷第一（灌頂卷）」。

〔尾題〕「平家物語卷第一（灌頂卷畢）」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。漢字平仮名交。章段名低二格。

〔匡郭〕無辺無界。字高、二三・〇糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、七八丁（卷第一、目録・一丁、本文・七七丁）、第二冊、

九一丁（卷第二、目録・一丁、本文・九〇丁）、第三冊、八〇丁

（卷第三、目録・一丁、本文・七九丁）、第四冊、七七丁（卷第

四、目録・一丁、本文・七六丁）、第五冊、六七丁（卷第五、目

録・一丁、本文・六六丁）、第六冊、五六丁（卷第六、目録・一

丁、本文・五五丁）、第七冊、七〇丁（卷第七、目録・一丁、本

文・六九丁）、第八冊、六一丁（卷第八、目録・一丁、本文・六

〇丁）、第九冊、九三丁（卷第九、目録・一丁、本文・九二丁）、

第一〇冊、七六丁（卷第十、目録・一丁、本文・七五丁）、第一

一冊、七八丁（卷第十一、目録・一丁、本文・七七丁）、第二二

冊、七八丁（卷第十二、目録・一丁、卷第十二・五一丁、灌頂

卷・二六丁）。各冊とも前後に遊紙各一丁（卷第六、前遊紙のみ、

卷第十二、後遊紙は新補）。卷第一、三丁表から六丁裏にかけて

一部破損。破損箇所を裏打修補時に墨筆にて補筆す。

〔刊記〕「下村時房刊之」。

〔印記〕無。

〔備考〕下村本。卷一「清水炎上」での清盛の官位「大納言右大将」。卷

二の巻頭章段名「座主流」欠。卷三の「医師問答」の一文欠、

ただし「岩田川より別して熊野へ悦ひの奉幣を」の一文の傍書

あり。卷八の巻頭章段名「山門御幸」欠。部分的ながら全卷に

切貼墨書訂正が施されている。

### ◎軍記物語

#### 168 平家物語 一二卷

〔請求番号〕7/19/1923

〔体裁〕大本一一冊。卷第八欠

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・四×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一八・五×三・三糎）、「平家物語 一（

十二）」。

〔内題〕「平家物語卷第一（十二）目録」、「平家物語卷第一（十二

灌頂卷）」。

〔尾題〕「平家物語卷第一（十二終・灌頂卷畢）」。

〔本文〕每半葉一二行×二二字。漢字平仮名交。章段名低三格。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・五糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、六四丁（卷第一、目録・一丁、本文・六三丁）、第二冊、

七五丁（卷第二、目録・一丁、本文・七四丁）、第三冊、六六丁（卷第三、目録・一丁、本文・六五丁）、第四冊、六五丁（卷第

四、目録・一丁、本文・六四丁）、第五冊、五九丁（卷第五、目録・一丁、本文・五八丁）、第六冊、四七丁（卷第六、目録・一丁、本文・四六丁）、第七冊、六〇丁（卷第七、目録・一丁、本文・五九丁）、第八冊、七八丁（卷第九、目録・一丁、本文・七丁）、第九冊、六六丁（卷第十、目録・一丁、本文・六五丁）、第一〇冊、六九丁（卷第十一、目録・一丁、本文・六八丁）、第一一冊、七三丁（卷第十二、目録・一丁、卷第十二・四八丁、灌頂卷・二四丁）。

〔刊記〕「（低一格）此平家物語一方檢校衆以吟味令開板之者也／于時寛永元年五月初一日／（低九格）落陽三条寺町 道意」。

〔印記〕「（丸に井桁）伊藤」（朱長方印）、「決馬／度刀／水」（朱方印）、陰刻、「春日井郡／水日北幸」（朱長方印）。

〔備考〕無書入。川瀬、（四）寛永元年（道意）刊本。「（三）十一行平仮名本（河原町仁衛門刊）に拠つて鱧印を行つたものと認められぬ」。

### ◎軍記物語

#### 169 平治物語 三卷

〔請求番号〕7 / 16 / 1919

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕栗皮原表紙の表皮を用い、茶色表紙で裏打改装。二七・二×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に大きく「平治物語上（中・下）」と打付書。

〔内題〕「平治物語卷上（中・下）目録」、「平治物語卷上（中・下）」。

〔尾題〕「平治物語卷上（中・下終）」。

〔本文〕每半葉一行×二三字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（卷上目録、二二・六×一六・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「平治上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三六丁（卷上、目録・一丁、本文・三五丁）、第二冊、三八丁（卷中、目録・一丁、本文・三七丁）、第三冊、三八丁（卷下、目録・一丁、本文・三七丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕巻上の巻首二丁に振仮名（片仮名）を若干施すのみ。川瀬・五三九頁、（一〇）慶長中刊（片仮名）十一行本。活字大型なり。図録篇・四二九図に大東急本の図版を収む。

### ◎医学

#### 170 弁証配剤医燈 三卷 曲直瀬道三

〔請求番号〕54 / 8 / 8 / 2871

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮表紙。二七・二×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の書題簽（一一・七×二・二糶）、「弁証配劑医燈上

（中・下）」。

〔内題〕「弁証配劑医燈卷上（中・下）目録」、「弁証配劑医燈卷上（中・下）／（低九格）日東 雖知苦齋 道三校録」。

〔尾題〕「弁証配劑医燈卷上（中・下）」

〔本文〕每半葉一三行×二二字。標題は大型活字を用い、本文は小型活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺（卷上卷首、二一・一×一五・六糶）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「配劑医燈上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四四丁（卷上、目録・一丁、本文・四三丁）、第二冊、四二丁（卷中、目録・一丁、本文・四一丁）、第三冊、五二丁（卷下、目録・一丁、本文・五一丁）。

〔刊記〕無。各冊とも卷末に、「斯一冊予既及頽齡故強而啓秘記要而即為門／生以老音為泉洲松山好春公詳使講授焉終一覽／而染老筆畢／于皆天正十二年秋日／洛下翠竹院一溪洩道三（花押）」。

〔印記〕「茂木／文庫」（茂木充美、朱方印）、「黃龍窟」（朱長方印、小）、「酒竹文庫」（大野酒竹、朱長方印）、「正領／口硯」（墨方印、陰刻、卷末）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名が施されている。川瀬・三三六頁。伝本、久原文庫蔵本（現、大東急記念文庫蔵本）を著録するのみ。

### ◎軍記物語

#### 171 保元物語 三卷

〔請求番号〕33 / 10 / 139

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補薄縹色空押出繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二七・五×一九・五糶。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の銀泥下絵のある雲母刷書題簽（二〇・八×四・一糶）、「保元物語 上（中・下）」。

〔内題〕「保元物語卷上（中・下）」。

〔尾題〕「保元物語卷上（中・下）」。

〔本文〕每半葉一〇行×一九字。漢字平仮名交。くずし方に特徴のある活字を多く使用。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・一糶。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、四四丁（卷上）、第二冊、六一丁（卷中）、第三冊、五三冊（卷下）。他、各冊ともに巻首に目録を補写。

〔刊記〕無。

〔印記〕補写丁（目録）に未勘の朱方印。

〔備考〕川瀬・五三九頁、（二）慶長中刊十行本（第二種）。「活字大型なれど様式前記第一種と全く異り、光悦書風の垂流なり。（嵯峨本考に擬似本第一種とせるもの）其の本文前者より出でたるが如きも、若干の誤脱あり。以下の諸印本皆本書の誤脱を承けたる

を見るに、直接間接本書に拠るものと思はる」。

◎軍記物語

172 ※保元物語 三卷

〔請求番号〕7 / 16 / 1916

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕栗皮原表紙を用いた裏打改装表紙。二七・二×一九・〇糎。四針袋綴。

針袋綴。

〔題簽〕左肩に、後補の金銀泥下絵入丹もしくは薄縹色の書題簽（一五・二×三・一糎）、「保元物語卷上（中・下）」。

二×三・一糎）、「保元物語卷上（中・下）」。

〔内題〕「保元物語卷上（中・下）」。

〔尾題〕「保元物語卷上（中・下）終」。

〔本文〕每半葉一一行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・五糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、三七丁（巻上、一一丁補写）、第二冊、五二丁（巻中）、第三冊、四五冊（巻下）。

第三冊、四五冊（巻下）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「酒竹文庫」（大野酒竹、朱長方印）、「これは／＼きくや」（墨長方印）。

印）。

〔備考〕墨筆で平仮名もしくは片仮名で振仮名を施すのみ。川瀬・五三

九頁、（五）元和寛永中刊十一行本（第五種）。「活字稍小型なる

も第六種より若干長方形をなす。章段を分たず」。凶録篇・四一  
九凶に挙げる静嘉堂文庫蔵本とは異植字版。

◎漢詩文

173 本朝文粹 一四巻目録一巻 藤原明衡編

〔請求番号〕41 / 37 / 3160

〔体裁〕大本七冊。巻第一・二欠。

〔表紙〕新補薄縹色表紙。二八・九×二〇・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二二・〇×三・一糎）、「本朝文粹

一（一七）」。

〔内題〕「新刊本朝文粹序」、「本朝文粹目録」、「本朝文粹卷第三（一〇九）

卷之十（十四）」、「新刊本朝文粹跋」。

〔尾題〕「新刊本朝文粹目録畢」、「本朝文粹卷第三（一〇九）卷第十（十二）

卷之十三）終」、「新刊本朝文粹卷之十四（大／＼尾）」。

〔本文〕每半葉九行×一八字。

〔匡郭〕四周双辺（序、二二・三×一六・八糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「本朝文粹序（目録・卷三（十四）・文粹

跋） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四〇丁（序、寛永己巳仲冬下旬羅山子道春・二丁、序、

寛永己巳冬十一月日／尾陽医官法眼杏菴正意書・二丁、目録・

三六丁）、第二冊、六一丁（巻第三・三二丁、巻第四・二九丁）、

第三冊、七五丁（巻第五・三四丁、巻第六・四二丁）、第四冊、

七二丁（卷第七・三三丁、卷第八・三九丁）、第五冊、七六丁（卷第九・三七丁、卷之十・三九丁）、第六冊、六四丁（卷之十一・二九丁、卷之十二・三五丁）、第七冊、六七丁（卷之十三・三五丁、卷之十四・三〇丁、跋、寛永己巳夏六月平安後学那波／道円于武江之橋居・二丁）。他、各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕「（低三格）玉屋町 田中長左衛門開板（正／基）」。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上二印、稲田福堂）。

〔備考〕無書入。

### ◎通史

#### 174 保暦間記 二卷

〔請求番号〕7 / 13 / 1903

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原装（押八双有）茶色渋引表紙。二八・五×一九・八糎。四針

袋綴。

〔題簽〕無。左肩に、「保暦間記 全」と朱打付書。

〔内題〕「保暦間記（十一格空）小瀬道甫刊」、「保暦間記下（十一格空）小瀬道甫刊」。

〔尾題〕「保暦間記上終」、「保暦間記下終」。

〔本文〕每半葉一二行×二二字。漢字片仮名交。上欄に内容の小見出しを刻す。

〔匡郭〕四周双辺（二二・四×一六・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「保暦間記上（下） 丁附」。

〔丁数〕八〇丁（上・三九丁、下・四一丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「野邨氏／圖書記」（朱方印）、「于水／艸堂／之印」（朱方印、陰刻）、「苔香／山房／之印」（朱方印）、「素石園／木村藏」（朱方印、以上二印、木村素石）、「讀杜／艸堂」（朱方印、寺田望南）、「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印以上二印、稲田福堂）。他、未勘の朱方印一印。

〔備考〕ごくわずかに朱書入があるのみ。川瀬・五八四・九二七頁、（二）慶長元和中刊本（イ）。

### ◎曆 占卜

#### 175 簠簋内伝金烏玉兔集 五卷 安倍晴明伝

〔請求番号〕54 / 17 / 2927

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮渋引表紙。二八・三×二〇・一糎。四針

袋綴。

〔題簽〕無。左肩に白墨で「簠簋 共二」と打付書。

〔内題〕「簠簋内伝金烏玉兔集巻 序／（低二格）へ天文／司郎へ安部博士へ吉備／后胤へ清明朝臣 入唐伝」、「簠簋内伝金烏玉兔集（四格空）宣明曆経上」、「簠簋内伝金烏玉兔集宣明曆経下／（低二

格)〈天文/司郎〉(二格空) 安部博士〈吉備/后胤〉 晴明朝臣撰、「簞篋内伝金烏玉兔集卷三/」(低二格)〈天文/司郎〉 安部博士〈吉備/后胤〉 晴明朝臣入唐伝、「簞篋内伝金烏玉兔集造屋篇 四/」(低三格)〈天文/司郎〉 安部博士 〈吉備/后胤〉 晴明朝臣撰、「簞篋内伝金烏玉兔集(五格空) 文殊曜宿経/」(低二格)〈天文/司郎〉 安部博士 〈吉備/后胤〉 晴明朝臣撰。

〔尾題〕「簞篋内伝金烏玉兔集卷一(卷一・卷終・卷四・卷五終)」。

〔本文〕 每半葉九行×一九字。

〔匡郭〕 四周双辺(二一・四×一四・四糎)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「簞篋序(卷一、五) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四一丁(序・三丁、卷一・一七丁、卷二・二二丁)、第二冊、四三丁(卷三・一八丁、卷四・一三丁、卷五・二二丁)。

〔刊記〕「(低六格) 于時慶長十七(壬/子)年九月吉日」。

〔印記〕「金/竜」(墨方印)、「稲田/福堂/圖書」(朱方印)。

〔備考〕 返点、振仮名、送仮名等が墨筆で施されている程度。川瀬・三六〇・三八七・八七九頁、(一)慶長十七年刊本。図録篇・二一四図に大東急本、刊記部分の図版を収む。

## ◎歴史物語

### 176 増鏡 一七卷

〔請求番号〕 7/15/1913

〔体裁〕 大本六冊。

〔表紙〕 後補薄縹色空押出繋ぎ牡丹唐草文様表紙。二八・〇×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕 表紙中央に、後補の香色銀箔押および銀泥下絵入の書題簽(一五・五×三・九糎)、「増鏡 一(二・四・五)」。第三冊「増鏡 三」、第六冊「増かゝみ六」、表面はがれ。

〔内題〕 無。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二三・〇糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、六四丁(序・三丁半、第一おとろのした・一九丁半、第二新嶋もり・二〇丁、第三・ふち衣・一三丁、第四三神山・八丁)、第二冊、四七丁(第五うちの雪・二五丁半、第六おりる雪・九丁半、第五けふりのすゑ/、一二丁)、第三冊、四三丁(第八・一〇丁半、第九北野の雪・一二丁、第十あすか川・二〇丁半)、第四冊、四〇丁(第十一草まくら・一三丁、第十二老のなみ・二七丁)、第五冊、七〇丁(第十一・三二丁、第十二うら千鳥・七丁、第十三秋のみ山・一八丁、第十四春の別・一三丁)、第六冊、五九丁(第十五むら時雨・二二丁、第十六くめのさら山・二五丁、第十七月草の花・一二丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕「歌堂文庫」（朱長方印）。

〔備考〕無書入。『大鏡』（7/15/1910）、『水鏡』（7/15/1911）と一具。

◎歴史物語

177 増鏡 一七巻

〔請求番号〕7/15/1914

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕後補薄茶色横刷毛目文様刷表紙。二八・四×二〇・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕表紙中央に後補の薄茶色金銀泥書題簽（一七・八×三・五糎）、

「ます鏡 一（〜六）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一三三・〇糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、六四丁（序・三丁半、第一おとろのした・一九丁半、

第二新嶋もり・二〇丁、第三・ふち衣・一三丁、第四三神山・

八丁）、第二冊、四七丁（第五うちの雪・二五丁半、第六おり

る雪・九丁半、第五けふりのすゑ／＼・一二丁）、第三冊、四

三丁（第八・一〇丁半、第九北野の雪・一二丁、第十あすか川・

二〇丁半）、第四冊、四〇丁（第十一草まくら・一三丁、第十二

老のなみ・二七丁）、第五冊、七〇丁（第十一・三二丁、第十二

うら千鳥・七丁、第十三秋のみ山・一八丁、第十四春の別・一

三丁）第六冊、五九丁（第十五むら時雨・二二丁、第十六くめ

のさら山・二五丁、第十七月草の花・一二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印以上二印、稲田福堂）。表紙右下に「青木／印」（朱方印）の捺された紙票貼付。

◎歴史物語

178 増鏡 一七巻

〔請求番号〕7/15/1915

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕原装（押八双有）黒色空押雷文襷に雨竜文様表紙。二八・五×二〇・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺粹原刷題簽（二八・七×四・〇糎）、「ますかゝみ一（〜六）」。

〔内題〕無。

〔尾題〕無。

〔本文〕 每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一三三・〇糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、六四丁（序・三三丁半、第一おとろのした・一九丁半、

第二新嶋もり・二〇丁、第三・ふち衣・一三丁、第四三神山・

八丁）、第二冊、四七丁（第五うちの雪・二五丁半、第六おり

る雪・九丁半、第五けふりのすゑ／＼・二二丁）、第三冊、四

三丁（第八・一〇丁半、第九北野の雪・一二丁、第十あすか川・

二〇丁半）、第四冊、四〇丁（第十一草まくら・一三丁、第十二

老のなみ・二七丁）、第五冊、六九丁（第十一・三二丁、第十二

うら千鳥・七丁、第十三秋のみ山・一七丁。一二丁「右大将実

衡」欠、第十四春の別・一三丁）、第六冊、五九丁（第十五む

ら時雨・二二丁、第十六くめのさら山・二五丁、第十七月草の

花・一二丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「永田文庫」（朱長方印、小）。

〔備考〕 墨筆で振り仮名が施されている。「7/15/1913」と比較

をすると、第二冊の「第五うちの雪」の巻尾丁（「まいり給み

な人しろしめしたらむ中／＼にこそ」（1913）、「まいり給み

な人しろしめしたらん中／＼にこそ」（1915）、「第六おり

る雪」の三二丁（「からやまとの」で始まる丁）の七行目、「も

ん、文」、「色、いろ」、九行目「こんむらこ、こむむらこ」（上

段1913、下段1915）等、部分異植字が見受けられる。

### ◎歴史物語

#### 179 水鏡 三卷

〔請求番号〕 7/15/1911

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 後補薄縹色空押出繋ぎ牡丹唐草文様表紙。二八・〇×二〇・五

糎。四針袋綴。

〔題簽〕 表紙中央に、後補の書題簽（一五・四×四・〇糎）、「水鏡 上

（中・下）」。

〔内題〕 「水鏡卷上（中・下）」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二三・〇糎。

〔版心〕 無。

〔丁数〕 第一冊、四三丁（巻上、目録・一丁、序・八丁、本文、神武天

皇、欽明天皇・三四丁）、第二冊、三九丁（巻中、目録・一丁、

本文、敏達天皇、孝謙天皇・三八丁）、第三冊、四〇丁（巻下、

目録・一丁、本文、癡帝、仁明天皇・三九丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「歌堂文庫」（朱長方印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、上欄ならびに本文の右傍らに朱書入有。巻下

の巻末に朱識語、「天明八年十一月十八日於凶南軒與紀宗孝校康

楽岡 藤以文。『大鏡』（7/15/1910）、『増鏡』（7/

15/1913）と一具。

◎歴史物語

180 水鏡 三卷

〔請求番号〕7/15/1912

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕茶色渋引き表紙（押八双を有するが後補）。二八・四×二〇・九  
糹。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「水鏡 上（中・下）」と打付書。

〔内題〕「水鏡卷上（中・下）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一三三・〇糹。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、四三丁（巻上、目録・一丁、序・八丁、本文、神武天皇、欽明天皇・三四丁）、第二冊、三九丁（巻中、目録・一丁、本文、敏達天皇、孝謙天皇・三八丁）、第三冊、四〇丁（巻下、目録・一丁、本文、癡帝、仁明天皇・三九丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上

二印、稲田福堂）。表紙右下に「青木／印」（朱方印）の捺された紙票貼付。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨書入有。「7/15/1911」と同版。表紙は異なるが、『増鏡』（7/15/1914）と一具。

◎戦記

181 明德記 存巻上・下

〔請求番号〕7/13/1902

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補改装栗皮表紙。二六・三×一九・二糹。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「（低二格）明德記卷第上（下）」。

〔尾題〕「明德記卷第上（下）終」。

〔本文〕每半葉一行×二四字内外。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（二一・九×一六・六糹）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「明德記卷上（下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、二四丁（巻第上）、第二冊、二六丁（巻第下）。

〔刊記〕「今世好事者保元平治平家物語皆以費梓工矣於是承久兵乱及明德記及応仁記不幸而免如予閑人幸而得之屢為日之便時々以古本校訂之漸畢其功忽補其闕雖然不獲其全也庶幾後人就有道而正焉而已（三行空）／（低二格）于時慶長第十九年無射望日（四格空）以時」。

〔印記〕「百口／晴之」（表紙見返し、朱方印）、「森何印」（朱長方印）。

〔備考〕卷第上の前表紙の見返しに「山名家系」図を墨書するのみ。本文、無書入。川瀬・五八六・九二七頁、（一）慶長十九年刊本。

### ◎戦記

#### 182 ※明德記 三卷

〔請求番号〕7 / 13 / 1904

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補薄縹色水割れ文様表紙。二八・三〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に、「明德記 上（中・下）」と打付書。

〔内題〕「（低二格）明德記卷第上（中・下）」。

〔尾題〕「明德記卷上（下）終」、「明御記卷中終」。

〔本文〕每半葉二行×二三字内外。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺（二二・三×一六・八糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「明德記上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、二二丁（卷第上）、第二冊、二九丁（卷第中）、第三冊、二二丁（卷第下）。

〔刊記〕「今世好事者保元平治平家物語皆以費梓工矣於是承／久兵乱及明德記及応仁記不幸而免如予閑人幸而得／之屢為日之便時々以古本校訂之漸畢其功忽補其闕／雖然不獲其全也庶幾後人就有道而正焉而已／（二行空）／（低二格）于時寛永へ甲／子へ歳仲夏下旬（四格空）開板之」

〔印記〕無。

〔備考〕上巻の巻首丁にごくわずかに墨書入が施されているのみ。川瀬・五八六・九二七頁、（三）寛永元年刊本。但し、川瀬が著録しているのは「単辺」無界、十三行本。ここに久原文庫蔵本（現、大東急記念文庫蔵本）を著録しているが、誤認。本書は新種本。

### ◎歌集

#### 183 万葉集 二〇卷

〔請求番号〕41 / 12 / 3013

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二七・四×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に、後補の双辺梓書題簽（一九・七×四・〇糎）、「万葉集

へ二／二（へ十九／二十）」。

〔内題〕「万葉集卷第一（へ二十七）」。

〔尾題〕「万葉集卷第一（へ二十終）」。

〔本文〕每半葉八行×一八字。無訓。

〔匡郭〕四周双辺（二二・六×一六・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「万葉卷幾 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七六丁（卷第一）、目録・六丁、本文・二五丁、卷第二、目録・七丁、本文・三八丁）、第二冊、一〇四丁（卷第三）、目録・一一丁、本文・五二丁。丁附、三二丁「三十後」、三二丁「三十一」、以下丁附にずれ。三〇・三一丁、錯簡。巻第四、目録・一

一丁、本文・三〇丁）、第三冊、八七丁（卷第五、目録・三丁、

本文・三七丁、卷第六、目録・九丁、本文・三八丁）、第四冊、

一〇一丁（卷第七、目録・二丁、本文・四〇丁、卷第八、目録・

一三丁、本文・四六丁）、第五冊、九九丁（卷第九、目録・六丁、

本文・三〇丁、卷第十、目録・四丁、本文・五九丁）、第六冊、

九〇丁（卷第十一、目録・一丁、本文・四七丁、卷第十二、目

録・一丁、本文・四一丁）、第七冊、七二丁（卷第十三、目録・

一丁、本文・三四丁、卷第十四、目録・二丁、本文・三四丁）、

第八冊、七二丁（卷第十五、目録・四丁、本文・三六丁、卷第

十六、目録・五丁、本文・二六丁）、第九冊、八九丁（卷第十七、

目録・六丁、本文・四五丁。丁附、四〇丁「四十ノ四十九」、四

一丁「五十」ノ五二丁「六十」、卷第十八、目録・五丁、本文・

三三丁）、第一〇冊、一一一丁（卷第十九、目録・八丁、本文・

四〇丁、卷第二十、目録・九丁、本文・五四丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「讀耕斎ノ之家蔵」（林読耕斎、靖。羅山の三男、朱長方印、第

一冊の巻首のみ）、「洒竹文庫」（大野洒竹、朱長方印）。

〔備考〕無訓本。第三冊以下、朱筆による朱句読点、誤植訂正等が施さ

れている。

◎歌集

184 万葉集 二〇巻

〔請求番号〕41/14/3015

〔体裁〕大本二〇冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・一×二〇・二糎。四針袋綴（上下角裂）。

〔題簽〕表紙中央に、後補の金箔散らし書題簽（一九・〇×三・六糎）、

「万葉集 活版慶長 一」、「万葉集 二（二十止）」。

〔内題〕「万葉集卷第一（二十終）」。

〔尾題〕「万葉集卷第一（二十終）」。

〔本文〕每半葉八行×一八字。無訓。

〔匡郭〕四周双辺（二二・六×一六・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「万葉巻幾 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三二丁（卷第一、目録・六丁、本文・二五丁）、第二冊、

四五丁（卷第二、目録・七丁、本文・三八丁）、第三冊、六三丁

（卷第三、目録・一一丁、本文・五二丁。丁附、三二丁「三十

後」、三二丁「三二」、以下丁附にずれ）、第四冊、四一丁（卷第

四、目録・一一丁、本文・三〇丁）、第五冊、四〇丁（卷第五、

目録・三丁、本文・三七丁）、第六冊、四七丁（卷第六、目録・

九丁、本文・三八丁）、第七冊、四二丁（卷第七、目録・二丁、

本文・四〇丁）、第八冊、五九丁（卷第八、目録・一三丁、本文・

四六丁）、第九冊、三六丁（卷第九、目録・六丁、本文・三〇丁）、

第一〇冊、六三丁（卷第十、目録・四丁、本文・五九丁）第一

一冊、四八丁（卷第十一、目録・一丁、本文・四七丁）、第二二冊、四二丁（卷第十二、目録・一丁、本文・四一丁）、第三三冊、三五丁（卷第十三、目録・一丁、本文・三四丁）、第一四冊、三六丁（卷第十四、目録・二丁、本文・三四丁）、第一五冊、四〇丁（卷第十五、目録・四丁、本文・三六丁）、第一六冊、三二丁（卷第十六、目録・五丁、本文・二六丁）、第一七冊、五二丁（卷第十七、目録・六丁、本文・四五丁）。丁附、四〇丁「四十ノ四十九」、四二丁「五十」〜五二丁「六十」、第一八冊、三八丁（卷第十八、目録・五丁、本文・三三丁）、第一九冊、四八丁（卷第十九、目録・八丁、本文・四〇丁）、第二〇冊、六三丁（卷第二十、目録・九丁、本文・五四丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「吉家／氏藏」（吉田意庵、朱方印、陰刻）、「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕第一冊と二冊の上欄には墨筆で、「元亀本」と校合が施され、第一〜四冊の本文には墨筆で附訓が施されている。全冊全丁裏打修補。川瀬・五五〇頁、無訓本。「無訓本は、家康の刊行せしめた伏見版の真名木活字を襲用し、不足の文字を新雕して印行を遂げたものと認められる。（中略）版式上、慶長後半期の印行であらう」。

### ◎連歌論

185 無言抄 存卷下 応其 著

〔請求番号〕41/31/3123

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補赤茶色表紙。二七・六×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・二×三・一糎）、「無言抄 古

活字版」。

〔内題〕「無言抄卷下」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×一八字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・五糎。

〔版心〕無。

〔丁数〕七七丁（卷下・七三丁、南山乞食沙門跋、此上下卷去天正七年より二とせあまりにこれを記す・二丁、慶長三年紹巴跋（整版）・

一丁半、慶長三年空性跋（整版）・半丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「福堂／文庫」（朱長方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上二印、稲田福堂）。

〔備考〕巻末に墨識語、「西光寺秀公（印）」。無書入。川瀬・五五八・九〇四頁、第二種本（ロ）。

〔請求番号〕41/32/3125

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二八・一×二〇・八糎。五針袋綴。第三・四・

七冊の後表紙は、薄茶色表紙で改装。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一四・五×三・二糎、第二冊は剥落）、「藻

塩草 自一到二（自十八/到二十）」。

〔内題〕「藻塩草／（低二格）物目録」、「藻塩草巻第一（十九）目録」、

「藻塩草巻第一（二十）」。

〔尾題〕「藻塩草巻第一（二十）終」、「藻塩草十四終」。

〔本文〕毎半葉一〇行×二〇字。漢字平仮名交。注小字双行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、約二四・〇糎（巻第一）。

〔版心〕無。

〔丁数〕第一冊、三八丁（物目録、巻第一目録・一丁、巻第一、本文・

一八丁、巻第二、目録・半丁、本文・一八丁半）、第二冊、六二

丁（巻第三、目録・半丁、本文・三二丁、巻第四、目録・半丁、

本文・三〇丁）、第三冊、六五丁（巻第五、目録・半丁、本文・

六四丁半）、第四冊、七七丁（巻第六、目録・半丁、本文・二四

丁半、巻第七、目録・半丁、本文・八丁半、巻第八、目録・一

丁、本文・四二丁）、第五冊、六〇丁（巻第九、目録・一丁、本

文・三〇丁、巻第十、目録・一丁、本文・二八丁）、第六冊、六

八丁（巻第十一、目録・半丁、本文・一〇丁、巻第十二、目録・

半丁、本文・八丁、巻第十三、目録・半丁、本文・五丁半、巻

第十四、目録・半丁、本文・四二丁半）、第七冊、二六丁（巻第

十五、目録・一丁、本文・二五丁）、第八冊、六六丁（巻第十六、

目録・一丁、本文・六五丁）、第九冊、五五丁（巻第十七、目録・

一丁、本文・五四丁）、第一〇冊、六三丁（巻第十八、目録・半

丁、本文・二九丁、巻第十九、目録・半丁、本文・六丁、巻第

二十、本文・二七丁、巻第二十は目録なし）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。川瀬・五五九・九〇五頁、「八雲御抄と同種の活字を用

ひ、大小二種を混植してゐる。寛永初年の開版であらう。」（イ）

（ロ）の二種の他、異植字版（ハ）の三種を著録しているが、

川瀬が（イ）種に挙げる京都帝国大学蔵本は（ハ）種の誤認、

山口県立図書館蔵本と東大寺仏教図書館蔵本は整版の誤認、名

古屋市立図書館（現、名古屋市鶴舞中央図書館）蔵本は戦災で

焼失しているため、該当する古活字版を確認することができな

い。本書、大東急本は（ロ）種本である。九〇六頁で「藍色原

表紙附」とするが、誤り。『藻塩草』は、原本を前にしても、古

活字版か整版かの判定が難しいものが多い。実際、覆刻整版を

誤認して、「古活字版」としているものも多い。大東急本の場合、

随所に界線の跡が見受けられる他、巻第十六（含目録、五丁裏

の七行目」と巻第十七（含目録、一〇丁表の三行目）に、同一の箇所欠損のある「け」が確認できることから、確実に古活字版と認定することができる。

◎物語

187 大和物語 二巻

〔請求番号〕 43/2/3369

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補縹色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙。二七・三×一七・五  
糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「大和物語」と大きく打付書。

〔内題〕 「(低二格) 大和物語下」。

〔尾題〕 「(低二格) 大和物語上(下)終」。

〔本文〕 每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、約二一・〇糶。

〔版心〕 「上(下)」、丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 九五丁(上・五二丁、下・四三丁。上の本文は一丁裏から始まる)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 無。

〔備考〕 無書入。川瀬・五〇九・八八六頁、(四) 寛永中刊十二行本。

◎物語

188 大和物語 二巻

〔請求番号〕 43/2/3371

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補縹色(藍色)空押雷文禪に菊花等の花文様表紙。二七・四  
×一九・五糶。四針袋綴。見返し改装。

〔題簽〕 左肩に新補の書題簽(一九・〇×三・六糶)、「大和物語 一  
(一)」。

〔内題〕 「(低二格) 大和物語下」。

〔尾題〕 「大和物語上(下)終」。

〔本文〕 每半葉一二行×二〇字。漢字平仮名交。前記「43/2/33  
69」本より活字が稍大きい。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、約二一・三糶。

〔版心〕 上巻の巻首丁にのみ「上 一」と刻す。

〔丁数〕 第一冊、五二丁(上)、第二冊、四三丁(下)。上の本文は一丁裏から始まる)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「宗」(墨方印)。その上に朱方印が捺されるが擦り消し。

〔備考〕 墨筆(細字)による書入有。川瀬、(2) 元和中刊十二行本(ロ) 種。図録篇・三四三図に大東急本の図版を収む。「イ」(ロ) 共に下巻末に「となんありける」の結語あり」とするが、本書はこれを欠き、「となんありける」を墨書する。

◎連歌論

189 連歌至宝抄 紹巴 著

〔請求番号〕 41/28/3081

〔体裁〕 横本一冊。

〔表紙〕 栗皮表紙（原表紙か）。一三・九×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（一一・三×三・〇糎）、「連哥至宝抄 全」。

〔内題〕 「連歌至宝抄」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一三行×一一字。漢字平仮名交。元和・寛永期の古活字版でよく見る「夜」「月」等、特徴のある二倍角活字を交える。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一一・〇糎。

〔版心〕 丁附を刻するのみ。

〔丁数〕 五一丁。

〔刊記〕 無。卷末に紹巴の跋、「此一冊は日本を一とせ／たらぬほとにし  
たかへ／給ふとて君よりあめか／した御あつかりのまつり事  
の御いとまをは／しませはやまと歌を／つらね給へる御心持あ  
／そはされしを見侍る／に万代までのたから／なるへしかゝる  
時に／あひ奉りよろこひを天／つ正きとせ三か一の／秋の始  
に／しるす物也／法橋紹巴」。

〔印記〕 「梧桐亭珍藏」（守井攀、朱長方印）、「檀栢／愛蔵」（朱方印）。

〔備考〕 無書入。後表紙見返しに識語、「元禄四のとし／十のなか五／求  
之」。川瀬・五六〇・九〇六頁、第三種本、元和寛永中刊。図録

篇・四七三図に大東急本の図版を収む。

◎年代記

190 重撰倭漢皇統編年合運図 二卷 円智(日性) 著

〔請求番号〕 33/10/142

〔体裁〕 特大本二冊。

〔表紙〕 原装（押八双有）薄茶色空押雷文繫ぎ（小）蓮華唐草文様表紙。

三三・〇×二二・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（二二・二×三・六糎）、「和漢合運図（虫  
損）」、「和漢合運図 下」。

〔内題〕 「重撰倭漢皇統編年合運図／（低十格）洛下埜釈（四格空）円智  
（四格空）撰」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一二行×二五字。大日本国帝王略記、一一行×二六字（一  
五丁のみ一二行）。

〔匡郭〕 四周単辺（二九・二×一七・〇糎）、有界。

〔版心〕 上下、真ん中に黒口双花口魚尾、中縫、「帝系略（年代記上・年  
代記下）」、「丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七〇丁（大日本国帝系略図・一丁、大日本国帝王略記・

一五丁、重撰倭漢皇統編年合運図・五四丁、垂仁天皇五十三年  
まで）、第二冊、七四丁（垂仁天皇五十四年〜庚子 慶讚新造天  
王寺、庚子〓慶長五年）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕慶長五年「庚子 慶讃新造天王寺」の記事の後は墨書、「九月家康撃凶賊擒其將梟首于河原」、辛丑（慶長六年）「去年家康令三要開貞觀政要板成」、壬寅（慶長七年）「十二月東山大仏殿失火亡」、癸卯（慶長八年）「二月秀頼任内大臣 家康任征夷大將軍」。以下は空欄。川瀬・二五九頁、慶長五年刊本。初版と再版に分けるが、本書は再版。

◎辞書

191 倭名類聚抄 二〇巻 源順撰

〔請求番号〕43/36/3497

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕茶色渋引き表紙（押八双有、原表紙か）。二九・三×二〇・六糎。

四針袋綴。

〔題簽〕左肩に双辺枠刷題簽（二〇・〇×三・五糎）、「倭名類聚抄 巻

第一之二（〜巻第十九之二十）。

〔内題〕「題倭名鈔」、「新刻倭名類聚鈔凡例」、「倭名類聚鈔序」、「倭名類

聚鈔巻第一（〜二十）（四格空）源順撰」。

〔尾題〕「序終」、「倭名類聚鈔巻第一（〜二十）」。

〔本文〕每半葉九行×一六字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（巻第一、一三三・一×一六・二糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「題和名（和名凡例・和名序・和名巻一

〜二十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四七丁（題倭名鈔、元和三年林羅山・三丁、凡例、那波道円・一丁、序・三丁、巻第一・一九丁、巻第二・二二丁）、第二冊、四七丁（巻第三・二九丁、巻第四・一八丁）、第三冊、六一丁（巻第五・二八丁、巻第六・三三丁）、第四冊、四七丁（巻第七・二五丁、巻第八・二二丁）、第五冊、四三丁（巻第九・二四丁、巻第十・一九丁）、第六冊、四七丁（巻第十一・一九丁、巻第十二・二八丁）、第七冊、三九丁（巻第十三・一八丁、巻第十四・二二丁）、第八冊、四〇丁（巻第十五・一七丁、巻第十六・二三丁）、第九冊、四八丁（巻第十七・二五丁、巻第十八・二三丁）、第一〇冊、六二丁（巻第十九・二九丁、巻第二十・三三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印）、上

二印、稲田福堂、巻末に「文／庫」（朱丸陰刻）の他、藍色双

辺枠の長方印が捺されているが、墨塗抹。

〔備考〕無書入。

【仏書】

192 ◎一乗要決 三巻 源信撰

〔請求番号〕31/20/367

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 栗皮表紙（押八双はあるが後補か）。二七・一×一九・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に一部残存（三冊目書題簽）、一九・五×四・一糎。

〔内題〕 「一乗要決卷上／尽第三門（十格空）沙門源信撰」、「一乗要決卷中／至第六門半（九格空）沙門源信撰」、「一乗要決卷下／大文第六遮無性有情執之下（二格空）沙門源信撰」。

〔尾題〕 「一乗要決卷上（中・下）」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・一糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「要決上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五三丁（卷上）、第二冊、五二丁（卷中）、第三冊、五一丁（卷下）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「願龍寺藏書」（墨長方印）。

〔備考〕 卷下の卷末に識語、「越北野田邨願龍寺心光院釈法城信誓霑之」。朱筆で返点、その他朱墨による書入（識語と同筆）が多数施されている。川瀬・七八七頁、「元和四年刊叡山版による寛永頃の印行であらう」。

◎子部 釈家類 諸宗之属

193 運庵和尚語録 一卷（宋）釈普巖撰

〔請求番号〕 31/8/328

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 新補薄茶色表紙。二七・五×一九・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・二×三・三糎）、「運菴語録全」。

〔内題〕 「鎮江府大聖普照禪寺運菴和尚語録／（低七格）侍者（三格空）

元靖（三格空）編」、「真州報恩光孝禪寺語／（低九格）侍者（二格空）侍者（二格空）智能（二格空）編」、「安吉州道場山護聖

万歳禪寺語／（低八格）侍者（三格空）惟衍（二格空）編」。

〔尾題〕 「普照語終」、「光孝語終」、「万歳語終」、「運庵和尚語録終」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一九字。

〔匡郭〕 四周双辺（二一・一×一五・八糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「運菴 丁附」。

〔丁数〕 一六丁（鎮江府大聖普照禪寺運菴和尚語録、〓四丁裏・4、真州報恩光孝禪寺語、四丁裏・8〓六丁表・4、安吉州道場山護聖万歳禪寺語、六丁裏〓九丁裏・7、法語、九丁裏・9〓一一丁裏、贊仏祖、一二丁表〓一三丁表・2、頌古、一三丁表・4〓一四丁裏・5、偈頌、一四丁裏・7〓一六丁表）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「金地院」（朱長方印）、「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

「出雲寺（明治廿年／二六八八号／一冊）」（後表紙の見返し）。  
〔備考〕無書入。全丁裏打修補。川瀬・七九〇頁、「寛永中の印行であらう」。

◎子部 釈家類 語録・古則

194 雲門匡真禪師広録 三卷（唐）釈文偃撰（宋）釈守堅編

〔請求番号〕31/10/335

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕原装（押入双有）茶色表紙。三〇・〇×二二・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一九・五×三・九糎）、「紙衣録」。

〔内題〕「雲門匡真禪師広録卷上并序」、「雲門匡真禪師広録卷中」（低八格）門人明識大師賜紫 守堅集、「雲門匡真禪師広録卷下」（低

七格）門人明識大師賜紫 守堅集（卷上は、「低八格）門人明

識大師賜紫 守堅集」のみ）。

〔尾題〕「雲門匡真禪師広録卷上（中）／（一行空）／（低四格）住福州

鼓山円覚（二格空）宗演（二格空）校勘。下巻は、尾題「雲門

匡真禪師広録卷下」の後に「頌雲門三句語へ并余頌／八首」、

その後に「（低四格）住福州鼓山円覚（三格空）宗演（二格空）

校勘」。

〔本文〕

每半葉一〇行×二〇字。行書体の活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺（二三・四×一五・九糎）、有界。

〔版心〕黒口、上下に双黒魚尾、中縫、「雲上（中・下）」、「丁附」。

〔丁数〕第一冊、三四丁（序・二丁、巻上・三三丁）、第二冊、五一丁（巻中）、第三冊、三五丁（巻下）。

〔刊記〕「（低五格）慶長癸丑歲仲春月洛陽 宗鐵重刊」。

〔印記〕巻首丁に長方印、墨塗抹。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

川瀬・二九七・七三二頁、妙心寺に於ける開版事業。

◎子部 釈家類 諸宗之属 禅宗

195 黄檗山断際禅師伝心法要 一卷 附宛陵録一卷（唐）釈希運

撰 唐 釈裴休 編

〔請求番号〕31/7/323

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補縹色表紙。二九・五×二〇・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・六×三・七糎）、「伝心法要

古活字版」。

〔内題〕「黄檗山断際禅師伝心法要／（低六格）河東裴休 集并序」、

「黄檗断際禅師宛陵録」。

〔尾題〕「伝心法要終」、「黄檗断際禅師宛陵録」。

〔本文〕每半葉九行×一六字。

〔匡郭〕四周双辺（一九・〇×一五・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「法要 丁附」。

〔丁数〕四〇丁。伝心法要、（二四丁表・5、宛陵録、二四丁表・7）

三八丁裏、「端平丙申者庵劉<sup>通稱</sup>命／公鑲版流通」、三八丁裏、跋  
(弘安癸未仲春住金剛寿福禪寺宋沙門大休正念書于藏六庵)、三  
九丁表、四〇丁裏・1。

〔刊記〕「(低二格) 富小路讚州寺町 中村長兵衛尉」。

〔印記〕「弍／絲」(朱丸印、陰刻)。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、送仮名が施されている。

川瀬、三三九・七六八頁、寛永年間の刊行。伝本、他に日光山  
天海藏、東京大学総合図書館蔵。

◎子部 釈家類 諸宗之属 真言

196 開心抄 存中・下 杲宝 著

〔請求番号〕31/13/346

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕茶色表紙(押八双はあるが後補)。二七・四×一九・六糎。四針  
袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「開心鈔中(下)」と打付書。右肩に「共三卷」、右  
下に「宥宣」と墨書。

〔内題〕「開心鈔目錄中」、「開心鈔下目錄」、「開心鈔中(下)」。

〔尾題〕「開心鈔中(下)」。

〔本文〕每半葉九行×一九字。附訓別行植版。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・六糎。

〔版心〕「開心 中(下)」、上下の黒魚尾を挟んで丁附を刻す。

〔丁数〕第一冊、二九丁(目錄・一丁、中・二八丁)、第二冊、三〇丁(目  
録・一丁、下・二九丁、巻尾丁は後表紙の見返しに貼付)。

〔刊記〕中は尾題の下、十二格空けて「浄善<sup>開板</sup>」、下は「寛永四年七月  
七日於高野山左平次入浄善<sup>開板</sup>」。

〔印記〕「江風山／月莊」(稲田福堂、朱方印)。

〔備考〕無書入。第一冊の表紙に「開心鈔／寛永四年七月七日於高野山  
左平次／入浄善<sup>開板</sup>板開／活字板ニシテ訓点アリ(印||福堂)」と墨  
書のある紙片を貼付。川瀬・三一二頁、高野版。「附訓植版本、  
漢字の間(上下)にレ点及び数字を、右傍行間に送仮名(片仮  
名)を施してゐる。この形式はやはり叡山版に範を学んだもの  
と認められる」。

◎子部 釈家類 諸宗之属 真言

197 玉印抄 一〇巻 杲宝 著

〔請求番号〕31/29/383

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕新補縹色表紙。二七・二×一九・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一八・二×三・三糎)、「玉印鈔 一  
(一六)」。

〔内題〕「玉印鈔第一(一六)」、「玉印鈔第三」、「玉印鈔卷第七(九)」、  
「玉印鈔卷第八(十)」。

〔尾題〕「玉印鈔第一(第二卷・第三・四・六)」(第五、尾題なし)、「玉

印鈔卷第七（〜十）。

〔本文〕 每半葉九行×二〇字。附訓別行植版。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・七糎。

〔版心〕 「玉印 一（〜十）」、上下の黒魚尾を挟んで丁附を刻す。

〔丁数〕 第一冊、四三丁（第一・二二丁、第二・二二丁）、第二冊、二四

丁（第三・一五丁、第四・九丁）、第三冊、二六丁（第五・二〇

丁、二二丁欠、第六・六丁）、第四冊、二八丁（巻第七・一六丁、

巻第八・一二丁、二〇丁）「十九」、以下、丁附にずれ）、第五冊、

二二丁（巻第九・二二丁）、第六冊、三三丁（巻第十・三二丁）。

〔刊記〕 「（低三格）寛永三年（丙寅）三月廿一日」（第二の尾題の後）、

「寛永三（丙寅）年七月十三日尾州住丹下浄善開版」（巻第十）。

〔印記〕 無。

〔備考〕 無書入。裏打修補。川瀬・三二二頁、高野版。

◎子部 釈家類 諸宗之屬

198 科註天台四教儀集解 三卷 （宋）釈從義註

〔請求番号〕 31/18/359

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 栗皮表紙（押八双有、原表紙。但、見返し改装）。二九・〇×二

〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「四教儀 上（中・下）」と大きく打付書。

〔内題〕 「天台四教儀集解卷上并序」、「科註天台四教儀卷上（中・下）（以永

嘉沙門從義註／入諦觀本書之亮窓」。

〔尾題〕 「科註天台四教儀卷第一」、「科註天台四教儀卷中（下）」。

〔本文〕 每半葉八行×一五字（序、九行×一五字）。大型活字、注小字双

行。

〔匡郭〕 四周単辺（一八・六×一六・四糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「四教儀卷上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五八丁（序・二丁、卷上・五七丁）、第二冊、六七丁（卷

中）、第三冊、七七丁（巻下）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 巻首に朱長方印、二印。但、墨塗抹。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、上欄

等に朱墨による書入（川瀬はこれを慶長頃と見る）あり。川瀬・

七八三頁、「慶長年間、比較的早い頃の印行と認められる版式の

すぐれた大型活字の一本がある」。

◎子部 釈家類 諸宗之屬

199 科註天台四教儀集解 三卷 （宋）釈從義註

〔請求番号〕 31/18/356

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 新補縹色表紙。二七・一×二〇・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の書題簽（一九・七×三・一糎）、「科註天台四教儀

上（中・下）」。

〔内題〕「科註天台四教儀卷上（中・下）へ以永嘉沙門從義註／入諦觀本書之亮憲」。

〔尾題〕「科註天台四教儀卷第一」、「科註天台四教儀卷中」、「科註天台四教儀卷第六」（「31／18／359」本は「第六」を「下」とする。異同はこれのみ）。

〔本文〕每半葉八行×一五字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周单边（一八・六×一六・四糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「四教儀卷上（中・下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五七丁（序、欠、卷上・五七丁）、第二冊、六四丁（卷中、三八丁・四二丁・五八丁欠）、第三冊、七六丁（卷下、一八丁欠）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕巻上の巻首八丁にのみ朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。全丁合紙綴じ込み。川瀬・七八三頁、本書を萩洞春寺の旧蔵本とするが不審。

### ◎子部 釈家類

#### 200 科註妙法蓮華經抄 八巻 定珍 著

〔請求番号〕31／23／378

〔体裁〕大本一二冊。

〔表紙〕新補縹色表紙。二八・三×二〇・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二〇・八×三・六糎）、「科註法華經 一（〜十二）」。

〔内題〕「科註妙法蓮華經卷第一鈔本之上（〜卷第八鈔）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。訓点小字活字使用。

〔匡郭〕四周单边（二三・〇×一六・三糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「法北一本上（〜八） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五七丁（卷第一鈔本之上）、第二冊、四五丁（卷第一鈔本之下）、第三冊、五〇丁（卷第一鈔末之上）、第四冊、三六丁（卷第一鈔末之下）、第五冊、六五丁（卷第二鈔本）、第六冊、六六丁（卷第二鈔末）、第七冊、七〇丁（卷第三鈔本・三三丁、卷第三鈔末・三七丁）、第八冊、六六丁（卷第四鈔本・二四丁、卷第四鈔末・四二丁）、第九冊、三九丁（卷第五鈔本）、第一〇冊、六二丁（卷第五鈔末）、第一一冊、六九丁（卷第六鈔本・三四丁、卷第六鈔末・三五丁）、第一二冊、六六丁（卷第七鈔・三六丁、卷第八鈔・三〇丁）。

〔刊記〕「（低一格）皆寛永二へ乙／丑」曆梅月下旬吉辰（四格空）刊摺之」。

〔印記〕「定法寺蔵」（朱長方印）。

〔備考〕無書入。裏打修補。各冊とも巻末に識語、「南山居住沙門亮海」。

川瀬・三〇三頁、叡山版。伝本、人吉願成寺蔵本を著録するのみ。

◎子部 釈家類

201 科註妙法蓮華經 八卷 (元) 徐行善撰 (元) 釈必昇校

〔請求番号〕 31/24/379

〔体裁〕 大本一〇冊。

〔表紙〕 栗皮表紙(押八双有、原表紙裏打改装)。三〇・〇×二〇・三。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「科註妙法蓮華經卷第一上(〇八)」。

〔尾題〕 「科註妙法蓮華經卷第一上(〇八)終」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(二〇・二×一六・七。有界)。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「妙科一上(〇八) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三九丁(卷第一上)、第二冊、四六丁(卷第一下、二二丁欠)、第三冊、五二丁(卷第二上)、第四冊、三三丁(卷第二下)、第五冊、六一丁(卷第三)、第六冊、四八丁(卷第四)、第七冊、五八丁(卷第五)、第八冊、五三丁(卷第六)、第九冊、四二丁(卷第七)、第一〇冊、四六丁(卷第八)。

〔刊記〕 「(低一格) 于時寛永二年十月日於洛陽三條寺町/宝蔵寺摺刊之畢」。

〔印記〕 「(切取)/文庫」(朱方印)。

〔備考〕 第一冊〜三冊のみ墨筆で返点、送仮名等が施されている。川瀬・

二九五頁、宝蔵寺の開版事業。同寺で刊行されたものとして、

本書と観經四帖疏楷定記(三十六卷、十五冊)の二書を挙げる。図録篇・八五図に大東急本の図版を収む。

◎子部 釈家類 語録・古則

202 虚堂和尚語録 (宋) 釈智愚撰 (宋) 釈妙源等編

〔請求番号〕 31/9/334

〔体裁〕 大本七冊。

〔表紙〕 後補青色表紙(後表紙は茶色渋引き)。二九・〇×二一・六。四針袋綴。「岳/瑞泉院」と朱書。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽(第一冊のみ、一六・〇×四・九。以下剥落)、「虚堂録 一」(朱書)。

〔内題〕 「虚堂和尚語録目録」、「嘉興府興聖禪寺虚堂和尚語録/(低九格) 参学(二格空) 妙源 編」、「嘉興府報恩光孝禪寺語録/(低十格) 参学(一格空) 可宣(一格空) 編」、「慶元府顕孝禪寺開山語録/(低九格) 侍者(一格空) 無隠(二格空) 編」、「慶元府瑞巖開善禪寺語録/(低九格) 侍者(二格空) 梵闍(一格空) 編」、「慶元府万松延福禪寺語録/(低八格) 侍者(二格空) 德溢(三格空) 編」、「婺州雲黄山宝林禪寺語録/(低六格) 侍者(一格空) 惟俊(一格空) 法雲(二格空) 編」、「慶元府阿育王山広利禪寺語録/(低四格) 侍者(一格空) 德惟(一格空) 如阜(一格空) 編」、「柏巖慧照禪寺語録/(低九格) 侍者(二格空) 似藻(二格空) 編」、「臨安府浄慈報恩光孝禪寺語録/(低

二格空) 似藻(二格空) 編」、「臨安府浄慈報恩光孝禪寺語録/(低

四格)侍者(一格空) 至源(一格空) 文衡(四格空) 編、「臨

安府徑山興(一格空) 聖万寿禪寺語錄(低五格) 参学(一格

空) 惟份(二格空) 文愷(三格空) 編、「双林夏前告香普說

(低八格) 侍者(二格空) 法雲(二格空) 編、「靈隱立僧普說

／(低八格) 侍者(三格空) 淨覃(一格空) 編、「頌古(低

十格) 侍者(一格空) 無隱(一格空) 編、「虚堂和尚統輯(低

四格) 参学(一格空) 以文(一格空) 無補(二格空) 法光(一

格空) 編、「臨安府淨慈報恩光孝禪寺後錄(一格空) 道

準(一格空) 禧会(一格空) 紹賢(一格空) 編、「臨安府徑山

興(一格空) 聖万寿禪寺後錄(低四格) 参学(一格空) 正一

(一格空) 淨喜(一格空) 尚賢(一格空) 編、「虚堂和尚新添」。

〔尾題〕「目錄終」、「興聖語錄終」、「報恩語錄終」、「顯孝語錄」、「瑞嵩語

錄終」、「延福語錄終」、「宝林語錄終」、「柏巖語錄」、「虚堂和尚

語錄卷下」、「統輯終」、「淨慈後錄終」、「後錄終」、「虚堂和尚新

添終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。

〔匡郭〕四周双辺(目錄、二〇・三×一四・二糶、本文卷首、二〇・二

×一四・〇糶)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「虚堂(虚興聖)虚新添」 丁附。

〔丁数〕第一冊、五三丁(目錄・一丁、嘉興府興聖禪寺虚堂和尚語錄・

一〇丁、嘉興府報恩光孝禪寺語錄・二〇丁、一六丁欠、慶元府

顯孝禪寺開山語錄・六丁、慶元府瑞巖開善禪寺語錄・七丁、慶

元府万松延福禪寺語錄・九丁)、第二冊、五四丁(婺州雲黄山宝

林禪寺語錄)、第三冊、四六丁(慶元府阿育王山広利禪寺語錄・

二三丁、柏巖慧照禪寺語錄・三丁、臨安府淨慈報恩光孝禪寺語

錄・七丁、臨安府徑山興聖万寿禪寺語錄・一三丁)、第四冊、四

三丁(法語・九丁半、序跋・一丁半、真讚・二丁、双林夏前告

香普說・八丁、靈隱立僧普說・二二丁)、第五冊、八二丁(頌古・

二八丁、代別・三〇丁、仏祖讚・一八丁、礼祖塔・二丁、仏事・

四丁)、第六冊、七五丁(偈頌・三六丁、虚堂和尚統輯・一八丁、

臨安府淨慈報恩光孝禪寺後錄・二二丁)、第七冊、九〇丁(臨安

府徑山興聖万寿禪寺後錄・五七丁、偈頌・五丁、仏事・三丁、

秉炬・四丁半、法語・三丁、真贊・三丁半、虚堂和尚新添・一

四丁)。

〔刊記〕無。五山版の原刊記、「(低二格) 祖翁在世語錄二帙刊流天下宋

咸淳(低二格) 五年晋之統録後集已成三卷而(一格空) 本

(低二格) 朝未刊行之(一格空) 先師常師常為言而未果成也

人之後者曷無勇為乎仍搜遺逸新添(低八格) 数紙於後録之尾録梓于龍

翔正和癸丑開(低八格) 爐日拙孫宗卓敬書(低八格) 沙弥宗哲等施財

開板」。

〔印記〕「江風山/月莊」(稻田福堂、朱方印)。他、未勘の朱墨印、二印。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている

他、朱墨による書入が夥しく施されている。桐箱入。次項「3

1/39/414」と同版。川瀬、三四八・七八九頁、慶長元

◎子部 釈家類 語録・古則

203 虚堂和尚語録 四卷 (宋) 釈智愚撰 (宋) 釈妙源等編

〔請求番号〕 31 / 39 / 414

〔体裁〕 大本七冊。

〔表紙〕 丹表紙(押八又はあるが後補か)。二九・六×二一・五糎。四針

袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽(二〇・二×四・〇糎)、「虚堂録 一(七)」。題簽右に目録題簽(一八・三×一三・五糎)。

〔内題〕 「虚堂和尚語録目録」、「嘉興府興聖禪寺虚堂和尚語録」(低九格)

参学(二格空) 妙源 編、「虚堂和尚統輯」(低四格) 参学 以

文無補 法光 編、「嘉興府報恩光孝禪寺語録」(低十格) 参

学(一格空) 可宣(一格空) 編、「慶元府顯孝禪寺開山語録」

(低九格) 侍者(一格空) 無隱(二格空) 編、「慶元府瑞巖開

善禪寺語録」(低九格) 侍者(二格空) 梵閔(一格空) 編、「慶

元府万松延福禪寺語録」(低八格) 侍者(二格空) 德溢(三格

空) 編、「婺州雲黄山宝林禪寺語録」(低六格) 侍者(一格空)

惟俊(一格空) 法雲(二格空) 編、「慶元府阿育王山広利禪寺

語録」(低四格) 侍者(一格空) 德惟(一格空) 如阜(一格空)

編、「柏巖慧照禪寺語録」(低九格) 侍者(二格空) 似藻(二

格空) 編、「臨安府浄慈報恩光孝禪寺語録」(低四格) 侍者(一

格空) 至源(一格空) 文衡(四格空) 編、「臨安府徑山興(一

格空) 聖万寿禪寺語録」(低五格) 参学(一格空) 惟份(二格

空) 文愷(三格空) 編、「双林夏前告香普説」(低八格) 侍者

(二格空) 法雲(二格空) 編、「靈隠立僧普説」(低八格) 侍

者(三格空) 浄覃(一格空) 編、「頌古」(低十格) 侍者(一

格空) 無隱(一格空) 編、「臨安府浄慈報恩光孝禪寺後録」参

学(一格空) 道準(一格空) 禧会(一格空) 紹賢(一格空) 編、「

臨安府徑山興(一格空) 聖万寿禪寺後録」(低四格) 参学(一

格空) 正一(一格空) 浄喜(一格空) 尚賢(一格空) 編、「虚

堂和尚新添」。

〔尾題〕 「目録終」、「興聖語録終」、「報恩語録終」、「顯孝語録」、「瑞岳語

録終」、「延福語録終」、「宝林語録終」、「柏巖語録」、「虚堂和尚

語録卷下」、「統輯終」、「浄慈後録終」、「後録終」、「虚堂和尚新

添終」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。

〔匡郭〕 四周双辺(目録、二〇・三×一四・三糎、本文卷首、二〇・一

×一四・〇糎)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「虚堂(虚興聖)虚新添」 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五三丁(目録・一丁、嘉興府興聖禪寺虚堂和尚語録・

一〇丁、嘉興府報恩光孝禪寺語録・二二丁、慶元府顯孝禪寺開

山語録・六丁、慶元府瑞巖開善禪寺語録・七丁、慶元府万松延

福禪寺語録・九丁)、第二冊、五四丁(婺州雲黄山宝林禪寺語録)、

第三冊、四六丁（慶元府阿育王山広利禪寺語録・二三丁、柏巖慧照禪寺語録・三丁、臨安府淨慈報恩光孝禪寺語録・七丁、臨安府徑山興聖万寿禪寺語録・一三三丁）、第四冊、四三丁（法語・九丁半、序跋・一丁半、真讚・二丁、双林夏前告香普説・八丁、靈隱立僧普説・二二丁）、第五冊、八二丁（頌古・二八丁、代別・三〇丁、仏祖讚・一八丁、札祖塔・二丁、仏事・四丁、偈頌・三六丁）、第六冊、三九丁（虚堂和尚統輯・一八丁、臨安府淨慈報恩光孝禪寺後録・二一丁。七丁目「云奸峭互陳対面千里有人寄僧過夏南山大開東閣何故彼此出家兒（以下本文なし。裏丁白丁）、ここに刻される本文は『愚堂和尚語録』に見られるもの。）、第七冊、九〇丁（臨安府徑山興聖万寿禪寺後録・五七丁、偈頌・五丁、仏事・三丁、秉炬・四丁半、法語・三丁、真贊・三丁半、虚堂和尚新添・一四丁）。他、各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕無。五山版の原刊記、「（低二格）祖翁在世語録二帙刊流天下咸淳／（低二格）五年晋之統録後集已成三卷而（一格空）本／（低二格）朝未刊行之（一格空）先師常師常為言而未果成／也人之後者曷無勇為乎仍搜遺逸新添／數紙於後録之尾鏗梓于龍翔正和癸丑開／爐日拙孫宗卓敬書／（低八格）沙弥宗哲等施財開板」。

〔印記〕無。  
〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、朱墨による書入が夥しく施されている。第二冊の前遊紙に識語、「七

卷之内尾州名府／禪隆寺」。川瀬、三四八・七八九頁、慶長元年中刊。

### ◎子部 釈家類

204 俱舍論頌疏 二九卷 唐 釈円暉撰

〔請求番号〕31/15/351

〔体裁〕大本八冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・九×一九・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「第二第二」、右肩に「初界品」と墨書（第一冊）

「第廿六至三十」七智品／八定品（第八冊）。

〔内題〕「阿毘達磨俱舍論略釈記／（低一格）正義大夫持節諸軍使晋州刺史賈曾撰」、「俱舍論頌疏卷第一／（低五格）中大雲寺沙門円暉（一格空）述」、「俱舍論頌疏（三格空）論本第二（二十九）」。

〔尾題〕「俱舍論頌疏（三格空）論本第一（二十九）」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二三・〇糎。

〔版心〕白口双黒魚尾、中縫、「俱舍論頌疏一（廿九） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、九四丁（阿毘達磨俱舍論略釈記）第一・六一丁、第二・三三三丁、第二冊、一三三三丁（第三・二八丁、第四・三六丁、第五・二三三丁、第六・二五丁、第七・二二丁）、第三冊、一一九丁（第八・二五丁、第九・二三三丁、第十・二四丁、第十一・二八丁、第十二・一九丁）、第四冊、七六丁（第十三・二三三丁、第十

四・二六丁、第十五・二七丁)、第五冊、七七丁(第十六・二二

丁、第十七・二五丁、第十八・三〇丁)、第六冊、七三丁(第十

九・二五丁、第二十・二〇丁、第二十一・二八丁)、第七冊、八

八丁(第二十二・一七丁、第二十三・二六丁、第二十四・二三

丁、第二十五・二二丁)、第八冊、八七丁(第二十六・二六丁、

第二十七・二五丁、第二十八・二三丁、第二十九・一三丁)。

〔刊記〕「(低一格)慶長十六辛亥曆孟冬(低九格)京一條清和院新刊」。

〔印記〕「江州金森善立寺」(朱長方印)。

〔備考〕朱句読点、墨筆で返点、送仮名、その他、朱墨による書入が施

されている。川瀬、二九二・七二一頁。

### ◎子部 釈家類

#### 205 俱舍論頌疏 二九卷 唐 釈円暉撰

〔請求番号〕31/15/352

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙(新補縹色覆表紙附)。二八・八×二一・八糎。

五針袋綴。

〔題簽〕後補薄茶色表紙の左肩に、後補の書題簽(一九・三×三・七糎)、

「俱舍 一(〜廿八廿九/終)」、新補縹色覆表紙の左肩に、新

補の書題簽(二〇・三×三・〇糎)、「俱舍論頌疏 一(〜十五)」。

〔内題〕「阿毘達磨俱舍論略釈記(低一格)正議大夫持節諸軍使晋洲刺

史賈曾撰」、「俱舍論頌疏卷第一(低六格)中大雲寺沙門円

暉(一格空)述」、「俱舍論頌疏(三格空)論本第二(〜二十九)」。

〔尾題〕「俱舍論頌疏(三格空)論本第一(〜二十九)」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・一糎。

〔版心〕「俱舍論頌疏一(〜七・十三〜二十)」、「俱舍論頌疏八(〜十二・

二十三〜二十九)」、「俱舍論頌疏十九(二十一・二十二)」。

〔丁数〕第一冊、六一丁(阿毘達磨俱舍論略釈記(第一)、第二冊、六一

丁(第二・三三丁、第三・二八丁)、第三冊、五九丁(第四・三

六丁、第五・二三丁)、第四冊、四六丁(第六・二五丁、第七・

二二丁)、第五冊、四八丁(第八・二五丁、第九・一三丁)、第

六冊、五二丁(第十・二四丁、第十一・二八丁)、第七冊、四二

丁(第十二・一九丁、第十三・二三丁)、第八冊、五三丁(第十

四・二六丁、第十五・二七丁)、第九冊、四七丁(第十六・二二

丁、第十七・二五丁)、第一〇冊、五五丁(第十八・三〇丁、第

十九・二五丁)、第一一冊、四八丁(第二十・二〇丁、第二十一・

二八丁)、第一二冊、四三丁(第二十二・一七丁、第二十三・二

六丁)、第一三冊、四五丁(第二十四・二三丁、第二十五・二三

丁)、第一四冊、五一丁(第二十六・二六丁、第二十七・二五丁)、

第一五冊、三六丁(第二十八・二三丁、第二十九・一三丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山/月莊」(稲田福堂、朱方印)。

〔備考〕第六冊と一一冊以外は無書入。全丁合紙を入れて綴じ直してい

る。川瀬・七八一頁、「慶長十六年一條清和院刊本よりむしろ先  
行と見られる。慶長年間早く刊行された嵯峨本史記と称せられ  
るものと同種の大型活字を用ひてゐる」。図録篇・七七一図に大  
東急本の図版を収む。

◎子部 釈家類

206 俱舍論頌疏抄 二八卷

〔請求番号〕31/14/349

〔体裁〕大本一四冊。

〔表紙〕栗皮表紙（原表紙、見返し改装）。二八・五×一九・五糎。四針

袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「愚聞記界一始（智定各二）」と朱打付書。

〔内題〕「俱舍論頌疏卷第一鈔／（低三格）（下向き花口魚尾）分別界品

一之上（三格空）觀談愚聞記」（俱舍論頌疏卷第二十八鈔／（低

三格）（下向き花口魚尾）分別定品第一（四格空）觀談愚聞記」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一四行×二二字内外（字数不等）。漢字片仮名交。附訓植  
版。

〔匡郭〕四周单边（二三・四×一六・〇糎）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「愚聞界一上（二下） 丁附」、「愚聞

根一（五） 丁附」、「愚聞世一（五） 丁附」、「愚聞業一

（六） 丁附」、「愚聞隨一（三）」、「愚聞賢一（四）丁附」、

「愚聞智一（二） 丁附」、「愚聞定一 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三七丁（分別界品、一之上）、第二冊、五一丁（分別界

品、一之中・三二丁、一下・二〇丁）、第三冊、三七丁（分別界

品、二上・一九丁、二下・一八丁）、第四冊、五三丁（分別根品、

第一・二二丁、第二・三三丁）、第五冊、六五丁（分別根品、第

三・一九丁、第四・二七丁、第五・一九丁）、第六冊、四三丁（分

別世間品、第一・二四丁、第二・一九丁）、第七冊、二九丁（分

別世間品、第三）、第八冊、五〇丁（分別世間品、第四・三一丁、

第五・一九丁）、第九冊、三五丁（分別業品、第一・一六丁、第

二・一九丁）、第一〇冊、四四丁（分別業品、第三・一四丁、第

四・六丁、第五・一一丁、第六・一三丁）、第一一冊、五一丁（分

別隨眠品、第一・一六丁、第二・二二丁、第三・一四丁）、第一

二冊、三六丁（分別賢聖品、第一・一三丁、第二・二三丁）、第

一三冊、三〇丁（分別賢聖品、第三・一八丁、第四・一二丁）、

第一四冊、三六丁（分別智品、第一・一六丁、第二・九丁、分

別定品、第一・一一丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕ごくわずかに朱墨による書入が施されている。川瀬・七七七頁、

寛永二年刊附訓植版本同様、本書も叡山版の印行と見る。図録

篇・六六四図に大東急本の図版を収む。

◎子部 釈家類

207 顯戒論 存卷下 最澄撰

〔請求番号〕 31/18/357

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 新補薄茶色表紙。二六・九×二〇・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・八×三・〇糎）、〔顯戒論 元

和活字版〕。

〔内題〕 「顯戒論卷下／（低一格）前入唐受法沙門伝燈法師位最澄撰」

〔尾題〕 「顯戒論卷下」。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 单边、下辺のみ双边（二一・六×一六・九糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「顯論上下（下下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二三四（下上）、第二冊、二四丁（下下）。

〔刊記〕 「惟背元和三（丁巳）曆八月中旬於西京ノ北野経堂常明寺宗存

令摺刊之畢」。

〔印記〕 「山門ノ観明院蔵本」（墨長方印、下上の冊のみ）、「江風山ノ月

莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕 墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。下下の冊の巻末

（二四丁）に朱筆書の紙片を貼付、「此一張縫綴ヲ誤レリノ下下

二十三張裏「大日本国弘仁十一年云々」ノ文ニ続クヤウニ改釘

ノスベシ（下上モ下下モ偶然廿三張ニ終レルガ為ニ此過誤ヲ生

ゼシナラン）。川瀬、二八五頁、宗存版。

◎準漢籍 子部 釈家類

208 元亨釈書 三〇巻 虎関師錬撰

〔請求番号〕 31/30/384

〔体裁〕 大本一〇冊。

〔表紙〕 薄茶色表紙（原表紙裏打改装）。二六・三×一九・九糎。五針袋

綴。

〔題簽〕 無。左肩に「元亨釈書甲之」と打付書。右下に「共十冊ノ甚

鏡房」と墨書。

〔内題〕 「元亨釈書目録／（低七格）濟北沙門 師錬 撰」、「元亨釈書卷

第一（一三十）／（低七格）濟北沙門 師錬 撰」。

〔尾題〕 「元亨釈書卷第一（一三十）」。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。稚拙な大型活字。

〔匡郭〕 四周单边（二二・三×一五・六糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「尺（表・尺一（三十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、八二丁（目録・一九丁、上元亨釈書表・三丁、巻第一・

二九丁、巻第二・三〇丁、二二丁の丁附「二十二」、以下、丁附

にずれ）、第二冊、八七丁（巻第三・三二丁、巻第四・二八丁、

巻第五・二八丁）、第三冊、七〇丁（巻第六・二二丁、巻第七・

二五丁、巻第八・二四丁）、第四冊、九三丁（巻第九・三二丁、

巻第十・三一丁、巻第十一・三〇丁）、第五冊、九五丁（巻第十

二・二七丁、巻第十三・二〇丁、巻第十四・二〇丁、巻第十五・

二八丁）、第六冊、九二丁（巻第十六・二〇丁、六丁の丁附「五」、

以下、丁附にずれ、卷第十七・三六丁、卷第十八・三五丁）、第七冊、八〇丁（卷第十九・二三丁、卷第二十・二九丁、卷第二十一・二八丁）、第八冊、九七丁（卷第二十二・二九丁、卷第二十三・四四丁、二二〇二丁重複（一一丁分復紙）、卷第二十四・二四丁、二丁欠）、第九冊、八八丁（卷第二十五・三二丁、卷第二十六・二八丁、卷第二十七・二八丁）、第一〇冊、七五丁（卷第二十八・二七丁、卷第二十九・二五丁、卷第三十・二二丁、東福海藏禪院重刊／元亨釈書化疏（有／叙）・一丁半、刊記・半丁）。他、各冊とも前遊紙一丁。

〔刊記〕「（低二格）于時慶長四年戊亥月日／（低一格）日東 洛陽（二格空）如庵 宗乾模行」

〔印記〕「高」（朱丸印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他書入有。

第一冊、卷末と後表紙の見返し、第一〇冊、卷末刊記の後に識語、「高坐山千手院／文殊院（印〓高）／慶長七龍長庚寅載季秋仲澁」、「求得肥後甚鏡房恕辰」、「慶長七歲口庚寅季穉仲澁日／南山千手院文殊院／契誉（花押）／求得肥後甚鏡房恕辰」。各冊とも前後の表紙裏に、古活字版の『法華玄義釈籤』の刷り反古（第七冊の後表紙裏の反古の版心には、白口下向き花口魚尾に「釈籤卷一 十九」と刻す。七行×一七字）が用いられている。川瀬、七六三頁、「久原文庫蔵慶長四年刊元亨釈書（慶長七年／墨書あり）の原表紙裏張りに「法華玄義釈籤」の摺遣り

が多数用ひられてゐるのを見ても、慶長極初年に天台法華関係のものがいち早く種々開印されてゐることは確かであつて、本書もその一つと言へよう」。

### ◎準漢籍 子部 釈家類

209 元亨釈書 三〇卷 虎関師鍊撰

〔請求番号〕31/31/385

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕新補の薄茶色表紙。二六・一×一九・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二〇・二×三・〇糎）、

〔内題〕「元亨釈書目録／（低七格）濟北沙門 師鍊 撰」、「元亨釈書卷

第一（〜三十）／（低七格）濟北沙門 師鍊 撰」。

〔尾題〕「元亨釈書卷第一（〜三十）」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。稚拙な大型活字。

〔匡郭〕四周单边（二二・三×一五・九糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「尺（表・尺一〜三十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八〇丁（目録・一九丁、上元亨釈書表・三丁、「表」は卷第一の二丁と三丁の間に三・一・二丁の順で綴じる。卷第一・二九丁、卷第二・二九丁、二二丁の丁附「二十二」、以下、丁附にずれ、卷尾丁欠）、第二冊、七〇丁（卷第六・二二丁、卷第七・二五丁、卷第八・二四丁）、第三冊、六三丁（卷第九・三二丁、卷第十・三一丁）、第四冊、五七丁（卷第十一・三〇丁、卷第十

二・二七丁)、第五冊、六八丁(卷第十三・二〇丁、卷第十四・

二〇丁、卷第十五・二八丁)、第六冊、七九丁(卷第十九・二三

丁、卷第二十・二九丁、卷第二十一・二七丁、一九丁欠)、第七

冊、六一丁(卷第二十二・二九丁、卷第二十三・三三丁)、第八

冊、五七丁(卷第二十四・二五丁、卷第二十五・三三丁)、第九

冊、五六丁(卷第二十六・二八丁、卷第二十七・二八丁)、第一

〇冊、七四丁(卷第二十八・二七丁、卷第二十九・二四丁、一

三丁欠、卷第三十・二二丁、東福海藏禪院重刊/元亨釈書化疏

〔有/叙〕・一丁半、刊記・半丁)。

〔刊記〕「(低二格) 于時慶長四年戊亥月日/(低一格) 日東 洛陽(二格空) 如庵 宗乾模行」

〔印記〕「江風山/月莊」(稲田福堂、朱方印)。

〔備考〕第五冊まで、朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

◎準漢籍 子部 釈家類

210 元亨釈書 三〇卷 虎関師鍊撰

〔請求番号〕31/32/386

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕後補赤茶色表紙。二七・二×二一・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕表紙中央に後補の書題簽(二〇・六×三・七糎)、「元亨釈書 一

至〇(破損)(二)(二十八至/三十)」。

〔内題〕「元亨釈書目録/(低七格) 濟北沙門 師鍊 撰」、「元亨釈書卷

第一(三十)/ (低七格) 濟北沙門 師鍊 撰」。

〔尾題〕「元亨釈書卷第一(三十)」。

〔本文〕毎半葉九行×一七字。端正な活字。

〔匡郭〕四周双辺(目録、二二・三×一七・一糎)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「尺一卷(尺表・尺一卷×三十卷) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八二丁(目録・一九丁、上元亨釈書表・三丁、卷第一・

二九丁、卷第二・三〇丁)、第二冊、八七丁(卷第三・三二丁、

卷第四・二八丁、卷第五・二八丁)、第三冊、七〇丁(卷第六・

二二丁、卷第七・二五丁、卷第八・二四丁)、第四冊、九三丁(卷

第九・三三丁、卷第十・三二丁、卷第十一・三〇丁)、第五冊、

九五丁(卷第十二・二七丁、卷第十三・二〇丁、卷第十四・二

〇丁、卷第十五・二八丁)、第六冊、九〇丁(卷第十六・二〇丁、

卷第十七・三五丁、三四丁欠、卷第十八・三五丁)、第七冊、八

〇丁(卷第十九・二三丁、卷第二十・二九丁、卷第二十一・二

八丁)、第八冊、八八丁(卷第二十二・三〇丁、二〇丁重複、卷

第二十三・三三丁、卷第二十四・二五丁)、第九冊、八七丁(卷

第二十五・三三丁、卷第二十六・二八丁、卷第二十七・二七丁)、

第一〇冊、七五丁(卷第二十八・二七丁、卷第二十九・二五丁、

卷第三十・二二丁、東福海藏禪院重刊/元亨釈書化疏有叙)・一

丁半、刊記・半丁)。

〔刊記〕「(低一格) 慶長乙巳歲仲夏日/(一行空)/ (低十格) 下村生

蔵刊之」。

〔印記〕未勘の墨丸印、一印。

〔備考〕切り貼り訂正。卷十八、「特進藤実妻」(一五ウ・1)、垂窓奇香(一五ウ・6)、卷二十三、「功德料」(二九オ・5)、卷二十七、「園城沙弥」(六オ・4)。卷第十六の一〜四丁と卷第十七の一〜四丁に墨筆で訓点等が若干施されているのみ。川瀬、二九〇・三三七・四二八頁。

◎日蓮

211 顕性録要文 三卷

〔請求番号〕31/18/355

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕栗皮表紙(原表紙、裏打改装)。二七・八×一九・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「顕性録要文上本(〜下)」。

〔尾題〕「顕性録要文上本(〜下)」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、一一・〇糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「顕性要上本(〜下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三五丁(上本、巻首に「孤山智円師徳行并著書事」と題する)、第二冊、三六丁(上末)、第三冊、三六丁(中)、第四

冊、五八丁(下)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕上本の一丁裏までと、下の三〇丁表までに、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、若干の朱墨による書入が施されている。川瀬、七二九・七六六頁。叡山版か。

◎子部 釈家類 史伝

212 五家正宗贊 四卷 (宋) 釈紹曇撰

〔請求番号〕31/6/319

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕後補茶色渋引き表紙。二七・九×二〇・一糎。四針袋綴。第二冊、後表紙欠。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一一・二×三・二糎)、「正宗讚 一(〜四終)」。

〔内題〕「希叟和尚正宗贊目錄」、「五家正宗贊并序」。

〔尾題〕「正宗讚終」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕四周双辺(目錄、一一・六×一五・一糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「正宗目(正宗序・正宗・正宗臨(洞・雲・為・法)) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四二丁(目錄・三丁、序・一丁、初祖菩提達磨大師)

雪峯真覺禪師・三八丁）、第二冊、四〇丁（臨濟宗、慧照禪師）

密菴傑禪師。真浄文禪師、三八丁までと懶庵需禪師、六五丁と

六七丁存）、第三冊、三五丁（曹洞宗、洞山悟本禪師）自得暉禪

師）、第四冊、五七丁（雲門宗、雲門匡真禪師）月堂昌禪師・三

四丁半、滙仰宗、滙山大円禪師）芭蕉徹禪師・一二丁、法眼宗、

清涼法眼禪師）永明智覺禪師・一〇丁半）。

〔刊記〕「（低一格）慶長十三戌申仲秋吉辰／西京花園一枝軒板行之」。

〔印記〕未勘の朱方印、一印。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施され、第一冊の序）睦州陳尊

宿、二七丁表には朱墨による書入が夥しく施されている。川瀬・

三三八・七六六頁。図録篇・一三一図（成簀堂文庫蔵）と同版。

川瀬氏は異植字版とするが、「31/6/319」本と「31/

6/320」本の活字は別種で、異版とするのが正しい。

◎子部 釈家類 史伝

213 五家正宗賛 四卷 (宋) 釈紹曇撰

〔請求番号〕31/6/320

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕新補縹色表紙。二九・二〇・八糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（二〇・七×三・六糎）、「五家正宗

賛 一（〜四）」。

〔内題〕「希叟和尚正宗賛目錄」、「五家正宗賛并序」。

〔尾題〕「正宗讚終」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕四周双辺（目錄、二〇・二×一五・二糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「正宗目（正宗序・正宗・正宗臨（洞

雲・為・法）」 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四二丁（目錄・三丁、序・一丁、初祖菩提達磨大師）

雪峯真覺禪師・三八丁）、第二冊、六七丁（臨濟宗、慧照禪師）

密菴傑禪師）、第三冊、三五丁（曹洞宗、洞山悟本禪師）自得暉

禪師）、第四冊、五七丁（雲門宗、雲門匡真禪師）月堂昌禪師・

三四丁半、滙仰宗、滙山大円禪師）芭蕉徹禪師・一二丁、法眼

宗、清涼法眼禪師）永明智覺禪師・一〇丁半）。

〔刊記〕「（低一格）慶長十三戌申仲秋吉辰／西京花園一枝軒板行之」。

〔印記〕「法常／禪寺」（墨方印）、「大梅山」（墨長方印、上記二印は第二

冊と四冊の巻首のみ）、「弌／絲」（朱陰刻印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄等に朱墨

による書入が多数施されている。各冊とも巻末に識語、「丹州法

常禪寺常住壹部四冊」。裏打修補。川瀬 第一版とする。図録篇・

七四〇図に本書の図版を収む。

◎子部 釈家類

214 五燈会元 二〇卷 (宋) 釈普濟撰

〔請求番号〕31/7/322

〔体裁〕 大本二〇冊。

〔表紙〕 薄茶色（香色）表紙表紙（押八双有、原表紙か）。二八・三×一九・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（卷三、一八・七×三・一糎）、「五燈会元 卷第一（〜十八）」。第五・六・九・一一〜一五・一九・二〇冊、題簽剥落。

〔内題〕 「五燈会元卷第一（〜二十）」。

〔尾題〕 「五燈会元卷第一（〜二十）」。

〔本文〕 每半葉一三行×二四字。稍小型の整った活字を用いる。

〔匡郭〕 四周双辺（卷第一、一三・五×一五・七糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「五灯序（五灯目一仏祖・五灯一仏祖・五灯二・五灯二旁出・五灯二聖賢・五灯三〜二十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五〇丁（普濟序（整版）・一丁、序、肯宝祐改元清明日通庵王擁謹序・一丁、卷第一・四八丁）、第二冊、五三丁（卷第一）、第三冊、四五丁（卷第三、一二丁「又十一」、以下、丁附にずれ）、第四冊、四九丁（卷第四）、第五冊、三九丁（卷第五）、第六冊、四四丁（卷第六）、第七冊、五三丁（卷第七）、第八冊、五七丁（卷第八）、第九冊、三〇丁（卷第九）、第一〇冊、五九丁（卷第十）、第一一冊、四三丁（卷第十一）、第一二冊、五六丁（卷第十二）、第一三冊、五五丁（卷第十三）、第一四冊、五二丁（卷第十四）、第一五冊、六四丁（卷第十五）、第一六冊、六三丁（卷第十六）、第一七冊、四四丁（卷第十七）、第一八冊、

四八丁（卷第十八）、第一九冊、六六丁（卷第十九）、第二〇冊、

七一丁（卷第二十・七〇丁、跋・一丁、貞治馬兒年正月望書／此録禪徒至宝也禪行我朝莫盛如今／未刊行焉誠為缺典広化衆縁終成美／事戊申重陽日泉南小比丘彦貞謹識／版留建仁靈洞 法印宗応刊行）。

〔刊記〕 「（低六格低）寛永へ乙／亥／重陽日（二格空）洛陽富小路通讚

州寺町／（低十八格）中村宗遵重刊」（寛永乙亥〓寛永十二年）。

〔印記〕 無。

〔備考〕 無書入。川瀬、三三九・七六八頁。

◎子部 釈家類

215 金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經品（唐） 釈金剛智 訳

〔請求番号〕 31 / 13 / 344

〔体裁〕 中本一帖。

〔表紙〕 赤茶色表紙。二四・八×一五・九糎。粘葉装。右下に「甚果房／慶尊」と外題と同筆の墨書。

〔題簽〕 無。左肩に「瑜祇経」と打付書。

〔内題〕 「金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經品一／（低六格）南天竺国三藏金剛智 訳」。

〔尾題〕 「金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇経」。

〔本文〕 每半葉七行×一七字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、一八・九糎。

〔版心〕無。ノド（紙貼り合わせの箇所）に「瑜祇経 三十七」。

〔丁数〕七四帖。

〔刊記〕無。

〔印記〕「尊陽求本」（朱長方印）。

〔備考〕朱墨で返点、振仮名、送仮名等の書入有。寛永中刊、高野版か。

川瀬、七三五頁、「無刊記本であるが、その内容と活字の様式ま

たは装潢などから推して高野の開版と思はれる古活字本」。

◎子部 釈家類

216 山菴雜錄 二卷 (明) 釈無愠述

〔請求番号〕31/8/326

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補香色表紙。二七・八×一八・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一六・二×三・九糎）、「山菴雜錄」。

〔内題〕「山菴雜錄序」、「山菴禪錄上」、「山菴禪錄下」（低六格）天台沙

門釈 無愠述」。

〔尾題〕「山菴禪錄上」、「山菴雜錄下」（低八格）四明朱 敬中刊」。

〔本文〕每半葉八行×一五字。

〔匡郭〕四周双辺（二七・九×二二・九糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「雜錄序（上・下） 丁附」。

〔丁数〕二二九丁（序、洪武己巳夏六月／僧録司左善世 弘道序・二丁、

自序、洪武八年臘月望日／天台山人釈 無愠序・三丁、序、洪

武二十五年冬十月二十四日／無聞居士 眉山 蘇伯衡叙・三

丁、上・五九丁、下・五九丁半、後序、洪武庚午春二月既望／

天禧住山 守仁 題・半丁、後序、皆洪武庚午 靈谷住山清澹

拝題・二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名、その他、上下欄等に朱

墨による若干の書入が施されている。後遊紙に識語「時嘉永五

星子秋婦省之日依命／藏本虫払ス其之中不分是非簡／有両三卷

其之書也孰覽スルコト久／思ニ予ノ禪林拝聴スル処之山菴雜錄

之／直頂戴補破前後之表紙成／醜体弁別古鏡 願者江海英衲

／明心源云々／不愠庵主欽白」。川瀬、三四八・七九〇頁、慶長

元和中刊。同種活字異植字版あり。七九〇頁に久原文庫（現、

大東急記念文庫）蔵本を著録し、（イ）とする。図録篇・七九二

図に大東急本の図版を収む。

◎子部 釈家類

217 三國仏法伝通縁起 三卷 凝然

〔請求番号〕31/5/315

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕左肩に後補の薄茶色表紙。二七・八×一九・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・四×三・一糎）、「三國仏法

伝通縁起 全。

〔内題〕「三国仏法伝通縁起卷上（下）／（低十格）東大寺沙門 凝然述」。

〔尾題〕「三国仏法伝通縁起卷上（下）」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺（二二・七×一六・一糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「三国伝起上（下） 丁附」。

〔丁数〕六二丁（卷上・二二丁、卷中・二二丁、卷下・一九丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「□界／蔵」（朱方印、陰刻）、「松禪院」（朱長方印、陰刻）、「江

風山／月莊」（朱方印）。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬・三四七・

七八二頁、（一）慶長十二年以前刊本。凶録篇・七七三図と同版。

◎子部 釈家類

218 三教指帰私抄 一〇巻 長深

〔請求番号〕31/13/345

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二八・〇×二〇・二糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・六×三・一糎）、「三教指帰

鈔 一（五）」。

〔内題〕「（低二格）三教指帰卷上私鈔へ上之／上巻」、「（低二格）三教

指帰卷上私鈔へ上之／中巻」、「（低三格）三教指帰卷中二私」、

「（低四格）三教指帰卷中私抄」、「（低三格）三教指帰卷之五（卷之六）私」、「（低二格）三教指帰卷下私鈔へ下之／上巻」、「（低二格）三教指帰卷下私鈔へ下之／中巻」、「（低二格）三教指帰

卷下之中私鈔へ下之／中巻」。

〔尾題〕「三教指帰上之中巻畢」、「三教指帰卷中」、「（低二格）三教指帰

卷上私鈔畢」、「三教指帰鈔下之上巻畢」、「（低二格）三教指帰鈔

下之上巻畢」、「三教指帰私鈔下之中巻畢」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。注小字双行、訓点植版。

〔匡郭〕四周单辺（二二・九×一七・〇糎）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「三教指帰一（九） 丁附」、「三教指

二（九） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七〇丁（三教指帰卷上私鈔へ上之／上巻）、第二冊、

六五丁（三教指帰卷上私鈔へ上之／中巻）、三七丁、三教指帰卷

中二私・二八丁）、第三冊、六六丁（三教指帰卷中私抄・三六丁、

三教指帰卷之五私・三〇丁）、第四冊、八三丁（三教指帰卷之六

私・三二丁、三教指帰卷下私鈔へ下之／上巻）、五二丁）、第五

冊、五九丁（三教指帰卷下私鈔へ下之／中巻）、二八丁、三教指

帰卷下之中私鈔へ下之／中巻）、三一丁」。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕寛永八年刊、高野版、十巻。寛永八年の刊記のある巻十の一卷

を欠く。朱引、朱句読点、上欄に墨書入有。川瀬・三二三頁。  
高木文庫蔵本（現所在不明）のみ著録。

◎子部 釈家類

219 釈浄土二蔵義 三〇卷 了誉述

〔請求番号〕31/20/382

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕新補薄縹色表紙。二七・一×一九・一櫃。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の書題簽（一九・六×三・一櫃）、「浄土二蔵義 一

（一五五）」。

〔内題〕「釈浄土二蔵義卷第一（尽声聞義／一數息）／（低十五格）沙門

了誉述」（釈浄土二蔵義卷第三十（尽浄土／宝義木）沙門了誉述）。

〔尾題〕「釈浄土二蔵義卷第一（一三三）」。

〔本文〕每半葉八行×一九字。稚拙な真名活字ではあるが、慶長期の活字の趣をよく伝えている。

〔匡郭〕四周单边（序、二一・九×一三・〇・櫃）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「義一（一三三） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五五丁（序、天正庚辰首夏下旬当龔祖聖囑諱日謹序／

龍澤山大巖寺第二代穩蓮社安普虎角作／同当住依源普随流上人  
大和尚尊意刊之／（低一格）于時慶長十一年四月三日 重誉開  
出・三丁、卷第一・二八丁、卷第二・二四丁）、第二冊、四九丁

（卷第三・二四丁、卷第四・二五丁）、第三冊、四〇丁（卷第五・

一九丁、卷第六・二二丁）、第四冊、六〇丁（卷第七・二九丁、

卷第八・三一丁）、第五冊、四九丁（卷第九・二五丁、卷第十・

二四丁）、第六冊、四八丁（卷第十一・二七丁、卷第十二・二二

丁）、第七冊、五五丁（卷第十三・二六丁、卷第十四・二九丁）、

第八冊、四七丁（卷第十五・二六丁、一九丁欠、卷第十六・二

一丁）、第九冊、五四丁（卷第十七・二二丁、卷第十八・三二丁）、

第一〇冊、四四丁（卷第十九・二五丁、卷第二十・一九丁）、第

一一冊、四七丁（卷第二十一・二二丁、卷第二十二・二五丁）、第

一二冊、四六丁（卷第二十三・二三丁、卷第二十四・二三丁）、第

一三冊、四三丁（卷第二十五・二二丁、卷第二十六・二二丁）、

第一四冊、五〇丁（卷第二十七・一九丁、八丁欠、卷第二十八・

三二丁）、第一五冊、五五丁（卷第二十九・二六丁、卷第三十・二

八丁、跋・一丁）。

〔刊記〕無。了誉による跋末に「于時慶長十四年（己酉）五月十五日  
畢」。

〔印記〕「身延文庫」（墨）、「身延／學校／善學院文庫」（朱長方印）、「稻  
田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印）、以上二  
印、稲田福堂）。

〔備考〕無書入。第一冊の前遊紙と後表紙の見返し、第一五冊の後表紙  
の見返しに識語、「二蔵義一二／久遠寺常住」、「総計十五札／身  
延山久遠寺常住／從賀殿法華寺日達寄進／日乾代安之」、「從賀  
殿法華寺日達寄進／総計十五札／身延山久遠寺常住／日乾代

安之。全丁合紙を入れて綴じ直す。川瀬、三一八・七三九・七四一頁、下総龍澤山大巖寺の活字開版参照。「当時浄土教関係の活字開版を最も盛んに行つたのは下総国生実郷（千葉県千葉郡蘇我町生実）の龍澤山大巖寺である。（中略）慶長十一年より同十九年に至る慶長後半期に専ら行はれてゐる」。

◎子部 釈家類

220 ※十不二門指要抄 二卷 (宋) 釈知礼 著

〔請求番号〕31/19/362

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補赤茶色表紙。二八・三×一八・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・二×三・三糎）、「十不二門指要抄 全」。

〔内題〕「十不二門指要鈔序／（低八格）東山沙門（三格空）遵式（二格空）述」、「十不二門指要鈔卷上并序／（低八格）四明沙門（三格空）知礼（二格空）述」。

〔尾題〕「十不二門指要鈔卷上」、「十不二門指要鈔卷下／（低十格）四明沙門（二格空）知礼（二格空）述」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺（二二・九×一五・七糎）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「指要上（下） 丁附」。

〔丁数〕七一丁（序・一丁半・卷上・三四丁半、卷下・三五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊（稲田福堂 朱方印）。他、未勘の墨丸印、一印。〔備考〕湛然の『十不二門』に対する注釈書。前見返しに識語、「神谷蔵書」。朱墨で返点、振仮名、送仮名の他、巻首数丁に書入有。裏打修補。「刊記はないが叡山版であらう」〔大東急記念文庫貴重書解題 仏書之部〕とあるが、要検討。川瀬・三四八頁、元和寛永中刊、無辺無界、十行二十字本（高木文庫蔵、現在、国立国会図書館蔵）を著録するのみ。

◎子部 釈家類

221 十如是義私記 一卷 釈慧心 記

〔請求番号〕31/20/372

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・八×一八・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕外題（十如是私記 全）部分のみ残して剥落。

〔内題〕「十如是義私記（八格空）横川（二格空）慧心記」。

〔尾題〕「十如是義私記」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・二糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「十如是義私記 丁附」。

〔丁数〕三五丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江州金森善立寺」（朱長方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、その他朱墨による若干の書入有。前見返しに識語、「善龍寺恵空」、卷末に「真道」。川瀬、七八七頁、「先到大東急記念文庫の貴重書解題の際、同文庫の十不二門文心解等と同種の活字と記るしたが、それよりはやや小さい活字で、やはり寛永頃の印行と思はれる」。

◎子部 釈家類

222 宗要柏原案立

〔請求番号〕31/19/363

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕原装（押入双有）茶色表紙。二六・三×一九・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。中央に「案立／仏部一（五時部二・教相部三・菩薩部四・

二乗之部五・雑之部六）」と打付書。

〔内題〕「宗要柏原案立（二格空） 仏部（五時部・教相部・菩薩部・二乗

部・雑部）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一一行×二〇字。稍小型の活字を用いる。附訓植版。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・七糎。

〔版心〕白口、「案立仏部（五時部・教相部・菩薩部・二乗部・雑部） 丁

附」のみを刻す。

〔丁数〕第一冊、五五丁（目録・一丁、仏部・五四丁）、第二冊、六四丁

（目録・一丁、五時部・六三丁）、第三冊、八八丁（目録・一丁、教相部・八七丁）、第四冊、六九丁（目録・一丁、菩薩部・六八丁、二八丁欠）、第五冊、八三丁（目録・一丁、二乗部・八二丁）、第六冊、九五丁（目録・一丁、雑部・九四丁）。

〔刊記〕「（低二格）寛永九（壬／申）年応鐘上旬／（低四格）於延曆寺止観院仏母谷刊摺之訖」（第一冊の卷末）、「（低二格）寛永九（壬／申）年応鐘中旬／（低四格）於延曆寺止観院仏母谷刊摺之訖」（第二冊の卷末）、「（低二格）寛永九（壬／申）年応鐘下旬／（低四格）於延曆寺止観院仏母谷刊摺之訖」（第三冊の卷末）。

〔印記〕「眞／賀」（朱、鼎形）、「釋氏／大巖」（朱方印、陰刻）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、朱墨による書入有。第三冊、五「問経幾時節証入円初住耶」の終わりに、「貞享一（乙／丑）歳十一月二十三日」と朱書、七「問四教八相有何差別耶」の終わりに、「東叡山覚成院二勘忍時六月三日二／一本親王日光御門御尊教ノ御足ニテ是ヲ論ル」と朱書、第四冊、十六「問断最後品無明為用等覚智為用妙覚智耶」の冒頭に、「万治二年十一月廿四日二論之」と朱書、第五冊、十一「問三周得益声聞証入何位耶」の冒頭に、「万治（戊／戊）年天台会論於東叡山」と朱書、十五「問法華三周座有決定性声聞耶」の冒頭に、「延宝第六年霜月天台会於山門西塔」と墨書、第六冊、七「問有余実報二土離同居别有其処耶」の終わりに、「貞享二丑ノ曆六月三日論レ是者也」と朱書。川瀬、三〇四・三〇九頁、

叡山文庫蔵本を著録するのみ。

◎子部 釈家類

223 修証心印 一卷 寂靜集

〔請求番号〕31/20/366

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二七・一×一八・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(二〇・三×三・一糎)、「修証心印全」。

〔内題〕「修証心印(七格空) 三河(一格空) 沙門寂靜(一格空) 集」。

〔尾題〕「修証心印終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。一部漢字片仮名交。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・〇糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「修証 丁附」。

〔丁数〕四二丁。

〔刊記〕「中山第九世寂靜院/寛永第九(壬/申)霜月朔日 日賢記」。

〔印記〕卷末に「梶正晴文庫」(墨長方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、朱墨による書入が若干施されている。四二丁表に「俊達所蔵」、四二

丁裏に「賢師著述/当抄 三師標題/論迷復宗次/全 別記/本尊抄開目抄私記/天保十一庚子歳五月再見/主琳察」と墨書。

川瀬・三二二頁、日蓮宗関係の活字印行。

◎子部 釈家類

224 正法眼蔵

〔請求番号〕31/8/329

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二七・八×一八・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「正法眼蔵卷上一(卷下第二)」。

〔尾題〕「正法眼蔵上/之終(卷第終)」(小字双行)。

〔本文〕每半葉一一行×二〇(二一)字。小型活字。

〔匡郭〕四周双辺(二〇・七×一四・五糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「正法眼蔵 丁附」、「正法眼蔵二(中・下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四四丁(卷上一)、第二冊、三九丁(卷上第二)、第三

冊、四二丁(卷中上)、第四冊、四一丁(卷中第二)、第五冊、

四四丁(卷下之上)、第六冊、三九丁(卷下第二)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「碧□/禪庵」(墨方印)。

〔備考〕朱引、朱傍点、朱句読点、その他、朱墨による書入が若干施されている。川瀬、三四八・七九〇頁、元和寛永中刊。

◎子部 釈家類

225 ※指要抄釈疑 一卷 釈寂靜集

〔請求番号〕 31/19/364

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 栗皮渋引き表紙（押八双有、原表紙、見返し改装）。二八・〇×一九・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。無題。

〔内題〕 「低二格」指要抄釈疑／（低八格）遠州沙門（二格空）釈（一格空）寂靜集。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・八糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「指要釈疑 丁附」。

〔丁数〕 六九丁（篇目・二丁、指要抄釈疑・六七丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「江州金森善立寺」（朱長方印）。

〔備考〕 無書入。前表紙見返し、卷末、後表紙の見返しに識語、「善龍寺 惠空」、「寛永拾七八月吉日（三格空）洛陽本能寺内／求者正林 日祐」、「寛文拾三年（癸／丑）三月廿一日 江而金口村／秀光 台漢龍安之」。『大東急記念文庫貴重書解題 仏書之部』（川瀬一馬）では叡山版と見る。川瀬、未載。

◎子部 釈家類 諸宗

226 十不二門文心解 一卷（宋）釈仁岳述

〔請求番号〕 31/19/361

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 新補赤茶色表紙。二七・〇×一八・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・二×三・三糎）、「十不二門 文心解 全」。

〔内題〕 「十不二門文心解（六格空）沙門（一格空）仁岳（一格空）述」。

〔尾題〕 「十不二門文心解」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周单边（二二・三×一五・二糎）、無界。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「文心解 丁附」。

〔丁数〕 五七丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「江風山／月莊（稲田福堂、朱方印）。他、一印（川端／国雄?）」。

〔備考〕 朱引、朱句読点、朱墨で返点、送仮名、その他書入有。卷末に識語、「附与之弟子真照日珪／心性院日遠（朱丸印）。川瀬、三四八・七八六頁、寛永中刊。『大東急記念文庫貴重書解題 仏書之部』（川瀬一馬）では叡山版と見る。

馬）では叡山版と見る。川瀬、未載。

◎子部 釈家類

227 首楞嚴義疏注經 一〇卷 (宋) 釈子璿撰

〔請求番号〕31/6/321

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕後補黒色表紙。二八・三×二〇・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一八・九×四・〇糎)、「首楞嚴義疏注經 卷第一」。

〔内題〕「首楞嚴經疏序／(低一格)中散大夫守御中央丞充理檢權判吏部流内銓上護軍瑯琊郡開國侯／食邑一千伯戸実食封二伯戸賜紫金魚袋王(二格空)隨(三格空)撰」、「首楞嚴義疏注經卷第一へ之／一／(低五格)長水沙門(三格空)子璿(二格空)集」

〔尾題〕「首楞嚴義疏注經卷第一へ之／一／(低五格)卷第十へ之／二」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(序、二一・六×一五・二糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「首楞注經序(卷一上／卷十下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七一丁(序・四丁、卷第一之一・三六丁、卷第一之二・三二丁)、第二冊、五四丁(卷第二之一・二九丁、卷第二之二・二五丁)、第三冊、四五丁(卷第三之一・二四丁、卷第三之二・二二丁)、第四冊、五八丁(卷第四之一・二八丁、卷第四之二・三〇丁)、第五冊、四一丁(卷第五之一・二二丁、卷第五之二・二〇丁)、第六冊、四二丁(卷第六之一・一九丁、卷第六之二・

二三丁)、第七冊、三九丁(卷第七)、第八冊、五八丁(卷第八

之一・二〇丁、卷第八之二・二〇丁、卷第八之三・一八丁)、第

九冊、五一丁(卷第九之一・二七丁、卷第九之二・二四丁)、第

一〇冊、四〇丁(卷第十之一・一九丁、卷第十之二・二二丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕題簽に「元津／之印」(朱方印)、後表紙見返しに「備前州赤坂郡周匠村／瑞雲山大龍禪寺藏書」(墨方印)。

〔備考〕朱墨による夥しい書入有。川瀬・七八〇頁、「寛永頃の大型の活字を用ひてゐる」。

◎子部 釈家類

228 禪儀外文集 二卷 虎関師鍊編

〔請求番号〕31/8/325

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二六・〇×一八・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「禪儀外文 全」と打付書。

〔内題〕「禪儀外文集序」、「禪儀外文綱目」、「禪儀外文集」。

〔尾題〕「禪儀外文集卷上(下)終」。

〔本文〕每半葉六行×一五字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺(序、二〇・〇×一五・六糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「禪義外文上(下) 丁附」。

〔丁数〕一四二丁(序、康永元年秋季虎関某序・三丁、綱目・二丁、卷

上・九七丁、卷下・四〇丁。

〔刊記〕「寛永三年（丙寅）曆卯月上旬於四條寺町校正刊行」。

〔印記〕「常栄寺」（朱長方印）、「定／巖」（朱方印）他、三印。

〔備考〕卷上の卷末に識語、「予州宇摩郡北埜邑／瑞雲山大福禪寺」。朱

引、朱傍点、朱丸、墨書入が若干施されているのみ。川瀬、三

四〇・七七二頁。

◎子部 釈家類

229 禪林類聚 存卷第三・四 (元) 釈道泰 釈智境 同輯

〔請求番号〕31/5/317

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補丹空押市松文様表紙。二八・八×二〇・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「禪林類聚卷第三（四）」と打付書。

〔内題〕「禪林類聚三（四）之目録」、「禪林類聚卷第三（四）」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉一二行×二二字。稍小型の活字を用いる。

〔匡郭〕四周单边（二三・一×一六・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「三（四）目録」、「禪林三（四） 丁

附」。

〔丁数〕第一冊、八二丁（三之目録・一丁、卷第三（卷第十一）十五・

八〇丁）、第二冊、八六丁（四之目録・一丁、卷第四（卷第十六

（二十）・八五丁）。

〔刊記〕第二冊の卷末に、「於洛陽高台寺／參來之徒拔出之誤多々／于時  
慶長十八（癸丑）菊月吉辰」。

〔印記〕「木正／辞／章」（木村正辞、朱方印、陰刻）。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、書入多数。

◎子部 釈家類 諸宗撰述・史伝・彙編之属

230 増集統伝燈録 六卷 (明) 釈文瑒 撰

〔請求番号〕31/1/307

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二九・七×二〇・二糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・七×三・三糎）、「統伝燈録

一（一四）」。

〔内題〕「増集統伝燈録序」、「増集統伝燈録凡例」、「増集統伝燈録卷第一

（一五）／（低一格）径山興聖万寿禪寺前任持比丘具郡（一格

空）文瑒集」（卷第六、卷首丁欠）。

〔尾題〕「増集統伝燈録卷第一（一六）」。

〔本文〕每半葉一四行×二〇字。稍小型の活字を使用。

〔匡郭〕四周双边（二二・五×一七・一糎）、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「統伝燈一（一六） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五五丁（序、凡例、卷第一目録・五丁、本文・二八丁、

卷第二目録・二丁、本文・二〇丁）、第二冊、七四丁（卷第三、

目録・三丁、本文・二六丁、一六丁欠、卷第四、目録・三丁、

本文・四二丁)、第三冊、六二丁(卷第五、目錄・五丁、本文・五七丁)、第四冊、五六丁(卷第六、目錄・二丁、卷首丁欠、本文・四〇丁、五燈会元補遺・一丁、本文・九丁半、未詳承嗣附・三丁、刊記・半丁)。

〔刊記〕「(低四格) 続伝燈者古来日域未有板行今使工／(低四格) 模写焉竟其功冀后代不朽矣／(低二格) 元和丙辰小春良辰(六格空) 宗鐵誌之」。

〔印記〕「洞／翁」(卷末、朱、鼎形)、「江風山／月莊」(稲田福堂、朱方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、送仮名が施されている。川瀬・二九七頁、妙心寺版。

### ◎子部 釈家類

#### 231 叢林公論 一卷 (宋) 釈惠彬 撰

〔請求番号〕31/2/309

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色空押市松文様表紙。二七・六×二〇・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「叢林公論」と打付書。

〔内題〕「叢林公論叙」、「叢林公論／(低七格) 者庵(二格空) 惠彬(一格空) 述」。

〔尾題〕「叢林公論卷終」。

〔本文〕每半葉八行×一五字。

〔匡郭〕四周双边(叙、一七・九×一三・一糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「公論 丁附」。

〔丁数〕五〇丁(叙、淳熙己酉季春芋魁巖主宗惠叙・二丁、本文・四八丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕唐紙摺。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬、三四八・七九〇頁、慶長元和中刊。「山庵雜録」と同種の活字を以て印行したもの。山庵雜録の表紙には朱で「宙」と記され、叢林公論は「雨」と記される。伝来と同じくするか。

### ◎子部 釈家類 事彙

#### 232 祖庭事苑 八卷 (宋) 釈善卿 撰

〔請求番号〕31/2/310

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕茶色表紙(押八双有、原表紙裏打改装)。二九・二×二一・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「祖庭事苑<sup>甲</sup>(乙・丙・丁)終」と打付書。

〔内題〕「祖庭事苑序」、「祖庭事苑目錄」、「祖庭事苑卷第一(〜八)／(低六格) 睦庵(二格空) 善卿(一格空) 編正」。

〔尾題〕「祖庭事苑目錄終」、「卷終」、「祖庭事苑卷二（八終）」。

〔本文〕每半葉八行×一四字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二三・四×一七・一糶）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「祖序（祖目錄・祖一（八）・祖・祖序） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四八丁（序、四明苾芻法英書・三丁、目錄・三丁、卷

第一・一九丁、卷第二・二三丁）、第二冊、五一丁（卷第三・二

六丁、卷第四・二五丁）、第三冊、五一丁（卷第五・二〇丁、卷

第六・三一丁）、第四冊、四二丁（卷第七・二三丁、卷第八・一

六丁、刊記・一丁、跋・一丁、後序・一丁）。

〔刊記〕原刊記、「睦庵卿上人作祖庭事苑」大觀二年八月二十七日建武軍

節／度使同玄太子学事上柱国謹題／（印）／紹興甲戌季夏重別

刊行」の後二行空けて刊記、「洛陽富小路通讚州寺町<sub>中村</sub>長兵衛

刊」。

〔印記〕「玄／契」（朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱傍点、上欄には朱墨による書入が若干施さ

れている。川瀬、三三八・七六七頁、寛永中刊。

◎子部 釈家類

233 大慧普覚禪師書 二卷（宋）釈宗杲述（宋）釈慧然録（宋）

釈黄文昌 重編

〔請求番号〕31／8／331

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。三〇・六×二一・〇糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。「大慧書<sub>全</sub>」と打付書。

〔内題〕「大慧普覚禪師書／（低八格）参学（四格空）慧然（二格空）録／（低八格）淨智居士黄文昌 重編／（低三格）答曾侍郎（一格空）天游（一格空）問書附」、「大慧普覚禪師書下／（低九格）

参学（四格空）恵然（二格空）録」。

〔尾題〕「大慧普覚禪師書上」、「大慧普覚禪師書」。

〔本文〕每半葉九行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺（二一・九×一四・七糶）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「書上（下） 丁附」。

〔丁数〕一〇九丁（上・五四丁、下・五五丁）。他、前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「杲休／氏」（朱方印）、「靈／松／院」（墨長方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名、若干の墨書入が施され

ている。「本書は次記、中村長兵衛の刊行した活字版（31／8

／332）と同種の活字を用ひてあり、版式上本書の方が先出

と認められる」（『大東急記念文庫貴重書解題 仏書之部』一八七

頁）。但し両書は同配植、同種の活字を用いているが、異植字版

ではなく、異版。

◎子部 釈家類

234 大慧普覚禪師書 二卷 (宋) 釈宗杲述 (宋) 釈慧然録 (宋)

釈黄文昌 重編

〔請求番号〕31/9/332

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二九・五×二一・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕第一冊、無。左肩に「大惠書」と打付書。第二冊、左肩に後補

の書題簽(下部切斷、一〇・二×二・八糎)、「古/刊」大惠普

覚(以下切斷)。

〔内題〕「大慧普覚禪師書」(低九格) 参学(四格空) 慧然(二格空) 録

／(低九格) 淨智居士黄文昌 重編／(低三格) 答曾侍郎(一

格空) 天游(一格空) 問書附、「大慧普覚禪師書下」(低八格)

参学(四格空) 惠然(二格空) 録。

〔尾題〕「大慧普覚禪師書上」、「大慧普覚禪師書」。

〔本文〕每半葉九行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺(二一・九×一五・〇糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「書上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五四丁(上)、第二冊、五五丁。

〔刊記〕「(低四格) 富小路通讚州寺町」(低十五格低) 中村長兵衛。

〔印記〕「天/寧/寺」(朱方印)。

〔備考〕朱引、朱句読点(。で記す)、墨筆で返点、振仮名、送仮名、他、

朱墨による書入がおびただしく施されている。各冊とも巻末に

「丹波天寧公用」、「万休新添」、後表紙見返しに「大惠書下/寛  
永四年霜月五日」と墨書。

◎子部 釈家類

235 大慧普覚禪師書 二卷 (宋) 釈宗杲述 (宋) 釈慧然録 (宋)

釈黄文昌 重編

〔請求番号〕31/9/333

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕栗皮表紙(裏打修補。押八双有、原表紙か)。二九・四×二一・

二糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。第一冊にのみ左肩に白墨で「大惠普覚」と打付書。

〔内題〕「大慧普覚禪師書」(低九格) 参学(四格空) 慧然(二格空) 録

／(低九格) 淨智居士黄文昌 重編／(低三格) 答曾侍郎(一

格空) 天游(一格空) 問書附、「大慧普覚禪師書下」(低九格)

参学(四格空) 惠然(二格空) 録。

〔尾題〕「大慧普覚禪師書上」、「大慧普覚禪師書」。

〔本文〕每半葉九行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺(二二・二×一五・三糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「書上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五四丁(上)、第二冊、五五丁(下)、五三・五四丁錯簡)。

〔刊記〕「(低三格) 富小路通讚州寺町」(低十五格低) 中村長兵衛。

〔印記〕「禪/本」(朱方印、陰刻)。

〔備考〕朱引、朱句読点（。で記す）、墨筆で返点、送仮名、若干の墨書入が施されている。各冊とも巻首に墨識語、「泳宮／東禪寺」、巻末にもそれぞれ墨識語、「東濃泳宮東禪寺用」、「東濃可児郡泳宮／東禪寺用」。下巻の三十八丁以下に整版を交えた乱版。整版部分は四周双辺（二二・七×一五・一糎）、無界、每半葉九行×二〇字。附訓は施されていない。伝本、他に東京大学総合図書館蔵（A00-6032貴重書）。

◎子部 釈家類

236 大乘起信論疏 二卷 (唐) 釈法蔵撰

〔請求番号〕31/15/350

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕新補赤茶色表紙。二六・九×一八・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・二×三・三糎）、「大乘起信

論疏 上（中・下）」。

〔内題〕「大乘起信論疏卷上<sub>并序</sub>」、「大乘起信論」、「大乘起信論疏卷上<sub>へ</sub>之<sub>ノ</sub>二<sub>ノ</sub>」。

〔尾題〕「大乘起信論疏卷上<sub>へ</sub>之<sub>ノ</sub>一<sub>ノ</sub>」。

〔本文〕每半葉六行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周単辺（二二・六×一四・八糎）、有界。

〔版心〕白口下向き花口魚尾、中縫、「注疏之序（上之一<sub>ノ</sub>下之二<sub>ノ</sub>） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三五丁（卷上并序・一〇丁、卷上之一・二五丁）、第二冊、四〇丁（卷上之二）、第三冊、六三丁（卷下之一・三二丁、巻首の一九丁分補写、巻下之二・三二丁）。

〔刊記〕「（低二格）惟時慶長第十七壬子曆桂秋良日（低五格）日東若耶府（二格空）利庵正節（一格空）横行（低五格）洛陽（二格空）飯田久左衛門勝家新刊」。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上二印、稲田福堂）。

〔備考〕無書入。全丁裏打修補。川瀬、三三九・三四九頁。

◎子部 釈家類

237 大乘造像功德経 二卷

〔請求番号〕31/12/343

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原装栗皮表紙。二八・二×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。無題。

〔内題〕「大乘造像功德経卷上（下）（六格空）悲九（低二格）唐于闐

三蔵法師提雲般若等奉（一格空）制訳」。

〔尾題〕「大乘造像功德経卷上（下）（五格空）悲九」。

〔本文〕每半葉一〇行×一八字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕白口下向き花口魚尾、中縫、「造像経卷上（下） 丁附」。

〔丁数〕二七丁（卷上・一四丁、卷下・一三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕卷首丁に「弑絲」（朱印）墨塗抹。

〔備考〕無書入。卷末に識語、「丹波国法常寺常住」一部一冊（○内、

墨塗抹）。川瀬、七九三頁。寛永頃の刊か。

◎子部 釈家類

238 大蔵一覽集 一〇卷 (宋) 陳実編

〔請求番号〕31/1/306

〔体裁〕大本九冊。

〔表紙〕新補縹色表紙。二六・五×一九・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・三×三・一糎）、「大蔵一覽

集 一（〓九）」。

〔内題〕「大蔵一覽集序／（低八格）安定郡王（一格空）令衿超然居士、

「大蔵一覽集序／（低九格）門目総類」、「大蔵一覽集目錄／（低

六格）寧徳優婆塞陳（一格空）実（一格空）謹編」、「大蔵一覽

集卷第一（〓十）／（低八格）寧徳優婆塞陳（一格空）実謹編」。

〔尾題〕「大蔵一覽集門目総類」、「大蔵一覽集目錄終」、「大蔵一覽集卷之一

（〓卷之十）」。

〔本文〕每半葉一〇行×一九字。

〔匡郭〕四周双辺（二二・四×一五・八糎）、有界。

〔版心〕上下大黒魚尾、中縫、「覽序（覽目・覽一〓十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三六丁（序・二丁、門目総類・二丁、目錄・三二丁）、

第二冊、六二丁（卷第一）、第三冊、五六丁（卷第二）、第四冊、

六一丁（卷第四）、第五冊、六〇丁（卷第六）、第六冊、六六丁

（卷第七）、第七冊、三三丁（卷第八）、第八冊、五一丁（卷第

九）、第九冊、七三丁（卷第十、五二丁欠）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕朱引、朱傍点、朱句読点が施されている。川瀬、三四七・七二

九頁、「元和寛永中刊。駿河版の繡印。叡山版」。

◎子部 釈家類

239 大蔵一覽集 一〇卷 (宋) 陳実編

〔請求番号〕23/36/285

〔体裁〕大本七冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二七・四×一九・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「大蔵一覽集卷第一（〓六・十）／（低四格）寧徳優婆塞陳（一

格空）実謹編」。

〔尾題〕「大蔵一覽集卷第一（〓六・十終）」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。厚手の料紙、銅活字を使用。

〔匡郭〕四周双辺（二〇・八×一五・四糎）、有界。

〔版心〕上下に花紋のある大黒魚尾、中縫、「大蔵一覽一（〓六・十） 丁

附。

〔丁数〕第一冊、八五丁（卷第一）、第二冊、七七丁（卷第二）、第三冊、八四丁（卷第三）、第四冊、八四丁（卷第四）、第五冊、七四丁（卷第五）、第六冊、八四丁（卷第六）、第七冊、一〇三丁（卷第十）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（朱方印）、「福堂」（朱長方印、卷末、以上一印、稲田福堂）。

〔備考〕無書入。駿河版。

◎子部 釈家類

240 大智度論 一〇〇卷（後秦） 釈鳩摩羅什訳

〔請求番号〕31/25/381

〔体裁〕大本五〇冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の書題簽（二一・二二・二三・二四・二五・二六・二七・二八・二九・三〇・三一・三二・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇）。

〔内題〕「大智度論序（十格空） 聖／（低七格） 釈僧叡述」、「大智度論卷第一／龍樹菩薩造（半角空） 姚秦三藏法師鳩摩羅什訳」（大智度論卷第一（七格空） 空／龍樹菩薩造（半角空） 姚秦三藏法師鳩摩羅什訳）。

〔尾題〕「大智度論卷第一（八格空） 聖」（大智度論積卷第一（六格

空）空。

〔本文〕每半葉二行×一七字。  
〔匡郭〕上下单边（二二・一〇）無界。  
〔版心〕白口、「聖（德・建・名・立・形・端・表・正・空） 大智度論序（卷一／一百） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五七丁（序、卷第一・二八丁、序、二・三丁錯簡、卷第二・二九丁）、第二冊、五九丁（卷第三・二八丁、卷第四・三一丁）、第三冊、四六丁（卷第五・二四丁、卷第六・二二丁）、第四冊、四五丁（卷第七・二二丁、卷第八・二三丁）、第五冊、五〇丁（卷第九・二二丁、卷第十・二九丁）、第六冊、六一丁（卷第十一・三二丁、卷第十二・二九丁）、第七冊、五一丁（卷第十三・二九丁、卷第十四・二二丁）、第八冊、四二丁（卷第十五・二〇丁、卷第十六・二二丁）、第九冊、五七丁（卷第十七・三二丁、卷第十八・二五丁）、第一〇冊、五七丁（卷第十九・三〇丁、卷第二十・二七丁）、第一一冊、四九丁（卷第二十一・二三丁、卷第二十二・二六丁）、第一二冊、四四丁（卷第二十三・二二丁、卷第二十四・二二丁）、第一三冊、五三丁（卷第二十五・二二丁、卷第二十六・三三丁、一二丁欠補写）、第一四冊、四九丁（卷第二十七・二七丁、卷第二十八・二三丁）、第一五冊、五二丁（卷第二十九・二二丁、卷第三十・三〇丁）、第一六冊、六〇丁（卷第三十一・三八丁、卷第三十二・二三丁）、第一七冊、四二丁（卷第三十三・二〇丁、卷第三十四・二二丁、一六丁欠補写）、第一

八冊、五二丁（卷第三十五・二八丁、卷第三十六・二四丁）、第一九冊、四六丁（卷第三十七・二三丁、卷第三十八・二三丁）、第二〇冊、四七丁（卷第三十九・二〇丁、卷第四十・二七丁）、第二一冊、四四丁（卷第四十一・二四丁、卷第四十二・二〇丁）、第二二冊、四五丁（卷第四十三・二二丁、卷第四十四・二四丁）、第二三冊、五〇丁（卷第四十五・二四丁、卷第四十六・二六丁）、第二四冊、四七丁（卷第四十七・二二丁、卷第四十八・二五丁）、第二五冊、四四丁（卷第四十九・二三丁、卷第五十・二二丁）、第二六冊、四八丁（卷第五十一・二六丁、卷第五十二・二二丁）、第二七冊、四五丁（卷第五十三・二三丁、卷第五十四・二二丁）、第二八冊、五二丁（卷第五十五・二九丁、卷第五十六・二三丁）、第二九冊、四二丁（卷第五十七・一六丁、卷第五十八・二五丁）、第三〇冊、四九丁（卷第五十九・二二丁、卷第六十・一七丁）、第三一冊、五八丁（卷第六十一・三三丁、卷第六十二・二五丁）、第三二冊、四二丁（卷第六十三・二二丁、卷第六十四・二二丁）、第三三冊、四四丁（卷第六十五・二五丁、卷第六十六・一九丁）、第三四冊、三九丁（卷第六十七・二〇丁、卷第六十八・一九丁）、第三五冊、四九丁（卷第六十九・二三丁、卷第七十・二六丁）、第三六冊、六一丁（卷第七十一・三四丁、卷第七十二・二七丁）、第三七冊、五二丁（卷第七十三・二五丁、卷第七十四・二七丁）、第三八冊、五〇丁（卷第七十五・二六丁、卷第七十六・二四丁）、第三九冊、五二丁（卷第七十七・三二丁、卷第七十八・二〇丁）、

第四〇冊、四二丁（卷第七十九・二五丁、卷第八十・一七丁）、第四一冊、四八丁（卷第八十一・二三丁、卷第八十二・二五丁）、第四二冊、四二丁（卷第八十三・二〇丁、卷第八十四・二三丁）、第四三冊、五二丁（卷第八十五・二五丁、卷第八十六・二七丁）、第四四冊、六五丁（卷第八十七・三二丁、卷第八十八・三三丁）、第四五冊、五四丁（卷第八十九・三〇丁、卷第九十・二四丁）、第四六冊、三五丁（卷第九十一・二二丁、卷第九十二・一四丁）、第四七冊、四三丁（卷第九十三・二〇丁、卷第九十四・二三丁）、第四八冊、四三丁（卷第九十五・二四丁、卷第九十六・一九丁）、第四九冊、三九丁（卷第九十七・一四丁、卷第九十八・二五丁）、第五〇冊、四三丁（卷第九十九・二〇丁、卷第一百・二二丁、寬永十七年願文・一丁）。

〔刊記〕「（低二格）奉再興 仏説一切経藏／（低一格）今上皇帝（三格空）玉体安穩／（低一格）東照權現（三格空）倍增威光／（低二格）征夷大將軍左大臣源家光公武運長久／（低一格）四海泰平（三格空）国家豊饒／（低一格）仏法紹隆（三格空）利益無窮／（低一格）日本武州江戸東叡山／（低二格）山門三院執行探題前毘沙門堂門跡／（低十格）大僧正天海願主／（低一格）寛永十七庚辰曆九月二十二日／（低十一格）林氏幸宿花溪居士／（低十一格）使工人彫鏤之」。

〔印記〕「山門白毫院藏本」（墨長方印）、「稻田／福堂／圖書」（朱方印）、「江風山／月莊」（朱方印、以上二印、稻田福堂）。

〔備考〕墨筆による返点、振仮名、送仮名の他、異本校合も若干施されている。料紙は厚手の楮紙を用いる。天海版一切経。

◎子部 釈家類

241 大方等大集経 三〇卷 (北涼) 釈曇無讖 訳

〔請求番号〕31/38/413

〔体裁〕折本三〇帖。

〔表紙〕原装(押八双有)茶色表紙。二八・九×一〇・〇糎。

〔題簽〕無。左肩に「大方等大集経卷第一(〜三十)」と打付書。外題下に「共三十卷」(第一帖のみ)、各帖とも右下に「天海蔵」と墨書。

〔内題〕「大方等大集経卷第一(六格空)位」(低四格)北涼天竺三蔵曇無讖於姑蔵訳(〜大方等大集経卷第三十(四格空)有) (低五格)北涼天竺三蔵曇無讖訳。

〔尾題〕「大方等大集経卷第一(六格空)位」(〜大方等大集経卷第三十(四格空)有)。

〔本文〕每半葉一二行×一七字。

〔匡郭〕上下单边、一二・四糎。

〔版心〕白口、「位(讓・国・有)大集経卷一(〜三十) 丁附」。

〔丁数〕第一帖、二六紙(卷第一)、第二帖、二〇紙(卷第二)、第三帖、二八紙(卷第三)、第四帖、二三紙(卷第四)、第五帖、一九紙(卷第五)、第六帖、二四紙(卷第六)、第七帖、一二紙(卷第

七)、第八帖、二三紙(卷第八)、第九帖、三三紙(卷第九)、第一〇帖、二三紙(卷第十)、第一一帖、二七紙(卷第十一)、第一二帖、二五紙(卷第十二)、第一三帖、二八紙(卷第十三)、第一四帖、二三紙(卷第十四)、第一五帖、二八紙(卷第十五)、第一六帖、二二紙(卷第十六)、第一七帖、三三紙(卷第十七)、第一八帖、三三紙(卷第十八)、第一九帖、二〇紙(卷第十九)、第二〇帖、二三紙(卷第二十)、第二一帖、二五紙(卷第二十一)、第二二帖、二二紙(卷第二十二)、第二三帖、三〇紙(卷第二十三)、第二四帖、一三紙(卷第二十四)、第二五帖、一七紙(卷第二十五)、第二六帖、二〇紙(卷第二十六)、第二七帖、一八紙(卷第二十七)、第二八帖、二三紙(卷第二十八)、第二九帖、二四紙(卷第二十九)、第三〇帖、二四紙(卷第三十)。

〔刊記〕「(低二格)奉再興 仏説一切経蔵」(低一格)今上皇帝(三格空)玉体安穩」(低一格)東照権現(三格空)倍增威光」(低二格)征夷大將軍左大臣源家光公武運長久」(低一格)四海泰平(三格空)国家豊饒」(低一格)仏法紹隆(三格空)利益無窮」(低一格)日本武州江戸東叡山」(低三格)山門三院執行探題前毘沙門堂門跡」(低十一格)大僧正天海願主」(低一格)寛永十五戊寅曆十月三日」(低十二格)林氏幸宿花溪居士」(低十八格)某行」。

〔印記〕無。

〔備考〕天海版一切経。

◎子部 釈家類

242 達磨大師血脉論・達磨大師悟性論・達磨大師破相論 三卷(梁)釈

菩提達磨撰

〔請求番号〕31/3/312

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二八・一×一九・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一八・二×三・三糎)、「達磨血脉論 全」。

〔内題〕「達磨血脉論序」、「達磨大師血脉論」、「達磨大師悟性論」、「達磨

大師破相論」。

〔尾題〕「達磨大師血脉論」、「達磨大師悟性論」、「達磨大師破相論」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺(二一・八×一五・七糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「脉論序(脉論) 丁附」。

〔丁数〕三五丁(序、紹興癸酉見独老人任哲序・一丁、達磨大師血脉論・

一二丁、達磨大師悟性論・一二丁、達磨大師破相論・一二丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山/月莊」(稲田福堂、朱方印)。

〔備考〕無書入。裏打修補。川瀬・七八九頁、「成實堂文庫蔵の一本と別

種の久原文庫蔵本(稿者注、現、大東急記念文庫蔵本)(一冊)があり、初祖三論で「悟性論・破相論」を併せてある。元和寛

永中の印行である」。

◎子部 釈家類

243 中論 四卷(天竺)龍樹菩薩撰(天竺)梵志青日釈(後秦)鳩

摩羅什訳 天竺龍樹菩薩撰 天竺梵志青日釈

〔請求番号〕31/19/365

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二七・四×一八・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「中論<sup>四</sup>」(第一冊)、「中論」(第二・三・四冊)と打付書。

〔内題〕「中論卷第一(六格空) 釈僧叡序」、「中論卷第二(〓四)(十四

格空) 宝/(低十格) 龍樹菩薩造梵志青日釈/(低十格) 姚秦

三藏鳩摩羅什訳」。

〔尾題〕「中論卷第一(〓四)」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二一・九糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「中論一(〓四) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、二七丁(卷第一)、第二冊、四〇丁(卷第二)、第三冊、

三六丁(卷第三)、第四冊、三五丁(卷第四)。

〔刊記〕「(低三格) 慶安(壬/辰)九月上旬/(低十三格) 原田賀兵衛

開板」。

〔印記〕「江州金森善立寺」(朱長方印)。

〔備考〕無書入。後表紙見返しに識語、「善龍寺恵空安之」。川瀬、七七

六頁。図録篇、七六〇図に大東急本の図版を収む。

◎子部 釈家類

244 鎮州臨濟慧照禪師語録 一卷 (唐) 釈義玄撰 (宋) 釈慧然集

〔請求番号〕 31/8/330

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補丹表紙。二八・一×二〇・九糶。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の薄茶色書題簽(一九・四×二・七糶)、「臨濟語録 完」。

〔内題〕 「鎮州臨濟惠照禪師語録序」(低二格) 延康殿学士金紫光祿大夫

真定府路安(低二格) 撫使兼馬歩軍都総管兼知成徳軍府事

(低十一格) 馬(一格空) 防(二格空) 撰、「鎮州臨濟惠照禪

師語録」(低四格) 住三聖嗣法小師(二格空) 惠然(二格空)

集」。

〔尾題〕 「鎮州臨濟惠照禪師語録終」(二行空) / (低一格) 住大名府興

化嗣法小師(一格空) 存奨(二格空) 校勘」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。小型活字。

〔匡郭〕 四周双辺(一六・三×一三・九糶)、無界。

〔版心〕 上下に花紋のある大黒魚尾、真ん中に上下黒魚尾、中縫、「臨濟

録」、「丁附」。

〔丁数〕 四四丁(序、宣和庚子中秋日謹序・一丁、本文・四三丁)。

〔刊記〕 「(低二格) 元和九年孟冬吉日洛陽(四格空) 重刊」。

〔印記〕 「山門不出/江山知蔵」(朱長方印)。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名、その他、

巻首四丁にのみ上欄に朱墨による書入有。巻末に識語、「従三明  
禪寺寄附之/感応山神光禪寺公用」。その下に墨陰刻印(神/光)。  
川瀬、三四一・三四二・七七三頁。

◎子部 釈家類

245 鎮州臨濟慧照禪師語録 一卷 (唐) 釈義玄撰 (宋) 釈慧然

集

〔請求番号〕 31/36/402

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補薄縹色表紙。二六・九×一九・〇糶。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「臨濟録 全」と打付書。

〔内題〕 「鎮州臨濟惠照禪師語録序」(低二格) 延康殿学士金紫光祿大夫

真定府路安(低二格) 撫使兼馬歩軍都総管兼知成徳軍府事

(低十一格) 馬(一格空) 防(二格空) 撰、「鎮州臨濟惠照禪

師語録」(低五格) 住三聖嗣法小師(二格空) 惠然(一格空)

集」。

〔尾題〕 「鎮州臨濟惠照禪師語録終」(二行空) / (低一格) 住大名府興

化嗣法小師(一格空) 存奨(二格空) 校勘」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。小型活字。

〔匡郭〕 四周双辺(一六・三×一四・〇糶)、無界。

〔版心〕 上下に大黒魚尾、真ん中に上下黒魚尾、中縫、「臨濟録」、「丁附」。

〔丁数〕 四四丁(序、宣和庚子中秋日謹序・一丁、本文・四三丁)。

〔刊記〕「寛永四丁卯歳仲秋吉唇加校合（一格空）重刊之」。

〔印記〕「金□□」（墨陰刻）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

巻末に「徳養寺袒山徒見宗（墨丸印）見、墨丸印」と墨書。

◎子部 釈家類

246 ※徹翁和尚語録 存巻上

〔請求番号〕31/8/324

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二六・一×一八・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一七・六×三・〇糎）、「徹翁和尚語録 上」。

〔内題〕「但州安養禪寺徹翁和尚語録／（低五格）住徳禪遠孫比丘（一格空）禪興（一格空）編、

「紫野龍宝山大徳禪寺語録／（低五格）住徳禪遠孫比丘（一格空）禪興（一格空）編」。

〔尾題〕無。

〔本文〕

每半葉一〇行×一七字。

〔匡郭〕四周单边（一九・八×一四・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「安養（大徳上） 丁附」。

〔丁数〕七三丁（但州安養禪寺徹翁和尚語録・一丁、紫野龍宝山大徳禪寺語録・七二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕無書入。川瀬、未載。応永三十二年刊の五山版について触れるのみ。日本古典籍データベースには〈元和寛永古活字版〉として、大東急本（上巻一冊）の他、東洋文庫・成實堂文庫等の伝本を著録。寛永頃古活字版とする岩瀬文庫蔵本の画像あり。

◎子部 釈家類

247 天台円宗四教五時西谷名目 二巻

〔請求番号〕31/20/368

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二八・一×一九・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・二×三・三糎）、「西谷名目全」。

〔内題〕「天台円宗四教五時西谷名目巻上（下）」。

〔尾題〕「西谷名目巻上（下）」。

〔本文〕

每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕无边、無界。字高、二二・七糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「名目 丁附」。

〔丁数〕八一丁（巻上・四五丁、巻下・三六丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名、若干の朱句読点等が施されてい

る。裏打修補。川瀬・七八八頁、「寛永中の印行であらう」。

◎子部 釈家類 諸宗之部

248 天目中峯和尚語録 三〇巻 慈寂編

〔請求番号〕 31/11/339

〔体裁〕 大本一〇冊。

〔表紙〕 後補薄墨色表紙。二七・六×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「中峯広録一（〜十終）」と打付書。右肩に「盈七番  
／共十冊」と記した薄茶色の紙片を貼付。

〔内題〕 「天目中峯和尚広録序」、「天目中峯和尚広録惣目」、「天目中峯和  
尚広録卷第一之上／（低四格）参学門人北庭臣僧慈寂（三格空）  
上進」（〜「天目中峯和尚広録卷第三十／（低四格）参学門人北  
庭臣僧慈寂（三格空）上進」）

〔尾題〕 「天目中峯和尚広録卷第一之下（四格空）韓二」（〜「天目中峯  
和尚広録卷第三十」）。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周单边（二一・六×一六・五糎）、無界。

〔版心〕 上下に大黒魚尾、中縫、「広録卷一（〜十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六〇丁（表・五丁、序・惣目・六丁、卷第一之上・一  
八丁、卷第一之下・三二丁）、第二冊、四二丁（卷第二・七丁、  
卷第三・一三丁、卷第四之上・二二丁）、第三冊、五八丁（卷第  
四之下・二三丁半、卷第五之上・一七丁、卷第五之下・一七丁

半）、第四冊、四二丁（卷第六・一〇丁、卷第七・三丁半、卷第  
八・一二丁半、卷第九・一〇丁、卷第十・七丁）、第五冊、六〇  
丁（卷第十一之上・一八丁半、卷第十之中・二三丁半、卷第  
十一之下・一九丁）、第六冊、六三丁（卷第十二之上・二二丁半、  
卷第十二之中・一八丁半、卷第十二之下・二三丁）、第七冊、六  
五丁（卷第十三・一三丁、卷第十四・八丁半、卷第十五・一七  
丁半、卷第十六・八丁、卷第十七・一八丁）、第八冊、六六丁（卷  
第十八之上・一八丁半、卷第十八之下・一二丁、卷第十九・一  
七丁半、卷第二十・一八丁）、第九冊、五八丁（卷第二十一・五  
丁、卷第二十二・一二丁、卷第二十三・六丁、卷第二十四・一  
〇丁、卷第二十五・一四丁、卷第二十六・一一丁）、第一〇冊、  
六七丁（卷第二十七之上・一三丁、卷第二十七之下・五丁半、  
卷第二十八・四丁半、卷第二十九・一五丁、卷第三十・七丁、  
元故天目山仏慈円照広慧禪師中峰和尚行録・二二丁、跋、寛永  
第四歳在丁卯春三月下浣／（二行空）／前南禪最岳叟元良誌焉・  
一丁）。

〔刊記〕 「于時寛永四（丁卯）年三月吉辰」（第一〇冊、六六丁表）、「（低  
一格）寛永第四歳在丁卯春三月下浣／（二行空）／（低十格）  
前南禪最岳叟元良誌焉」（第一〇冊、卷末）。

〔印記〕 二印、一つは墨長方印（六・〇×二・〇糎）切取、もう一つは  
朱方印（二・八×二・八糎）塗抹。

〔備考〕 第一・七・八・十冊のみ、朱引、朱句読点、返点、送仮名等が

施されている。各冊とも後表紙の見返しに墨識語、「瑞光家什」。

◎子部 釈家類

249 日蓮聖人註画讚 五卷 日澄録

〔請求番号〕31/14/347

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕新補薄茶色（少し緑色が入る）表紙。二五・八×一七・六糎。

四針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・二×三・〇糎）、「日蓮註画讚 一（〜五）」。

〔内題〕「日蓮聖人註画讚序／（低十格）沙門日澄（一格空）録」、〔註画讀卷第一〕、「註画讚卷第二（〜五）」。

〔尾題〕「註画讚卷第一（〜四）」、「日蓮聖人註画讚卷第五」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二〇・七糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「註一（〜五） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一三丁（序・二丁、目録・二丁、卷第一・九丁）、第二冊、九丁（卷第二）、第三冊、一五丁（卷第三）、第四冊、一八丁（卷第四）、第五冊、一三丁（卷第五）。

〔刊記〕無。

〔印記〕第一冊、卷首右下に未勘の朱丸印、一印。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その

他朱墨による書入有。裏打修補。第四冊卷末に識語、「于時寛永第十八（辛／巳）五月廿一日朱点写墨野呂妙興ハ後求主／日真（朱丸印）」、「飯高法輪寺求之 高月日浩（花押）」。川瀬、三二一・三三七・七六五頁、慶長中刊異植版。図録篇・七三九図に大東急本の図録を収む。

◎子部 釈家類

250 日蓮聖人註画讚 五卷 日澄録

〔請求番号〕31/14/348

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補茶色表紙。二七・二×一八・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補薄茶色書題簽（一九・八×三・一糎）、「日蓮註画讚 寛永活字版」。

〔内題〕「日蓮聖人註画讚序／（低十三格）沙門日澄（一格空）録」、〔註画讚卷第一（〜五）」。

〔尾題〕「註画讚卷第一（〜四）」、「日蓮聖人註画讚卷第五終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺（二三・〇×一六・〇糎）、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「註画讚（註画一（〜五） 丁附」。

〔丁数〕四三丁（序・一丁、目録・一丁、卷第一・六丁、卷第二・六丁、卷第三・九丁、卷第四・一一丁、卷第五・九丁）。

〔刊記〕「右註画讚者相州鎌倉妙法寺住持日澄所撰也／然伝写誤於魚魯其文

或失前後剰有差脱以故／今集多本而校檢之輒命工鏤梓焉耳／維時寬永龍集乙丑正月念四日成功畢〔寬永龍集乙丑〕寬永二年。

〔印記〕無。

〔備考〕朱引、墨筆による返点、振仮名、送仮名、その他朱墨書入がおびただしく施されている。

◎子部 釈家類

251 涅槃經疏 存卷第二、六、八、十三 (唐) 釈灌頂撰 (唐) 釈湛

然述再治

〔請求番号〕31/17/354

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補縹色表紙。二七・九×二〇・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一八・二×三・四糎)、「涅槃經疏 卷(十一)」。

〔内題〕「涅槃經疏卷第二(二格空) 頂法師撰／純陀品(九格空) 天台沙門湛然再治」(涅槃經疏卷第十三(二格空) 頂法師撰／迦葉品 二十四(六格空) 天台沙門湛然再治)。

〔尾題〕「涅槃疏卷第二」、「涅槃經文疏卷第三(五)」、「涅槃文義卷第四」、「涅槃經疏卷第六(卷八・卷第十三)」、「大涅槃經疏卷第九(十・十二)」、「大般涅槃經疏卷第十」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺(二二・六×一六・三糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、涅槃疏二(十三) 丁附。

〔丁数〕第一冊、四〇丁(卷第二)、第二冊、三四丁(卷第三)、第三冊、三九丁(卷第四)、第四冊、五二丁(卷第五)、二四・二五丁(錯簡)、第五冊、六一丁(卷第六)、第六冊、五五丁(卷第八)、第七冊、三五丁(卷第九)、第八冊、三二丁(卷第十)、第九冊、四三丁(卷第十一)、第一〇冊、三六丁(卷第十二)、第一一冊、三五丁(卷第十三)。

〔刊記〕無。(元和三年刊)

〔印記〕「學校／妙玄菴常什」(朱長方印)。

〔備考〕前表紙見返しに「妙玄菴／常物」(第一冊)、巻首丁に「妙玄菴常什」(第二冊、第二冊)、巻末に「湛如日璿」(第一、七冊、九、一一冊)、「施主玉種院妙潤」(第一冊のみ)、「延山門人湛如日璿」(第八冊のみ)。朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名、その他朱墨による書入が施されている。天地化粧裁。川瀬・三〇二頁、元和三年刊叡山版。

◎子部 釈家類

252 秘密漫荼羅教付法伝 二巻

〔請求番号〕25/59/1074

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕薄縹色金銀箔散らし横刷毛目文様表紙。二四・六×一五・四糎。

粘葉装。

〔題簽〕無。左肩に「秘密漫茶羅教付法伝 全」と打付書。右下に「専良」と墨書。

〔内題〕「秘密漫茶羅教付法伝卷第一(一)」。

〔尾題〕「秘密漫茶羅教付法伝卷第一(一)」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、卷第一、二〇・五糎、卷第二、二一・〇糎。

〔版心〕ノ下に「付法(下) 丁附」と刻するのみ。

〔丁数〕五九丁(卷第一・二二丁、卷第二・三七丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕無。

〔備考〕卷第一は室町末期刊本の補配。卷第二は雲母引の料紙を用い、朱筆による返点、ヲコト点、墨筆による振仮名と送仮名が片仮名で施されている。後表紙の見返しに朱識語「装釘／本書和田維四郎氏藏般若理／趣釈(永仁四／年刊)に同じ」。川瀬・七三三頁、高野版。慶長十三年刊の「四種曼陀羅義」、これと全く同版式の無刊記本「阿字義」と同種活字印本。同じく卷第二の零本が仏教大学図書館に所蔵されている(中島仁之助旧蔵)。

◎子部 釈家類

253 普賢経記 二卷

〔請求番号〕31/20/373

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄縹色表紙。二六・九×一九・三糎。四針袋綴。  
〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一七・七×三・一糎)、「普賢経記古活字版」。

〔内題〕「普賢経記上(下)」。

〔尾題〕「(低二格) 普賢経記上」、「(低一格) 普賢経記下」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边(二二・八×一六・四糎)、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「普賢記上(下) 丁附」。

〔丁数〕九二丁(上・四三丁、下・四九丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「観／□」(朱方印)。

〔備考〕書入は、下の二八丁裏から二九丁裏と四九丁表(朱引のみ)に朱引と墨筆による返点と振仮名が若干施されているのみ。川瀬、七二九・七八八頁、「寛永中の印行で集解要文等と同活字である」(七八八頁)。

◎子部 釈家類

254 仏制比丘六物図 一卷 (宋) 釈元照撰

〔請求番号〕31/5/316

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二七・七×一九・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(一八・二×三・三糎)、「六物図

全。

〔内題〕「仏制比丘六物図／（低五格）大宋元豊三年夏首余杭沙門元照於天宮院出」。

〔尾題〕「仏制比丘六物図」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边（二一・七×一三・四）無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「六物図 丁附」。

〔丁数〕三二丁。

〔刊記〕無。卷末に「此図印板稍欲漂没仍為弘通重命工／寿良梓夫以本覺理性雖昧靈鑑於群／凡嚴制威儀要耀余光於末運庶受遺／寄永垂無窮（三格空）弟子（一格空）了珍謹誌」。

〔印記〕「觀光堂」（上村觀光、朱長方印）、「江風山／月莊」（稲田福堂、朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名が施されている。裏打修補。川瀬、三〇六・七九〇頁。「五山版に基く印行で慶長後半の刊行と認められる。やや大型の様式すぐれた活字で、有梓本と無梓本とがあり、有梓本には異植字版がある」。図録篇、七九三図に大東急本の図版を収む。

◎子部 釈家類 史伝

255 仏祖歴代通載 二二卷 (元) 釈念常撰

〔請求番号〕3 1 / 4 / 3 1 4

〔体裁〕大本二〇冊。

〔表紙〕後補栗皮表紙。二八・〇×一九・七。四針袋綴。〔題簽〕無。

〔内題〕「仏祖歴代通載目録」、「仏祖歴代通載序」、「華亭梅屋常禪師本伝通載序」、「仏祖歴代通載凡例」、「仏祖歴代通載卷第一（五格空）呉郡歩頭郷刊／（低二格）嘉興路大中祥符禪寺住持華亭念常集」（「呉郡歩頭郷刊」は整版埋め込み）（「仏祖歴代通載卷第二十／嘉興路大中祥符禪寺住持華亭念常集」、「仏祖歴代通載後序」。

〔尾題〕「仏祖歴代通載目録終」、「仏祖歴代通載凡例終」、「仏祖歴代通載卷第一（〜二十二）」（卷第二十二、尾題なし）。

〔本文〕每半葉一〇行×一九字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边（二一・三×一五・二）無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「通載目（序・一卷〜廿二） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五九丁（目録・二五丁、序、至正元年六月十一日微笑菴道人虞集序／板留嘉興城東雲門印行・三丁、華亭梅屋常禪師本伝通載序、至正四年三月松江余山昭慶住持比丘学岸謹序・二丁、凡例・二丁、卷第一・二七丁）、第二冊、四三丁（卷第二・一八丁、卷第三・二五丁）、第三冊、六〇丁（卷第四・二七丁、卷第五・三三丁）、第四冊、二九丁（卷第六）、第五冊、三八丁（卷第七、二二丁と二三丁の間に補写一丁、二二三丁表を切り取り補写を貼る。補写丁を入れると三九丁になる）、第六冊、三四丁（卷第八）、第七冊、三九丁（卷第九）、第八冊、三三丁（卷

第十）

第十、第九冊、四六丁（卷第十一）、第一〇冊、四六丁（卷第

〔体裁〕 大本二一冊。

十二）、第一一冊、四三丁（卷第十三）、第二二冊、五二丁（卷

〔表紙〕 原裝（押八双有）栗皮表紙。二八・三×二〇・〇糎。四針袋綴。

第十四）、第一三冊、五三丁（卷第十五）、第一四冊、五二丁（卷

〔題簽〕 第二、三、一八冊に後補の書題簽「仏祖統紀」、一部残存。

第十六）、第一五冊、五〇丁（卷第十七、四九丁「四十八」、以

〔内題〕 「仏祖統紀序」、「仏祖統紀目錄」（低四格） 天宋咸淳四明東湖沙

下の丁附にずれ）、第一六冊、四四丁（卷第十八、二五「二十五

門（二格空） 志磐 撰、「教主釈迦牟尼仏本紀第一（二格空）

六」、以下の丁附にずれ）、第一七冊、六一丁（卷第十九）、第一

仏祖統紀卷一／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志

八冊、五八丁（卷第二十）、第一九冊、五三丁（卷第二十一）、

磐 撰（） 教主釈迦牟尼仏本紀四（二格空） 仏祖統紀卷第四

第二〇冊、七四丁（卷第二十二・七二丁、後序、至正癸未秋徑

／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐 撰、「西

山守忠／嘉興城東柴場灣／雲門菴印行／徒弟 子夔可听董工・

土二十四祖紀第一（二格空） 仏祖統紀卷五／（低五格） 天宋景

二丁）。

定四明東湖沙門 志磐 撰（） 興道下八祖紀第四（三格空） 仏

〔刊記〕 「本国寺学校 玉潤日鏡補爛脱耳／（一行空）／（低九格） 十住

祖統紀卷八／（低五格） 天宋景定四明東湖沙門 志磐 撰、「諸

從（二格空） 実乘 進／（低九格） 法寿 珠（二格空） 金林 慧

祖旁出世家第一（二）（三格空） 仏祖統紀卷九（十）／（低四格）

／（低二格） 四僧集会異体同心鏤梓刊板流行天下／（低三格）

天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐 撰、「諸師列伝第一（

慶長十七（壬ノ子）極月十九日」。

十）（五格空） 仏祖統紀十一（卷十二）／（低四格） 天

〔印記〕 卷首右下に朱長方印、切除。

宋景定四明東湖沙門 志磐（二格空） 撰、「諸師雜伝第一（四

〔備考〕 墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、朱引、朱句読点等が若

格空） 仏祖統紀卷二十二／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二

干施されている。川瀬・二七八・七〇九頁、本国寺の開版事業

格空） 志磐 撰、「未詳承嗣伝第一（三格空） 仏祖統紀卷二十

参照。

三／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐 撰、「歴

◎子部 釈家類 諸宗撰述・史伝・彙編之属

代伝教表第一（三格空） 仏祖統紀卷二十四／（低四格） 天宋景

256 仏祖統紀 五五卷（卷二十一原欠）（宋）釈志磐 撰

定四明東湖沙門（二格空） 志磐 撰（） 仏祖世繫表第二（三格

〔請求番号〕 31 / 3 / 313

空） 仏祖統紀卷二十五／（低三格） 天宋景定四明東湖沙門（二

格空） 志磐（二格空） 撰、「山家教典志第一（三格空） 仏祖統

紀

紀卷二十六／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐撰、「淨土立教志第一（三）（三格空） 仏祖統紀卷二十七（二十九）／（低四格） 天宋咸淳四明東湖沙門（二格空） 志磐撰、「淨土立教志第二（三格空） 仏祖統紀卷二十八／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐撰、「諸宗立教志第一（三格空） 仏祖統紀卷三十／達磨禪宗 天宋景定四明東湖沙門 志磐撰、「三世出興志第一（三格空） 仏祖統紀卷三十一／（低三格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐（二格空）撰、「世界名体志第一（三格空） 仏祖統紀卷三十二／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐撰、「世界名体志第二（二格空） 天台統紀卷第三十三／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐撰、「法門光顯志第一（三格空） 仏祖統紀卷三十四／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐撰、「法運通塞志第一（十五）（三格空） 仏祖統紀卷三十五（三十八・四十・四十九）／（低三格） 天宋咸淳四明東湖沙門（二格空） 志磐（二格空）撰、「法運通塞志第五（三格空） 仏祖統紀卷三十九／（低四格） 天宋景定四明東湖沙門（二格空） 志磐撰、「名文光教志第一（二）（三格空） 仏祖統紀卷五十（五十一）／（低五格） 天宋咸淳四明東湖沙門 志磐撰、「歷代会要志第一（四）（三格空） 仏祖統紀卷五十二（五十五）／（低三格） 天宋咸淳四明東湖沙門（二格空） 志磐（二格空）撰。

〔尾題〕「仏祖統紀通例終」、「釈迦牟尼仏本紀一（四）」、「二十四祖紀

第一」／（興道下八祖紀第四）、「諸祖旁出世家第一（二）」、「諸師列伝第一（六）」（第七・十、尾題なし）、「諸師雜伝第一」、「未詳承嗣伝第一」、「未詳承嗣伝第二」、「歴代伝教表第一」／（仏祖世繫表第二）、「淨土立教志第一（二）」、「諸宗立教志第一」、「三世出興志第一」、「世界名体志第一」、「三界名体志第二」、「法門光顯志第一」、「法運通塞志第一（十五）」（五）は墨書、「名文光教志第一（二）」、「歴代会要志第一（四）」。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周单边（二二・七×一六・一糶）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「統紀序（目・一・二十・卅五・卅七）

丁附」、「統二十二（三十四・三十八・五十五） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六一丁（序・一一丁、目錄・一二丁、卷一・一九丁、

卷二・二〇丁）、第二冊、五六丁（卷第三）、第三冊、四六丁（卷

第四・一八丁、卷五・二八丁）、第四冊、五五丁（卷六・二九丁、

卷七・一〇丁、卷八・一六丁）、第五冊、五二丁（卷九・二二丁、

卷十・二九丁）、第六冊、六七丁（十一「卷なし」）・一三丁、

卷十二・一〇丁、卷十三・一一丁、卷十四・一五丁、卷十五・

一八丁）、第七冊、四七丁（卷第十六・一五丁、卷第十七・一〇

丁、卷十八・八丁、卷十九・三丁、卷二十・一丁、卷二十二・

一〇丁）、第八冊、五二丁（卷二十三・一一丁、卷二十四・一三

丁、卷二十五・一四丁、卷二十六・一三丁）、第九冊、六七丁（卷

二十七・三六丁、卷二十八・三二丁）、第一〇冊、五四丁（卷二

十九・三一丁、卷三十・二三丁）、第一一冊、六六丁（卷三十一・一七丁、卷三十二・三〇丁、卷第三十三・一九丁）、第二二冊、六五丁（卷三十四・二〇丁、卷三十五・二二丁、卷三十六・二四丁）、第二三冊、五二丁（卷三十七・三四丁、卷三十八・一八丁）、第一四冊、五八丁（卷三十九・一九丁、卷四十・三九丁）、第一五冊、四三丁（卷四十一・二二丁、一七丁欠、卷四十二・二二丁）、第一六冊、五八丁（卷四十三・三一丁、卷四十四・二七丁）、第一七冊、五一丁（卷四十五・二二丁、卷四十六・二九丁）、第一八冊、四五丁（卷四十七・二〇丁、卷四十八・二五丁）、第一九冊、四九丁（卷四十九・二三丁、卷五十・二六丁）、第二〇冊、五〇丁（卷五十一・一五丁、卷五十二・一七丁、五十三〔卷なし〕・一八丁）、第二一冊、五〇丁（卷五十四・三〇丁、卷五十五・二〇丁）。

〔刊記〕無。第二一冊、卷五十五の卷末に、「刊板後記／咸淳元年乙丑、寓東湖月波山、始飭工刊統計、至六／年庚午冬、忽感喘嗽之□（虫損）、家林法眷、棹船見邀、遂以／十二月二十一日、歸于□（虫損）泉之故廬、是時尚有会要／志四卷、未能刊、於是、乘病写本、俾刊人畢其功、秋七／月、鏡事既備、擬弁紙印造万部、為最初流通、嘗計之、刊板所費、将万券而印造之、本逾二十万券非高明／識鑑、有大財力者、則不能濟、当願 仏祖聖賢、冥密／勸化、当朝居位 王公大人、知有法門、共相激發、或／一出已力、或轉化群賢、特轅余費、建立紙本、使統計／一書、

布散寰海、是亦助 国行化之大端也、譬臥病／日久、恐一旦恒化、此志不申、故略述始終、尚祈後賢／之克繼勝業者、維 仏祖、宜当祐之以道、咸淳／辛未端午日志譬書〔読点、稿者〕。

〔印記〕卷首丁に長方印二印、墨塗抹。

〔備考〕朱引、朱句読点が施されているが、本書で特記すべき点は、ゲタに相当する■が数多く見られることである（卷十・卷十五・卷十七・卷二十五・卷二十六・卷四十三～四十五・卷五十三～五十五）。第二一冊・一五冊・一六冊の表紙裏に、『節用集』草書本の刷り反古が用いられている。川瀬・三四七・七八三頁、慶長元和中刊。伝本として、京都帝大図書館蔵本と東洋文庫（西莊文庫旧蔵）蔵本を著録するが、いずれも所蔵なし。内藤湖南博士蔵本は、現在、武田科学振興財団杏雨書屋蔵。

#### ◎子部 釈家類

#### 257 弘惑袖中策 二卷 釈最澄撰

〔請求番号〕31/20/374

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補縹色表紙。二七・一×一九・〇厘。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の書題簽（二〇・五×三・一厘）、「弘惑袖中策 古活字版」。

〔内題〕「弘惑袖中策目錄」、「弘惑袖中策（一格空）へ凡四十章／上二十章」（五格空）沙門最澄撰」、「弘惑袖中策下目錄」、「弘惑袖中策

〔一格空〕へ凡四十章／下二十章〕。

〔尾題〕「弘惑袖中策上(下)卷」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕四周单边(二二・四×一五・三糎)、無界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「弘惑上(下) 丁附」。

〔丁数〕四三丁(目錄・二丁、上・一七丁、目錄・一丁、下・二四丁)。

〔刊記〕「於江戸梓刊」。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」(朱方印)、「江風山／月莊」(朱方印)、「福

堂」(朱長方印、以上三印、稲田福堂)、「日篁／藏書」(朱方印)、  
他、朱丸印、二印。

〔備考〕上卷の一丁表まで墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されているのみ。巻末に識語、「春(甚?) 溪日遣」。川瀬、三二六頁。

◎子部 釈家類

258 仏説一切如來真實撰大乘現証三昧大教王經 存卷五・六

〔請求番号〕26／10／442

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二八・四×二一・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽(二〇・四×三・三糎)、「現証三昧  
大教王經 五六卷」。

〔内題〕「仏説一切如來真實撰大乘現証三昧大教／王經卷第五(六)(十

格空)実」。

〔尾題〕「仏説一切如來真實撰大乘現証三昧大教／王經卷第五(六)(十  
格空)実」。

〔本文〕每半葉二行×一七字。

〔匡郭〕上下单边(二二・二糎)、無界。

〔版心〕白口、「実五(六) 丁附」。

〔丁数〕三一丁(卷第五・一五丁、卷第六・一六丁)。

〔刊記〕無。(正保三年)

〔印記〕「千種文庫」(朱長方印)。

〔備考〕見返しに、卷三十巻末にある正保三年願文を墨書した紙片を貼  
付、「辛亥(稿者注、明治四四年へ一九二二) 九月十九日千賀  
鶴堂君所贈」。天海版一切経。料紙は厚手の楮紙を用いる。

◎子部 釈家類

259 仏果圓悟禪師碧巖録 存卷九・十

〔請求番号〕31／10／336

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕栗皮表紙(押八双有、原裝、但、後表紙は改裝)。三〇・二×二  
一・四糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の薄茶色書題簽(二〇・〇×三・一糎)、「碧巖録 古  
活字板」。

〔内題〕「仏果圓悟禪師碧巖録卷第九(十)」。

〔尾題〕「仏果圓悟禪師碧巖録卷第九(十)終」。

〔本文〕每半葉一行×二二字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二二・一×一六・二糶）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「碧巖九（十） 丁附」。

〔丁数〕六七丁（卷第九・二九丁、卷第十・三〇丁半、後序・半丁、重

刊圓悟禪師碧巖集疏・一丁、後序（整版）、大徳壬寅中秋住天童  
第七世法孫比丘浄日拜手謹書・一丁）後序（整版）、延祐丁巳

迎仏会日往山住持比丘希陵拜書以為後序・二丁、跋、延祐丁巳  
元日海粟老人馮子振題・三丁）（延祐丁巳Ⅱ延祐四年、一三一七  
年）。

〔刊記〕「嶋中張氏／書隱刻梓」（卷第十の尾題後）、卷末に刊記、「（低二

格）寛永三年（丙／寅）暮秋中旬／（低十格）洛陽於押小路新  
刊」（牌記、陰刻）。

〔印記〕「□澤／之印」（朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱墨による返点、振仮名、送仮名が施されて  
いる。卷末に識語、「釈沙門要玄（和／南）」。川瀬、三四二・七

七三頁。

◎子部 釈家類

260 仏果円悟禪師碧巖録 一〇巻

〔請求番号〕31／10／337

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕改装緑色絹地表紙。三〇・〇×二一・二糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「仏果圓悟禪師碧巖録卷第一（一〇）」。

〔尾題〕「仏果圓悟禪師碧巖録卷第二（一〇）終」（卷第一、尾題なし）。

〔本文〕每半葉一行×二二字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（卷第一、二一・九×一六・〇糶）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「碧巖一（一〇） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四五丁（扉、「上層」（每字改行）宗門第一書・（下層）

圓悟碧巖集（大字）・〇無辺風月眼中眼〇不尽乾坤燈外燈〇／〇  
柳暗花明十萬戸〇敲門処処有人膺〇・（右）碧巖集標の宗門真霧  
海之南針夜途之／北斗也一炬之後善刻不存今多方尋訪／得成都

大聖慈寺白馬院趙大師房真本／（左）與江浙諸禪刹所藏本參攷  
無訛敬繡梓／以壽其伝得於希有發於久秘圓悟心法／了然目前向

上機関頭頭是道具眼幸鑒・（右辺外）杭州北橋北街東嶋中張氏書  
隱印行・（左辺外）本朝濃州路瑞龍禪寺新刊」・一丁、序、建炎

戊申暮春晦日參学／嗣祖比丘普照謹序・一丁、序、大徳四年庚  
子四月初八日癸丑紫陽山方回万里序・一丁、序、大徳九年歳乙

巳三月吉日王岑休居士聊城周馳書於錢唐觀橋寓舎・一丁、序、  
大徳甲辰四月望三教老人書・二丁、卷第一・三九丁）、第二冊、

三六丁（卷第二）、第三冊、二九丁（卷第三）、第四冊、三〇丁  
（卷第四）、第五冊、二五丁（卷第五）、第六冊、二六丁（卷第

六）、第七冊、二四丁（卷第七）、第八冊、二五丁（卷第八）、第  
九冊、二九丁（卷第九）、第一〇冊、三八丁（卷第十・三〇丁半、

後序・半丁、宣和乙巳春暮上休罕人関友無党記・半丁、後序（整

版）、大徳壬寅中秋住天童第七世法孫比丘淨日拜手謹書・一丁、後序（整版）、延祐丁巳迎仏会日往山住持比丘希陵拜書以為後序・二丁、跋、延祐丁巳元日海粟老人馮子振題・三丁、重刊圓悟禪師碧巖集疏・一丁）（延祐丁巳〓延祐四年、一三一七年）。

〔刊記〕「嶋中張氏／書隱刻梓」（木記、卷第二〓四・七・十の尾題の後）、「此集自大慧一炬之後而又重羅兵燹／此鮮善刻今得蜀本校正頗完猶恐中／間亥豕魯魚不無二／四方具眼高人為 是正之抄録／見教當復改竄俾成金美禪宗幸甚／（低六格）嶋中書隱白」（巻第五の尾題後、双辺無界）、「嶋中書隱鼎刊圓悟碧巖録幸已訖事／四方禪友或取得祖庭事苑万善同帰／録及禪宗父子世罕刊本者幸乞／見示當為繡梓以広禪学此亦／方便接引之一端也告母／舍玉幸甚 稟白」（巻第六の尾題後、牌記）、巻末に刊記、「（低二格）寛永三年 〓丙／寅〓 暮秋中旬／（低十格）洛陽於押小路新刊」（牌記、陰刻）。

〔印記〕無。  
〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、送仮名の他、朱墨による書入が夥しく施されている。第一〇冊の後序、「宣和」に対する墨書注、「宋徽宗年号也／至日本慶安三年庚寅、凡五百三年也」からすると、本書の書入は、慶安三年に施されたものとわかる。薄手の楮紙、合紙を入れて綴じ直す。

◎子部 釈家類

261 法苑珠林 存巻六（九・四十三・六十九・七十・八十）（唐）釈

道世撰

〔請求番号〕31／12／342

〔体裁〕折本二冊。

〔表紙〕薄茶色表紙。折本仕立てに改装。二六・七×二〇・三糎。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一八・七×三・一糎）、「法苑珠林 異版」

（「異版」朱消）。

〔内題〕「法苑珠林六（九・四十三・六十九・七十・八十）」（版心）。

〔尾題〕「法苑珠林巻第四十三」。

〔本文〕每半葉一〇行×一七字。大型活字。

〔匡郭〕四周单边（二一・八×一八・六糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「法苑珠林六（九・四十三・六十・七十・八十） 丁附」。

〔丁数〕第一帖、六〇紙（巻四十三、巻第六十九、巻第七十、巻第八十）、

第二帖、三一紙（巻第六、巻第九）。

〔刊記〕「伊勢太神宮一切経本願常明寺宗存敬梓／（低一格）寛永元年〓甲

／子〓六月二十六」。

〔印記〕「稲田／福堂／圖書」（朱方印）。

〔備考〕宗存版。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施さ

れている。「宗存版本一覽」（小山正文作成）（〓延暦寺木活字

関係資料調査報告書（本編）』、滋賀県教育委員会事務局文化財

保護課編、二〇〇〇年）参照。

◎子部 釈家類

262 菩薩戒義記 二卷 (隋) 智顛撰

〔請求番号〕31/18/358

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補茶色表紙。二七・六×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「菩薩戒義記卷上(下)(七格空) 天台大師撰」。

〔尾題〕「菩薩戒義記卷上(下)」。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺(二一・八×一六・六糎)、無界。

〔版心〕上下に花紋のある大黒魚尾、中縫、「義記卷上(下) 丁附」。

〔丁数〕六一丁(卷上・二九丁、卷下・三二丁)。

〔刊記〕「(低二格) 元和(戌/午) 曆 弥生中旬(三格空) 摺之」。

〔印記〕「黄龍窟(朱長方印、小)、「洒竹文庫(大野洒竹、朱長方印)、

他、前表紙の見返しに「弁/妙」(墨方印)。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。虫損多し。川瀬・

三〇三頁、叡山版。

◎子部 釈家類

263 菩薩戒義記 二卷 (隋) 智顛撰

〔請求番号〕31/20/371

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補こげ茶色表紙。二七・六×一九・一糎。四針袋綴。川瀬一

馬は、「原表紙(裏張りに仏書大型活字九行十七字本の

摺遣を用ひてある)」と見るが、如何。

〔題簽〕左肩剥落、「菩薩戒義記上(下)」と打付書。

〔内題〕「菩薩戒義記卷上(下)(七格空) 天台大師撰」。

〔尾題〕「菩薩戒義記卷上(下)」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕無辺、無界。字高、二二・三糎。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「義記卷上(下) 丁附」。

〔丁数〕六六丁(卷上・三一丁、卷下・三五丁)。他、前後に後補の遊紙

各一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「江州金森善立寺」(朱長方印)。

〔備考〕前表紙の見返しに「江州金森/善龍寺恵空」、後表紙に「善龍寺

恵空持之」と墨書。卷末に「日迢」と墨書。卷上の八丁表まで、

朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

川瀬・七八七頁、「寛永頃の印行であらう」。

◎子部 积家類

264 法華去惑 四卷 积最澄撰

〔請求番号〕 31/20/376

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二七・七×二〇・二糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「去惑上(下)」と打付書。

〔内題〕 「法華去惑卷第一(一四) (九格空) 最澄撰」。

〔尾題〕 「法華去惑卷第一(一四)」。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字。卷第三、四才・1「阿何伎々之都許呂乎」(附訓を別行に植版)。

〔匡郭〕 四周双辺(二一・七×二七・〇糶)、無界。

〔版心〕 花紋のある黒口、中縫、「法花去惑一(一四) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四五丁(卷第一・二八丁、卷第二・一七丁)、第二冊、

四七丁(卷第三・二五丁、卷第四・二二丁)。他、各冊ともに後

補の前遊紙、一丁。

〔刊記〕 「元和四(戌/午)曆(二格空) 弥生中旬(三格空) 摺之」。

〔印記〕 無。

〔備考〕 無書入。川瀬、三〇三頁、叡山版。安田文庫蔵(真如蔵旧蔵)

本を著録するのみ。

◎子部 积家類

265 ※法華玄義私記 存卷第五 积証真撰

〔請求番号〕 31/20/370

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 新補縹色表紙。二七・〇×一八・七糶。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の薄茶色書題簽(一九・四×三・一糶)、「法華玄義

私記 古活字版」。

〔内題〕 「法華玄義私記卷第五(四格空) 叡山沙門証真撰」。

〔尾題〕 「法華玄義私記卷第五末」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・七糶。

〔版心〕 白口上花口魚尾、中縫、「玄私記五本(五末) 丁附」。

〔丁数〕 八〇丁(卷第五本・四〇丁、卷第五末・四〇丁)

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「身延文庫」(墨、蓮牌形)「日暹」(墨)。

〔備考〕 朱句読点が施されているのみ。川瀬、未載。慶長十五年刊。古活字版。次記一本(「31/21/377」本)と同版。

◎子部 积家類

266 ※「法華三大部私記」 积証真撰

〔請求番号〕 31/21/377

〔体裁〕 大本三一冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二六・四×一九・二糶。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・一×三・三糶）、「法華經三大部私記 目」、「玄義私記一（〜十）」、「文句私記一（〜十）」、「止観私記一（〜十）」。第二冊題簽下に「玄義私記一（本ノ口）」の墨書が見える。

〔内題〕「法華玄義私記卷第一（〜十）（四格空）叡山沙門証真撰」、「法華疏私記卷第一（〜十末）（五格空）叡山沙門証真撰」、「止観私記卷第一本（〜十）（五格空）叡山沙門証真撰」。

〔尾題〕「三大部私記條箇畢」、「法華玄義私記卷第一末（〜十末）」、「法華疏私記卷第一（〜十末）」、「天台止観私記卷第一本（〜十）」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕無辺、無界（字高、二二・五糶）（法華玄義私記）、四周単辺（二・三・一×一五・七糶）、無界（法華疏私記）。四周単辺（二・三・〇×一六・一糶）、無界（止観私記）。

〔版心〕白口上花口魚尾、中縫、「玄私記一本（〜十） 丁附」、「文私記一（〜十末） 丁附」、「止私記一本（〜十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八〇丁（目録、玄宝記卷第一 條箇〜・二四丁、文宝記卷第一 條箇〜・二二丁、止宝記卷第一 條箇〜・三四丁）、第二冊、八〇丁（法華玄義私記、卷第一本・四四丁、三〇才・3「法華不異方等般若」切貼訂正、三八丁〜四〇丁錯簡、卷第一末・三六丁）、第三冊、六八丁（法華玄義私記、卷第二本・三三丁、卷第二末・三五丁）、第四冊、七八丁（法華玄義私記、卷

第三本・五一丁、卷第三末・二七丁）、第五冊、九七丁（法華玄義私記、卷第四本・四九丁、卷第四末・四八丁）、第六冊、八〇丁（法華玄義私記、卷第五本・四〇丁、卷第五末・四〇丁）、第七冊、五九丁（法華玄義私記、卷第六）、第八冊、六一丁（法華玄義私記、卷第七）、第九冊、四三丁（法華玄義私記、卷第八）、第一〇冊、五八丁（法華玄義私記、卷第九、一三才・8「色即是空（空）」）、第一一冊、五二丁（法華玄義私記、卷第十）、第一二冊、七三丁（法華疏私記、卷第一）、第一三冊、五八丁（法華疏私記、卷第二）、第一四冊、七〇丁（法華疏私記、卷第三本・三九丁、卷第三末・三一丁）、第一五冊、九六丁（法華疏私記、卷第四本・四九丁、卷第四末・四七丁）、第一六冊、五三丁（法華疏私記、卷第五）、第一七冊、四七丁（法華疏私記、卷第六）、第一八冊、七二丁（法華疏私記、卷第七、三三ウ・5「金華檀香」切貼訂正）、第一九冊、八一丁（法華疏私記、卷第八本・四四丁、卷第八末・三七丁）、第二〇冊、八三丁（法華疏私記、卷第九本・三九丁、卷第九末・四四丁）、第二一冊、八〇丁（法華疏私記、卷第十本・四八丁、卷第十末・三二丁）、第二二冊、八四丁（止観私記、卷第一本・五〇丁、卷第一末・三四丁）、第二三冊、六一丁（止観私記、卷第二本・三〇丁、二五丁欠、末の二二丁と二三丁の間に入る、卷第二末・三一丁、二五才・7「数」切貼訂正）、第二四冊、九〇丁（止観私記、卷第三本・四五丁、卷第三末・四五丁）、第二五冊、五七丁（止観私記、卷

四)、第二六冊、六〇丁(止観私記、巻第五本・三〇丁、巻第五末・三〇丁)、第二七冊、八八丁(止観私記、巻第六本・四九丁、巻第六末・三九丁)、第二八冊、五六丁(止観私記、巻第七)、第二九冊、四八丁(止観私記、巻第八)、第三〇冊、四九丁(止観私記、巻第九)、第三二冊、三三丁(止観私記、巻第十、跋)。

〔刊記〕 第一一冊・二一冊・三一冊の巻末に跋刊、「夫三部抄記者叡峰真

師之述也陳仏乘之/臻極明台教之奥願矣尚該羅一代半備之/法亦牢籠性相百家之説其文質而不野博/而不繁排斥解義之迷謬刊正文句之写誤/以故習学之士莫不欽之崇之以為大利也/然世有略広両本以略為正粗以広校之輒/鏡乎版耳庶幾俾道広遠也猶魚魯訛錯章/句齟齬文字添脱敬請後昆削決正焉耳/時庚戌歲次慶長十五禊暮商糞生八葉/日東若耶府後瀨山陰<sup>利能</sup>謹書」(慶長四年刊本(川瀨、七六二頁)は、「時庚戌歲次慶長十五禊暮商糞生八葉/日東若耶府後瀨山陰<sup>利能</sup>謹書」が「時己亥歲次慶長四禊暮商糞生八葉山陰謹書/務事僧伽 玉円/努刀沙門 山哲/務縁比丘 了哲」となっている)。

〔印記〕「稲田/福堂/圖書」(朱方印)、「江風山/月莊」(朱方印、以上二印、稲田福堂)。

〔備考〕 第二冊の見返しと巻末に識語、「三大部私記全卅一卷/淨財喜捨主/村松嵐翠/邨忝直藏」、「明治三十一戊戌初夏 比叡山大学付点完了」。朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名が施されている。川瀨、未載。稚拙感のある真名活字を使用。慶長四年刊本

を底本にしたものか。跋刊に見える「利庵」は、慶長十七年刊の古活字版『大乘起信論疏』(三卷三冊、刊記「惟時慶長第十七壬子曆桂秋良日 日東若耶府利庵正節模行洛陽飯田久左兵衛門 勝家新刊」、川瀨、三三九頁)にもその名が見える。

## ◎子部 釈家類

### 267 法華疏私記 一〇巻 釈証真撰

〔請求番号〕 31/24/380

〔体裁〕 大本一〇冊。

〔表紙〕 原裝(押八双有)栗皮渋引き表紙(第一〇冊、後表紙欠)。二九・

八×二一・五糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。無題。

〔内題〕 「法華疏私記巻第一(一十末)(五格空) 叡山沙門証真撰」。

〔尾題〕 「法華疏私記巻第一(一十)」。

〔本文〕 每半葉一行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(二二・八×一七・七糶)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「文私記一(一十末) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六七丁(巻第一)、第二冊、五三丁(巻第二)、第三冊、

六四丁(巻第三本・三六丁、巻第三末・二八丁)、第四冊、八八丁(巻第四本・四五丁、巻第四末・四三丁)、第五冊、四八丁(巻第五)、第六冊、四三丁(巻第六)、第七冊、六六丁(巻第七)、第八冊、七四丁(巻第八本・四〇丁、巻第八末・三四丁)、第九

冊、七六丁（卷第九本・三六丁、卷第九末・四〇丁）、第一〇冊、

七三丁（卷第十本・四四丁、卷第十末・二九丁）。

〔刊記〕「〔低三格〕慶長十六年十月日」。

〔印記〕無。

〔備考〕叡山版。慶長十六年刊『法華三大部私記』の一部。一部の巻に朱句読点、墨筆で返点、送仮名等が施されている。川瀬、三〇一頁。

◎子部 釈家類

268 法華文句記箋難 四卷（宋）釈有巖箋

〔請求番号〕31/18/360

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）栗皮渋引き表紙。二八・八×二〇・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。無題。

〔内題〕「法華文句記箋難序」、「法華文句記箋難卷第一（〜四）／（低九格）赤城沙門（二格空）有巖（二格空）箋」。

〔尾題〕「法華文句記箋難卷第一（〜三）」（卷第四、尾題なし）。

〔本文〕每半葉一行×二〇字。

〔匡郭〕四周单边（二三・〇×一七・〇糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾の他、黒口双黒魚尾等三つあり。中縫、「箋難序

（一〜四）丁附」。

〔丁数〕第一冊、六七丁（序、時皇宋元豐元年戊午歲櫛菴（二格空）有

巖（三格空）序／宝慶丁亥六月戊申朔十五日上竺三住持鑑堂思義／

扶勘法孫若恢重刊・一丁、卷第一・六六丁）、第二冊、六八丁（卷

第二）、第三冊、六三丁（卷第三）、第四冊、五五丁（卷第四）。

〔刊記〕「〔低一格〕于皆寛永三（丙寅）曆卯月日（六格空）刊摺之」。

〔印記〕「山／門／星光院亮洞蔵」（墨）。

〔備考〕無書入。前表紙の見返しに識語、「四冊之内三川三楽院蔵沙門盛秀（花押）」（第一冊）、「四冊之内三川三楽院蔵沙門盛秀」（第二・三・四冊）。川瀬・三〇四頁、叡山版。

◎子部 釈家類

269 法華靈驗伝 二卷

〔請求番号〕31/13/340

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補朱華色表紙。二八・〇×一九・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕新補薄茶色書題簽（一九・五×三・〇糎）、「法華靈驗伝 上（下）」。

〔内題〕「法華靈驗伝卷上（下）」。

〔尾題〕「法華靈驗伝卷上」、「法華靈驗伝卷下終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕四周双边（二二・二×一五・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「靈驗伝上（下） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三五丁（卷上）、第二冊、三三丁（卷下・三二丁、原跋、

皇明嘉靖十三年甲午六月日全蘿道高敞文殊寺／重録・一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「会／□」（朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、主に

下巻に刊行当時の朱墨書入有。下巻の巻末に識語、「惠天日暹之」。

第一二冊、巻第二十二、四丁表の九行目に切り貼り訂正（十年

〔十二月〕あり。川瀬・三四七・七八三頁、慶長元和中刊。図録

篇・七七八図（小汀文庫蔵）と同版。

◎子部 釈家類

270 翻訳名義集 存巻一・二・四・七（宋） 釈法雲 編

〔請求番号〕31/2/311

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕新補紫色空押出繋ぎ文様表紙。二六・四×一九・五糎。四針袋

綴。

〔題簽〕左肩に双边刷梓題簽（一八・三×三・八糎）を貼付するが、無

題。

〔内題〕「翻訳名義序／（低六格）唯心居士荆谿周（二格空）敦義（一格

空）述」、「翻訳名義集一（一〇七）／（低三格）姑蘇景德寺普潤

大師（三格空）法雲（一格空）編」。

〔尾題〕「翻訳名義集一（四・五・六）」、「翻訳名義集第二（巻七）」。

〔本文〕六行大字、注双行二〇字。

〔匡郭〕四周双边（二二・八×一六・四糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「翻訳序（一〇七） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六三丁（序、大徳五年歳在辛丑九月九日嗣祖住持永定

教寺吉祥雄弁大師普治記・四丁、巻一・五九丁）、第二冊、五七

丁（巻二）、第三冊、五三丁（巻四、三八丁欠）、第四冊、五九

丁（巻五）、第五冊、六二丁（巻六）、第六冊、五八丁（巻七）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「暹」（朱丸印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名、上欄には墨書入が施さ

れている。天地化粧裁ち。川瀬、三四七・七七九頁、「寛永七年

刊伝法正宗記等と同活字にして、寛永中の叡山版と推定せら

るもの」。

◎子部 釈家類

271 末法燈明記 一卷 釈最澄 撰

〔請求番号〕31/20/375

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕新補赤茶色表紙。二八・一×二〇・一糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に新補の薄茶色書題簽（一八・二×三・三糎）、「末法燈明

記 全」。

〔内題〕「末法燈明記（六格空）本朝沙門（一格空）最澄（一格空）撰」。

〔尾題〕「末法燈明記終」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周双辺（二二・四×一六・〇）糶、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「末法灯明記 丁附」。

〔丁数〕 九丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「稲田／福堂／圖書」（朱方印）。

〔備考〕 無書入。後表紙の見返しに識語、「此一部寄進 南都善光寺施主 入

把／受者入口袋中（花押）。叡山版（刊記はないが、活字は叡

山版のもの）。川瀬、三四八・七八八頁、「元和三年刊叡山版涅

槃経疏等と同種の活字であるから元和中と推定してゐたら、日

光天海蔵の一本に「元和五季春孟盛頃法印弁海求之」の墨書が

あるので刊行年時がはつきり限定されることになつた（七八八

頁）。

◎子部 釈家類

272 妙法蓮華経文句 存巻第七 (隋) 智顛説

〔請求番号〕 31 / 20 / 369

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 新補縹色表紙。二六・九×一九・〇糶。五針袋綴。

〔題簽〕 左肩に新補の薄茶色書題簽（一九・六×三・〇糶）、「法華経文

句 古活字版」。

〔内題〕 「妙法蓮華経文句巻第七（二格空）天台大師説」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 每半葉七行×一七字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二一・〇糶。

〔版心〕 白口下向き黒魚尾、中縫、「文句七 丁附」。

〔丁数〕 八六丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 無。

〔備考〕 墨筆で返点、送仮名の他、朱墨による書入が多数施されている。

破損修補、全丁裏打修補。川瀬・七八四頁、「慶長十五年刊三大

部私記よりもやや大きめの活字で、活字の様式からも、また慶

長頃の書入がある点からも慶長年間の印行である」。

◎子部 釈家類

273 冥枢会要 三巻 (宋) 晦堂祖心編

〔請求番号〕 31 / 2 / 308

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 茶色渋引き表紙（押八双有、原表紙か）。二八・一×一九・三糶。

四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「冥枢会要序」、「冥枢会要巻上（下）／（低十格）黄龍庵主（二

格空）祖心集」。

〔尾題〕 「冥枢会要巻上（下）」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 無辺、無界。字高、二二・二糎。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「冥枢会上（下） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六九丁（序・半丁、卷上・六八丁半）、第二冊、八〇丁

（卷中）、第三冊、八一丁（卷下）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 各冊とも巻首右下に印（墨塗抹、「一絲」の印という）、巻中の

巻末に「文守」（朱印、巻上・下は墨塗抹）。

〔備考〕 巻上のみ朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施

されている。巻末には「丹州法常禪寺常住」と墨書されていた

というが、墨塗抹。巻上の後表紙の見返しには、明治三十九年

に若林春和堂によって記された識語紙を貼付。川瀬・三四八・

七八九頁、寛永中刊。

◎子部 釈家類

274 隆興仏教編年通論（宋）釈祖瑒撰

〔請求番号〕 31/5/318

〔体裁〕 大本一五冊。

〔表紙〕 原装（押八双有）茶色渋引き表紙。二七・一×一九・六糎。四

針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に白墨で「通論」、その下に墨筆で「一（十五）」、右

下に「共十五」。

〔内題〕 「隆興仏教編年通論目錄」（低八格）隆興府石室沙門 祖瑒撰、

「隆興釈教編年通論卷第一」（低五格）隆興府石室沙門（三格

空）祖瑒 撰、「隆興仏教編年通論卷第二」（二十八）／（六

格低）隆興府石室沙門（二格低）祖瑒 撰」。

〔尾題〕 「隆興仏教編年通論目錄終」（二格空）編目（三格空）十五／（低

七格）刊頭法眼宗応助雕此目錄一卷并／（低七格）御制七紙、

「隆興仏教編年通論卷第一（二十七）」、「隆興仏教編年通論卷

第二十八終」。

〔本文〕 每半葉一行×二一字。

〔匡郭〕 四周单边（二三・一×一六・五糎）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「編目（編年卷一）廿九」 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三二丁（目錄・一五丁、卷第一・一七丁）、第二冊、三

二丁（卷第二・一六丁、卷第三・一六丁）、第三冊、三三丁（卷

第四・一七丁、卷第五・一六丁）、第四冊、三二丁（卷第六・一

六丁、卷第七・一六丁）、第五冊、三二丁（卷第八・一六丁、卷

第九・一六丁）、第六冊、三四丁（卷第十・一九丁、卷第十一・

一五丁）、第七冊、三二丁（卷第十二・一五丁、卷第十三・一六

丁）、第八冊、三二丁（卷第十四・一五丁、卷第十五・一六丁）、

第九冊、三二丁（卷第十六・一六丁、卷第十七・一六丁）、第一

〇冊、三二丁（卷第十八・一六丁、卷第十九・一六丁）、第一一

冊、三三丁（卷第二十・一六丁、卷第二十一・一七丁）、第二二

冊、三三丁（卷第二十二・一六丁、卷第二十三・一七丁）、第一

三冊、三一丁（巻第二十四・一六丁、巻第二十五・一五丁）、第一四冊、三三丁（巻第二十六・一六丁、巻第二十七・一七丁）、第一五冊、二四丁（巻第二十八・一九丁、序・五丁、丁附・二六、欠あるか）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「澄山退藏院」（朱長方印）。

〔備考〕無書入。川瀬・三四七・七八二頁、寛永中刊。

〔付記〕

本稿は、日本學術振興会平成二十九年科学硏究費補助金（奨励硏究）「近世期初頭の学問・学芸・出版の実態と背景をめぐる書誌学的硏究」（課題番号17H00006）ならびに現在継続中の共同硏究である、広領域連携型基幹硏究プロジェクト・アジアにおける「エコヘルス」硏究の新展開「アジアの中の日本古典籍―医学・理学・農学書を中心として」（国文学硏究資料館、硏究代表者…入口敦志教授）の一環として行ったものである。

大東急記念文庫での調査は、平成二十九年一月から三十一年三月までの間に行った。

「悉皆調査」というのは所蔵機関のご理解があつてできるもので、大東急記念文庫の村木敬子さんをはじめとする学芸員の方々には調査に際し、過分なるお力添えを頂いた。ここに記して深謝申し上げる。